エト5M51

日本
辭書

言海

第一冊

あいうえおノ部

813.1 0932 g

国立国会
27.3.-4
図書館

261199

言海序

文明者何。自單之複、自粗之精、之謂也。自日用衣食。以至政事法律之大。莫不皆然。然則若辭書。亦不外於此理者。蓋民生之初。有言語、而無文字。民智漸進。始有文字。文字有二。一曰有義。一曰無義。主言辭之國。用無義之字。主文字之國。用有義之字。人文日闢。言辭日繁。於是。言辭之國、作辭書。文字之國、作字書。以利民生。支那之爲文字之國。歐洲之爲言辭之國。人皆知之。若本邦、固言辭之國。而其進文明。多賴支那之力。是以如其文字。合有義無義而用之。其勢然也。本邦錄言語文字之書。如和名鈔。如新撰字鏡。如下學集。如節用集。皆字書之體。而非辭書之體。豈以言辭者、本邦之固有。則學之不難。文字者、所假於他國。則學之不易歟。且其爲書。文字有所不足。順序有所不整。要不免爲玷缺之書者。王政維新。

文教大興。加以外國之交際日廣。言語文字之多。倍蓰於昔日。於是操觚之士。皆知不可無辭書之著焉。顧辭書之爲著。其事浩瀚。非民間學士之所能堪。是本局之所以親從事於斯業也。然今日辭書之著。有三難。文法之未定。一難也。言辭有古今。有雅俗。二難也。言辭之入自支那者。本於文字。入自歐洲者。本於聲音。欲協之本邦之語格。錯雜難齊。三難也。是以蒐輯改竄。費歲月頗多。至於近日。始脫稿。名曰言海。大約四萬言。辭書之體。而非字書之體。雖或難保無誤謬。比諸舊來之字書。必有可觀者焉。余嘗謂。欲知文化之高卑。觀於其國之辭書。辭書之衆而精者。其文化高。寡而粗者。反之。西洋之辭書。其類二。一曰普通。一曰專門。東洋之辭書。惟有普通一類。至其精粗。此之不及彼遠甚。吾儕安可不忸怩自愧哉。然既知恥之。必將奮而求及之。本邦今日學士之自奮者。不乏其人。余知其必不使西人擅文化之名於百世也。此書蓋追逐西國辭書之第一步。而至其與西人並鑣而馳者。猶有待於後來焉。諺曰。前人芟荊棘。則後人作道路。芟荊棘之業。既成。作道路之人。將不遠而出。本篇任編輯之事者。大槻文彥一人。而若余者。特止監視其事業爾矣。

明治十八年四月文部省編輯局長正五位勳三等西村茂樹識

本書編纂ノ大意

(一)此書ハ、日本普通語ノ辭書ナリ。凡ソ、普通辭書ノ體例ハ、專ラ、其國普通ノ單語、若シクハ、熟語(二三語合シテ、別ニ一義ヲ成スモノ)ヲ舉ゲテ、地名人名等ノ固有名稱、或ハ、高尙ナル學術專門ノ語ノ如キヲバ收メズ、又、語字ノ排列モ、其字母、又ハ、形體ノ順序、種類、ニ從ヒテ次第シテ部門類別ノ方ニ據ラザルヲ法トスベシ。其固有名稱、又ハ、專門語等ハ、別ニ自ラ其辭書アルベク、又、部門ニ類別スルハ、類書ノ體タルベシ。此書編纂ノ方法、一ニ普通辭書ノ體例ニ據レリ。

(二)辭書ニ舉ゲタル言語ニハ、左ノ五種ノ解アラムヿヲ要ス。

其一。發音。（Pronunciation.）發音ノ異ナルモノニハ、其符アルヲ要ス。例ヘバ、さいはひ(幸)ハ、さいわいト發音シ、あふぎ(扇)あふみ(近江)ハ、おうぎ、おうみ、ト發音シ、あふぐ(仰)あふひ(葵)ハ、あおぐ、あおいト發音シ、はふ(破風)らう(煙管竹)ハ、假名ノママニ發音スレドモ、はふ(法)らう(牢)ハ、はう、ろう、ト發音スルガ如シ。是等ノ異同、必ズ標記セザルベカラズ。

其二。語別。（Parts of speech.）例ヘバ、やま(山)かは(川)等ノ名詞ナル、われ(我)なむぢ(汝)等ノ代名詞ナル、ゆく(行)きたる(來)等ノ動詞ナル、よし(善)あし(惡)等ノ形容詞ナル、なり(也)べし(可)等ノ助動詞ナル、はなはだ(甚)かならず(必)等ノ副詞ナル、また(又)さて(扨)等ノ接續詞ナル、が、の、

に、を、は、も、ぞ、こそ等ノ天爾遠波ナル、ああ(噫)かな(哉)等ノ感動詞ナルガ如キ、其他、數詞、枕詞、發語、接頭語、接尾語ノ類、語毎ニ必ズ標別セズハアルベカラズ。

其三。語原。Derivation. 語原ノ說クベキモノハ、載スルヲ要ス。例ヘバ、くれなゐ(紅)ハ、「呉（クレ）ノ藍（アヰ）」ノ約ナル、ほしいまま(恣)ハ、「欲シキ儘ニ」ノ音便ナル、だんな(檀那)ハ、梵語、陀（ダ）那（ナ）鉢（バ）底（テ）(施主)ノ略轉ナル、びろうど(天鵞絨)ハ、西班牙語 Velluda. ノ轉ナルガ如キ、是等ノ起原、記サザルベカラズ。

其四。語釋。Definition. 語ノ意義ヲ釋キ示スヿ、是レ辭書ノ本分ナリ。例ヘバ、さいはひ(幸)ハ、「好キ運命（シアハセ）」くれなゐ(紅)ハ、「色ノ赤クシテ鮮（アザヤカ）ナルモノ」、ノ如キ是レナリ。又、其意義ノ轉ズルモノハ區別セザルベカラズ。例ヘバ、やま(山)〔第一〕本義ハ、「土ノ平地ヨリ高キモノ」〔第二〕轉ジテ「物ノ堆ク積レルヿ」等ノ如ク、又、だんな(檀那)〔第一〕本義ハ、「僧ヨリ施主ヲ呼ブ稱」〔第二〕轉ジテ「家人ヨリ主人ヲ恩義アルニ就キテ呼ブ稱」〔第三〕更ニ轉ジテ「商ヨリシテ顧客（キャク）ヲ敬ヒ呼ブ稱」等ノ如シ。

其五。出典。Reference. 某語ノ某義ナルヿヲ證セムトスルヰ、其事ハ、某典ニ見エタリト、其出所ヲ擧グルヿ、是レナリ。

以上五種ノ解アリテ、始メテ辭書ノ體ヲ成ストイフベシ。此書モ、一ニ其例ニ從ヘリ。

(三) 日本語ヲ以テ、日本語ヲ釋キタルモノヲ、日本辭書ト稱スベシ。從來ノ辭書類、和名鈔、新撰字鏡、類聚名義抄、下學集、和玉篇、節用集、合類節用集、伊呂波字類抄、和爾雅、會玉篇、名物六帖、雜字類編等、枚擧スベカラズ。然レ𪜈、是等、率ヲ、漢字ニ和訓ヲ付シ、或ハ和語ニ漢字ヲ當テタルモノニテ、乃チ、漢和對譯、或ハ和漢對譯辭書ニシテ、純ナル日本辭書ナラズ。而シテ、希ニ注釋アルモノモ、多クハ漢文ヲ取レリ。又、其語字ノ排列、索引ノ方法モ、或ハ漢字ノ偏旁畫引ニ從ヘルアリ、又或ハいろは順ニ從ヘルモノモ、其大別ニ至リテハ、率ヲ部門類別ノ法ニ據レリ。

本篇、各語ヲ、假名ニテ擧ゲテ、又、普通用ノ漢字、又ハ、漢名ヲ配シタリ、是レ、尙、對譯ノ體ヲ遺傳セルガ如シ。然レ𪜈、日本普通文ノ上ニハ、古來、假名、漢字、幷用シテ、共ニ通用文字タレバ、日本辭書ニハ、此一種異樣ノ現象ヲ存セザルヲ得ズ。

其他、東雅、日本釋名、冠辭考、和訓栞、物類稱呼、雅言集覽等、尙アレド、或ハ專ラ枕詞ヲ論ジ、又ハ方言ヲ說キ、或ハ語原ヲ主トシテ、語釋ヲ漏ラシ、或ハ雅言ノ出典ノミヲ示セリ。(語彙ハ阿、伊、宇、衣ノ部ニ止ル、惜ムベシ) 以上數書ノ外ニ、尙許多アル辭書體ノモノヲ、遍ク集メテ其異同ヲ通考スルニ、尙、全ク發音ト語別トノ標記ヲ欠キ、固有名ヲ普通語ニ混ジ、且、多ク通俗語ノ採輯ヲ闕略セリ。之ヲ要スルニ、普通辭書トシテ、體裁具備ノ成書

ヲ求メムトスレバ、遺憾ナキヿ能ハズ。今、本書ハ、衆書ノ長短得失ヲ取捨折衷シ、繁簡異同ヲ删修増訂シテ、以テ體裁ヲ微具セシメタリ。然リト雖モ、諸先哲ガ遺澤ナル是等ノ諸著作アリタレバコソ、本書モ成リタレ、サレバ、本書ハ、諸先哲ガ辛勤功勞ノ集成ナリトモイヒツベシ。

(四) 辭書ハ、文法（Grammar.）ノ規定ニ據リテ作ルベキモノニシテ、辭書ト文法トハ、離ルベカラザルモノナリ。而シテ、文法ヲ知ラザルモノ、辭書ヲ使用スベカラズ、辭書ヲ使用セムホドノ者ハ、文法ヲ知レル者タルベシ。先哲ガ語學ノ書、亦乏シカラズ、和字正濫抄、あゆひ抄、かさし抄、詞の玉緒、古言梯、詞の八衢、詞の通路、山口栞、活語指南等、亦枚擧スベカラズ、或ハ假名遣ヲ論ジ、或ハ動詞ノ語尾變化ヲ說キ、或ハ語格起結ノ法ヲ定メ、其苦心考定セル所、粗盡セリ。然レドモ、是等先哲ノ諸著作ハ、率ネ言語ノ古音、古義、古格、ノ解シ難ク誤リ易カラムモノノ局處ヲ釋クヲ專ラトシタレバ、通俗語、方言等ハ固ヨリ說カズ、且、雅言トスルモノモ、音義分明ニシテ、誤ルベキヤウナキモノハ、甚ダ闕略セリ。故ニ、普通文典トシテ、體裁ヲ一書ニ具備セルモノ、固ヨリ無ク、又、衆書ヲ集メテ通考スルニモ、文典ノ範圍內ニ於テ、未ダ論及セザル件、尙、多シ。サレバ、本書ヲ編纂スルニ當リ、遍ク古今雅俗ノ語ヲ網羅シテ、一一之ヲ區別セムトスルニ際シテ、語別、名稱ノ何ト呼ビ何ニ入ルベキカ不定ナルモノ、假名遣、語格ノ未定ナルモノ、古今、都鄙、語、同ジクシテ、用法ヲ異ニスルモノ等、輩出シテ、甚ダ判定ニ苦メリ。是ニ於テ、別ニ一業ヲ起シテ、數十部ノ語學書ヲ參照シ、假名遣、語格ノ基本ニ至リテハ、契沖、眞淵、宣長、春庭、義門等、諸哲ノ規定ニ據リテ、其他ニ推及シ、而シテ、西洋文法ノ位立ヲ取リテ、新ニ一部ノ文典ヲ編シテ、其規定ヲ本書ニ用ヰタリ。サレバ、文法專門ノ新造語モ多ク出來レリ。此書ノ篇首ニ、語法指南トテ掲ゲタルハ、其文典中ノ規定ノ、辭書ニ用アル處ヲ摘ミタルモノナレバ、此書ヲ覽ム者ハ、先ヅ之ニ就キテ、其規定ヲ知リ、而シテ後ニ、本書ヲ使用スベシ。

(五) 從來、語學家ハ、概シテ、古クヨリアル語ヲ雅言ト稱シ、後世出來レル語ヲ俗言ト稱スルガ如シ、是レ、其謂ハレ無キガ如キヲ覺ユ、年代ヲ以テ別ヲ立テムニハ、中古言モ上古言ニ比ベバ、俗言ト謂ハザルヲ得ザラム。蓋シ、雅俗ノ別ハ、年代ニ因リテ起ルニハアラズシテ、貴賤、都鄙、文章、口語ノ上ノ所用ニ因リテ起ルナルベシ、古言中ニモ雅俗アラム、今言中ニモ雅俗アラム、古クハ雅言ナルガ、後ニ俗言トナレルモアラム、古クハ俗言ナルニ、後ニ雅言トナレルモアラム。又、古雅ナリトテ、今世普通ニ用ヰラレザルモノハ、死言トイフベク、今俗ナリトテ、日常ニ用ヲナスモノハ、活言トイフベシ。此篇古今ノ衆語ヲ網羅シタレドモ、其雅俗、死活ノ別ハ、スベテ此義ニ據レリ。

（六）漢土ノ文物盛ニ入レバ、漢語、遍ク行ハレ、佛教勢ヲ得レバ、梵語、佛經語用ヰラレ、西洋ノ交通大ニ開クレバ、洋語隨ヒテ來ルヿ、自然ノ勢ニシテ、又從來、我國ニ無カリシ事物ノ、其國國ヨリ來レルニハ、隨ヒテ其國國ノ名稱ヲ用ヰルヿ、亦理ノ當然ニシテ、且、便利ナリトスベシ。此篇中、諸外國語モ、入リテ日常語トナレルハ、皆取レリ。近頃入レル洋語ノびそとる（短銃）がす（瓦斯）めしん（裁縫機）ノ如キ、既ニ略定マリテ用ヰラルルハ、皆收メタリ。

（七）近年、洋書翻譯ノ事、盛ニ起リテヨリ、凡百ノ西洋語、率ネ譯スルニ漢語ヲ以テセリ、是ニ於テ、新出ノ漢字譯語、甚ダ多シ。然レ𪜈、其學術專門語ノ高尙ナルモノハ收メズ、普通ノ語ニ至リテモ、學者ノ譯出新造ノ文字、甲乙區區ニシテ、未ダ一定セザルモノ多シ。故ニ、是等ノ語モ、篇中ニ收メタル所、甚ダ多カラズ、應ニ後日一定ノ時ヲ待ツベシ。其他、新官衙、職制等ノ、倏忽ニ廢置變更セルモノ、亦然リ。

（八）辭書ノ體例ハ、首條條ニ述ベタルガ如クナルベシト雖𪜈、編纂ノ上ニ就キテ、浩瀚ナラムヲ旨トスルアリ、簡約ナラムヲ旨トスルアリ、浩瀚ハ、大辭書ノ集成ニ望ムベクシテ、遽ニ及ブベキニアラズ。今、此篇ハ、簡約ヲ旨トシテ、凡ソ收メシ所ノ言語ノ區域、及ビ解釋等ノ詳略ハ、大約、米國ノ碩學エブスター氏ノ英語辭書中ノ「オクタボ」ト稱スル節略體ノモノニ倣ヘリ。故ニ、發音、語別、語原、語釋（東西同事物ノ釋ノ如キハ、洋辭書ノ釋ヲ譯シテ挿入セルモノ多シ）等ハ微具セシメタレ𪜈、出典ニ至リテハ、淨書ノ際、姑ク除ケリ、簡冊ノ袤大トナラムヲ恐レテナリ。其全備ノ如キハ、後ノ大成ニ讓ラムトス。

（九）此篇ニ引用參考セル和漢洋ノ典籍ハ、無慮、八百餘部、三千餘卷ニ涉レリ。其他、或ハ耳聞セル所ヲ取リ、或ハ諳記セル所ヲ筆シ、或ハ自ラ推考セル所ヲモ記セリ。其一一出所ヲ擧ゲザルハ、前述ノ如シ。各語ニ當テタル漢名ノ出所モ、亦然リ。

（十）各語ヲ、字母ノ順ニテ排列シ、又、索引スルニ、西洋ノ「アルハベタ」ハ、字數僅ニ二十餘ナルガ故ニ、其順序ヲ諳記シ易クシテ、某字ハ、某字ノ前ナリ、後ナリ、ト忽ニ想起スルヿヲ得。然ルニ、吾ガいろはノ字數ハ、五十弱ノ多キアルガ故ニ、急ニ索引セムトスルニ當リテ、某字ハ、何邊ナラムカ、ト瞑目再三思スレ𪜈、遽ニ記出セザルヿ多ク、ソノ在ラムト思フ邊ヲ、前後數字、推當テニ口ニ唱ヘテ、始メテ得ルヿトナル。（一語中ノ第二、第三、四、五等ノ音モ亦然リ、困苦想フベシ、）此事、慣レ易カルベクシテ、甚ダ慣レ難キハ、編者ガ編纂數年間ノ實驗ニ因テ、確ニ知ル所ナリ。扨、又五十音ノ順序ハ、字數ハ、いろはト同ジケレ𪜈、先ヅ、あかさたな、はまやらわノ十音ヲ記シ、此十箇ノ綱ヲ擧グレバ、其下ニ連ルかきくけこ、さしすせそ等ノ目ヲ提出スルヿ、甚ダ便捷ニシテ、いろは順ハ、終ニ五十音順

ニ若カズ。　因テ、今ハ五十音ノ順ニ從ヘリ。

（十二）此書、明治八年二月、命ヲ奉ジテ起草シ、十七年十二月ニ至テ成稿セリ。　初メ、先ヅ、古今雅俗ノ普通語ヲ、假名ノ順序ヲ以テ、蒐輯分類セルヿ四萬許、次ニ之ガ解釋ニ移レリ。　然ルニ、各語ヲ逐ヒテ、一一之ニ語別、語釋、語原等ヲ付セムトスルニ當テ、書册ノ記述ナク、文獻ノ徵スベカラザルモノ多ク、而シテ、其語ハ、和、漢、梵、韓、琉球、蝦夷、葡萄牙、西班牙、（南蠻）和蘭、羅甸、英、佛等ニ渉リテ、中外、古今、雅俗、凡ソ、宇宙三才、森羅萬象ノ事事物物ノ語ノ出來ルヿナレバ、其解釋ノ間ニ、書ニ就キ、人ニ就キ、此ニ索メ、彼ニ質シテ、其年月ヲ徒費セシヿ、實ニ豫想ノ外ニアリキ。　且前述ノ如ク、假名遣、語格ノ未定ナルモノ多ク、因テ、新ニ一業ヲ起シテ、文法ヲ考定スルヿトナリテ、更ニ、又年所ヲ歷、此前後、公務ノ他書編輯ニ渉レルヿモ少カラズ、而シテ、通篇ノ編纂、挍訂、實ニ幷ニ獨力ニ出デタレバ、遂ニ十年ノ歲月ヲ費セリ。　抑モ、編者ノ年齒ナル、淺學寡聞ナル、其誤脫ナク、迅速ナラムヿ、固ヨリ望ムベカラザルノミナラズ、畢竟、當初、自ラ辭セズシテ、此重命ヲ奉ジタルヿ、多ク其量ヲ知ラザルヲ見ルノミ。　然リト雖モ、九層ノ臺モ、累土ヨリ起リ、百仞ノ高キモ、足下ヨリ始マル、聞クナラク、歐人ノ書ヲ著ハス、其第一版發行ノモノハ、著者、看者、共ニ、例ニ、其誤謬アラムヲ、業ノ免ルベカラザルモノトシ、必ズ、年所ヲ逐ヒテ、删修潤色ノ功ヲ積ミ、第二版、三版、四五版ニモ至リテ、始メテ完備セシムト云フ、此書ノ如キモ、亦然リ、唯、後ノ重修ヲ期セムノミ。

明治十七年十二月

文部省准奏任御用掛　大槻文彦識

本書、草稿全部、去年十月、文部省ヨリ下賜セラレタリ、因テ私版トシテ刊行ス。　文彦又識

明治二十二年一月

語法指南（日本文典摘錄）

假名　音

○五十音圖　平假名　片假名

五十音圖

平假名

	阿行	加行	左行	多行	奈行	波行	末行	也行	良行	和行
阿ノ段	あ1	か2	さ2	た3	な4	は4	ま4	や4	ら4	わ4
以ノ段	い1	き2	し3	ち3	に4	ひ4	み4	い4	り4	ゐ4
宇ノ段	う1	く2	す3	つ4	ぬ4	ふ4	む4	ゆ4	る4	う4
衣ノ段	え1	け2	せ3	て4	ね4	へ4	め4	え4	れ4	ゑ4
於ノ段	お1	こ2	そ3	と4	の4	ほ4	も4	よ4	ろ4	を4

假名ニ、變體ノモノモ多ケレド、此ニハ略ス。

片假名

ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ
イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	イ	リ	ヰ
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ユ	ル	ウ
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ	ヱ
オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	ヨ	ロ	ヲ

あ、い、う、え、おノ縦（タテ）ノ行（ギヤウ）ヲ阿行（アギヤウ）ト名ツケ、か、き、く、け、こノ行ヲ加行（カギヤウ）ト名ツク、其以下、左行（サギヤウ）、多行（タギヤウ）、奈行（ナギヤウ）、波行（ハギヤウ）、末行（マギヤウ）、也行（ヤギヤウ）、良行（ラギヤウ）、和行（ワギヤウ）、皆、之ニ倣ヘ。

あ、か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わノ横ノ段ヲ阿段（アンダン）ト名ツケ、い、き、し、ち、に、ひ、み、い、り、ゐノ段ヲ伊（イノ）段（ダン）ト名ツク、以下、宇段（ウンダン）、衣段（エンダン）、於段（オンダン）、皆、之ニ倣ヘ。

○單音、母韻、發聲、熟音　阿行ノ五音ハ、喉ヨリ單一ニ出ヅ、コレヲ單音ト名ヅク。加行以下、九行ノ諸音ハ、其行毎ニ、各、其音ヲ呼ビ發ス一種ノ聲アリテ、コレヲ發聲(Consonant.)ト名ヅケ、單音、ソノ韻トナリ、發聲ト單音ト、相熟シテ、始メテ音ト成ル、此ノ故ニ、加行以下ノ九行四十五音ヲ、熟音(Syllable.)ト名ヅク。單音ハ、斯ク發聲ノ韻トモナルガ故ニ、亦、母韻(Vowel.)ノ稱アリ。

○單音、熟音、又ハ、發聲(子韻トモイフモノ)ノ名稱、及ビ、假名ト洋字トノ發聲、母韻ノ辨、委シクハ文典ニ讓ル。

○發聲ノ、喉、舌、歯、鼻等ニ關スル性モ、辭書ニ用ナケレバ、此ニ略ス。

五十音圖ノ中ニ、阿行ノい、う、えト、也行ノい、えト、和行ノうト、同形ノ字、重出ス。此ノ各二音ハ、各、甚ダ相近ケレバ、古來、字ヲ相通ハシテ用ヰ來レリ。サレド、阿行ナルハ、單音ニテ、也行、和行、ナルハ、別ニ、其各行ノ發聲アル熟音ナレバ、各、相異ナルベキ理アリト知ルベシ。(其證例ノ委シキヿハ、文典ニ讓レリ)

又、今世口語ノ發音ニテハ、和行ノゐ、ゑ、をハ、其發聲、默シテ、韻ノミ發シ、單音ノい、え、おニ異ナラズ。然レドモ、古ヘハ、明ニ其發音ヲ別テリ、サレバコソ、別ニ、其假名モアルナレ。

半母韻　然レドモ、也行ノ音ノ發聲ハ、甚ダ單音ノいニ似テ、和行ノ音ノ發聲ハ、甚ダ單音ノうニ近ク、更ニコレニ母韻ヲ添ヘテ、二母韻、相重ナリテ發スルモノノ如シ、サレバ、拗音ノきや、きよ、ちよ、くわ等(下ニ詳ナリ)ノ韻トモナル。此故ニ、也行、和行ノ音ヲ、半母韻(Semi vowel.)トモ名ヅク。

○鼻聲、促聲　五十音ノ外ニ、二ツノ聲アリ、ん(平假名)ン(片假名)ト、づ(平假名)ヅ(片假名)トナリ。んハ、鼻ヨリ出デテ、撥ヌルガ如キ聲ナレバ、鼻聲ト名ヅク、此聲、獨リ出デズ、必ズ、他ノ音ノ下ニ附キテ出ヅ、ねんごろ(懇)ぬきんづ(抽)ぶんてん(文典)ノ如シ。づハ、口ニ促マルガ如クシテ出ヅル聲ナレバ、促聲ト名ヅク、此聲モ、獨リ發

スルヿ能ハズ、必ズ、他ノ二音ノ間ニ挾マリテ發ス、もづとも(最)うづたへ(訴)まづたし(全)ノ如シ。此づ、ヅハ、多行ノ音ノつ、ツト、形、相似タレド、其聲、全ク異ナリ、右肩ニ標シテ、コレヲ分ツ。

○濁音、半濁音　五十音ノ外ニ、又、一種ノ熟音アリ、コレヲ、濁音、及ビ、半濁音トイフ、是亦、其各行ニ、一種ノ發聲アリテ、母韻ト相熟シテ發ス。然レドモ、之ヲ記スベキ假名ナクシテ、濁音ハ、他ノ假名ノ右肩ニ、二點ヲ加ヘテ用ヰル、其數、二十アリ。半濁音ハ、圏點ヲ加ヘテ用ヰル、其數、五ツアリ。左ノ如シ。

濁音
加行　が、ぎ、ぐ、げ、ご、　左行　ざ、じ、ず、ぜ、ぞ、
多行　だ、ぢ、づ、で、ど、　波行　ば、び、ぶ、べ、ぼ、

半濁音　波行　ぱ、ぴ、ぷ、ぺ、ぽ、

濁音、半濁音、ニ對シテ、標點ナキ時ノ假名ノ音ヲ、清音トイフ。濁音ヲ發スルヲ、濁ルトイヒ、ソレヨリシテ、清音ヲ發スルヲ、清ムトイフ。

濁音、半濁音ニ、本濁ト、連濁ト、ノ別アリ。本濁トハ、此音ノ自然ニ發スルモノナリ、みづ(水)かぜ(風)にじ(虹)ぱんや(斑枝花)ノ如シ。連濁トハ、二語、相連ルトキ、下ノ語ノ、此音ニ變ズルコトアルニイフ、卽チ、やま(山)ト、かは(川)ト、連レバ、やまがはトナリ、さと(里)ト、ひと(人)ト、連レバ、さとびとトナリ、おもひ(思)ト、はかる(量)ト、連レバ、おもんぱかるトナルガ如シ。

今世ノ口語ニテハ、濁音ノじ、ずト、ぢ、づト、別無クナレリ。然レドモ、其相異ナルベキ理ハ、其同行中ノ他ノ音ノ發聲ニ比シテ知ルベシ。(今モ、四國、九州、邊ニハ、其別ヲ存セリ。)

○拗音　拗音モ、亦、一種ノ熟音ニシテ、亦、清濁アリ。此音モ、記スニ字無クシテ、假名二字ヲ連ネ用ヰテ記ス。尋常ニ記スモノ、下ノ如シ。

加行　きや　きゆ　きよ
　　　ぎや　ぎゆ　ぎよ
左行　しや　しゆ　しよ
　　　じや　じゆ　じよ

此拗音ノ「きや、きゆ、きよ」「ぎや、ぎゆ、ぎよ」又ハ「しや、しゆ、しよ」「じや、じゆ、じよ」等ト相對セシメテ「か、く、こ」「が、ぐ、ご」又ハ、「さ、す、そ」「ざ、ず、ぞ」等ノ音ヲ、直音《チヨクオン》ト稱ス。（其他ハ準ヘテ知ルベシ）　拗音ハ、發聲ト、半母韻ト、相合シテ成ル、而シテ、其各行ノ發聲ハ、其直音ノ發聲ニ同ジ。　此音ハ、二字相連ネテ寫スガ故ニ、書記ノ上ニテ、動モスレバ、直音ノ二字ナルト、紛ヒ易シ、因テ、字間ノ右旁ニ、小線ヲ付シテ別ツ、いしや、（石屋）いしや、（醫者）ノ如シ。

多行	ちや ぢや	ちゆ ぢゆ	ちよ ぢよ
奈行	にや	にゆ	によ
波行	ひや びや ぴや	ひゆ びゆ ぴゆ	ひよ びよ ぴよ
末行	みや	みゆ	みよ
良行	りや	りゆ	りよ
和行	くわ ぐわ	（餘ハ畧ス）	

○以上、鼻聲、促聲、濁音、拗音、ノ事ニ就キテハ、古今ニ變アリ、中外ノ音ニ異ナル所アリ、且、假名ノ成形等ニ至リテモ、大ニ辨ズベキ事アレド、辭書ニ用無ケレバスベテ略セリ。

○轉呼音　假名ヲ、其本分ノ音ニ呼バズシテ、他ノ音ニ轉呼スルコトアリ、コレヲ轉呼音《テンコオン》トス。

○は、ノ假名ヲ記シテ、わ、ノ如ク轉ジテ呼ブヿアリ。　又、ひ、ふ、へ、ほ、ヲ記シテ、い、う、え、お、ノ如ク呼ブヿアリ、是ハ、發聲、默シテ、母韻ノミ、發スルナリ。　左ノ如シ。

いは《ワ》（岩）	いひ《イ》（飯）	くふ《ウ》（食）	うへ《エ》（上）	かほ《オ》（顔）
くは《ワ》（桑）	かひ《イ》（貝）	すふ《ウ》（吸）	はへ《エ》（蠅）	しほ《オ》（鹽）
あはし《ワ》（淡）	あたひ《イ》（價）	ゆふべ《ウ》（夕）	かなへ《エ》（鼎）	ほのほ《オ》（焰）
かはる《ワ》（變）	たひら《イ》（平）	あやふし《ウ》（危）	かへる《エ》（歸）	おほし《オ》（多）

以上ノ轉呼音ハ、他ノ音ノ後ニアリテ發ス、開口ニ發スルコトナシ。

○阿段ノ音、衣段ノ音ハ、（清、濁、共ニ）下ニ、う、又ハ、ふ、（轉呼音ノ）ヲ承クレバ、於段ノ音ノ如ク轉呼スルヿアリ、是ハ、發聲ヲ存シテ、母韻ヲ變フルナリ。　此轉呼音、開口ニモ發シ、他ノ音ノ後ニテモ發ス。　左ノ如シ。

あうむ《オ》（鸚鵡）	あふみ《オ》（近江）	……	えう《ヨ》（要）	えふ《ヨ》（葉）
かうべ《コ》（首）	さかふ《コ》（逆）	きやう《ヨ》（京）	けうし《キヨ》（教師）	けふ《キヨ》（今日）
さうし《ソ》（草紙）	さふらふ《ソ》（候）	しやう《ヨ》（性）	せうと《シヨ》（兄人）	せふ《シヨ》（妾）
たうげ《ト》（峠）	たふとし《ト》（貴）	ちやう《ヨ》（町）	てうづ《チヨ》（手水）	てふ《チヨ》（下云）
なう《ノ》（腦）	そなふ《ノ》（備）	……	ねうはち《ニヨ》（鐃鈸）	……
はうむる《ホ》（葬）	はふ《ホ》（法）	ひやう《ヨ》（評）	へう《ヒヨ》（瓢）	……
まうす《モ》（申）	まふ《モ》（舞）	みやう《ヨ》（明）	めうが《ミヨ》（蘘荷）	……
やうか《ヨ》（八日）	……	……	……	……
らう《ロ》（牢）	とらふ《ロ》（捕）	りやう《ヨ》（兩）	れうり《リヨ》（料理）	れふ《リヨ》（獵）
わう《ヲ》（王）	……	くわう《ヲ》（光）	……	ゑふ《ヨ》（醉）

○其委シキコトハ文典ニ讓ル、尙、後ノ索引指南ノ條ヲ見ヨ。

連聲　又、む、及ビ、つ、（音便《オンビン》ニテ促聲ト爲リ）ぬ、（音便ニテ鼻聲ト爲リ）ノ音ハ、其發聲ヲ、下ニ來レル他ノ母韻、又ハ、半母韻、ト合ハセテ、轉呼セシムルヿアリ、コレヲ連聲《レンセイ》トイフ。

さむゐ《ミ》（三位）	おむやうど《ミヨ》（陰陽師）	
ほつい《チ》（發意）	けついん《チ》（厥陰）	けつえき《テ》（闕腋）	せつおん《ト》（舌音）

ぜん-あく（善惡）	ぎん-あん（銀杏）	えん-いん（延引）	うん-うん（云云）
いん-えん（因緣）	まん-えふ（萬葉）	くわん-おん（觀音）	さん-よう（算用）
げん-わ（元和）	しん-わう（親王）	りん-ゑ（輪廻）	あん-をん（安穩）

又、き、く、ノ音ヲ、促聲ノ如ク轉呼スルヿアリ、亦、連聲ナリ。

せき-けう（石橋）	せき-かう（石膏）	せき-ふく（石斛）	
はく-か（薄荷）	かく-け（脚氣）	がく-かう（學校）……	にく-けい（肉桂）

○轉呼音ハ、元ト、一種ノ音便ナルベケレド、書ニ筆スル上ニテ、音便ハ、音ヲ變フレバ字ヲモ變フルニイヒ、轉呼音ハ、音ヲ變フレド字ヲ變ヘヌニイフ、是レ、相異ナル所ナリ。

○右ノ外ニ、通音、通韻、ノ事、音便ニ、聲音ノ延、約、略、加、轉、等ノ事アリ。然レドモ、是等ハ、音ヲ變フレバ、字ヲモ變ヘテ記スモノニテ、各一個ノ語ト見做スベク、即チ、辭書ニハ、各自ニ掲ゲ出スモノナルニ、今、其理由ノミ說カムモ、不用ナルベシ、因テ、爰ニハ略セリ。

○漢字ノ字形、音韻等ノ事、一切不用ナレバ、略セリ。

言語

此篇ニハ、八品詞ノ目ヲ、名詞、動詞、形容詞、助動詞、副詞、接續詞、天爾遠波、感動詞、ト立テタリ。此他ニ、接頭語、(Prefix.)接尾語、(Suffix.)アリ、

又、國語ニ、一種特別ナル發語、枕詞アリ、次ヲ逐ヒテ說クベシ。

國語ノ代名詞、數詞ハ、文中ニアリテ、其位置用法、正ニ名詞ト異ナラザレバ、名詞ニ附屬スベキモノナリ。又、國語ノ形容詞ハ、語尾ノ變化モアリ、法(Mood.)モアリテ、文章ノ末ヲモ結ブコト、恰モ動詞ノ如ク、西洋ノ形容詞トハ、甚ダ異ナルモノナリト知ルベシ。又、助動詞モ、語尾ノ變化ヲモ法ヲモ具ヘテ、而シテ、其狀ノ動

詞ノ如キアリ、形容詞ノ如キアリ、サレバ、固ヨリ、舊說ノ如ク、天爾遠波ノ中ニ混ゼシムベキニアラズ、サレバトテ、コレヲ動詞ニ附屬セシメ難キコトモアリ、因テ獨立セシメタリ。分詞ハ、動詞ノ法ノ中ニアリ。洋語ノ前置詞トイフモノ、我ニアリテハ、多クハ名詞ノ後ニアリテ、位置正ニ相反セリ、即チ、名詞ノ後ニ付クベキ同趣ノ語ト共ニ、天爾遠波ノ中ニアリ。國語ニ冠詞無シ。

洋語ニ、名詞ノ格(Case.)トイフモノ、我ガ、が、の、に、を等ニ當ルガ如クナレドモ、我ガ、が、の、に、を等ハ、同語ノ上モ、所用ノ場合ニ因リテ、種種ノ意義ヲ起シ、彼ノ謂ハユル格ニ當ルモアリ、當ラヌモアリ、サレバ、が、の、に、を等ヲ取リテ、概シテ格ナリト定ムベキニアラズ、故ニ、天爾遠波トテ、別ニ一門ニ立ツナリ。

又、我ガ名詞、代名詞ニハ、洋語ニ謂ハユル男女中ノ性(Gender.)無シ。又、單複ノ數(Number.)モ、種種ノ接頭語、接尾語、ナド添ヘ、或ハ、同語ヲ重ネナドシテ、其別ヲ示スコトナキニシモアラネド、各語ノ用法、區區ニシテ、サラニ一定ノ通則ナク、又、區別セズシテモ、前後ノ文勢ニテ、單複ヲ意解シ、且、區別シテモ、コレニ應ズル動詞、形容詞等ニ、其影響ヲ及ボスコトナシ、故ニ特ニ說クコトヲ要セズ、動詞、形容詞モ、性モ、數モ、人稱(Person.)モ、無シ。

○一箇ノことば(Word.)ニ、名詞、動詞ナドイフ如ク、詞ノ字ヲ當ツルハ妥當ナラズ、從來、體言、用言、ナド呼ベル言ノ字、正ニ相當レリ、サレド、今ハ姑ク本文ノ如シ。

名詞（體言）

名詞ハ、有形無形ノ事物ノ名稱ヲイフ語ナリ。例ヘハ、日、月、牛、馬、聲、色、黑、白、禍、福、憂、樂等ノ如シ。其中ニ、人名、地名、其他、一事一物ニ限レル名稱ヲバ、固有名詞ト名ヅク、賴朝、義經、池月、磨墨、髭切、膝丸、武藏、相模、富士、利根等ノ如シ。コレニ對シテ、固有ナラヌ其他ノ一切ノ名詞ヲ、普通名詞トイフ。

○普通、固有、ノ別、英語ノ如キハ、書記ノ上ニ、頭字ヲ用ヰルト、用ヰザルト、ナドノ定メアレド、國語ニテハ、サル事モ無シ。但シ、辭書ノ採集ニ區別シ、又、地名、姓氏等ニ、（松林、遠山ナド）普通ト紛レ易キモノナドモアレバ、注意シテアルベキナリ。

○國語ノ名詞ニハ、洋語ノ如キ男、女、中ノ性モ無ク、單複數ノ別モ、一定ノ則無ク、又名詞ノ格トイフモノノ意義モ、別ニ天爾遠波アリテ、其語ニ存スレバ、本文

ノ外ニハ、別ニ說クベキ事ナシ。但シ、熟語トナルトキ、希ニ、其語尾、或ハ、全體ヲ變ズル者アリ、たけむら（竹叢）ノたかむらトナリ、ふねはた（舟端）ノふなばたトナリ、きかげ（樹陰）ノこかげトナルガ如シ、然レドモ、斯ク變ズル語、甚ダ少キノミナラズ、其變ズベキ語モ、アラユル場合、皆變ズルニアラズ、慣用スル所ニ定マリアリテ、一般ノ通則ナラズ、而シテ、其變化シ、慣用スルホドノモノハ、皆一熟語トシテ辭書ニ擧ゲタリ、サレバ、今ハ、別ニ說カズ。

○代名詞　代名詞ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ名ニ代ヘテ、其レヲ指シテイフ語ナリ。例ヘバ、人、事、物、地位、方向、等ノ、各其名アルニ代ヘテ、「我」汝」是レ」夫レ」此處」彼方」ナドイフガ如シ。

○人ニ就キテ用ヰル代名詞ヲ、人代名詞トイフ。而シテ、其稱スル人ノ位置ニ因リテ、別ヲ起ス、コレヲ人稱トイフ。其人稱ノ第一ナルヲ自稱トス、話ス人、自ラ、己ガ名ニ代ヘテ用ヰルモノナリ、卽チ、「我、行カム」ノ我ノ如シ。第二ナルヲ對稱トス、我ト相對シ我ガ話シ掛クル人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、卽チ、「我、汝ト倶ニ行カム」ノ汝ノ如シ。第三ナルヲ他稱トス、二人ノ間ニ話シ出ス他ノ人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、卽チ、「我、汝ト倶ニ彼ヲ訪ハム」ノ彼ノ如シ。又、別ニ、不定稱アリ、他稱ノ中ニテ、其レト定メヌ人、又ハ、其名ヲ知ラヌ人ノ名ニ代ヘテイフモノナリ、卽チ、「誰ヲカ訪ハム」「誰ニカアラム」ノ誰ノ如シ。

自稱	對稱	他稱	不定稱
われ	なむぢ	かれ あれ	たれ （だれ）

人代名詞ノ尋常ナルモノハ、右ノ如シ。此外ニモ、古今、雅俗、尊卑ニ用ヰ分クルモノ、尙甚ダ多シ。左ニ、其中ノ若干ヲ擧グ。

（自稱）　吾、（吾ガ妻）吾、（吾ガ君）吾、（妹とあれといるさの山）麿、朕、妾、僕、己レ、某、余、身、ナド。

（對稱）　汝、（汝が待つ君）汝、（なれをしぞあはれと思ふ）汝、汝、吾主、御身、御事、吾殿、御邊、君、其許、ナド。

（他稱）　彼、（彼ハ誰）そやつ、かやつ、あやつナド。

（不定稱）　誰、（誰ガ、誰ソ、）某、何某ナド。

右ノ外、淡文、書狀文、口語ノ上ナドニハ、尙多シ、委シクハ文典ニ讓レリ。

○事、物、地位、方向、等ニ就キテ用ヰル代名詞ニハ、近稱、中稱、遠稱、不定稱ノ別アリ。近稱ハ、最モ近キニイフ、是、此、此處、此方、ノ如シ。中稱ハ、稍、離レタルニイフ、其、其處、此方、ノ如シ。遠稱ハ、遠キニイフ、彼、彼處、彼方、ノ如シ。不定稱ハ、其レト定メヌ、又ハ、知ラヌニイフ、何、何處、ノ如シ。

		近稱	中稱	遠稱	不定稱
事物		これ　こ	それ　そ	あれ　あ かれ　か	いづれ（どれ）　なに
地位		ここ	そこ	あしこ　あそこ かしこ	いづこ（どこ）　いづく
方向		こなた	そなた	あなた かなた	いづかた（どなた）
		こち	そち	あち	いづち（どち）

○凡ソ、代名詞ハ、名詞ノ地位ニ代リテ立ツモノナルニ、こ、そ、あ、か等ヲ、天爾遠波ノのト連ネテ用ヰルトキニハ、別ニ一種ノ意義ヲ起シ、其名詞ニハ代ハラズシテ、其名詞ノ上ニ立チテ、唯、其名詞ヲ指シ示スコトアリ、コレヲ指示代名詞（Demonstrative.）トイフ。例ヘバ、常ノ代名詞ナレバ、「人ハ」花ヲ」ナドノ「人」物」ニ代ハリテ、「是ハ」其ヲ」トナルニ、指示代名詞ハ、其「人」物」ヲ存シテ、更ニ、其上ニ立チ、「此ノ人ハ」其ノ花ヲ」ト、其

「人物」ヲ指シ示ス意ヲナス、而シテ、是レニモ、近稱、中稱、遠稱、不定稱、ノ別アリ。

近稱	中稱	遠稱	不定稱
この	その	あの かの	いづれの （どの）

○**數詞**‖　數詞（スウシ）ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ數ヲイフ語ナリ、其用法、文中ニアリテ、正ニ名詞ニ同ジ。

ひとつ	ふたつ	みつ	よつ	いつつ	むつ	なゝつ	やつ	ここのつ
とを	はたち	みそぢ	よそぢ	いそぢ	むそぢ	なゝそぢ	やそぢ	ここのそぢ

又、語末ノ‖つ、ち、を、‖等ヲ去リテ、接頭語（末ニ說ケリ）ノ如ク用ヰルコトアリ。

一夜（ヒトヨ）　二路（フタミチ）　三筋（ミスヂ）　四時（ヨトキ）　五枚（イツヒラ）　六言（ムコト）　七種（ナナクサ）　八廻（ヤメグリ）　九返（ココノカヘリ）
十度（トタビ）　二十年（ハタトセ）　三十文字（ミソモジ）　四十年（ヨソヂ）　五十返（イソカヘリ）　八十氏人（ヤソウヂヒト）

此他ニ、五十（イソ）、五十（イ）、百（モモ）、百（ホ）、千（チ）、萬（ヨロヅ）、ナドアリ、「重用」シテハ、五十（イソ）、五百（イホ）、八百（ヤホ）、八千（ヤチ）、百千（モモチ）、五百萬（イホヨロヅ）、八百萬（ヤホヨロヅ）、千千（チヂ）、千萬（チヨロヅ）、ナドアリ、然レドモ、是等モ、多クハ熟語ニ用ヰル。

幾十（イクソ）　百年（モモトセ）　千種（チクサ）　萬世（ヨロヅヨ）　五百枝（イホエ）　八百重（ヤホヘ）　八千度（ヤチタビ）　百千度（モモチタビ）

又、漢語ナルハ一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、萬、億、兆、等アリ。

○數詞ノ原形ハ、元來、ひと、ふた、み、よ、ナドニテ、接頭語ノ如キモノナルベク、コレニ、箇（ツ）、或ハ、箇（チ）、ノ接尾語ノ加ハリテ、名詞ノ如クナリタルナラム、然レドモ、其原形ハ、一般ニ用ヰガタキ事モアリ、因テ、姑ク本文ノ如クニシテ、名詞ニ屬セシメタリ、他ノ百、千（モモチ）、等、亦然リ。

○洋語ニ、順序數詞（Ordinal）トイフモノ、我ガ數詞ニハ無シ、（第一、二號、三番、四ツ目、ナド、他語ヲ添ヘテ形作ルモノヲ以テ、之ニ當ツルモノアルハ、誤レリ、）

第一表　動詞ノ語尾變化……法

直說法（截斷 終止）Indicative mood.
分詞法（連體）Participial mood, or Verbal adjective.
接續法 已然 Perfect. 將然 Imperfect. Subjunctive mood. (if)
折說法（連用）Participle, present.
熟語法（連用）Compound form.
名詞法（假體）Gerund.
命令法（希求）Imperative mood.

	第一變化即本體 直說法（截斷 終止）	第二變化 分詞法（連體）	第三變化 接續法 已然	第四變化 接續法 將然	第五變化 折說法（連用）熟語法（連用）名詞法（假體）	第六變化 命令法（希求）
規則動詞（正格） 第一類（四段活用）	（一）（行）ゆく	ゆく	ゆけ	ゆか	ゆき	ゆけ
	（二）（押）おす	おす	おせ	おさ	おし	おせ
	（三）（分）わかつ	わかつ	わかて	わかた	わかち	わかて
	（四）（飛）とぶ	とぶ	とべ	とむ	とび	とべ
	（五）（讀）よむ	よむ	よめ	よま	よみ	よめ
	（六）（去）さる	さる	され	さら	さり	され
			む	む		
第二類（下二段活用）	（一）（得）う	うる	うれ	え	え	えよ
	（二）（受）うく	うくる	うくれ	うけ	うけ	うけよ
	（三）（任）まかす	まかする	まかすれ	まかせ	まかせ	まかせよ
	（四）（立）たつ	たつる	たつれ	たて	たて	たてよ
	（五）（兼）かぬ	かぬる	かぬれ	かね	かね	かねよ
	（六）（經）ふ	ふる	ふれ	へ	へ	へよ
	（七）（勤）つとむ	つとむる	つとむれ	つとめ	つとめ	つとめよ
	（八）（覺）おぼゆ	おぼゆる	おぼゆれ	おぼえ	おぼえ	おぼえよ
	（九）（恐）おそる	おそるる	おそるれ	おそれ	おそれ	おそれよ
	（十）（植）うう	ううる	ううれ	うゑ	うゑ	うゑよ
			む	む		
第三類（中二段活用）	（一）（生）いく	いくる	いくれ	いき	いき	いきよ
	（二）（落）おつ	おつる	おつれ	おち	おち	おちよ
	（三）（强）しふ	しふる	しふれ	しひ	しひ	しひよ
	（四）（恨）うらむ	うらむる	うらむれ	うらみ	うらみ	うらみよ
	（五）（報）むくゆ	むくゆる	むくゆれ	むくい	むくい	むくいよ
	（六）（懲）こる	こるる	こるれ	こり	こり	こりよ
			む	む		
第四類（一段活用）	（一）（鑄）いる	いる	いれ	い	い	いよ
	（二）（着）きる	きる	きれ	き	き	きよ
	（三）（似）にる	にる	にれ	に	に	によ
	（四）（乾）ひる	ひる	ひれ	ひ	ひ	ひよ
	（五）（見）みる	みる	みれ	み	み	みよ
	（六）（居）ゐる	ゐる	ゐれ	ゐ	ゐ	ゐよ
			む	む		
不規則動詞（變格） 第一類（加行變格）	（來）く	くる	くれ	こ	き	こよ
			む	む		
第二類（左行變格）	（爲）す	する	すれ	せ	し	せよ
	（座）おはす	おはする	おはすれ	おはせ	おはし	おはせよ
			む	む		
第三類（奈行變格）	（往）いぬ	いぬる	いぬれ	いな	いに	いね
	（死）しぬ	しぬる	しぬれ	しな	しに	しね
			む	む		
第四類（良行四段一格）	（有）あり	ある	あれ	あら	あり	あれ
	（居）をり	をる	をれ	をら	をり	をれ
	（侍）はべり	はべる	はべれ	はべら	はべり	はべれ
	（在）いまぞかり（いますかり）	いまぞかる	いまぞかれ	いまぞから	いまぞかり	いまぞかれ
			む	む		

○欄上ニ（四段活用）（下二段活用）ナドト横ニ記シ、又、欄右ノ直說法、分詞法ノ下ニ（截斷、終止）（連體）ナドト括弧內ニ記シタルハ、スベテ舊稱トノ對照ナリ。　○文ノ三樣ノ掛リ結ビノ事ハ、文章論ニ屬スベキヿトシタレバ、動詞ノ處ニテハ說カザルナリ、故ニ、表中ニ其記載ナシ。

○此表ハ、從來用言活用圖トテアルモノトハ、名稱次第甚ダ異ナル所アリ。　又、舊圖ニハ、各變化ニ連續スベキ助動詞、天爾遠波ヲ、一々各欄內ニ分載セルヲ、此圖ニハ除ケリ。　是等ノ事ハ、委シク此動詞ノ條ノ末ニ辨ジオケリ。

第一表ノ説明

○前表中、規則動詞ノ各類中ニ、又、各、數種アルヿ、（一）（二）（三）等ノ標ニテ知ルベシ、而シテ、其各種ノ處ニ擧ゲタル動詞ハ、其同種中ノ一語ヲ採リテ、例トシテ擧ゲタルモノト知ルベシ。例ヘバ、規則第一類ノ（一）ノゆく（行）ハ、其語尾、く、く、け、か、き、けトナル、是レト同ジク、おどろく（驚）はく（吐）きく（聞）かく（書）ふく（吹）等、枚擧スベカラズ、是等ノ語尾、皆、く、く、け、か、き、けトナル。又、（二）ノおす（押）ト同ジキハ、かもす（醸）うつす（移）いだす（出）かへす（返）けす（消）ナド、皆是レニテ、共ニ其語尾ノ變化ハ、す、す、せ、さ、し、せナリ。而シテ、語尾ノ濁音ナルモノ皆同ジ。以下、第二類、第三類、第四類ニ亘リテ、皆、此定ナリト知ルベシ。

○不規則動詞ハ、アラユル動詞ノ中ニ就キテ、僅ニ九語アルノミナレバ、表中ニハ、ソノアル限リヲ擧ゲタリ。サレバ、規則動詞ノ方ノ、各種中ニ一語ヅツ抽キテ擧ゲタルトハ、異ナル所アリト知ルベシ。

○表中、各變化ノ中ニ、往往、同形ノモノノ重出セルアリ。然レドモ、是等ハ、形ハ同ジケレド、其意義ハ異ナルモノナリ、其異ナル所以ハ、同ジ段ノ他類ノ變化ニ照シテ見バ、其形ヲ異ニスルモノアルニテ知ルベク、且、他ノ助動詞、天爾遠波等ニ連續スル通則ニ至リテモ、各、異ナル所アリ。尚、後ノ助動詞其他ノ條ニ説クベシ。

○表ノ第五ノ段ニ、折説法、熟語法、名詞法ノ三法ヲ、併セテ當ツルヿトナリタルハ、表ノ方ニ省略シタル所アルニ起レリ、正シクハ、表ニ二段ヲ增シテ、全表ヲ八段トシ、段每ニ一法ヅツ當ツベキナリ。然レ𪜈、今ハ、表ノ面ノ袤大トナラムヲ恐レ、又、語尾ノ變化ヲ諳記セシメムニ長クナラムヲ恐レ、簡ニ從ヒテ、畧キテ三法ヲ一處ニ當ツルヿトセリ、且、其變化ノ形、規則、不規則ノ八類ニ亘リテ、三法、共ニ各同ジクモアレバナリ。

○各動詞ノ語尾ノ變化ヲ、其語尾ノミヲ採リテ、左ノ如ク稱呼スベシ、且、各變化ヲ、此表ニ據リテ諳誦スレバ、其則ヲ記臆シ易シ。

- 規則動詞ノ
  - 第一類ノ
    - く、く、け、か、き、けノ變化。
    - す、す、せ、さ、し、せノ變化。
    - つ、つ、て、た、ち、てノ變化。
    - ふ、ふ、へ、は、ひ、へノ變化。
    - む、む、め、ま、み、めノ變化。
    - る、る、れ、ら、り、れノ變化。
  - 第二類ノ
    - う、うる、うれ、え、え、えよノ變化。
    - く、くる、くれ、け、け、けよノ變化。
    - す、する、すれ、せ、せ、せよノ變化。
    - つ、つる、つれ、て、て、てよノ變化。
    - ぬ、ぬる、ぬれ、ね、ね、ねよノ變化。
    - ふ、ふる、ふれ、へ、へ、へよノ變化。
    - む、むる、むれ、め、め、めよノ變化。
    - ゆ、ゆる、ゆれ、え、え、えよノ變化。
    - る、るる、るれ、れ、れ、れよノ變化。
    - う、うる、うれ、ゑ、ゑ、ゑよノ變化。
  - 第三類ノ
    - く、くる、くれ、き、き、きよノ變化。
    - つ、つる、つれ、ち、ち、ちよノ變化。
    - ふ、ふる、ふれ、ひ、ひ、ひよノ變化。
    - む、むる、むれ、み、み、みよノ變化。
    - ゆ、ゆる、ゆれ、い、い、いよノ變化。
    - る、るる、るれ、り、り、りよノ變化。
  - 第四類ノ
    - いる、いる、いれ、い、い、いよノ變化。
    - きる、きる、きれ、き、き、きよノ變化。
    - にる、にる、にれ、に、に、によノ變化。
    - ひる、ひる、ひれ、ひ、ひ、ひよノ變化。
    - みる、みる、みれ、み、み、みよノ變化。
    - ゐる、ゐる、ゐれ、ゐ、ゐ、ゐよノ變化。
- 不規則動詞ノ
  - 第一類　く、くる、くれ、こ、き、こよノ變化。
  - 第二類　す、する、すれ、せ、し、せよノ變化。
  - 第三類　ぬ、ぬる、ぬれ、な、に、ねノ變化。
  - 第四類　り、る、れ、ら、り、れノ變化。

動詞（用言、作用言、活語）

動詞（ドウシ）ハ、名詞ノ後ニ附キテ、其動作ヲイフ語ナリ。例ヘバ、「花、飛ぶ、」「蝶、驚く、」「春、去る、」「夏、來る、」ノ「飛ぶ、」「驚く、」「去る、」「來る、」ハ、「花、」「蝶、」「春、」「夏、」ノ動作ヲイフガ如シ。又、希ニ、現象ヲイフモノアリ。例ヘバ、「此ニ人あり、」「志、其父ニ似る、」ノ「あり、」ト、「似る、」トハ、「人、」ト、「志、」ト、ノ現象ヲイフガ如シ。

○動詞ノ性　アラユル動詞ヲ、其性質ニテ別チテ、自動性（ジドウセイ）ト、他動性（タドウセイ）ト、ノ二種トス。

自動性　自ラ動作シテ、他ノ事物ヲ處分スルヿナキ意ノモノヲ、自動性トス。例ヘバ、「花、飛ぶ、」「蝶、驚く、」ノ如シ、其動作、ソノママニテ通ズ。自動性ノ動詞ヲ略シテハ、自動詞（ジドウシ）トモイフ。

他動性　動作ノ、他ノ事物ヲ處分スル意アルモノヲ、他動性トス。例ヘバ、「蠶ハ、絲ヲ吐く、」「蜂ハ、蜜ヲ釀す、」ノ「吐く、」「釀す、」ノ如シ。コレヲ、唯、「蠶ハ、吐く、」「蜂ハ、釀す、」トノミイヒテハ、其意、未ダ全ク通ゼズ、必ズ、「何を、」ト問ハルベシ、然ルトキハ、其處分スベキモノヲ擧ゲテ、「絲を、」或ハ、「蜜を、」ト答ヘズハアルベカラズ、而シテ後ニ、其意ヲ全ウス。他動性ノ動詞ヲ、他動詞（タドウシ）トモイフ。

○國語ノ動詞ニハ、自動ノ上ニモ、完了語（Complement.）ヲ要スルアリ、（父に似る、馬に乘る、ノ類）他動ノ上ニモ、完了語、一ツニテ足ルアリ、（絲を吐く、蜜を釀す、ノ類）二ツヲ要スルアリテ、（志を父に似す、物を馬に載す、ノ類）自、他ニ、各、單、複ノ別アリ。然レ𪜈、是等ノ解、辭書ニ用ナケレバ、略セリ、詳ナルハ、文典ニ讓ル。

○語根、語尾、變化　動詞ハ、其動作ノ意ヲ、數樣ニ現ハサムトシ、又ハ、他ノ語ニ連續セムトスルガ爲ニ、其語ノ末ヲ變フ。例ヘバ、

ゆ-く（行）　ゆ-け　ゆ-か　ゆ-き

まか-す（任）　まか-する　まか-すれ　まか-せ

此ノか、又ハ、まか、ノ如ク、變ハラザル部ヲ、語根（ゴコン）(Root)トイヒ、く、け、か、き、又ハ、す、する、すれ、せ、ノ如ク、變ハル部ヲ、語尾（ゴビ）トイヒ、而シテ、其變ハルヿヲ、變化（ヘンクワ）トイフ。又、一音ノ動詞ハ、其全體ヲ變フ。例ヘバ、

う(得)　え　ふ(歷)　へ　く(來)　こ　き　す(爲)　せ　し

○規則動詞、不規則動詞　アラユル動詞ノ變化ノ狀、亦、種種ナリ。其狀ノ異同ヲ類別スレバ、八類トナル。其中ノ四類ニハ、所屬ノ動詞多クシテ、他ノ四類ニハ、甚ダ少シ。其多キ方ニ屬スルヲ、規則動詞（キソクドウシ）ト名ヅケ、少キ方ニ屬スルヲ、不規則動詞（フキソクドウシ）ト名ヅク。其別、左ノ如シ。

規則動詞

第一類　六種　第二類　十種　第三類　六種　第四類　六種

第四類ノ中ニ變體ノモノアリ後ニ言フベシ。

不規則動詞

第一類　一種　第二類　一種　第三類　一種　第四類　一種

○規則第一類　此類ノ變化ニ屬スルモノハ、表ニ示セルガ如ク、六種ニ限ル。此各種ノ動詞ハ、其語尾ノ變化ヲノミ唱フレバ、「く、く、け、か、き、け、」「す、す、せ、さ、し、せ、」「つ、つ、て、た、ち、て、」ナドナリテ、其變化ノ語路、口調、相似タレバ、同類トス。以下、第二、三、四類ノ各種モ、スベテ、此規定ニテ、其語尾ノ變化ノ口調ノ相似タルニ因テ、類聚シタルモノナリ。而シテ、表ニ擧ゲタル動詞ハ、其各種中ノモノヲ、一語ヅツ擧ゲタルナリ。又、アラユル動詞ノ中ニテ、此第一類變化ニ屬スルモノ、最モ多シ、因テ、之ヲ第一トス。

規則第二類　此類ノ變化ニ、十種アリテ、其狀ハ、「う、うる、うれ、え、え、えよ、」「く、くる、くれ、け、け、けよ、」「す、する、すれ、せ、せ、

せよ、」ナドト、其口調ヲ同ジウス。此變化ニ入ル動詞ハ、第一類ニ次ギテ多シ、因テ、コレヲ第二トス。

規則第三類　此類ノ變化ハ、六種ニ限ル。其變化ノ狀、上半ニテハ、「く、くる、くれ、」「つ、つる、つれ、」ナドトナリテ、第二類ト相同ジケレド、下半ハ、いノ韻ニテ、「き、き、きよ、」「ち、ち、ちよ、」ナドトナリテ、第二類ノえノ韻(け、け、けよ、」て、て、てよ、)トナルト異ナリ。此類ノ變化ノ動詞、甚ダ多カラズ、故ニ、コレヲ第三トス。

規則第四類　此變化モ、六種ニ限ル。此變化ハ、下半ニテハ、「き、き、きよ、」「ひ、ひ、ひよ、」ノ如ク、第三類ニ似タレド、上半ニテハ、「きる、きる、きれ、」「ひる、ひる、ひれ、」ナドナリテ、相異ナリ。此類ノ變化ノ動詞ノ數、僅ニ十數語ニ出デズ、因テ、第四トス。

○第四類變化ハ、元來、語數モ極メテ少キノミナラズ、他ノ助動詞(らむ、らし、べし、ナド)ニ連續スルニモ、他類ト變則ナルコトアリ、或ハ、不規則動詞ニ入ルベキモノナラムカ、尙、委シクハ、文典ニ讓ル。

然レドモ、口語ニアリテハ、規則動詞第二類ノいく、(生)おつ、(落)しふ、(强)等ヲ、いきる、おちる、しひる、ナドトスルガ、定マリナリ。(關東、近畿ヲ初トシテ、全國六七分ハ然リ、次ノ變體モ同ジ。)サテ、此口調ニ從ヒテ、別ニ出來レリト覺シキあきる、(厭)かうじる、(增長)たいぢる、(退治)たりる、(足)ナドモアリ、是等ノ變化ハ、正ニ此第四類ノ變化ト同ジクシテ、其語モ、頗ル多シ。

變體　又、規則動詞第二類ノう、(得)うく、(受)まかす、(任)等ヲモ、口語ニテハ、える、うける、まかせる、トセリ。此口調ニ從ヒテ、別ニ出來レルける、(蹶)いせる、(摺縫)はぜる、(裂)はねる、(放埓)もめる、(所揉)ナドモアリテ、其語、亦多シ。此類ノ語尾ノ變化ハ、「ける、ける、けれ、け、け、けよ、」「せる、せる、せれ、せ、せ、せよ、」「ねる、ねる、ねれ、ね、ね、ねよ、」ナドトナリテ、其韻ニいトえトノ差ハアレド、其變化ノ狀ハ、不規則動詞ノ第四類ニ似タリ、因テ、其類ノ變體トス。

○不規則第一類　此變化ハ、唯、一種ニテ、且、く（來）トイフ動詞一語ニ限ル。其變化ハ、く、くる、くれ、こ、き、こよ、トナリテ、其狀頗ル、規則動詞第三類ナル（一）ノいく（生）ニ似タレドモ、下半ノ、き、き、きよ、トハナラデ、こ、き、こよ、トナルガ、不規則ナルナリ。

不規則第二類　此類ノ變化モ、唯、一種ニテ、其語モ、す（爲）おはす（御座）ノ二語ニ限ル。此類ノ變化ハ、す、する、すれ、せ、し、せよ、トナリテ、規則動詞第二類ノ（三）ノまかす（任）ニ似タレドモ、下半ハ、「せ、し、せよ」ニテ、「せ、せ、せよ」ナラヌガ變ナリ。

不規則第三類　此變化モ、唯一種ニテ、亦、いぬ（往）しぬ（死）ノ二語ノミナリ。（但シ、助動詞ノぬ、コレニ同ジ。）此變化ノ狀ハ、上半、ぬ、ぬる、ぬれハ、規則動詞第二類ナル（五）ノかぬ（兼）ニ似タレモ、下半ノな、に、ねハ、第一類變化ノ口調ニ似タリ。又、アラユル動詞中ニテ、六變化ヲ、殊體ニテ具備スルハ、此類ノ變化ニ限ル。

不規則第四類　此變化モ、亦一種ニテ、其語ハ、あり（有）をり（居）はべり（侍）いまそかり（在）ノ四ニ限ル。（但シ、助動詞ノなり、たり、せり、けり、めり、ノ類、コレニ同ジ。）此ノ類ノ語尾ノ變化ハ、甚ダ規則第一類ノ（六）ノさる（去）ニ似タレドモ彼ハ、「る、る、れ、ら、り、れ」トナルニ、此ハ、「り、る、れ、ら、り、れ」ナルガ、異ナリ。且、凡ソ、日本ノ動詞ハ、其本體、うノ韻ニ終ハルヲ通則トスルニ、此一類ノミハ、いノ韻ニ終ハルヲ、殊ニ異ナリトス。

以上、不規則四類ノ動詞ハ、合セテ九語ナリ。アラユル動詞中ニテ、此不規則類ニ入ルベキハ、僅ニ此ノ九語ニ限ルト知ルベシ。凡ソ、不規則動詞ハ、四類、共ニ、其變化ノ狀、規則動詞ト異ナルヿ、上ニ言ヘルガ如クナルノミナラズ、他ノ助動詞ト連續スル通則ニ至リテモ、皆、多少、規則動詞ト異ナル所アリ、尙、後ノ助動詞ノ條ニ說クヲ見ヨ。又、不規則動詞ノ四類ノ順序ハ、五十音ノ順ニ依ル。

○動詞ノ法　動詞ノ變化ニ因リテ、語氣ニ種種ノ態度ヲ生ズ、コレヲ法トイフ。其法、七種アリ、卽チ、

（一）直說法　（二）分詞法　（三）接續法　（四）折說法
（五）熟語法　（六）名詞法　（七）命令法　（第一表ト參照スベシ）

○此法ノ事ニ就キテハ、國語ト、洋語トノ間ニ、其趣ヲ異ニスルコトアリ、委シクハ、末ニ辨ズベシ。又、法トイフモノハ、語氣ノ態度ナレバ、法ト稱セムヨリハ、態ノ字ヲ當テテ、直說態、命令態、ナドトセバ、妥當ナラム、然レドモ今ハ姑ク改メズ。又、從來、截斷言、連體言ナドト、言ノ字ヲ當テタルモ、妥當ナラズ、此事モ、後ニ言フベシ。

今、左ニ、規則動詞ノ四類中ヨリ、各一語ヲ出シテ、七種ノ法ヲ說明カスベシ、他ハ之ニ準ヘテ知ルベシ。

（一）直說法　動作ヲ、ソノママニ說キテ、文章ノ末ヲ結ブ法ニテ、コレヲ動詞ノ本體トス。例ヘバ、

書ヲ讀む。　事ヲ勤む。　花、落つ。　月ヲみる。

尋常ハ、此ノ第一變化ノ直說法ヲ以テ、文章ノ末ヲ結ブ。然ルニ、文中ニ、天爾遠波ノぞ、や、か、ノ入ルキハ、第二變化ヲ直說法トシテ結ブ。例ヘバ、

書ヲぞ讀む。　事ヲぞ勤むる。　花ぞ落つる。　月ヲぞみる。
書ヲや讀む。　事ヲや勤むる。　花や落つる。　月ヲやみる。
何ヲか讀む。　何ヲか勤むる。　孰レか落つる。　何ヲかみる。

又、天爾遠波ノこそノ入ルトキハ、第三變化ヲ直說法トシテ結ブ。例ヘバ、

書ヲこそ讀め。　事ヲこそ勤むれ。　花こそ落つれ。　月ヲこそみれ。

右ノ如ク、ぞ、や、か、ヲ結ブニ、第二變化ヲ用ヰ、こそヲ結ブニ、第三變化ヲ用ヰルヿ、諸ノ動詞、又ハ、形容詞、助動詞、スベテ然リ。

○右ノ三種ノ結法ノ事ハ、文章論ニテ說クヿトシタレバ、動詞ノ條ニテハ、委シクハ言ハズ、尙、文典ニ詳ニス。

(二)分詞法　他ノ名詞ノ上ニ連ル法ニテ、卽チ、動詞ノ分レテ、形容詞ノ形容法（後ニイフ）ノ如クナルモノナリ。例ヘバ、

己ガ讀む書。　我ガ勤むる事。　花、落つる時。　月ヲみる人。

或ハ、獨立ニモ用ヰテ、

讀む書。　勤むる人。　落つる花。　みる物。

此法ハ、其下ニアルベキ名詞ヲ含ミテ、（Understood.）直ニ名詞ノ如ク用ヰルヿアリ。例ヘバ、

讀む（事）ト書く（事）トヲ學ブ。　人ノ勤むる（狀）ニ倣フ。

花ノ開く（頃）ヨリ落つる（頃）マデ。　みる（事）ヲ好マズ。

(三)接續法　此法ハ、豫想ノ語句ヲ設ケテ、他ノ主トスル語句ニ、接續附加セシムル時ニ起ルモノニテ、ばヲ加フ。而シテ、其中ニ「已ニ然ル」ニイフト、「將ニ然ラムトスル」ニイフト、ノ別アリテ、コレヲ已然、將然トイフ。（第一表ト參照スベシ）

已然	將然
多ク書ヲ讀めば、能ク、智識ヲ增ス。	多ク書ヲ讀まば、能ク、智識ヲ增サム。
事ヲ勤むれば、功、成ル。	事ヲ勤めば、功、成ラム。
花、落つれば、實、生ズ。	花、落ちば、實、生ゼム。
月ヲみれば、物ヲ思フ。	月ヲみば、物ヲ思ハム。

此ノ已然ナルハ、意義、一轉シテ、「讀ムニ」、「勤ムルニ」、「落ツルニ」、「見ルニ」、ナドノ意ヲナスヿアリ、「善クみれば、誤ナリキ」、ナドノ如シ。又「讀ムニ因テ」、「勤ムルニ因テ」、「落ツルニ因テ」、「見ルニ因テ」、ノ意ヲナスヿアリ、「智ヲ增スハ、書ヲ讀めばナリ」、ノ如シ。

(四)折說法　此法ハ、文章ノ間ニアリテ、其意ヲ暫シ言止シ置キテ、其後ニ來ル他ノ動詞ノ法ニ照應シテ、其意ヲ共ニスルモノナリ。例ヘバ、

書ヲ讀み、道ヲ學ブ。　事ヲ勤め、功ヲ成ス。　花、落ち、鳥、啼ク。　月ヲみ、且、古ヘヲ懷フ。

コレヲ、句每ニ分タバ、「書ヲ讀む、又、道ヲ學ブ」「事ヲ勤む、又、功ヲ成ス、」ナドト直說スベキヲ、姑ク、「讀み」「勤め」ト言止シテ、下ノ「學ブ」、又ハ、「成ス」、ニ照應シテ、直說ノ意ヲ終フルモノナリ。

此法、又、數語、連用スルヿアリ、又、數語ヲ隔テテ照應スルヿアリ。例ヘバ、

書ヲ讀み、（讀む、又、）事ヲ勤め、（勤む、又、）理ヲ究め、（究む、而シテ、）說ヲ立て、（立つ、而シテ、）詳ニ、コレヲ文章ニ著し、（著す、）

又、コレヲ印行し、（印行す、且、）弘ク、コレヲ世ニ示す。

其他、尙、種種ニシテ、凡テ、其下ニ來ル語ト意ヲ共ニス。事ヲ勤め、（たる）功ヲ成し、（たる）能ク其名ヲ揚げたる人。夙ニ起き、（て、）夜ニ寐ねて、財ニ富み、（たれば、）且、學ニ長けたれば、

○此法、舊說ニテハ、連用言トシテ、次ニ說ク熟語法ト混ジタリ。サレド、「勤め行ク」、「落ち入ル」、ナド用ヰル「勤め」「落ち」ト、「我ハ勤メ、彼ハ怠ル」、「花、落チ、鳥、啼ク」ナド用ヰル「勤め」「落ち」トハ、其用法、太ダ異ナリ、一ハ、全ク熟シテ一語ノ如クナレド、一ハ、各自ニ動作シテ、「或ハ勤メ、或ハ怠ル」、此ハ落チ、彼ハ啼ク」ノ意トナレバナリ。又云、折說ノ字面ハ、直說法ニ對シテ付シタルモナレド、未ダ此法ノ意ヲ盡サザルガ如シ、適當ナル語ヲ得バ改ムベシ。

(五)熟語法　他語ト組立テテ、一熟語トスル時ノ法ナリ。例ヘバ、「落ツ」ト「入ル」トヲ組立ツルトキ、「落ち入

ル」トハナラデ「落ち入ル」トナルガ如シ。

他ノ動詞ト組立ツルモノハ、

讀み果ツ。　勤め爲ス。　落ち入ル。　み渡ス。

又、數語ヲ連ヌルアリ。

讀み聞（キカ）せ奉ル。　飛び立ち去ル。　打ち連れ立ち給フ。

他ノ名詞ト合フモノハ、

讀み人。　勤め事。　落ち葉。　み物。

又、形容詞ト合フヿモアリ。

讀み憂シ。　勤め難シ。　落ち易シ。　み苦シ。

○此法ヲ、從來、連用言トイヘリ、他ノ用言（動詞）ニ連ル故ノ稱ナリ。然レドモ、「讀み人」「落ち葉」ノ如ク、名詞ト連リテ熟語トナルモノモ、全ク是レナレバ、（此ノ讀み、落ち、等ヲ、名詞ナリトイフハ、肯ハレズ、）必ズ、用言ニ連ルトノミモ言ヒ難シ、因テ今ハ別名ヲ下セリ。

但シ、不規則動詞ノ第三類ナルすト、第四類ナルありトハ、他語ヲ冠シテ熟語トナルヿナシ、「釣りす」「狩りす」、「喜ビあり」「隔テあり」ナドト連リテモ、其上ナルハ、名詞法ニテ「釣りヲす」「狩りヲす」「喜ビノある」「隔テノある」、ノ意トナル。

○「隔テあり」「分チあり」「任カセあり」ナドト、熟語法ニ用ヰルハ、誤ナリ、尚、其辨ノ詳ナルコトハ、文典ニ讓ル。

（六） 名詞法　動詞ノ名詞トナル法ナリ。例ヘバ、

讀みヲ覺ユ。　勤めヲ怠ル。　落ちヲ拾フ。　花みニ行ク。

（七） 命令法　此法ハ、他ニ動作ヲ命ズルモノナリ。例ヘバ、

書ヲ讀め。　事ヲ勤めよ。　落ちよ。　みよ。

○此法ハ、變化ノ類ニ因リテ、よヲ添フルアリ、添ヘヌアリ、（讀め、ヲ「讀めよ」「讀めや」ナドトモ用ヰルコトアルハ、感動詞ノよ、やヲ添ヘタルナリ、又、「讀みね」ナド添フルハ、助動詞ノぬノ命令法ナリ、）又、今ハ、添フレドモ、古ヘハ添ヘザリシモアリ、（「勤め、モロモロ」「焉、暫（シマ）シ止（ト）め」「早ク手ニ居（ス）ゑ」「見ニ來（コ）」「吉ク爲（セ）」ナド、）委シクハ、文典ニ讓ル。

○

○洋語ノ動詞ニ、Mood.（姑ク、英語ニテ記ス、下同ジ）トイフモノ、卽チ、此篇ニイフ動詞ノ法ナリ。然レドモ、彼我ノ語性ニ就キテ、頗ル其趣ヲ異ニスルコトアリ。又、洋語ノ動詞ニハ、Voice.（口氣ト譯ス）Tense.（時ト譯ス）トイフモノアルガ、我ガ動詞ニテハ、是等ノ意義ハ、他ノ助動詞ト連帶關係シテ始メテ起ルガ故ニ、今ハ、助動詞ノ條ニテ說クコトトセリ。左ニ、是等ノ異同ヲ辨セム。

Mood.トイフ語ヲ、辭書ニ據リテ其意義ヲ求ムルニ、「動詞ノ變化ニ因リテ生ズル語氣ノ態度ナリ、」トアリテ、一動詞ノ其語體ヲ變ジテ成ルモノナリ。羅甸ノ動詞ニハ、直說法、可成法、（Potential.）接續法、命令法、不定法、名詞法、分詞法、等アリテ、其法ハスベテ、一動詞ノ語體ニ具備スルモノニテ、其語體ヲ變ジナドシテ、能ク衆法ヲ現ハシ、他ノ助動詞ナド添ヘテ成ルニアラズ。而シテ、右ノ諸法ノ中ニテ、直說法、接續法、命令法、名詞法、分詞法、等ハ、我ガ動詞ニイフト、粗同ジク、共ニ、語體ヲ變ジテ成ル。然ルニ、其不定法トイフモノハ、動詞ノ單行スル時ノ法ナルガ、我ガ動詞ニハ無シ、又、可成法トイフモノモ、事ヲ爲シ得ル意ヲイフ法ナルガ、亦、我ガ動詞ニハ無シ、但シ、助動詞ノる、らる（讀マる、勤メらるノ如シ）ヲ添フレバ、其意ニ充ツルコトヲ得ベシ。

西洋諸國ノ文法ハ、大率、羅甸ノ文法ニ倣ヒテ作リシモノナリト云フ。英國ノ動詞モ、羅甸ノ如ク、直說法、可成法、接續法、命令法、不定法、及ビ、分詞法、名詞法、（此二法ハ、法トハセズシテ、單ニ分詞ト立ツルモノ、往往アリ、）等ヲ立ツ。然ルニ、其可成法ハ、動詞ノ體ノ變化ニハアラデ、動詞ノ前ニ、別ニ助動詞ヲ加ヘ、又、接續法モ、多クハ、動詞ノ前ニ、別ニ接續詞ヲ加ヘテ、其意義ヲ成サシメ、其可成、接續、ノ意義ハ、動詞ノ語體ニハ存セズシテ、添ヘタル助動詞、接續詞ノ方ニ存スルモノノ如シ。（我ガ接續法ノ末ノばモ、他語ヲ加フルニ似タレドモ、尙、前ニハアラデ、後ニアリテ語尾ヲ補フモノニテ、且、變化スルコトモ無シ、猶、命令法ノ末ノよノ如シ、）サレバ、英ノ動詞ニイヘル可成法、接續法ハ、其語體ニハ具ヘヌヲ、他語ヲ加ヘテ、羅甸ノ法ニ擬シテ作爲セルナリ、是等ハ、英ノ語學者ガ、無用ノ摸擬トイフベク、既ニ、其國ノ學士中ニモ、コレヲ法ナラズト論ズルアリ。然ルニ、今日、洋文法ヲ以テ、國文法ヲ論ズルモノ、「讀マる」「勤メらる」等ヲ、可成法ト立ツルアリ、亦、右ノ謬見ヲ遺傳セルナリ。或云、英ノ助動詞ハ、動詞ト密着スルモノニテ、其前ニ居リ後ニ居ルヲ問ハズ、合シテ一語ト見ルベキナリト。今、姑ク、英ノ動詞ハ、或ハ然ラムトストモ、我ガ助動詞ハ、大ニ異ナルモノニテ、變化アリ法アルコト、粗、動詞ニ同ジク、例ヘバ、「勤メらる」トイヘバ、直說法トナリ、「勤メらるる」トイヘバ、分詞法トナリ、「勤メらるれば」トイヘバ、接續法トナル。サレバ、此ノらるヲ、助動詞ナラズトシテ、「勤メラル」ト密着セル「勤ム」ヲ可成法ナリトセバ、其變化ノらるる、らるればヲバ如何ニカセム、法ニ法アリトイフコトヤアルベキ。扨、又、我ガ動詞ニハ、熟語法トイフモノアリテ、彼ニハ絶エテ無キガ如シ。凡ソ是等ノ事ハ、東西ノ語性ニ、天

然ノ差異アリテ存スルモノタルコトヲ覺ルベシ。

Voice.ハ、口氣ト譯スベクシテ、辭書ニ據レバ、「動詞ノ一種ノ變體ニシテ、以テ文主（サブゼクト）ト動詞ノ動作トノ關係ヲ指別セシムル別體ナリ、」トアリ、此口氣、二樣ニ分レテ、能相（Active.）所相（Passive.）トイヒ、羅甸語ニテハ、一動詞ノ語體ニ、此ノ二樣ノ變ヲ具セリ。然ルニ、我ガ動詞ニテ、此ノ能、所ヲ言ハバ、例ヘバ、「打ツ」傳フ」ノ能相（ハタラキカケ）タルハ論ナケレドモ、其所相（ウケミ）ヲ寫シ出サムトスレバ、別ニ、助動詞ノる、らるヲ添ヘテ、「打タる」傳ヘらる」ナドセズハアルベカラズ。而シテ、其能相ノ意義ハ所相ニ對シテ生ズルモノナレバ、今ハ、助動詞ノる、らるノ條ニ至リテ說クコトトセリ。（英ノ動詞ニモ、所相ハ、前ニ助動詞ヲ添ヘテ言フガ多シ、）

Tense.ハ、時ト譯シテ、亦、動詞ノ動作ノ現在ナルト、過去ナルト、未來ナルト、ヲ示スニ就キテ起ル一種ノ轉化ニテ、是モ、羅甸ノ動詞ニテハ、其語體ニ、此ノ轉化ヲ具セリ。我ガ動詞ニテモ、「打ツ」傳フ」ノ現在ナルハ論ヲ待タザレド、過去ヲ寫シ出サムトスレバ、助動詞ヲ加ヘテ、「打チたり」傳ヘき」ノ如クシ、未來モ、助動詞ヲ加ヘテ、「打タむ」傳ヘむ」ナドトスルナリ、（此たり、き、む等、亦、皆、變化アリ、法アリ、）因テ、是、亦、助動詞ノ條ニ說クコトトセリ。（英語ノ如キハ、過去ノ轉化ヲ、動詞ノ體ニ具スルアリ、或ハ、前ニ助動詞ヲ添ヘテ示スモアリ、而シテ、未來ハ、率ネ、前ニ助動詞ヲ加フルガ如シ、）

畢竟ズルニ、單ニ、「打ツ」傳フ」トイフ語ヲ指セバ、一ノ動詞ト呼ブベキノミ。扨、單ニ、「打ツ」傳フ」トイフ語ナルガ、所相ノ「打タる」傳ヘらる」ニ對スレバ、能相ノ名目ヲ生ジ、過去、未來ノ「打チたり」傳ヘむ」等ニ對スレバ、現在ノ名目ヲ生ズルナリ。而シテ、其所相トイヒ、過去、未來、トイフ意義ハ、スベテ助動詞ノ方ニ存スルコトナレバ、是等ノ事ハ、動詞ノ語體ノ轉化ニ生ズルモノトハ見ズシテ、他ノ助動詞ノ條ニ說カムトスルナリ。

○

○從來、用言ノ活用ニ、四段、一段、中二段、下二段等ノ名稱アリ。（第一表ノ欄上ニ記セルモノ、） 其四段活用トイフハ、例ヘバ、ゆく（行）トイフ用言ハ、其語尾、か、き、く、けト活用シテ、五十音圖ニ照セバ、其圖ノ上ヨリ四段ノ諸音ニ當ルガ故ニ命名セルニテ、是レハ其理アリトセム。然ルニ、き（着）ノ、きる、きれ、ト活用スルヲ、一段活用ト名ヅケ、いく（生）ノ語尾ノ、き、くる、くれ、ト活用スルヲ、中二段ト名ヅケ、うく（受）ノ語尾ノ、く、くる、くれ、け、ト活用スルヲ、下二段ト名ヅクルナドハ、妥當ナラザルガ如シ。ソハ、「き」又ハ、「きく」又ハ、「くけ」ノ音コソ、五十音圖ノ一段、又ハ、中ノ二段、又ハ、下ノ二段ナレ、其他ニ、「きる、きれ」くる、くれ」ナドアル「る、れ」ヲバ、如何ソ措キテ言ハザル。ソモ、此ノ「る、れ」ハ、附屬物ノ如ク等閑ニ視ルベキモノナラザルベシ、凡ソ、用言ノ正格、變格、八種ノ活用ノ中ニテ、此ノ「る、れ」ノ活用ナキモノハ、僅ニ、四段活用ト、良行四段一格トノ二種アルノミ、其他ノ六種ハ、皆、此ノ「る、れ、」ヲ以テ、要用ナル活用ヲ現ハシ、殊ニ、一段活用ニ至リテハ、此ノ「る、れ」無ケレバ、（古格ハ姑ク措キ）第一ニ、用言ノ本體タル截斷言ヲ形作ルコトヲ得ズ。（ぞる、」おそれ、」ナドト、概畧ニ「掛リ、」結ビ、」ヲ呼ブモ、用言ニ、此音ノ活用多キヲ知ルベシ、） 又、希求言ヲモ、活用ト見ルトキハ、よノ音ヲモ、活用中ニ加ヘザルヲ得ズ。（よ無ケレバ、希求言ヲ成サザルモノモ、少カラズ、） 此ノ如ク論ジテ、扨、從來命名ノ趣意ヲ本シテ、正シク稱呼セムトセバ、加行一段活用ノ、き、きる、きれ、きよ、ヲバ、「加行一段、良行下二段、也行一段活用、」ナドト呼ビ、良行下二段活用ノ、れ、る、るる、るれ、れよ、ヲバ、「良行下二段、重複顚倒、及ビ、也行一段活用、」ナドト呼バズバ、他ノ四段活用等ニ對シテ、其命名ノ釣合ヲ失ハム、サレバトテ、斯ル冗長ナル名稱ハ、採ルベクモアラズ。此故ニ、今ハ、四段、一段、ナドイフ意味アル命名ニハ從ハズシテ、單ニ、第一類、第二類、第三類、第四類等ノ名ヲ命セリ。又、其順序モ、舊圖ナルハ、四段活用、最モ五十音圖ノ順ニ適當スルガ如ク、且、其所屬ノ用言モ數多ケレバ、之ヲ第一トシタルナルベク、而シテ、次下ハ、五十音順ニ據リテ次第セルナルベシ。然レドモ、今ハ、四段、一段、等ノ名稱ヲ用ヰヌコトニモアレバ、其活用ニ所屬スル用言ノ多少ヲ以テ、順序ヲ改メ、四段活用ヲ第一類トシ、下二段活用ヲ第二類トシ、中二段活用ヲ第三類トシ、一段活用ヲ第四類トセリ。又、既ニ、正格活用ノ名稱ヲ改メタル上ハ、變格活用モ、舊稱ヲ存シ難ケレバ、亦、第一、二、三、四類トセリ、但シ、其順序ハ、舊キニ從ヘリ。

從來ノ活用五階圖ハ、五十音圖ノ段ヲ標準トシテ、先ヅ、四段活用、一段活用、等ノ名ヲ定メ、扨、其活用ノ最モ博キ四段活用ノ音（か、き、く、け等）ヲ基本ト立テテ、他ノ活用ヲ、コレニ從ヘシメテ、製セシモノナルベシ。サレバ、ゆか、（行）ヲ基トシテ、他ノいき、（生）うけ、（受）等ノ將然言トイフモノ、第一階ニ居ルナリ。然レドモ、凡ソ、用言ノ本體トイフモノハ、ゆく、（行）いく、（生）うく、（受）ニテ、卽チ、截斷言トイフモノナレバ、先ヅ、某（ソレ）ノ用言トテ、取出シテ記サムニハ、截斷言ヲ第一ニ置クベキ理ナラム、然ルニ、舊圖ニテハ、其本體タルベキモノ、第三階ニ居ルコトトナリテ、體裁宜シカラズ、是等モ、畢竟ズルニ、五十音順ヲ基トシ、四段活用等ノ目アルガ故ニ、之ニ從ハザルヲ得ザルニ起レルナリ。然レドモ、本篇、既ニ、四段活用等ノ名稱ヲ用ヰザレバ、今ハ、其順序ヲ改メテ、截斷言ヲ第一ニ置ケリ、而シテ、後ノ形狀言、助動詞、等ノ表モ、皆、之ニ傚ハシメタリ、殊ニ、活用ナキ助動詞ノなむ（願ノ）じ（不）ノ如キハ、表ノ第一階ニ置キテ、下ヲ空白ニスル方、體裁好キヲ見ルナリ、（舊圖ノ體ニ製スレバ、第三階ニアリテ、上下、空白トナル、） 且、又、三種ノ「掛リ、」結ビ、」ヲ說カムニモ、其活用ノ第三、第四、第五階ニアラムヨリハ、第一、第二、第三階ニアラム方、太ダ善カルベケレバ、今ハ、連體言、已然言、トイフモノヲ、第二階、第三階ニ上ゲテ、截斷言ニ次ガシメ、而シテ、第一階、第二階ニアリシ將然言、連用言トイフモノヲ、ソノママ、下ニ下ゲタリ。又、希求言ハ、舊圖ニハ、略ケルガ多シ、然レドモ、其活用ノ體ノ異ナルモノモアルガ上ニ、奈行變格（死ね）ノ如キ、甚ダ迷ヒ易キモノモアレバ、今ハ、下ニ一階ヲ加ヘテ截セタリ。而シテ、第四、五、六階ノ順序ニハ、理由ナシ、唯、上ヨリ讀下シ諳誦セムニ、口調語路ノ好カラムニ從ヘリ。

又、從來、五階ノ名稱ヲ、將然言、連用言、截斷言、（又、終止言）連體言、已然言、トセリ。是等ノ名稱、好カラヌニモアラネド、尙、論ズベキコトアリ。先ヅ、其本語ニ、用言トイフ名ヲ付シテ、又、其活用ニ、將然言、連用言、ナドト、言ノ字ヲ付スルハ、言中ニ言アルコトトナリテ、甚ダ初學ノ迷ヒヲ惹キ易シ、本篇ニ用ヰタル法ノ字トテモ、適當ナリトハ言ヒ難ケレド、（態ノ字當ラムトイフコトハ、前ニ說ケリ、）尙、迷ヒヲ避クルニ足ラム。又、文ノ「掛リ、」結ビ、ノ如キモ、「ぞ、や、か、ノ掛リハ、連體言ニテ結ビ、おそ、ノ掛リハ、已然言ニテ結ブ、」ナドイフコトトナルモ、不都合ナリ、既ニ、連體トハ、他ノ體言ニ連ル語ナリト釋キテ、又、ぞ、や、か、ノ「掛リ」ヲ結ブ（截斷ス）トイヒ、已然ハ、過ギ了レル意ヲイフト釋キテ、又、おそノ「掛リ」ヲバ、現在ノ意ニテ結ブコトトモナル、齟齬極マレリ。又、第二階ハ、連用言トモナリ、體言トモナルニ、連用言ト定稱スルトキハ、差支ヘアルベシ。又、舊圖ニハ、各階ノ欄內ニ、助動詞、天爾遠波、等ヲ、一一插入シタレド、用言ノ活用ノミ說カム場合ニハ、甚ダ錯雜ヲ起スヲ覺エ、サルハ、將然言ノ下ニ、「ゆかず」ナドアリテハ、唯、ゆくトイフヲ現在ニ打消ス意ノモノナレバ、將然トイフ命名ニ違ヒ、截斷言ノ下ニ、「ゆくべし」ナドアリテハ、連ル所アリテ、截斷トイフ意ニ合ハズ、連體ハ、體言ニ連ルトイフニ、「ゆくなり」ナドアリテハ、助動詞ニモ連ル意トナリテ、初學ヲシテ、甚ダ惑ハシム。

右ノ如クナレバ、此篇ノ表ノ各階ニハ、一切意義アル名稱ヲ付セズ、階ノ名稱トシテハ、單ニ、第一變化、第二變化、第三、四、五、六變化、ト稱呼セシムルコトトセリ。而シテ、「ぞ、や、か、ノ掛リ」ハ、第二變化ニテ結ビ、「おそ、ノ掛リ」ハ、第三變化ニテ結ブ、トヤウニ稱ヘシメムトス。又、各變化ト、助動詞等トノ、連續ノ則ニ至リテハ、下ニ、別表ニ掲ゲテ、唯、某助動詞ハ、動詞ノ第幾變化ニ連續ストノミ說キ、此場合ニハ、絕エテ動詞ノ變化ノ意義ヲ言ハズ。而シテ、直說法、（截斷言）分詞法、（連體言）ノ如キ意義アル稱呼ハ、階ノ稱呼ノ外ニ立テテ、其階ヲ、直ニ何何法（何何言）ナリトハ言ハズシテ、直說法ニハ、第一變化ヲ用ヰ、接續法ノ已然ニハ、第三變化ヲ用ヰ、將然ニハ、第四變化ヲ用ヰ、或ハ、折說法ニハ、第五變化ヲ用ヰ、熟語法ニモ第五變化ヲ用ヰル、ナド稱ヘシメムトスルナリ。

第二表　形容詞ノ語尾變化……法

	熟語法 Compound form.	直說法（終止） Indicative mood.	形容法（連體） Adjective form.	接續法 已然 Perfect. Subjunctive mood. (if)	接續法 將然 Imperfect.	折說法 Participle, present. 副詞法（連用） Adverb.
	語根	第一變化卽本體	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化
第一類（クシキ活用）	（善）よ （高）たか （遠）とほ	よ-し たか-し とほ-し	よ-き たか-き とほ-き	よ-けれ たか-けれ とほ-けれ む	よ-く たか-く とほ-く む	よ-く たか-く とほ-く
第二類（シクシキ活用）	（惡）あし （樂）たのし （同）おなじ	あ-し たの-し おな-じ	あ-しき たの-しき おな-じき	あ-しけれ たの-しけれ おな-じけれ む	あ-しく たの-しく おな-じく む	あ-しく たの-しく おな-じく

○各欄内ニ、三語ツヽ擧ゲタレド、各類ニ各三種アルニアラズ、唯、同變化ノモノヲ、三語ツヽ出セルマデナリ。

○欄上ノ「クシキ活用」シクシキ活用」、又、欄右ノ終止、連體等、括弧内ノ名目ハ、舊稱トノ對照ナリ、又、表中ニ、同形ノ變化ノ重出セル事、又、第五階ニ、折說法、副詞法、トテ、併セテ當テタル事、等ノ辨ハ、前ノ動詞ノ表（第一表）ノ裏面ノ說明ニ準ヘテ知ルベシ。

○舊圖ト、位置、名稱、ノ變ハレルコトモ、動詞ノ條ニ辨ジタルニテ知ルベシ。

○第一類ノ變化ヲ「形容詞ノし、きノ變化」ト稱スベシ、第二類ヲ「形容詞ノし、しきノ變化」ト稱スベシ。（語路惡シケレバ、畧ニ從フ、僅ニ二類ナレバ、覺ユルニ難カラズ）

形容詞（形狀言）

形容詞ハ、名詞ノ後ニ附テ、其形容、性質、情意等、ヲイフ語ナリ。例ヘバ、「山、高し」海、深し」ノ「高し」深し」ハ、其形容ヲイヒ、「是レ、善し」彼レ、惡し」ノ「善し」惡し」ハ、其性質ヲイヒ、「會フハ嬉し」別ルハ、悲し」ノ「嬉し」悲し」ハ、其情意ヲイフガ如シ。

○**語尾ノ變化**　形容詞モ、亦、語尾ヲ變化シテ、文章ノ末ヲモ結ブ。然レドモ、其變化ノ狀、動詞トハ甚ダ異ニシテ、二類ニ別ル。

第一類　一種　　**第二類**　一種

○**第一類變化**　此類ノ變化ハ、唯、一種ニシテ、其狀、し、き、けれ、く、く、ト變化ス。表ニ擧ゲタル三語、皆、同種ナリ、第二類ナルモ然リ。

○**第二類變化**　此類ノ變化モ、唯、一種ニシテ、其狀、し、しき、しけれ、しく、しく、ト變化ス。第一類ノ語根ヲ疊用スルモノハ、率ネ變ジテ、第二類變化トナル。例ヘバ、とほし（遠）こはし（强）かろし（輕）等ハ、第一類變化ナルニ、「とほどほし、」こはごはし、」かろがろし、」トナレバ、第二類變化トナルガ如シ。其他、いまいまし（忌）うやうやし（恭）くだくだし（煩瑣）をゝし（男）めゝし（女）ナド、疊ミテイフ語モ、率ネ、然リ。

○おほきし（大）トイフ形容詞ハ、おほきき、おほきけれ、ト用ヰタルヲ見ズ、又、すむやけし（速）ヲ、すむやけれ、ト用ヰタルヲモ見ズトイフ、是等ハ、變化ノ闕ケタル不成語ナルカ、或ハ、古書ニ偶、其用例ノ存セザルモノカ。　又、副詞ノすこし（少）ヲ、すこしき、すこしく、ナドト、形容詞ノ如ク用ヰルコトアルハ、誤用ナラム、サルハ、すこし、ヲ直說法ニ用ヰタルヲ見ザレバナリ。（すこしけれトイフベクモアラズ）　其他、尙、委シキコトハ、文典ニ讓ル。

○法　形容詞ノ法ハ、動詞ノ法ト、大ニ似テ、少シ異ニシテ、分詞法、名詞法、命令法、無クシテ、別ニ、形容法（ケイヨウハフ）、副詞法（フクシハフ）アリ。（但シ、形容法ハ、分詞法ト、粗、同ジキモノナリ、）即チ、

（一）直說法　（二）形容法　（三）接續法
（四）折說法　（五）副詞法　（六）熟語法

左ニ、形容詞ノ法ヲ、大略ニ說カム。ソノ動詞ノ法ト同ジキモノハ、相準ヘテ知ルベシ。

（一）直說法　文章ノ末ヲ結ブ法ニテ、コレヲ形容詞ノ本體トス。例ヘバ、

行ヒ、善し。　名、高し。　謗ルハ、惡し。　見ルハ、樂し。

尋常ノ直說法ハ、右ノ如シ。若シ、文中ニ、天爾遠波ノぞ、や、か、又ハ、こそ、ノ入ルキハ、第二變化、又ハ、第三變化ヲ用ヰルヿ、亦、動詞ノ如シ。例ヘバ、

香ぞ好き。　聲ぞ高き。　謗ルぞ惡しき。　見ルぞ樂しき。
香や好き。　聲や高き。　謗ルや惡しき。　見ルや樂しき。
何レか好き。　何レか高き。　何レか惡しき。　何レか樂しき。
香こそ好けれ。　聲こそ高けれ。　謗ルこそ惡しけれ。　見ルこそ樂しけれ。

（二）形容法　他ノ名詞ノ上ニ連ル法ナリ。例ヘバ、

色ノ好き花。　峯ノ高き山。　行ヒ、惡しき人。　心、樂しき時。

或ハ、獨立ニモ用ヰテ、

好き色。　高き山。　惡しき心。　樂しき時。

又、下ニアルベキ名詞ヲ含ミテ、直ニ、名詞ノ如クニモ用ヰル。例ヘバ、

香ノ好きヲ愛ヅ。　山ノ高きニ登ル。
善きト惡しきトヲ別ツ。　樂しき、悲しき、樣樣ナリ。

（三）接續法　動詞ノ接續法ト全ク相同ジキモノニテ、亦、已然、將然ノ別アリ、其意味モ、相準ヘテ知ルベシ。例ヘバ、

已然　將然　已然　將然
善ければ、　善くば、　惡しければ、　惡しくば、
高ければ、　高くば、　樂しければ、　樂しくば、

其他ノ用法、率ネ、動詞ノ接續法ノ如シ。

（四）折說法　文章ノ中間ニテ、其意ヲ言止（イヒサ）シテ、下ノ語ニ照應スルヿ、動詞ノ折說法ニ同ジ、相準ヘテ解スベシ。例ヘバ、

性質、善く、品行、修マル。　山、高く、海、深シ。　惡しく、且、賤シ。　樂しく、又、喜バシ。

是亦、句每ニ言ハバ、「性質、善し。品行、修マル。」「山、高し。海、深し。」ナドイフベク、或ハ、「品行、修マリ、性質、善し。」「海、深く、山、高し。」トモイフベキナリ。

數語、相連リ、又、數語ヲ隔テテ、他ノ種種ノ語ニ照應スルヿアルモ、動詞ノ折說法ニ同ジ。例ヘバ、

心、善く、（善し、又、）行ヒ、正しく、（正し、又、）其功モ、甚ダ高し。
丈、高く、（高き、又、）骨、逞しき人。　幅、廣く、（廣けれど、又、）丈、長けれど、

○俗說ニテハ、此法、並ニ、次ノ副詞法ヲ、共ニ、連用言ト稱シテ、相別タズ。　然レドモ副詞法ハ、「善く修マル」樂しく思フ」ナド、「修マル」思フ」ニ副ヒテ、其意ヲ言添フレドモ、折說法ハ、各自、獨立ノ意ヲ言ヒテ、文、句ヲ結バヌマデノモナリ、混ズベキニアラズ。

(五)副詞法　形容詞ノ變ジテ副詞トナルモノナリ。（副詞ノ事、後ニ擧グ。）例ヘバ、

善く修マル。　高く昇ル。　惡しく變ル。　樂しく思フ。
甚しく寒シ。　全く無シ。　遠く遙ニ見ユ。　淺く平ニ流ル。

又、副詞法ハ、動詞ノあり（ある、あれ、あら）ト連ナリテ、例ヘバ、「善くあり」惡しくある」善くあれ」無くあらむ」ナド用ヰラルルヰ、ソノくトあト約リテ、「善かり」惡しかる」善かれ」無かれ」善からむ」無からむ」ナドトナルヿ、常ナリ。扨、又、ソノ「善からむ」無からむ、」ナド更ニ約マリテ「善けむ」無けむ」トモナリテ、一種異樣ノ語尾ヲナシ、（けめト變化セズ）又、「善からむ」善かれど、」ナドモ、再ビ約リテ「善けむ」善けど」トモナル。　但シ、此用法ハ、古ク、且、稀ニシテ、形容詞一般ニ用ヰ難シ。

(六)熟語法　他語ト合シテ、熟語トナル法ニテ、語根ヲ用ヰル。　然レドモ、形容詞中、此法ヲ成サザルモノモ多シ。　左ニ、其例ノ若干ヲ擧グ。

第一類變化ニテ、

吉詞。　長歌。　高山。　遠野。　淺瀨。
高光ル。　遠離ル。　近寄ル。　薄暗シ。　細長シ。

第二類變化ニテ、

惡し樣。　同じ事。　嚴し鋒。　可憐し妹。　賢し女。

顯し身。　空し車。　空し烟。　長長し夜。　嬉し淚。

又、「無シ」ハ、第一類變化ナレバ、「神無月」正無言」ナドト用ヰルハ、尋常ナルニ、或ハ「友無し千鳥」根無し言」耳無し山」ナドトモ用ヰルハ、特例ナリ。（又、「空車」可惜事」ナドノ空、可惜ハ、生得ノ接頭語ナルベク、第二類變化ノ語根ノしヲ去リテ用ヰタルニハアラザルベシ。）

○　語根　形容詞ノ語根ヲ、稀ニ、直說法ノ如ク用ヰルヿアリ。

アナ憂°(シ)世ノ中。　アナ畏°(シ)人ニ語ルナ。　アナ尊°(シ)　アナ憂°(シ)ヤ。　アナ畏°(シ)ヤ。

○又、語根ヲ、稀ニ、名詞ノ如ク用ヰルヿアリ。　ソノ句ナルハ、句ヲ一團ノ語ト見ルナリ。（第一類天爾遠波ノのノ條見合ハスベシ）

面白ノ春ノ夜。　アラ難有ノ御心。　怨しノ心。　口惜しノ事。　恥しノ事。
怪しノ法師。　アナ恐しノ事。　あさましノ世ヤ。

又、「無シ」ハ、「味氣無ノ世ノ中」暇無ノ身」面無ノ狀ヤ」ナドトモ用ヰ、又ハ、「來ル人無シノ宿ノ庭」御身モ甚クノ甲斐無シニテハ無ケレド」ナドトモ用ヰルハ、異ナリ。

○又、語根ニ、「さ」トイフ接尾語ヲ添ヘテ、文ノ末ヲ結ブヿアリ。　但シ、第一類天爾遠波ノの、がノ下ニ限ル。

音の清亮さ。　人の無情さ。　聞クが悲しさ。　言フが佗しさ。

以上、常ニ、和歌ニ用ヰル。　散文ニハ、多クハ、更ニ、よヲ添フ。

逢ヒタルヿの嬉しさよ。　捨テラレムヿのあさましさよ。

○又、語根ニ、みトイフ接尾語ヲ添ヘテ、副詞ノ如ク用ヰルヿアリ。

苦ヲ粗み、我ガ衣手ハ露ニ濡レツツ。　瀬ヲ速み、岩ニ塞カルル瀧川ノ。

名ヲ睦しみ。　君ヲやさしみ。　月清み。　山高み。

其意ハ、「苦粗キガ故ニ濡ル、」「瀬速キガ故ニ塞カル、」ナドナリ。（苦を、瀬を、等ノをハ感動詞ナリ）　但シ、此用法ハ、和歌ノ上ニ多シ。

○

○從來ノ語學書ニハ、多クハ、形狀言ノ「深み」「高み」「重げ」「惡げ」「善さ」「惡シさ」（名詞トナルモノ）ナドノみ、げ、さヲ、形狀言ノ活用ナリトシテ說ケルガ多シ。　サレド、是等ハ、一種ノ接尾語ノ、形狀言ノ語根ニ添ハリテ體言トナルニテ、活用ニハアラジ。　サレバ、形狀言ニハ限ラデ、「有りげ」「物思ひげ」「思ハズげ」、或ハ、「逢フさ」「離ルさ」「行クさ」「來さ」「歸ルさ」「入ルさ」ナド、作用言ニモ付ケリ、是等ヲモ活用ナリトハイハルマジ。　げハ、氣ナリ、さハ、狀ナリ、みモ、狀ヲイフ語ナリ。　又、「降りみ」「降ラズみ」「蹈ミみ」「蹈マズみ」ナド用キルみハ、「試ル」トイフ作用言ノ活用ナリ、混ズベキニアラズ。

○

○英語ノ Adjective. ハ、大抵、名詞ニ冠ラセテ、其形狀性質ヲイヘリ。　我ガ形容詞モ、名詞ノ形狀性質等ヲイフハ、相同ジケレドモ、語ノ成立ニ至リテハ、甚ダ相異ナリテ、語尾ニ、變化アリ、法アルコト、動詞ノ如クニシテ、且、常ニ、名詞ノ後ニ居テ、文ノ末ヲモ結ベリ。（羅甸、佛、獨等ノ形容詞ニハ、變化アリ、且、或ハ名詞ノ後ニ用キルモアリ、然レドモ、共ニ、文ノ末ヲ結ブコトハ無キガ如シ）　サルヲ、彼ノ文法ヲ以テ我ガ文法ヲ論ズルモノ、彼ノ語法ノ、先入シテ主トナレルガ故ニ、之ヲ背ハズシテ、徒ニ、「高キ」「深キ」ハ、Adjective. ナリ、「高ク」「深ク」ハ、副詞ナリ、「高シ」「深シ」ノシハ、一箇ノ助動詞ノ如キモノナリトシテ、各自、別語ナリト誤認シ、一語ノ語尾ノ變化ナルコトヲ曉ラザルモノ多シ。　サレド、「高キ」「深キ」ヲ獨立ニ用キテ名詞ニ冠スル時（卽チ、形容法）ニコソ、Adjective. トモ言ハルレ、「日本ノ高キ山」「太平海ノ深キ處」ナド言ヒ、又ハ、「山ゾ高キ」「海ゾ深キ」、或ハ、「山コソ高ケレ」「海コソ深ケレ」ナド文ヲ結ブナドハ、如何ニカセム。　又、「高ク」「深ク」ヲ、獨立ニ用キテ、「高ク昇ル」「深ク思フ」ナドイフ時（卽チ、副詞法）ニコソ、副詞トモイフベケレ、若シ、「山高ク（卽チ、折說法）海深シ」ト言ハバ、如何ニカスベキ、「高ク」トイフ副詞ニテ、「深シ」ノ意ヲ調停ストイフベキカ、「高ク深シ」トイヒテ、爭デカ語ヲ成スベキ。　我ガ形容詞ハ、斯ル一種ノ特性アルモノナレバ、別ニ本文ノ如キ規定アルナリ、倘、本文ニ說ケル所ヲ玩味シテ覺レ。

○國語ニテ生得ノ Adjective. ヲ求メバ、新、初、眞、御ナドイフ一類ノ語ナラム。　サレド、是等ノ語ハ、何レノ名詞ニモ冠ラスベキニアラズ、其慣用ニ限レル所アリ、且、獨立ニハ用キズ、必ズ熟語トナリテ文中ニ出ヅ、故ニ、今ハコレヲ接頭語トシタリ。

○又、洋語ノ Adjective. ニイフ階級（Degree.）ハ、其語體ヲ變ジテ成ルモノナレド、我ガ形容詞ニハ、此事無シ、コレヲ譯セムニハ、「是ヨリ善シ」「最モ善シ」ナドトモスベケレド、ソノヨリ、最モハ、別語ヲ用キルナレバ、形容詞中ノ一則トシテ說クベキモノナラズ。

第三表　助動詞ノ變化……法

此表中ノ變化幷ニ法ノ名目ノ事、其他、大體スベテ、前ノ（第一表）動詞ノ語尾變化表、（第二表）形容詞ノ語尾變化表、ニ同ジト知ルベシ。

助動詞ニハ、熟語法、名詞法、ヲ成サヌガ多ケレバ、省ケリ、希ニアルハ、本文ニ說ケリ。

			直說法（止終）	分詞法（連體）	接續法 已然	接續法 將然	折說法（連用）	命令法（希求）	
			第一變化	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化	第六變化	
使役	1	しむ	しむ	しむる	しむれ ば	しめ ば	しめ	しめよ	押サしむ」受ケしむる」ノ如シ、
	2	•す	•す	する	すれ ば	せ ば	せ	せよ	•押サす」死ナする」行カせよ」ノ如シ、
	3	•さす	•さす	さする	さすれ ば	させ ば	させ	させよ	•受ケさす」立テさする」見させ」ノ如シ、
受身	4	•る	•る	るる	るれ ば	れ ば	れ	れよ	•押サる」打タるる」（被押、被打）ノ如シ、
	5	°らる	°らる	らるる	らるれ ば	られ ば	られ	られよ	°受ケらる」立テらるる」（被受、被立）ノ如シ、
能力	6	•る	•る	るる	るれ ば	れ ば	れ		°押サる」打タるる」（得押之、得打之）ノ如シ、
	7	°らる	°らる	らるる	らるれ ば	られ ば	られ		•受ケらる」立テらるる」（得受之、得立之）
指定	8	なり	なり	なる	なれ ば	なら ば	なり		押スなり」受クルなり」○名詞ニ、「月なり」花なり」
	9	°たり	°たり	たる	たれ ば	たら ば	たり	たれ	•名詞ニ「父たり」子たり」漢語ニ「寂寞たり」ノ如シ、
打消	10	ず	ず	ぬ	ね ば	ず ば	ず		押サず」受ケぬ」起キねば」ノ如シ、
	11	ざり	ざり	ざる	ざれ ば	ざら ば	ざり	ざれ	押サざり」受ケざる」有ラざれ」ノ如シ、
過去	12	つ	つ	つる	つれ ば	て ば	て	てよ	押シつ」受ケつる」有リて」ノ如シ、
	13	ぬ	ぬ	ぬる	ぬれ ば	な ば	に	ね	押シぬ」受ケぬる」有リなバ」行キにシ」ノ如シ、
	14	たり	たり	たる	たれ ば	たら ば	たり		押シたり」受ケたる」打チたる」ノ如シ、
	15	•せり	•せり	せる	せれ ば	せら ば	せり		•名詞ニ「罪せり」工夫せる」○副詞ニ「高クせり」詳ニせる」ノ如シ、
	16	°り	°り	る	れ ば	ら ば	り		•規則動詞ノ第一類ニ「押せり」行ケる」請メらむ」
	17	けり	けり	ける	けれ ば	*けら	けり		押シけり」受ケける」ノ如シ、○*接續法トナラズ、
未來	18	む	む	む	*め				押サむ」受ケむ」ノ如シ、○*接續法トナラズ、
	19	けむ	けむ	けむ	*けめ				押シけむ」受ケけむ」ノ如シ、○*接續法トナラズ、
推量	20	らむ	らむ	らむ	*らめ				押スらむ」受クらむ」ノ如シ、○*接續法トナラズ、
	21	めり	めり	める	めれ ば		めり		押スめり」受クめり」見ユめる」ノ如シ、
詠歎	22	なり	なり	なる	なれ ば				押スなり」受クなり」聲スなり」見ユなる」ノ如シ、
希望（ネガヒ）	23	なむ	なむ						押サなむ」有ラなむ」ノ如シ、○此語、變化ナシ、

○*印ノ變化ハ、此表ニハ、スベテ不用ナレド、文ノ結ビトナルモノモアレバ、姑ク、加ヘ置ク、委シキ事ハ、文典ニ讓ル。

			直說法（止終）	形容法（連體）	接續法 已然	接續法 將然	折說法 副詞法（連用）		
			第一變化	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化		
指定	24	べし	べし	べき	べけれ ば	べく ば	べく		押スべし」受クべき」ノ如シ、
比況	25	°ごとし	°ごとし	ごとき		ごとく ば	ごとく		•天爾遠波ノが、の、ニ「押スがごとし」花ノごとき」
打消	26	まじ	まじ	まじき	まじけれ ば	まじく ば	まじく		押スまじ」受クまじき」ノ如シ、
	27	じ	じ						押サじ」受ケじ」見じ」ノ如シ、○此語、變化ナシ、
過去	28	き	き	し	しか ば				押シき」受ケし」行キしかば」ノ如シ、
推量	29	まし	まし	まし	ましか ば				押サまし」受ケまし」行カましかば」ノ如シ、
	30	らし	らし	*らし	*らし				押スらし」受クらし」○*形容法、接續法トナラズ、

○助動詞ハ、何レノ動詞ニモ連ルベキ通則ナルニ、其中ニ、然ラヌモアリ、表中、•印アルモノ、是レナリ、委シクハ、尚本文ニ說クベク、又、次ナル第四表ヲモ參見セヨ。

○欄内ノ空ナルハ、其變化ノ闕ケタルモノナリ、但シ、變化、尚アレド、奇僻ナルハ省ケルモアリ。

○前表ノ外ニ、助動詞ニ似タルモノ、

てむ（て・め）　「行キてむ」打チてむ」ナド用ヰルてむ‖ナリ。是ハ、過去助動詞ノつ‖(12)ノ第四變化ナルて‖ニ、未來助動詞ノむ‖(18)ヲ連ネタルナリ、（めハむノ變化ナリ）コレヲ一ノ助動詞トスルモノアルハ、重複ナリ。尙、此表、幷ニ、次ノ第五表ノつ‖(12)ノ條ヲ見ヨ。

てき（て・し）　「行キてき」打チてし」ナド用ヰルモノナリ。是モ、前項ニイヘルつ‖ノ第五變化ナルて‖ニ、過去助動詞ノき‖(28)ヲ連ネタルニテ、一語ナラズ（しハ、きノ變化ナリ）

なむ（な・め）　「行キなむ」有リなむ」ナド用ヰルなむ‖ナリ。是モ、過去助動詞ノぬ‖(13)ノ第四變化ナルな‖ニ、未來ノむ‖ヲ連ネタルニテ、一語ナラズ、前前項ノてむ‖ニ準ヘテ知ルベシ。（行カなむ」有ラなむ」ナドイフ希望ノなむ‖(23)トハ固ヨリ異ナリ）

にき（に・し）　「行キにき」有リにし」ナド用ヰルモノナリ。是モ、前項ニイヘルぬ‖ノ第五變化ナルに‖ニ、過去ノき‖ヲ連ネタルニテ、一ノ助動詞ニハアラズ。

せむ（せ・め）　是ハ、爲（ス）トイフ動詞ノ第四變化ナル爲（セ）ニ、未來ノむ‖ヲ連ネタルナリ、コレヲ一ノ助動詞ノ如ク見タルモノアルハ、太ダ誤レリ。

けむ　「善けむ」無けむ」可けむ」ナド、形容詞ノ語根ニ連レルガ如キけむ‖ナリ。是ハ、「善からむ」無からむ」可からむ」ナドノ約マルガ如キモノニテ、又、一種異樣ノモノナリ、（けめト變化セズ）尙、前ノ形容詞ノ條ニ說ケリ。

かり　「善かり」惡シかり」ナドノかり‖ナリ。是ハ、「善く有り」惡く有り」ノ約マルナレバ、別チ見テ知ルベシ、尙、前ノ形容詞ノ條ニ說ケリ。

なり　「明なり」靜なり」詳なり」ナドノなり‖ナリ。是ハ、副詞ノ「明カ」靜カ」詳カ」ナドニ「有リ」ノ約マルナレバ、別チ見テ其意義ヲ知ルベク、指定ノなり‖(8)ニ似テ、稍、異ナル所アリ。（詠歎ノなり‖(22)トハ、固ヨリ異ナリ）尙、本文ノなり‖(8)ノ條ニ說ケリ。

あらし　たらし　ならしノ類　是等ハ、「あるらし」たるらし」あるらし」ナドノ約マルナレバ、相別チテ知ルベシ。

春めく　學者ぶる　議論がまし　男らし　行キたし　是等ノ、「めく」ぶる」がまし」らし」たし」ノ類ハ、スベテ、接尾語トシタリ。

第四表

動詞ト助動詞トノ連續

	規則動詞				不規則動詞			
	第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類
第一變化	(行)ゆく (押)おす (分)わかつ (飛)とぶ (讀)よむ (去)さる 20 らむ 21 めり 22 あり 24 べし 26 まじ 30 らし	(得)う (受)うく (任)まかす (立)たつ (兼)かぬ (經)ふ (勤)つとむ (覺)おぼゆ (恐)おそる (植)うう 20 らむ 21 めり 22 あり 24 べし 26 まじ 30 らし	(生)いく (落)おつ (強)しふ (恨)うらむ (報)むくゆ (懲)こる 20 らむ 21 めり 22 あり 24 べし 26 まじ 30 らし	(射)いる (着)きる (似)にる (乾)ひる (見)みる (居)ゐる 20 らむ 21 めり 22 あり 24 べし 26 まじ 30 らし	(來)く 20 らむ 21 めり 22 あり 24 べし 26 まじ 30 らし	(爲)す (座)おはす 20 らむ 21 めり 22 あり 24 べし 26 まじ 30 らし	(往)いぬ (死)しぬ 20 らむ 21 めり 23 あり 24 べし 26 まじ 30 らし	(有)あり (居)をり (侍)はべり (在)いまぞかり （いまぞかり） ●らむ ●めり ●あり ●べし ●まじ ●らし
第二變化	ゆく おす わかつ とぶ よむ さる 8 あり	うる うくる まかする たつる かぬる ふる つとむる おぼゆる おそるる ううる 8 なり	いくる おつる しふる うらむる むくゆる こるる 8 あり	いる きる にる ひる みる ゐる 8 あり	くる 8 あり	する おはする 8 あり	いぬる しぬる 8 あり	ある をる はべる いまぞかる 8 あり 20 ●らむ 21 ●めり 22 ●あり 24 ●べし 26 ●まじ 30 ●らし
第三變化	ゆけ おせ わかて とべ よめ され 16 ●り(る、れ、ら)	うれ うくれ まかすれ たつれ かぬれ ふれ つとむれ おぼゆれ おそるれ ううれ	いくれ おつれ しふれ うらむれ むくゆれ こるれ	いれ きれ にれ ひれ みれ ゐれ	くれ	すれ おはすれ	いぬれ しぬれ	あれ をれ はべれ いまぞかれ
第四變化	ゆか おさ わかた とば よま さら 1 しむ 2 ●す(せ) 4 ○る(れ) 6 ●る(れ) 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	え うけ まかせ たて かね へ つとめ おぼえ おそれ うゑ 1 しむ 3 ●さす 5 ○らる 7 ○らる 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	いき おち しひ うらみ むくい こり 1 しむ 3 ○さす 5 ○らる 7 ○らる 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	い き に ひ み ゐ 1 しむ 3 ●さす 5 ○らる 7 ●らる 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	こ 1 しむ 3 ●さす 5 ●らる 7 ●らる 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし 28 ●き し、しか、	せ おはせ 1 しむ 3 ●さす 5 ●らる 7 ●らる 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし 28 ●き し、しか、	いな しな 1 しむ 2 ●す(せ) 4 ●る(れ) 6 ●る(れ) 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	あら をら はべら いまぞから 1 しむ 2 ●す(せ) 4 ●る(れ) 6 ●る(れ) 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし
第五變化	ゆき おし わかち とび よみ さり 12 つ(て) 13 ぬ(な、に、ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)	え うけ まかせ たて かね へ つとめ おぼえ おそれ うゑ 12 つ(て) 13 ぬ(な、に、ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)	いき おち しひ うらみ むくひ こり 12 つ(て) 13 ぬ(な、に、ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)	い き に ひ み ゐ 12 つ(て) 13 ぬ(な、に、ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)	き 12 つ(て) 13 ぬ(な、に、ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 ●き し、しか、	し おはし 12 つ(て) 13 ぬ(な、に、ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 ●き し、しか	いに しに 12 つ(て) 13 ●ぬ(な、に、ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)	あり をり はべり いまぞかり 12 つ(て) 13 ぬ(な、に、ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)

第四表ノ説明

○前表中ノ諸動詞、及ビ其諸變化ハ、全ク前ノ（第一表）動詞ノ語尾變化表、ニ同ジ。

○此表ノ上ニテハ、動詞ノ法（直説法、接續法等）ノ事ヲバ、一切言ハズシテ、只某助動詞ハ、某動詞ノ第幾變化ニ連續ス、トノミ説クナリ。

○動詞ノ第六變化ニハ、連ナルベキ助動詞無ケレバ、省ケリ。

○表中ノ各欄内ノ、上部ニアルハ動詞ニテ、下部ナルハ助動詞ナリ。其連續ノ狀ハ、例ヘバ、「ゆく、らむ」「ゆく、めり」「ゆく、あり」或ハ「おす、らむ」「おす、めり」「おす、あり」ナドト、各欄内ニテ、何レノ動詞、助動詞ヲモ、互ニ相連續セシメテ解スベシ。

○助動詞ノ頭ニ付セル數字ハ、前ノ（第三表）助動詞表、ノ中ノ各助動詞ノ頭ニ付セル數字ト、合印ナリ。

助動詞ニハ、同形ノモノアリテ、迷ヒ易ケレバ、數字ノ合印ニ注意シテ、善ク第三表ニ照シテ見分クベシ。例ヘバ、「8ノあり」ハ、指定ノありナリ、「22ノあり」ハ、詠歎ノありナリ、「4ノる」「5ノらる」ハ、受身ノる、らるナリ、「6ノる」「7ノらる」ハ、能力ノる、らるナルガ如シ。

○助動詞ノ下ニ、り（る、れ、ら）、す（せ）、る（れ）、ず（ぬ、ね）、ぬ（な、に、ね）、ノ如ク、括弧内ニ記セルハ、其變化ナリ。但シ、此表ニハ、其變化ノ殊ニ惑ヒ易ク思ハルルモノノミヲ出セリ、其餘ナルハ、スベテ、數字ノ合印ヲ以テ、前ノ（第三表）助動詞表、ニ對照セシメテ、知ルベシ。

○［き］［し］［しか］［ぬ］ナドト、方線ヲ加ヘタルハ、連續セヌ標ナリ、連續セヌモノヲモ、斯ク殊更ニ擧ゲタルハ、他ノ例ニ比ベテ、其異同ヲ見易カラシメムトテナリ。

○スベテ、此表ノ助動詞連續ノ通則ハ、最初ノ規則動詞第一類ノ五變化五欄内ニ記シタルヲダニ覺エ得バ足レリ、他ノ各類ハ、押並ベテ、コレト同樣ナリト、先ヅハ心得ベシ。而シテ、其希有ノ異則ナルモノノミハ、特ニ●ヲ記シタレバ、●印ノ所ニ、特ニ更ニ心ヲ付クベシ。

○規則動詞ノ第四類ニテハ、其第一變化ニテ、「居る、らむ」「煮る、らし」「見る、べし」「似る、べし」ナド連續スルヲ通則トス。（表ニモ出セルガ如シ）然ルニ、第四變化ニテ、「居、らむ」「煮、らし」「見、べし」「似、べし」ナド連ルコトモアリ。其事ハ、本文ニ辨ジオケリ。

○助動詞ノ形容詞ニ連續スルモノ、一ツアリ、卽チ、形容詞ノ第二變化ニテ、「善き、あり」「惡しき、あり」ト連ルモノ是レナリ。（8ノありナリ）サレド、是ハ、「善き」「惡しき」ヲ、名詞トシテ連續セシメタルニテ、「月、あり」「花、あり」ナド、名詞ニ連レルト同ジモノト知ルベシ。今、別ニ表ニ揭ゲズ。

又、形容詞ノ語根ニ、「善、かり」「惡し、かり」「善、けむ」「無、けむ」ナド連ヌルかり、けむアリ。此事ハ、前ノ形容詞ノ條、及ビ、（第三表）助動詞表、ノ裏面ノ説明ニ就キテ知ルベシ。

○右ノ外ノ委シキ事ハ、本文ニ説ケルヲ見テ知レ。

第五表　助動詞ト助動詞トノ連續

		第一變化	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化
使役	1 2 3	しむ す さす 20 らむ 21 めり 22 なり 24 べし 26 まじ 30 らし	しむる する さする 8 なり	しむれ すれ さすれ	しめ せ させ 5 らる 7 らる 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	しめ せ させ 12 つ(て) 13 ぬ(な、に) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
受身 能力	4 5 6 7	る らる る らる 20 らむ 21 めり 22 なり 24 べし 26 まじ 30 らし	るる らるる るる らるる 8 なり	るれ らるれ るれ らるれ	れ られ れ られ 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	れ られ れ られ 12 つ(て) 13 ぬ(な、に) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
指定	8	なり	なる 29 らむ 21 めり 24 べし 30 らし	なれ	なら 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 27 じ 29 まし	なり 12 つ 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
	9	たり	たる 8 なり 29 らむ 21 めり 24 べし 26 まじ 30 らし	たれ	たら 1 しむ 10 ず(ぬ、ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	たり 12 つ 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
打消	10	ず 22 なり	ぬ 8 なり	ね	ず	ず
	11	ざり	ざる 8 なり 20 らむ 21 めり 24 べし 30 らし	ざれ	ざら 1 しむ 18 む(め) 23 なむ 29 まし	ざり 12 つ 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
過去	12	つ 20 らむ 21 めり 22 なり 24 べし 30 らし	つる 8 なり	つれ	て 18 む(め) 23 なむ 29 まし	て 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
	13	ぬ 20 らむ 21 めり 22 なり 24 べし 30 らし	ぬる 8 なり	ぬれ	な 18 む(め) 23 なむ 29 まし	に 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
	14	たり	たる 8 なり 20 らむ 21 めり 24 べし 30 らし	たれ	たら 10 ず(ぬ、ね) 18 む(め) 23 なむ 29 まし	たり 12 つ 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
	15	せり	せる 8 なり 20 らむ 21 めり 30 らし	せれ	せら 18 む(め) 29 まし	せり 12 つ 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
	16	り	る 8 なり 20 らむ 21 めり 30 らし	れ	ら 10 ず(ぬ、ね) 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	り 12 つ(て) 13 ぬ(な、に) 17 けり 19 けむ 28 き(し、しか)
	17	けり	ける 8 なり 20 らむ 30 らし	けれ	けら 10 ず	けり 12 つ 28 き(し、しか)
未來	18	む	む 8 なり	め		
	19	けむ	けむ	けめ		
推量	20	らむ	らむ	らめ		
	21	めり	める 8 なり 20 らむ 30 らし	めれ		めり 12 つ 28 き(し、しか)
詠歎	22	なり	なる 20 らむ 21 めり 30 らし	なれ		
希望	23	なむ				

此表、別ニ說明ヲ用ヰズ、スベテハ、前ノ第四表ノ說明ヲ代用シテ解スベシ。

又、普ク第三表ヲモ參照シテ見ルベシ。

古書ニ用例アレドモ、連續ノ希有奇僻ナルハ、省ケルモアリ。

第三變化ハ、連續スルモノ無ケレバ、此表ニハ不用ナレドモ、變化ノ、中間ニテ脱セムハ、體裁好カラザレバ、姑ク加ヘタリ。

第六變化ハ、全ク不用ナレバ、省ケリ。

此表、前ノ（第三表）助動詞變化表ニ比ベテ、24 以下ノ助動詞ヲ省ケルハ、連續スルモノナケレバナリ。　但シ、べき、ごとき、まじき、し、等ノ、なり（8）ニ連ルヿハアリ。

又、べけむ、べかり、まじかり、ナドモアリ。

其事ハ、前ノ第三表、第四表、ノ裏面ニ說明セルヲ見テ知ルベシ。

助動詞

助動詞ハ、動詞ノ變化ノ、其意ヲ盡サザルヲ助ケムガ爲ニ、別ニ其下ニ附キテ、更ニ、種種ノ意義ヲ添フル語ナリ。 例ヘバ、「行キなり、「眠リぬ、「語ラず、「言ハむ、「打タ志む、」ナドノたり、ぬ、ず、む、志む、ノ如シ。 又、他ノ助動詞ニモ附クコトアリ、「行キたりき、「打タ志めらる、」ノき、らる、ノ如シ。 又、名詞、又ハ、形容詞、(其形容法ヲ名詞ト見ルモノ)或ハ、副詞ニ附クモノモアリ、「月なり、「花なり、「善キなり、「悪シキなり、「父たり、「子たり、「時雨せり、「紅葉せり、「強クせり、「詳ニせり、」ナドノなり、たり、せり、ノ如シ、是等ハ、一個ノ動詞ノ如キ意義ヲモ成セドモ、獨立シテ文ノ冒頭ニ用ヰラルルヿ無ク、常ニ、必ズ、他語ノ下ニ附キテ文中ニ出ヅルモノナレバ、尚、助動詞タリ。

○「行キ交フ、「爲難ヌ、「言ヒ過ス、「讀ミ止ス、「馴レ初ム、」ノ「交フ、「難ヌ、「過ス、「止ス、「初ム、」ナドハ、獨立ニ用キタルヲ見ザレバ、助動詞ナルガ如クナレドモ、其意義、十分ニ動作ヲ言ヘバ、尚、動詞タルベシ。

助動詞ハ、其語、大抵、短縮ナレ𪜈、變化アリ、法アリテ、又、能ク、文章ノ末ヲ結べリ。 而シテ、其意義變化ノ狀ハ、動詞ニ似タルアリ、形容詞ニ似タルアリ、又、或ハ、感動詞ノ如キモアレド、尚、變化アリ、又、其一二三、無變化ノモノ(Defective.)モアレド、亦、尚、能ク、文章ノ末ヲ結べリ。

助動詞ノ數、凡ソ、三十アリ。 第三表ニ於テ、其三十語ヲ載セテ、其意義ト變化ト法トノ狀ヲ示セリ。 其變化ト法トノ趣ハ、動詞、形容詞、ノ變化ト法トニ異ナルヿ無ケレバ、表中ノ名稱ノ相同ジキモノハ、相對照セシメ、相準ヘテ覺ルベシ、因テ、此ニハ複説セズ。 但シ、各助動詞ノ意義ニ至リテハ、後ニ、更ニ、逐條

ニ說クベシ。 又、動詞ト助動詞ト連續スル法則、又ハ、助動詞ト助動詞ト連續スル法則ハ、第四表、第五表、ニ就キテ知ルベシ。(各表ニ附セル說明ヲモ見ヨ)

○使役ノ助動詞　尋常ニハ、「押ス、」「受ク、」「報ユ、」ナドイフヲ、他ヲ使役シテ此動作ヲ爲サシムルニハ、「押サす、」「受ケさす、」「報イしむ、」ナドイフ。 此ノしむ、す、さす等ヲ、使役ノ助動詞トス。

(1)しむ　上ノ三語、使役ノ意ヲイフコト、相同ジクシテ、共ニ、
(2)す　動詞ノ第四變化ニ連ル。 但シ、しむハ、アラユル動詞
(3)さす　ニ連レドモ、すハ、規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三類ト、第四類ト、ニ連リ、さすハ、其他ノ各類ニ連ルコト、下ノ表ノ如シ。

「行カしめ畢ンヌ、」「言ハせ盡ス、」「受ケさせ侍リ、」ナド用ヰルハ、熟語法ナリ。「使ハしめ」(俗ニ、「見セしめ」「懲ラしめ」)ナドハ、名詞法ナリ。 又古クハ、「知ラしめ、」「見しめ、」ナドト、よヲ添ヘズシテ、命令法トシタルモ見ユ。

○受身ノ助動詞　「押ス、」「打ツ、」「報ユ、」ハ、我ヨリ他ノ上ニ働キ掛クル動作ナルヲ、他ノ其動作ヲ起シテ、我レ受身トナルトキハ、る、らる、トイフ助動詞ヲ加ヘテ、「押サる、」「打タる、」「報イらる、」ナドイフ。 此ノ彼我ノ動作ヲ、働掛、受身、或ハ、能相、所相、トイフ。

		規則動詞				不規則動詞			
		第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類
尋常	第一變化	押ス	受ク	報ユ	着ル	來	爲	死ヌ	有リ
使役	第四變化	押サ しむ す	受ケ しむ さす	報イ しむ さす	着 しむ さす	來 しむ さす	爲 しむ さす	死ナ しむ す	有ヲ しむ す

(4)る　上ノ二語、受身ノ意ヲイフヿ、相同ジ、而シテ、共ニ、
(5)らる　衆動詞ノ第四變化ニ連ル。 但シ、其中ニ、るハ、規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三類ト、第四類ト、ニ連リ、らるハ、其餘ニ連ルヿ、表ノ如シ。

「言ハれ侍リ、」「報イられ候フ、」ナドハ、熟語法ナリ。 又、「西光切ラれノ事、」(平家)「其謂ハれ、無キニアラズ、」ナドハ、名詞法ナリ。

○西洋ノ動詞ニテハ、能相、所相ハ、他動詞ニテミアリテ、自動詞ニハ無キガ如シ。 然ルニ、國語ノ動詞ニハ、自、他、共ニ、之ヲ用ヰル、委シクハ、文典ニ說クベシ。

又、己ガ心ヨリ、己レニ動作ヲ起シカケラルル意ヲナスヿアリ、「昔シ懷バる、」「行末ノ考ヘらるる、」ナドノ如シ、是等ハ、自所相トモイフベシ。

○敬語　使役、受身、ノ助動詞ハ、絕テ使役、受身、ノ意無クシテ、唯、他ノ動作ヲ敬ヒ言フ語トナルヿアリ、コレヲ敬語トイフ。 而シテ、使役ノ方ハ、大抵、「給フ、」「座ス、」ナドイフ語ト共ニ用ヰル。 例ヘバ、「位ニ卽カしめ給フ、」「行カせ給フ、」「起キさせ座ス、」或ハ、「君ニモ殊ニ喜バる、」「釋尊ノ言ハるるニハ、」「師ノ考ヘらるるヤウ、」ナドノ如シ、是等、「卽キ給フ、」「行キ給フ、」「起キ給フ、」「喜ビ給フ、」「言ヒ給フ、」「考ヘ給フ、」ナドイフト、太異ナシ。(書狀ノ文ニ、「被遊、被下、」ナド用ヰルモノ、是レナリ、) 又重ネテ用ヰルハ、一層重キ敬語ナリ、「行カせらる、」「召サせらる、」「乘テさせらる、」ノ如シ。 但シ、「殿より、使、隙なく、たまはせて、子安貝、とりたるか、と問はせ給ふ、」(竹取)ナ

		規則動詞				不規則動詞			
		第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類
能相(Active.)	第一變化	押ス	受ク	報ユ	着ル	來	爲	死ヌ	有リ
所相(Passive.)	第四變化	押サる	受ケらる	報イらる	着らる	來らる	爲らる	死ナる	有ヲる

ドハ、「聞かせ」ニ、使役ノ意アリ、或ハ、「猶、それ、舞はせさせ給へと、集て申まとひしかば、」(枕草子)ナド用ヰタルモ、「舞はせ」ニ、使役ノ意アリテ、其以下、敬語ナリ。

○或云、貴人ハ、何事ヲ爲ムニモ、自ラ手ヲ下スヿ無ク、他ヲ使役シテ爲サセ、又ハ、他ニ爲ラルルヨリシテ、此ノ如キ敬語ハ出デタリトイフ。　然ルトキハ、自ラ使役、受身、ノ緣ナキニアラズ。

○又、生得ノ敬語アリ、「聞ス」「聞ス」「立ス」「通ス」「知ス」「知ス」「思ス」ナド、尙多シ、是等ハ、規則動詞ノ第一類(す、す、せ、さ、し、せ、)ニ變化スル語ニテ、辭書ニハ、既ニ、各自、一語トシテ擧ゲタレバ、爰ニ論セズ。

○能力ノ助動詞　尋常ニハ、「押ス、」「讀ム、」「受ク、」「堪フ、」ナドイフ動作ヲ、更ニ、「己ガ力、能ク爲シ得ル」意ニイフトキハ、る、らる、トイフ助動詞ヲ加ヘテ、「押サる、」「讀マる、」「受ケらる、」「堪へらる、」ナドイフ、其意ハ、「押スヿヲ得、」「受クルヿヲ得、」ト言ハムガ如シ、コレヲ能力(Potential.)ノ助動詞トス。(前條、受身ノ助動詞ト、形、全ク相同ジケレドモ、相混ズルヿ勿レ、)

(6)る　上ノ二語、能力ノ意ヲイフヿ相同シ、共ニ、動詞ノ第
(7)らる　四變化ニ連ル。　但シ、るハ、規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三類ト、第四類トニ連リ、らるハ、其餘ノ各類ニ連ルヿ、表ノ如シ。

		規則動詞				不規則動詞			
		第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類
尋常	第一變化	押ス	受ク	報ユ	着ル	來	爲	死ヌ	有リ
能力	第四變化	押サる	受ケらる	報イらる	着らる	來らる	爲らる	死ナる	有ラる

○指定ノ助動詞　次ニ擧グルなり、たり、べし、等ハ、事物ヲ指シ定ムル意アレバ、コレヲ指定ノ助動詞トス。

(8)なり　指定解說スル語ニテ、「にて、あり」ノ意ナリ。(語原ハ、「に、あり」ノ約レルナルベシ、)　此語、動詞ニ連ルトキハ、必ズ、其第二變化ニ連ル。　例ヘバ、「押スなり、」「受クルなる、」「報ユルなれ、」「爲ルなれど、」ナドノ如シ。

○此語ハ、詠歎ノ意ヲイフ助動詞ノ(22)なりト、混ジ易シ。　指定ノなりハ、口語ニ寫セバ、「押スぢや、」「行クぢや、」ナドノ意ヲナシ、詠歎ノなりハ、「押スわい、」「行クわい、」ナドノ意ヲナス因リテ、「ぢやなり、」「ワイなり、」トモイヒテ、コレヲ分ツ。　且、他ノ動詞ト連ル規定モ、此條ノなりハ、其第二變化ニ連リ、詠歎ノなりハ、第一變化(不規則動詞ノ第四類ノミハ、其第二變化ニ連ル、尙、前ノ第四表ヲ見テ辨別スベク、後ノ(22)なりノ條ヲモ見ヨ。

此語、又、獨立動詞ノ如ク、直ニ、名詞、副詞、ニモ伴ヒテ、指定解說ノ意ヲイフ、「月なり、」「花なり、」「是レなり、」「夫レなり、」「宜なり、」「然なり、」ノ如シ。

此語、又、形容詞ノ第二變化ニモ連ル、「善キなり、」「惡シキなり、」ノ加シ。(是ハ、其第二變化ナル形容法ヲ、名詞トシテ連ヌルモノノ如シ、)

○又、「靜なり、」「明なり、」「詳なり、」ナドイフなりハ、此條ノなりト、似テ異ナルモノニテ、「靜ニ、」「明ニ、」「詳ニ、」ナドイフ副詞ノ末ノにニ、動詞ノありノ約マリテ、なりトナレルナリ。(此事、尙、副詞ノ條ニ言フベシ、)　サレバ、ソノなりハ、尋常動詞ノありト、勢力同ジクテ、「靜ならシム、」ナド、使役ノ助動詞ニモ連ヌベク、又、「いつよりも、今宵の月は、さやかなれ、秋のゆふべも、たどるばかりに、」(仲文)ナド命令法ニモ用ヰルベシ。　サルニ、此條ノなりハ、然ルコト能ハズ、尙、第三表、第五表ヲ見テ知ルベシ。　因ニ云、助動詞ノ、ごとしモ、「ごとく、なり」ト、連ネテ用ヰルコトアリ、是モ、「ごとく、にて、あり」ノ約マレルナルベシ。

(9)なり　此語ノ意義モ、「にて、あり、」ト指定スルモノナリ。(語原ハ、「と、あり」ノ約マレルナルベシ、)　此語ハ、名詞ニノミ連リテ、動詞ニハ屬カズ。　例ヘバ「あくれど、五日のあかつきに、せうとたる人、外よりきて、」(かげろふ日記)其他、「父たり、」「子たる、」「君たり、」「人たる、」ナド、常ニ用ヰル。　又、漢籍讀ニ、「峨峨たり、」「寂莫たり、」ナド用ヰルモ、「と、あり」ノ約マレルニテ、亦、此語ナリ。

(24)べし　心ニ推シ量リテ定ムル意ノ語ナリ、「斯クアルべし、」「我レ行クべし、」ノ如シ。又、強ク指定シテ、命令スル意ヲモナス、「疾ク行クべし、」「速ニ來べし、」ノ如シ。此語ハ、衆動詞ノ第一變化ニ連ルヲ規定トスレド、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ連ル。

○又、此ノべし及ビ(20)らむ(30)らし、等ハ規則動詞ノ第四類ニ連ルトキ、尋常、其第一變化ニ、「見ルべし」「居ルらむ」「衣ルらし」ナド連ルニ、又、或ハ、「見べし、」「居らむ、」「衣らし、」ナドトモ連ルコトアリテ、甚ダ異ナリ、尚、其委シキハ、文典ニ讓レリ。

○又、此語ハ、尋常ノ形容詞ト同ジク、「べけむ、」「べかり、」ナドトモ用ヰル、其用法ハ、形容詞ノ條ニ說ケルニ準ヘテ知ルベシ。

○打消ノ助動詞　「押ス、」「受ク、」ナドハ、正面ニ說ク動作ナルヲ、其動作ヲ、反面ヨリ說キテ打消ス時ハ、「押サず、」「押サざる、」「受クまじ、」「受ケじ、」ナドイフ。其正面ニ說クヲ、正說トシ、(Positive.)反面ヨリ說キテ打消スヲ、反說、又ハ、打消トス。(Negative.)

(10)ず　動作ヲ、ソノママニ打消ス語ナリ、「押サず、」「受ケず、」ノ如シ。此語ハ、アラユル動詞ノ第四變化ニ屬ク。此語ハ、又、動詞、名詞、ヲ履ミテ熟語法ヲナス、「絶エず行ク、」「飽カず思フ、」「降リ試、降ラず試、」「問ハず語、」「知ラず顔、」ノ如シ。又、地名ニ、「親知ラず、」ナドアルハ、名詞法ナリ。

○此語ノ變化ノぬ、ねヲ、過去ノ助動詞ノ(13)ぬ、ねト別チテ、打消ノぬ、ねトイフ。又、古クハ、「飽カぬ、」「得ぬ、」ナドヲ「飽カに、」言ヘバ「得に、」ナド用ヰ、又、「行カぬニ、」「言ハぬニ、」ナドヲ「行カなくニ、」「言ハなくニ、」ナド延ベテ用ヰタルアリ。（委シクハ、文典ニイハム。）

(11)ざり　前條ノずト、動詞ノありト、約マレルモノニテ、他ノ動詞ニ連ル規定モ、ずニ同ジ、「押サざり、」「受ケざる、」ハ、即チ、「押サず、あり、」「受ケず、あり、」ノ約ナリ。直說法ニ用ヰタルハ、「朱雀院も、御子たち、おはしまさざり、ただ、王女御と聞えたる御腹に、云云、」（榮花、月宴）ノ如シ。（此ノ語ハ、一ノ助動詞トシテ擧グルマデモ無キヤウナレド、今、姑ク存ス。）

(26)まじ　推シ量リテ打消ス語ニテ、ずノ豫定ナリ、「押スまじ、」「受クまじ、」ノ如シ。此語、衆動詞ノ第一變化ニ屬キ、唯、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ屬ク。

(27)じ　前條ノ語ニ同ジクテ、其意、稍、強キガ如シ、諸動詞ノ第四變化ニ連ル、「押サじ、」「受ケじ、」ノ如シ。此語、希ニ、熟語法ヲモナス、「今夜のみ、相見て後は、逢はじものかも、」（万葉）「みだりに人を、寄せじものかや、」（後撰）其他、「負ケじ魂」ナドハ、常ニモイヘリ。此語ハ、本體アルノミ、變化ナシ。（サレドぞ、や、か、又ハ、こそ、ノ結法トハナルガ如クモ思ハル、其事ハ、文典ニ讓ル。）

○過去、未來、ノ助動詞　「押ス、」「受ク、」トイフハ、其動作ノ最中ナルニイフ。扨、其動作ヲ、既往ニ就キテイフトキハ、「押シき、」「受ケたり、」ナドイヒ、又、其動作ヲ、未然ニ就キテイフトキハ、「押サむ、」「受ケむ、」ナドイフ。此ノ如キ動作ノ差違ヲ、動詞ノ時トイヒ、其差違、現在、過去、未來、ノ三様ニ分ル。

現在　現在トハ、現ニ、今、動作スルヲイフ、「押ス、」「受ク、」「生ク、」「着ル、」ノ如シ。

過去　過去ノ意義、三種ニ分ル。

第一過去ハ、動作ノ方ニ終ハリタルヲイフモノニテ、つ、ぬ、たり、ノ三助動詞ヲ用ヰル。即チ、「押シつ、」「押シぬ、」「押シたり、」「受ケつ、」「受ケぬ、」「受ケたり、」「生キつ、」「生キぬ、」「生キたり、」「着つ、」「着ぬ、」「着たり、」ノ如シ。此三語ノ意、相同ジ。又、コレト同意ナルニ、「押セり、」「罪せり、」ナドイフり、せり、アリ、末ニ說クベシ。

第二過去ハ、動作ノ過ギテ程歴シヲイフモノニテ、助動詞ノけり、き、ヲ用ヰル。例ヘバ、「押シけり、」「押シき、」「受ケけり、」「受ケき、」ノ如シ。此二語ノ意モ、相同ジ。

第三過去ハ、第二ヨリハ、一層程歷タリシヲイフモノニテ、第一過去、第二過去、ノ助動詞ヲ重用ス。即チ、第一ノつ、ぬ、たり、ノ第五變化ナルて、に、たり、ト、第二ノけり、き、トヲ、重ネテ、「押シてけり、」「押シにけり、」「押シたりけり、」「押シてき、」「押シにき、」「押シたりき、」ノ如シ、而シテ其意モ、皆、相同ジ。

未來　未來ハ、未ダ起ラザル動作ヲイフモノニテ、助動詞ノむ、ヲ用ヰル、「押サむ、」「受ケむ、」「生キむ、」ノ如シ。

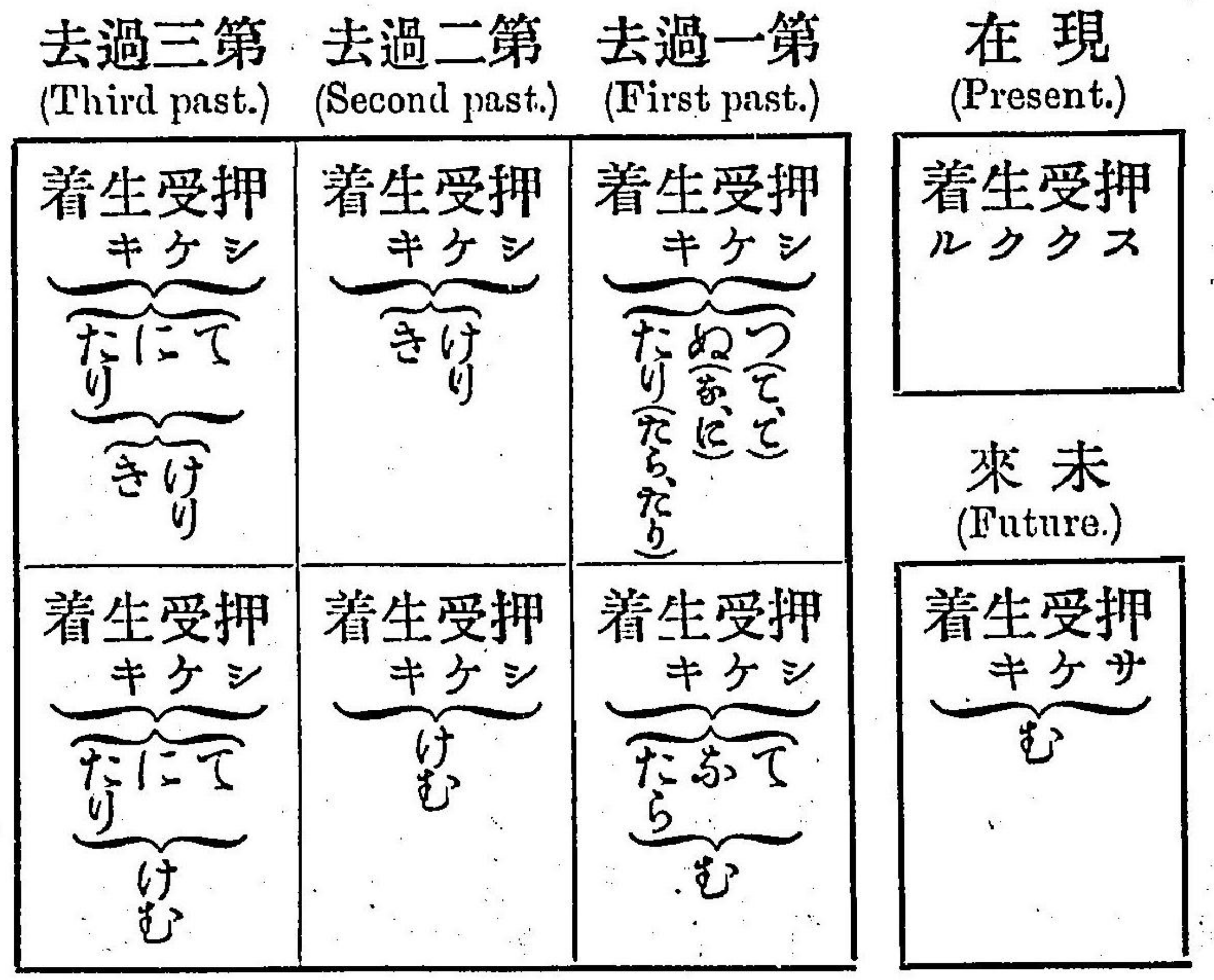
又、第一、第二、第三過去、共ニ、其動作ハ、過去ナルベキヲ、推測シテ未來ニイフコトアリ。即チ、

第一過去ニテハ、つ、ぬ、たり、ノ第四變化ナルて、な、たら、ニ、未來ノむヲ重ネテ、「押シてむ、」「押シなむ、」「押シたらむ、」「受ケてむ、」「受ケなむ、」「受ケたらむ、」ナドイフ。

第二過去ノけり、き、ニハ、別ニ、助動詞ノけむヲ用ヰテ、「押シけむ、」「受ケけむ、」「生キけむ、」ナドイフ。

第三過去ニテハ、第一過去ノつ、ぬ、たりノ第五變化ナルて、に、たり、ニ、前ノけむヲ重ネテ、「押シてけむ、」「押シにけむ、」「押シたりけむ、」「受ケてけむ、」「受ケにけむ、」「受ケたりけむ、」ナドイフ。

以上、數樣ノ時ヲ、表ニ示スヿ、下ノ如シ。


在現
(Present.)
着生受押
ルククス
去過一第
(First past.)
着生受押
キケシ
たりぬつ
（たら、たり）（な、に）（て、て）
着生受押
キケシ
たらなて
む
去過二第
(Second past.)
着生受押
キケシ
きけり
着生受押
キケシ
けむ
去過三第
(Third past.)
着生受押
キケシ
たりにて
きけり
着生受押
キケシ
たりにて
けむ
來未
(Future.)
着生受押
キケサ
む

○表ニ掲ゲタル動詞ノ「押ス」ハ、規則動詞ノ第一類ナリ、「受ク」ハ、其第二類ナリ、「生ク」ハ其第三類ナリ、「着ル」ハ其第四類ナリ。而シテ、現在ハ、皆、其動詞ノ第一變化ナリ、未來ニ接スルハ、皆、其第四變化ナリ、其餘ニ接スルハ、皆、其第五變化ナリ。表ニ就キテ、其各變化ト助動詞トノ連續ノ則ヲ覺ルベシ、尙、前ノ第四表ニ照シテ見ヨ。　扨、又、不規則動詞ニテハ、ぬ、き、（し、しか）ノ連續ニ就キテ、異則アレバ、表ノ混雜セムヲ恐レテ、爰ニハ掲ゲズ、其異則ノ事ハ、次ニモイフベク、前ノ第四表ヲモ參考シテ覺ルベシ。

○又、此外ニ、古文ニテハ、「成リに、たり、」「變ハリに、たり、」或ハ、「宮より、あを使ゑ御迎へゐと、宣をせたりつれど、心あわたゞしくて、」（若紫）「打忘れたりつる古への御事をさへ、」（椎がもと）「年月歷たりぬれど、あかざりし夕顏を、つゆ忘れ給はぬを、」（玉葛）ナド、第一過去ナルヲ、互ニ重用セルモアリ、或ハ、「けり、つる」ナド、第二過去ニ、第一過去ヲ連ネタルモアリ、或ハ、「けり、き」ナド、第二過去ヲ、互ニ重用セルモアリ。（此事、次ニイフベシ。）サレド、斯ル用法ハ、今ノ普通文ニハ、奇僻ナルベクヤ。

(12) つ　動作ノ果テテ止マル意ヲイフ語ナリ。（語原ハ、止ト、意、通フナルベシ。）此語、アラユル動詞ノ第五變化ニ屬ク。但シ、此語ハ、多ク他動詞ニ屬キ、次條ノぬハ、多ク自動詞ニ屬ク、「暮ラシつ、」「暮レぬ、」「明カシつ、」「明ケぬ、」ノ如シ。（つノ音ハ、鋭ニシテ、ぬノ音ハ、軟ナルガ故カ。）サレド、一定ニハ言ヒ難シ、先ヅハ概則ナリト知ルベシ。

○自動ニ、「鳴キつる」「有リつる」「來つる」ト連ネタルモアリ、或ハ、他動ニ、「浮寐爲つラム」トモ連ネ、「旅寐爲ぬベシ」トモ連ネタルナドモアレバ、一樣ニハ定メカヌレド、先ヅハ本文ノ如シ。　次次條ノたりハ、（此つノ變化ノてト、ありト、約マルナレド）自、他、共ニ連ル。

○「押シて、む」「見て、む」ナドノ「て、む」ヲ、往往、一語トシテ說キタルモアレド、表ニモ掲ゲタルガ如ク、其てハ、つノ變化ニテ、コレニ、未來ノむヲ添ヘテ用ヰルモノナレバ、此篇ニ、別ニ、一箇ノ助動詞トハセズ。

(13) ぬ　不規則動詞ノ「往ヌ」ヨリ變ジタル語ナルベク、（變化ノ不規則ナル狀モ全ク同ジ）動作ノ往キ畢レルヲイフ語ニテ、其意、つニ同ジ。此語モ、衆動詞ノ第五變化ニ連ナレド、（多クハ、自動詞ニ連ル、尙、前條ヲ見ヨ）不規則動詞ノ第三類ナル「往ヌ」「死ヌ」ノミニハ、全ク連ナラズ、尙、前ノ第四表ヲ見ヨ。　此語

ノ第六變化ナル命令法ハ、「押シね」「受ケね」「生キね」ナド用ヰルモノナリ。

○此條ノぬト「往ヌ」トハ、同根ヨリ生ジタル語ナレバ、連續セヌモ理ナリ。　又、「死ニぬる」ナドハ、連續スベキガ如クナレド、古書ニ用例アルヲ見ズ、希ニ、「死ぬる」ナドトアルハ、「死ぬる」ナルベキヲ、僻讀シタルナルベシト云。

○此語ノ命令法ニ、過去ノ意ナシ、トイフ説モアレド、尙、徼ニ、其意ヲ含メルガ如シ、「往キね」「取リね」ノ如キ、口語ニ寫サバ、「行ッテしまへ」「取ッテしまへ」ナルベシ。

○此語ノ變化ノぬ、ねヲ、打消ノぬ、ねト別チテ、「過去ノぬ、ね」或ハ、「畢ノぬ、ね」トイフ。

○又、「押シなむ」「受ケなむ」ナドノ「なむ」ヲ、一語ト見ルモモアレド、然ラズ、此ぬノ變化ノなニ、未來ノむヲ連用シタルナリ、表ヲ見テ知ルベシ。　又、其「なむ」ハ、希望ノ(23)なむト混ジ易シ、過去ノ「なむ」トイフベシ。(天爾遠波ニモ、なむトイフ語アリ、混ジ思フコト勿レ)

(14) たり　「て、あり」ノ約マレルニテ、「押シたり」「受ケたり」ナドハ、「押シて、あり」「受ケて、あり」ナリ、而シテ、其てハ、前前條ノつノ變化ナレバ、スベテ、つト同意ナリト知ルベシ。　熟語法ニ、「爲たり顏」(俗ニ、似たり貝)ナドモ用ヰル。　此語モ、衆動詞ノ第五變化ニ連ル。

○此たりヲ、前ノ(9)たりニ別チテ、彼レヲ「指定ノたり」トシ、コレヲ「過去ノたり」トス。

(15) せり　「爲て、あり」トイフ程ノ意ニテ、亦第一過去ノ意ヲナス語ナリ。(語原ハ、「爲、あり」ノ約マレルナルベシ)　此語ハ、固ヨリ、爲トイフ動詞ノ意ヲ含メルモノナレバ、獨立動詞ノ如キ力ヲナシテ、他ノ動詞ニハ屬カズ、甚ダ餘ノ助動詞ト異ナリ。　例ヘバ、「蓋爾爲有」「殿造せり」「團居せる夜ハ」「家居シせれバ」、其他、「罪せり」「導せり」「歎息せり」「工夫せり」「烈シクせり」「詳ニせり」ノ如シ。　サレド、尙、全ク獨立シテ文ノ冒頭ナドニ、用ヰラルルヿ無ク、必ズ、他語ノ下ニ屬キテ文中ニ出ヅルモノナレバ、尙、助動詞タリ。

○此語、古クハ、「庵せり、けむ」「何せり、き」「何せり、つる」ナド、第一、第二過去ト重用セルモ見ユ。

(16) り　此語ハ、規則動詞ノ第一類ニ限リテ屬ク助動詞ニテ、且、其第三變化ニ屬ク、卽チ、「行ケり」「押セり」「別テり」ノ如シ。　是等ノ意義ハ、「行キ、て、あり」「押シ、て、あり」ナド解スベクシテ、亦、「行ク」「押ス」等ヲ、第一過去ニイフナリ。　規則動詞第一類ノ六種ノ語ニ連續セシメテ、左ノ表ヲ示ス。(尙、前ノ第三表、第四表ニ照シテ見ヨ)

直說法	分詞法	接續法 已然	接續法 將然	折說法
第一變化	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化
行ケり	行ケる	行ケれ	行ケら	行ケり
互セり	互セる	互セれ	互セら	互セり
別テり	別テる	別テれ	別テら	別テり
飛べり	飛べる	飛べれ	飛べら	飛べり
澄メり	澄メる	澄メれ	澄メら	澄メり
去レり	去レる	去レれ	去レら	去レり
		ば	ば	

○「行ケ」「互セ」「別テ」「飛べ」「澄メ」「去レ」ハ、スベテ、規則動詞第一類ノ第三變化ナリ。

○接續法ノ已然ニテハ、「難波邊ヨ、人のゆければ、おくれゐて」、將然ニテハ、「天の川、橋、互せらば」滄浪ノ水、淸メらバ以テ纓ヲ濯フベシ」ノ如シ。(忘貝、よせ來て置けれ」ナドハ命令法ナラムカ)　是等ノ用法、皆、古シ。

○此語、古クハ、「咲ケり、つる」咲ケり、き」給へり、き」讀メり、けり」ナド、第一、第二ノ過去ヲ重用シタルモ見ユ。

○此助動詞ハ、規則動詞ノ第一類ニ限リテ屬クモノナリ。サルヲ、誤リテ其第二類ナル「受ク」「堪フ」「終フ」ナドノ變化ニモ屬ケテ、「受ケり」「堪へり」「終へり」ナド混用スルコト往往アリ、注意スベシ。　又、「立ツ」「添フ」「染ム」(自動)ナドハ、規則動詞ノ第一類ナレバ、「立テる家」「松ニ添へる石」「赤ニ染メる衣」ナド屬クルコト、論無ケレド、規則動詞ノ第二類ナル「立ツル」「添フル」「染ムル」(他動)ヲ、「家ヲ立テる」「石ヲ松ニ添へる」「衣ヲ赤ニ染メる」ナドイフコトアルハ、口語調ニテ、文章調ニアラズ、混ジ思フコト勿レ。

(17) けり　つ、ぬ、たりヨリ、一層、程、歷シ時ヲ示ス語ニシテ、(語原ハ、「來、あり」ノ約マレルナルベシ、)コレヲ

第二過去トス。　此語、諸ノ動詞ノ第五變化ニ連ル。

此語、時トシテハ、過去ノ意ハ薄クシテ、唯、語氣ニ念ヲ入レテ言フ意ヲナス、「秋も來にけり」「天つ星こそあやまたれける」ナドヲ、口語ニ寫セバ、「秋が來たわい」「まちがへられるわい」トイフマデノ意ナリ。　殊ニ、「心なりけり」「我身なりける」ナド、「なり、けり」ト用ヰタルハ、唯、推シテ說明スル意ヲナス、古ク、「何何なりけりき」ナド用ヰタルアルモ、けりハ、說明ノけりニテ、きニ過去ノ意アルナルベシ。

(28)き　前條ノけりト、語意同ジクシテ、第二過去ヲイフ語ナリ。　此語、ノ變化ハ、き、し、しかニテ、衆動詞ノ第五變化ニ連ルヲ通則トスルニ、唯、不規則動詞ノ第一類、第二類ニ於テハ、き、し、しか、相分レテ、其第四變化ニモ連ルヲ、殊ニ異則ナリトス。　左ニ、表ニ掲ゲテ示ス、尙、前ノ第四表ニ參照スベシ。

不規則動詞

	第一類	第二類
第四變化	來（コ）{し しか	爲（セ）{し しか
第五變化	來（キ）{し しか	爲（シ）き

表ニ掲ゲタルガ如ク、「來（キ）し」「來（キ）しか」又ハ、「來（コ）し」「來（コ）しか」ト、何レニモ連ル、而シテ、「來（コ）し」「來（コ）しか」ト用ヰタル方、例、多シ。　扨、「來（キ）き」「來（コ）き」ト用ヰタル例、サラニ見當ラズ。

又、「爲（シ）き」ト「爲（セ）し」「爲（セ）しか」ト、相分レテ連リ、而シテ、「爲（シ）し」「爲（シ）しか」又ハ、「爲（セ）き」ナド用ヰタル例、更ニ無シ。

○此ノき、し、しかハ、餘ノ動詞ニテハ、其第五變化ニ連ルヲ通則トス、サレバ、規則動詞第一類ノ「押ス」「申ス」ナドノ第五變化ハ、「押シ」「申シ」ナレバ、スベテ、「押シき」「押シし」「押シしかバ」「申シき」「申シし」「申シしかバ」ナド、連ヌベキ規定ナリト知ルベシ。（尙、前ノ第四表ヲ見ヨ）　サルヲ、「押ス」「申ス」ノ第二變化ナル「押セ」「申セ」ニ連ネテ、「押セし」「押セしかバ」「申セし」「申セしかバ」ナド誤用スルコト多シ、心ヲ付クベシ。（「押セき」「申セき」トハイフベカラザルニテ覺レ、且、「痩セき」「痩セし」「失セき」「失セし」ナド、第二類ナルハ、共ニ相連ルニ照シテモ見ヨ）

○且又、尋常直說法ニテ文ヲ結ブトキハ、「押シき」「申シき」「見き」ナドナルベキヲ、「押シし」「申シし」「見し」ナド結ブコトアルモ、誤ナリト知レ。

○又、此語ノ變化ノしニ、第二類天爾遠波ノか（歟）ノ添ヒタルト、又ハ、其第三類ノがノ添ヒタルトアルヲ、此きノ變化ノしかト混ジテ誤解スルコトアリ、注意スベシ。　卽チ、「我コソ行キしか」ナドハ、此變化ノしかナリ、「何時ノ程ニ行キしか」（歟）或ハ、「行キしが、逢ハザリき」ナドノか、がハ、天爾遠波ノか、がナリ、思ヒ分クベシ。

○「世の中に絶えて櫻の無かりせば」（古今）「夢と知りせば覺めざらましを」筑波根に我が行けりせば、霍公鳥」（万葉）「吾妹が衣ありせば、下に着ましを」（万葉）ナドイフせアリ。　コレハ、此ノき、し、しかノ變化中ノモノニテ、卽チ、「しかバ」「せバ」ト相對シテ、接續法ノ已然、將然ナラムト思ハル。　サラバ、此語ハ、き、し、しか、せ、ト變化スト、スベケム。　此事、先輩ノ論及、アリヤ、ナシヤ、姑ク、私案トシテイフ。

接續法

已然	將然
櫻の無かりしかば	櫻の無かりせば
夢と知りしかば	夢と知りせば
我が行けりしかば	我が行けりせば
衣ありしかば	衣ありせば

(18)む　未來ヲイフ語ニテ、アラユル動詞ノ第四變化ニ屬ク。

○「行カま欲シ」「聞カま欲シ」「見ま欲キ」ナド、未來ノ意ヲイフまアリ、此語ノ第五變化トシテ、熟語法ト見ルベキカ。（但シ、折說法、名詞法、トハナラズ）又、万葉集ニ、「戀ひまく思ふ」「見まくちかけむ」「吹かまくをしも」、古今集ニ、「見まくほしさに」「見まくのほしき」「唐錦たたまく惜しき」「伏見の里のあれまくも惜し」ナドアルまくモ、同意ニテ、此まヲ延ベタルマデノ語ナルベキカ。（義門師ハ、此ノま、まくヲ、推量ノ(26)ましノ轉ノ如ク說カレタレド、イカガ、尙ましノ條ヲ見ヨ）

(19)けむ　第二過去ノけり、きヲ、未來ニ推測シテイフ語ナリ。（語原ハ、けりノ變化ノけらト、未來ノむトノ約マレルモノナラムカ）　此語、各動詞ノ第五變化ニ屬ク。

○推量ノ助動詞　らむ、めり、まし、らし等ハ、事物ヲ推量スル意アリ、コレヲ推量ノ助動詞トス。

(20)らむ　未然ヲ推量スル語ナリ、「押スらむ」「受クらむ」ノ如シ。　此語ハ、各動詞ノ第一變化ニ屬キ、唯、不規則動詞ノ第四類ニノミ、其第二變化ニ屬ク。

○此語、規則動詞ノ第四類ニ連ルニ、異則アリ、前ノ（24）べしノ條ヲ見ヨ。

（21）めり　語原ハ、「見え、あり」ノ約マレルナルベク、事物ノ狀態、然見ユ、ト推量シテイフ語ナリ。（口語ニ、「あるとみえる、」「ふいとみえる」ナドノ意）　此語、動詞ノ第一變化ニ連ル、「我おとらじとやうの事、爲出づめり」（宿木）「紅葉亂れて流る、めり」（古今）「濡る、める人に着せてかへさむ」（勢語）「秋も往ぬ、めり」ノ如シ。　但シ、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ屬ク。

（26）まし　未來ヲ推シ定メ、又ハ、然セムトスル意ヲイフ語ニテ、まハ、未來ヲイフむノ轉ナルベシ、サレバ、むト同ジク、各動詞ノ第四變化ニ連ル。　此語ノ接續法ナル「ましかバ」ノ出ヅルキハ、其末ヲ、又、ましト結ブヲ、概則トス、「まして、龍を捕へたらましかば、又、こともなく、我は害せられなまし、」（竹取）「人知れず、絶えなましかば、わびつつも、無き名ぞとだに、言はましものを、」（古今）ノ如シ。

已然	將然
塞かましかば	塞かませば
有らましかば	有らませば
知らましかば	知らませば

○「飛鳥川、しがらみ渡し、塞かませば、流るる水も、のどにかあらまし」（万葉）「大舟に、妹のるものに、有らませば、はぐくみもちて、行かましものを、」（同）「斯くばかり、戀ひむとかねて、知らませば、妹をば見ぞ、あるべかりける、」（同）ナドノませハ、此ましノ變化中ノモノナルベク、ませノせハ、ましノしト、同趣ノ音ニモアリ、卽チ、「ましかバ」ト「ませバ」ト相對シテ、接續法ノ已然、將然ヲナスモノナラムカ。（義門師ハ、「行カま欲シ」ナドイフまニ、爲ノ添ハレルナラム、ト言ハレタレド、此ノせニ、「爲ル」トイフカアリトモ思ハレズ、又、「知ラま爲ル」有ラま爲レバ」ナド用ヰタル例モナシ、）

（30）らし　輕ク推量スル語ナリ、「押スらし」受クらし」ノ如シ。　此語ハ、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ連ナレド、其他ノ動詞ニハ、スベテ、其第一變化ニ連ル。　此語ニ、變化ナシ。

○但シ、此らしハ、一體ニテ、ぞ、や、か、又ハ、こそノ結法ヲナス、委シキコトハ、文典ニ說カム。　又、規則動詞ノ第四類ニ連ルニ、異則アリ、前ノ（24）べしノ條ヲ見ヨ。

○詠歎ノ助動詞

（22）なり　なトイフ感動詞（後ニイフベシ）ニ、語尾變化アルモノニテ、動作ヲ言ヒ終ヘタル餘意ニ添ヘテ發スル語ナリ。　此ノなりハ、動詞、助動詞ノ第一變化ニ屬ク、「秋の野に、人まつむしの、聲爲なり」「小夜深き、雲居の雁も、音爲なり」「やがて鹿の音、聞ゆなり」「今こそハ見えず、なるを」花の衣になりぬ、なり」ノ如クニテ、前ノ「指定ノなり」（其條ヲ見ヨ）ノ、第二變化ニ屬クト、異ナリ、一文中ニ用ヰ分ケタルハ、「男も爲なる日記といふものを、女もして試みむとて爲るなり」（土佐）ノ如シ、詠歎ナルハ、「爲」（第一變化）ニ連リ、指定ナルハ、「爲ル」（第二變化）ニ連ル。　但シ、不規則動詞ノ第四類ニテハ、此ノなりモ、其第二變化ニ連ル。

○サレバ、不規則動詞ノ第四類ニテハ、詠歎ナルモ、「有ルなり」（有ルわい）ト連リ、指定ナルモ、「有ルなり」（有ルぢや）ト連リ、又、規則動詞ノ第一類、第四類ニテモ、其第一變化、第二變化、形、相同ジケレバ、詠歎ノ「行クなり」着ルなり、」（行クわい、着ルわい）指定ノ「行クなり」着ルなり、」（行クぢや、着ルぢや）共ニ同ジ姿ナレバ、善ク其意義ヲ考ヘテ相別ツベシ。

○希望ノ助動詞

（23）なむ　願ヒ、又ハ、吩咐フル意ヲイフ語ニテ、「押サなむ」受ケなむ」生キなむ」有ラなむ」ナド用ヰル、是レナリ。　此語ハ、語尾變化ナキノミナラズ、古クハ、「行カな」言ハな」トノミモイヒタレバ、願フ意アル感動詞ナルベクモ思ハルレド、尚、文ノ末ヲ結ベバ、助動詞タルベシ。　此語、動詞ノ第四變化ニ連リ、而シテ、「希望ノなむ」或ハ、「願ノなむ」又ハ、「あつらへノなむ」ナドイヒテ、過去ノぬノ變化ニ起ルなむ（動詞ノ第五變化ニ連ルモノ）ト別ツ。

○サレド、規則動詞ノ第二類、第三類、第四類ハ、其第四變化、第五變化ノ形、共ニ相同ジケレバ、「受ケなむ」生キなむ」着なむ」何レモ、「願ノなむ」トモ解セ

ラレ、「過去ノなむ」トモ解セラルルコトアリ、能ク、其意義ヲ分チテ、解スベシ。

○比況ノ助動詞

(25) ごとし　比ブル意ナイフ語ニテ、多クハ、天爾遠波ノの、が、ノ下ニ連ルヿ、他ノ助動詞ト異ナリ、「山の、ごとし」海の、ごとき」此の、ごとき」聞クが、ごとく」善キが、ごとし」ノ如シ。　又、古クハ、「見ルが、ごと思フ」秋の、ごと涼シ」ナドト「副詞法ニ用ヰタルアルモ、異ナリ。

○此語ノ變化ハ、形容詞ノ變化ノ如クナレド、其第三變化ニ「ごとけれ」ト用ヰタルヲ見ズ。　又、「ごとく、は」「ごとく、あり」ナド用ヰルコトアルモ、他ノ形容詞ニ無キヿナリ。（疾く、は」ナドモ、稀ニハアルカ）

○

○凡ソ、此篇ニ助動詞トシタルモノ、從來ノ語學書中ニハ、スベテ天爾遠波ノ中ニ混ジテ説ケリ。　然レドモ、是等ノ語、皆、變化ヲ具シ、法ヲ具シ、或ハ、希ニ變化ナキモノモアレド、其語、皆、能ク文章ノ末ヲ結ブ。　既ニ變化アリ、法アリ、又、能ク文章ヲ結ブモノ、コレヲ天爾遠波ノ中ニ混ズベキニアラズ。　サレド、是等ノ語、變化アリ、法アリ、又、能ク文ヲ結ベドモ、獨立ニハ用ヰラレズ、必ズ他語ノ下ニ就キテ、其意ヲ補助スル用ノモノナレバ、固ヨリ、動詞ニハアラズ、因テ今ハ、助動詞トシテ、一門ニ立テタリ。　而シテ、が、の、に、を、も、ぞ、こそ等ノ、變化モナク、言語ノ間ニアリテ、上下ヲ承接スルモノノミヲ存シテ、天爾遠波ノ一門トセリ。　又云、助動詞ハ、洋文典ニテハ、動詞ノ條中ニ附説スルモノ多シ、然レドモ、邦語ノ助動詞ハ、變化ト法トヲ具シテ、其數モ多ク、其規定モ繁ナルモノナレバ、一門ニ立ツベキ價値アリ、且、別門ニ立テテ説ク方、學ブ者ニモ便ナラムト思ハル、因テ今ハ此ノ如シ。

○

○前ノ助動詞ノ條末ニ於テモ、國語ト洋語トノ間ニ、動詞ニ天性ノ異同アルコトヲ論ジタリ。　サルニ、世ノ洋文法ニ據リテ國文法ヲ作ルモノ、動モスレバ、迷ヘノ見ヲ以テ、此ニ助動詞トシテ説ケル「打タる」遂ゲらる」打チつ」敵へき」打タむ」遂ゲむ」等ノる、らる、つ、き、む、ナドヲ、動詞ノ語尾變化ト斷定シ、動詞ノ Voice, Mood, Tense, 等トシテ説キテ、確ク執リテ動カザルガ多ケレバ、今、反覆シテ其説ノ理ナキヲ辨セム。

右ノ助動詞ドモヲ、動詞ノ語尾變化ト見ルトキハ、第一ニ、其變化ノ稱呼ニ就キテ、甚ダ辨別ニ苦ムコトアリ。　又ハ、先ヅ、「打つ」トイフ動詞ノ變化ハ、つ、て、た、ちナリ、ナドトシテ、更ニ、又、其ノ Passive voice ノ「打たる」ニモ、る、るる、るれ、れノ變化ヲ起シ、又、其ノ Potential mood ノ「打たる」ニモ、る、るる、るれ、れノ變化ヲ起シ、又、其ノ Past tense ノ「打ちつ」ニモ、つ、つる、つれ、てノ變化ヲ起シ、又、其ノ Future tense ノ「打たむ」ニモ、む、めノ變化ヲ起スナド、其他、尚、幾多ナルコト、擧

ゲルニ堪ヘズ。　是等ヲ、スベテ、一動詞ノ語尾ノ變化ナリトスルトキハ、一動詞ニ、數十百樣ノ變化ヲ起スニ至ル。　而シテ、右ノ諸變化ハ、皆、各自ニ、直説法、接續法、命令法等ノ諸法ヲ成スガ故ニ、(前ノ第三表ヲ見ヨ)「打たれよ」トイヘバ、Passive voice ニ、Imperative mood ヲ起シ、「打たるれば」トイヘバ、Potential mood ニ、Subjunctive mood ヲ起シ、「打ちてよ」トイヘバ、Past tense ニ、Imperative mood ヲ起ス等、其餘、皆、然リ。　然ノミナラズ、各助動詞ハ、又、各自ノ變化ヲ以テ、他ノ助動詞ニモ、互ニ連續スルガ故ニ、(前ノ第四表ヲ見ヨ)其連續スルモノヲモ連ネテ、一動詞ノ變化ト見ザルヲ得ズ(一連續ハ語尾ナリ、二連續以上ハ語尾ナラズ、ト區別スルハ、難カラム)サレバ、「打たれしめよ」打たしめられたりしかば」打たれしめざるべからず」ナド、屑屑重用スルモノニ至リテハ、如何ニカコレニ命名スベキ。

右ノ如クナレバ、Mood ニ、Voice ヲ生ジ、Voice ニ、Mood ヲ起シ、Tense ニ、Mood アリ、Mood ニ、Mood ヲ重ヌルニ至ル、豈ニ亦解スベカラザル極ナラズヤ。　既ニ動詞ノ條末ニモ論ジタルガ如ク、英文法ノ如キハ、羅甸文法ノ摸擬ニ出デタルモアレバ、重複變化ノ不都合モアレド、羅甸文法ノ如キハ、一動詞ノ變化ニ、法モ、口氣モ、時モ、具備スルモノナレバ、然ル紊亂ノ不條理無ク、又、初ヨリ、其國語ノ天性ニ隨ヒテ立テタル文法ナルベケレバ、然ル不條理ノ起ルベキ謂ハレモ無カルベキナリ。　畢竟スルニ、國語ノ特性ヲ普ク推究セズシテ、唯徒ニ此ヲ彼ニ合ハセムトスレバコソ、サル牽強説モ起ルナレ、況ヤ、其説ノ如クストモ、Mood, Voice, Tense. トイフ語原ノ意義ニ於テ、既ニ其大本ヲ失ヘバ、強ヒテコレヲ立ツトモ、洋文法ノ忠臣トモ爲リ難カラムヲヤ。　此ノ故ニ、國語ニハ、國語特性ノ制ヲ立テテ、動詞ト助動詞トヲ甄別シ、扨、國語ノ助動詞ハ、變化ト法トヲ具シ、且、助動詞ト助動詞ト相疊用スル定則モアリ、而シテ、受身トイヒ、打消トイヒ、過去トイヒ、未來トイフガ如キ意義ハ、助動詞ノ其語體ニ生得スト説キ去ラバ、何ゾ然ル紛絲ノ紊レヲ起サム、各國天然ノ言語ニ、各、差違アルベキハ、理ノ應ニ然ルベキ所ニシテ、其間ニ疑ヒヲ入ルルニ足ラズ、唯、其國語天然ノ性ニ隨ヒテ語法ヲ制定スベキナリ、彼ニアレバトテ、我ニ摸擬捏造シ、彼ニ無ケレバトテ、我ニ甄表セザルハ、其見、亦陋ナラズヤ。

○和蘭人、初メ、佛語、獨逸語ヲ混用シテ、基本ノ國語無カリキ、百十數年前、其國ノ學者相集リ、既ニ獨立國タル上ハ、一定ノ國語無カルベカラズト議シテ、乃チ、羅甸文法ニ據リテ、新ニ文法ヲ定メ、名詞ノ格ヲ、六格ト建テテ、施行セリ、サルニ、コレヲ實際ニ使用スルニ至リテ、不都合ナルコトドモ多カリシカバ、更ニ審議セシニ、全ク、蘭語ニハ、六格ヲ具ヘヌモノト再議シテ、因テ、滅ジテ、四格トシタリトナリ、此事、和蘭ノ某ノ辭書ノ序ニ見エタリト、往年、某學士ニ聞ケルコトアリキ、洋文法ヲ以テ國文法ヲ論ズル者、留意スベキコトナリ。

副詞

副詞ハ、常ニ動詞ニ副ヒ、又、形容詞ニ副ヒ、又、或ハ、他ノ副詞ニモ副ヒテ、其意味ヲ種種ニ言ヒ添フル語ナリ。　例ヘバ、「只管、思フ」暫し、留ル」甚だ、高シ」最も、遙ニ、見ユ」ナドノ、「只管」ハ、思フ狀態ヲ示シ、「暫し」ハ、

留ル程ヲ言ヒ、「甚だ」ハ、高キ度ヲ指シ、「最も」ハ、「遙ニ」ノ距離《ヘダタリ》ヲ定ムルガ如シ。

○副詞ノ種類　本體ノモノハ、上ニ擧ゲタル外ニ、「必ず、有り」「既に、成レリ」「嘗て、聞ケリ」「許多、見ユ」「恰も、好シ」「最《イト》、麗ハシ」「頗る、詳ニ、知ル」ナド、擧ゲ盡シ難シ。

副詞ニハ、疊ミタルガ如キ語多シ、しばしば（屢）つらつら（熟）ほとほと（殆）なかなか（却）やうやう（漸）ノ如シ。殊ニ、形狀、聲音ヲイフモノニ多シ、「戸ヲほとほとと叩ク」「涙ヲはらはらと落ス」「からからと笑フ」「さめさめと泣ク」ノ如シ。又、同語ヲ重用スルヿアリ、かくかく（斯斯）しかしか（然然）いといと（最最）いよいよ（彌彌）げにげに（實實）ノ如シ。

副詞ニハ、に、らに、かに、らかに、やかにナドイフ接尾語ヲ用ヰルモノ多シ、「既に」「終に」「夙に」「豈に」「更に」「殊に」或ハ、つばらに（詳）つぶらに（圓）のどかに（長閑）しづかに（靜）たひらかに（平）あきらかに（明）すみやかに（速）すこやかに（健）ノ如シ。

又、にニ終ハルモノノ中ニ、不規則動詞ノ「有り」ニ連レル𪜈、にトありト約マリテ、なりトナルモノアリ、「新《アラタ》なり」「明なり」「靜なり」「詳なり」ノ如シ、是等ノ語尾ノ變化ハ、卽チ「有り」ニ同ジ。

○名詞ヲ副詞ニ用ヰルモノハ、「今、來ム」「今日《ケフ》、行ク」「明日《アス》、來ラム」「半《ナカバ》、成レリ」「二日《フツカ》、待チテ」ノ如シ。　其下ニにヲ添ヘテ用ヰルハ、「常に」「時に」「故に」「誠に」「日に」「月に」ノ如シ。　又重用スルハ、「時時」「夜夜《ヨルヨル》」「數數《カズカズ》」又ハ「年年《トシドシ》に」「日日《ヒビ》に」ノ如シ。

漢語ヨリ入レルハ、「大抵、成レリ」「一切、知ラズ」「終日、勤ム」「再三、問フ」ノ如シ。　其下ニにヲ添フルハ、「切に」「別に」「丁寧に」「專一に」ノ如ク、又、重用スルハ、「年年《ネンネン》」「日日《ニチニチ》」「度度《ドド》」「次第次第に」ノ如シ。

○形容詞ノ副詞法ハ、皆、副詞ニ用ヰラル。「高く、昇ル」「疾く、走ル」「惡しく、ナル」「樂しく、思フ」ノ如シ。　此類ニテ、「能く」「輙《タヤス》く」「夙《ハヤ》く」「甚《イタ》く」「宜しく」ノ如キハ、全ク副詞ノ如クナレリ。　又、重用スルハ、「善く善く」「疾く疾く」ノ

如ク、或ハ、語原ヲ重用スルハ、「細細《コマゴマ》」久久「深深」ノ如シ。

○動詞ヲ副詞ニ用ヰルハ、「曰はく」「宣《ノタマ》はく」「願はくハ」「恐らくは」「疑ふらくは」「思ふに」（顧）「打付けに」「亂りに」（妄）「頻りに」「詮ずるに」「案ずるに」「絶えて」「敢へて」「總べて」「返りて」（却）「譬へば」（例）「言はむや」（況）ノ如シ。　又、重用スルハ、「行く行く」「泣く泣く」「益す益す」「代る代る」「返へす返へす」「取り取り」「次ぎ次ぎ」「取り取りに」「次ぎ次ぎに」ノ如シ。

○熟語ヲ副詞ニ用ヰルハ、「元より」（固）「何れか」（孰）「如何でか」（爭）「何處《イヅク》にぞ」（焉）「一重に」（偏）「殊更に」（故）「身づから」（躬）「己《オノ》づから」（自）「餘りさへ」（剩）「請ひ願はくは」（冀）「欲しいままに」（恣）「無いが代に」（蔑）「稍もすれば」（動）ナドナリ。

○副詞ノ用法　同語ヲ重用シテ、「最最《イトイト》、好シ」「疾く疾く、行ケ」ナドイフハ、其意ヲ强クスルナリ。　又、「尙、暫し、待ツ」「唯、只管に、賴ム」「夙に、早く、起く」「嘗て、屢、見タリ」「雪ノ間《マ》無ク、時無ク、降ル」「月に、日に、關守無クバ」ナド重用スルハ、其意、二ツナガラ、下ノ動詞、形容詞ニ係ル。

又、間ニ他ノ語句ヲ隔テテ係ルハ、「熟《ツラツラ》、事ノ由ヲ考フルニ」「暫し、時ノ移ルヲ待チテ」ノ如シ。　又、動詞ノ下ニ用ヰルモノハ、「待ツヿ暫しナリ」「行クベキカ（問）否《イナ》」「我ヲ恨ム勿《ナ》」「色ニ出ヅ勿《ナ》努力《ユメ》」ノ如シ。　此ノ勿《ナ》ハ、必ズ、動詞ノ第一變化ニ屬《ツ》ク、「我ヲ恨ムな」「人ヲ忘ルな」「色ニ出ヅな」「來《ク》な」「爲《ス》な」ノ如シ。　但シ、不規則動詞ノ第四類ノミハ、其第二變化ニ屬ク、「有ルな」「居ルな」ノ如シ。

○此ノなハ、感動詞ノなト迷ヒ易シ、心スベシ。　又、「恨ムル勿レ」「忘ルル勿レ」「出ヅル勿レ」「來ル勿レ」「爲ル勿レ」ナド用ヰル勿レハ、「無クアレ」ノ約マレルモノナリ、混ズルコト勿レ。

又、「な、そ」トイフ二語ニテ動詞ヲ挾ミテ、禁止スル意ヲイフ副詞アリ、「な行キそ」「な受ケそ」「な落チそ」ノ如シ。　或ハ、「努力《ユメ》な語りそ」「現《アラハ》にな言ヒそ」「甚《イタ》くな侘ビそ」ナド、他ノ副詞ト共ニ用ヰ、或ハ、「人な甚《イタ》く侘ビサセ奉ラセ給ヒそ」（竹取）ナドトモ用ヰ、或ハ、熟語ヲ中斷シテ、「吹キな散ラシそ」ナドトモ用ヰル。　此ノ副詞ハ、スベテ、

動詞ノ第五變化ヲ挾ムヲ通則トスルヿ、上ノ諸例ノ如シ。 然ルニ、不規則動詞ノ第一類、第二類ニテハ、其第四變化ヲ挾ミテ、「な來そ」な爲そ」ト用ヰルヲ異則ナリトス。（第五變化ニテ、「な來そ」な爲そ」ナドトハ用ヰズ。）

○古クハ、「雲な棚引キ」「人モな忘レ」「吾無シトな侘ビ」ナド、そ無クモ用ヰタルヤウナリ。

又、上ノ意ヲ承ケテ下ニ移スモノアリ、「齢ハ老イヌ、然ハアレド」ナドナリ、其他、「斯く」「抑も」「さて」ナド、皆、然リ。 又、元來ハ、上ノ意ヲ承クベキモノヲ、意、輕ク、文首ニ用ヰルモノアリ、「夫れ」「抑も」「凡そ」ノ如シ。

又、副詞ニハ、其生得ノ意味ヲ、其下ノ語ニ移シテ、反應セシムルモノアリテ、反語、打消ノ語、推量ノ語、疑問ノ語等、各、一定ノ用法ヲ起サシム。 是等、慣用ノ法ニ據リテ用ヰルベキナリ。 例ヘバ、「え行カジ」「いさ知ラズ」「をさをさ見エズ」「よも思ハジ」「さらさら無シ」「豈知らむや」「縦ひ行クトモ」「よし見ルトモ」「蓋し是ナラム」「若し行カバ」「寧コレヲ取ラム」「如何ハセム」「爭で知ラム」「幾何アラム」「疑ふらくは是レナラム」「焉ぞ取ラム」ノ如キ、枚擧スベカラズ。

○以上、副詞ノ解、稍、繁ニ渉リテ、他ニ比スレバ、不倫ナルガ如シ、然レドモ、副詞ニハ、迷ヒ易キモノモ多ケレバ、今ハ此ノ如シ。

○此ノ副詞トイフモノ、從來、國學諸哲ノ論及セルモノ、ヲサヲサ見エズ、サレバ、此一類ノ語ニハ、某ノ言ト、名稱ヲモ付セズシテアリ、唯、富士谷成章氏ガ「かざし抄」ニ、かざしト名ヅケタル一類ノ語中ニ、往往、此副詞ヲ混ジテ論ジタルアレド、尚、甚ダ詳悉ナラズ、サレバ、此條ハ、先哲ノ說ノ據ルベキナクシテ、創定ニ係レルコト多シ。

接續詞

接續詞ハ、語、句、又ハ、文、ノ間ニ入リテ、ソレヲ續ギ合ハスル語ナリ。 例ヘバ、「月、又、花」春、過ギタリ、さて、夏、來ル」ノ如シ。

漢籍讀ニ用ヰルハ、「コレヲ求ムルカ、抑、コレヲ與フルカ」「秦カ、漢カ、將、近代カ」「多クシテ、且、旨シ」ナドアリ、書狀ノ文ニ、「尤、旁、將又」ナド用ヰルモノモ、是レナリ。

動詞ヨリ來レルニハ、「及び」「並に」「尋で」ナドアリ、亦、漢籍讀ノ用法ナリ、書狀文ニ、「就て」「隨て」「依て」ナドモアリ。

熟語ヲ用ヰルハ、「或は」（有ル謂ハ）「斯くて」「然れば」「然して」（而）「若しくは」「さりながら」「然のみならず」（加之）「かるがゆゑに」（故）「何となれば」「是に於て」ノ如シ。 是等モ、漢籍讀ノ用法ナルガ多シ。

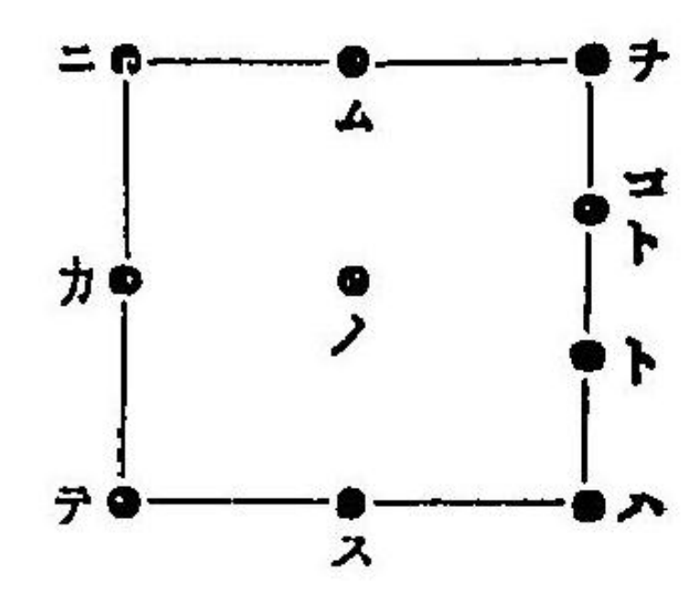
○「月と日と」「山も川も」「蝶や花や」ナドノと、も、やナドモ、其用法ニ因テハ、接續詞ノ意ヲナスコトモアリ、然レドモ、今ハ、類ヲ以テ天爾遠波ノ部ニ收メタリ。

○此接續詞トイフモノ、舊說ニテハ、スベテ天爾遠波ノ中ニ雜ヘタリ。 然レドモ、別ニ一種ノ意義アルモノニテ、混ジ難キ事アリ、因テ、今ハ、別門ニ立テタリ。

天爾遠波

天爾遠波（略シテ、天爾波）ハ、言語ノ中間ニ居テ、上下ノ語ヲ承接シテ、種種ノ意義ヲ達セシムル語ナリ。 例ヘバ、「宇治山の僧喜撰は、詞、幽にして、初め、終り、確ならず、言はば、秋の月を見るに、曉の雲に逢へるが如し、」ノの、は、て、ば、を、に、が、ノ如シ。

○古クハ、漢文ヲ譯讀スルニ、後世ノ如ク、送リ假名ナド付クルコトハ無クシテ、文字ノ四方、四隅、中央等ニ、點ヲ付シテ、其點ニ、一定ノ則ヲ立テテ、譯讀セシナリ。 下ノ圖ハ、其一則ニテ、例ヘバ、人ノ字ノ左肩ニ點アレバ、「人ニ」ト讀ミ、右肩ニアレバ、「人ヲ」ト讀ミシナリ。 其右肩ノ二點ノ訓語ヲ採リテ、コレヲ「ヲ、コト、點」ト概稱セリ。（今モ、「返リ點」ナド、點トイフコトアルハ、其遺ナリ、）



又或ハ、其四隅ノ訓語ヲ、左脚ヨリ左肩ヘ、右肩ヨリ右脚ヘ循リテ讀メバ、「テ、ニ、ヲ、ハ」トナルヲ採リテ其概稱トモセリ、是レ、天爾遠波トイフ語ノ起因ナリ。

天爾波ハ、其形、多クハ短小ニシテ、且、獨立シテハ用ヲ成サズ。然レドモ、常ニ、文中所在ニ居テ、上下ノ語ヲ連絡セシメ、互ニ呼應シテ其意義ヲ通シ、他語ノ方向ヲ示シ、意旨ヲ導キ、自他ヲ區別シ、彼此ヲ分合シ、言語ノ位置、顚倒ストモ、其所在ニ就キテ指示ノ任ヲ盡スナド、關節ノ筋ノ如ク、門戶ノ樞ノ如シ。アラユル天爾波ヲ、其用法ニ因テ、三類ニ大別シ、而シテ、逐次ニ其意義ヲ說クベシ。

第一類　名詞ニ屬（ツ）クモノ。

(A)が の　(B)の が つ　(C)に　(D)を　(E)と と　(F)へ　(G)より から より　(H)まで

第二類　種種ノ語ニ屬（ツ）クモノ。

(I)は は　(J)も　(K)ぞ し　(L)なむ なも　(M)こそ　(N)だに　(O)すら　(P)さへ

(Q)のみ　(R)ばかり　(S)や　(T)か

第三類　動詞ニ屬（ツ）クモノ。

(U)と とも　(V)ど ども　(W)が に を　(X)て　(Y)で　(Z)つつ

〇第一類　此類ノ天爾波ハ、名詞ニノミ屬ク、コレヲ名詞ノ天爾波トイフベシ。

(A)が の　上ニ名詞ヲ承ケテ、下ハ動詞ニ係リ、其動作ヲ起ス所ノ名詞ヲ、特ニ擧ゲ示ス意ノモノナリ。例ヘバ、「斯くと誰が言ふ」「我をぞ君が思ひ隔つる」「白雪のかかれる枝に鶯の鳴く」「行交ふ人の花をたむくる」ノ如ク、「言ふ」「思ふ」「鳴く」「手向く」ノ動作ヲ起スハ、「誰」「君」「鶯」「人」ナルヿヲ、特ニ指示ス。又下、形容詞ニ係リテ、「待つ人の無き」「空ののどけき」「聞くが樂しき」「無きが多し」ナドイフモ、用法同ジ。

〇コレヲ、羅甸ニ謂ハユル名詞ノ Nominative case.（主格）ナリトスルハ、恰當ナラズ。國語ニテ、彼ノ主格ニ相當スベキ純粋ナルモノハ、「鳥、啼キ」「花、落ツ」ナド、天爾波無クシテ用ヰル「鳥」「花」等ノ位置、是レナリ。コレニがのヲ加ヘテ、「鳥が啼ク」「花の落ツル」トイヘバ、がのヲ加ヘタル程ノ意味ハ、隨テ起ルナリ、卽チ本條ニ說ケル所ノ如シ。尙、委シクハ、文典ノ文章論ニ讓ル。

(B)の が　共ニ、名詞ト名詞トノ關係ヲ示スモノナリ。而シテ、其意義モ、種種ナリ。

(一)　所有ノ意ヲ示スモノハ、「人の物」「君が世」ノ如シ。或ハ、下ノ名詞ヲ畧シテ、「萬葉集に入らぬ古き歌、みづからのなも、奉らしめ給ひ」此歌は、柿本の人麿がなり」ナドモ用ヰル。

(二)　由ル所、係ル所、ヲ示スモノハ、「櫻の花」「梅が香」「世の中」「天が下」ノ如シ。是モ、下ノ名詞ヲ省キテ用ヰル、「世の常のとや思ふらむ」今の主人（アルジ）も、前（サキ）のも、手取交はして」ノ如シ。

〇以上ノ二ツハ、英、又ハ羅甸ノ Possessive, 又ハ、Genitive case.（持格）ニ當ルガ如クナレド、次下ナルハ、又、種種異樣ノ意義ヲナス。

(三)　「にて、ある」ノ意ヲ示スモノハ、「おれの歌巻」「それが人人」ノ如シ。

(四)　「に、おる」ノ意ヲ示スモノハ、「越（コシ）の白山」「蝦夷が千島」ノ如シ。

(五)　「と、いふ」ノ意ヲ示スモノハ、「富士の山」「佐渡が島」ノ如シ。

(六)　「の如き」ノ意ヲ示スモノハ、「花の顏」「露の命」「父が佛あり」ノ如シ。

又、「結ぶの神」「行かむの心」「思ふが中に」「重きが上の」ナド用ヰルハ、上ノ語ノ分詞法、形容法ヲ、名詞トシテ用ヰルナリ。又、「都よりの音信（オトヅレ）」「明日（アス）までの命」「君への諫」「行きての後」「おれのみの事」「多くの人」「面白の夜」「口惜しの事」忘れじの行末」或ハ、「君や來（コ）む我や行かむの猶豫（イサヨヒ）に」待つ人の來（コ）むや來（コ）じやの定めなければ」是ハ謀反ノ輩ヲ落サジが爲ノ謀ナリ」ナド、種種ノ語句ヲ名詞トシテ、接尾語ノ如ク屬（ツ）クヿモアリ。而シテ、是等ハ、皆、其

上下ノ係屬ヲ示ス意ヲナス。

○前條ノが、のハ、名詞ト動詞トノ間ニ立ツモノナリ、此條ノの、がハ、名詞ト名詞トノ間ニ立ツモノナリ、語形、同ジケレド、思ヒ紛フルコト勿レ。又、第三類天爾波ニモ、が、のアリ、感動詞ニモ、がアリ、混ズベカラズ。

○つ　のニ似テ、上下ノ語ノ係屬ヲ示スモノナリ。然レモ、用法古ク、且、慣用ニ局（カギ）レル所アリテ、一般ニ用ヰ難シ。其例、左ノ如シ。

「天つ風」國つ神」上つ毛野（ケノ）」下つ總（フサ）」遠つ祖（オヤ）」近つ淡海（アフミ）」內つ國」中つ國」外（ト）つ國」沖つ風」種（タナ）つ物」澪つ串（ミヲツクシ）」

(C) に　動詞ノ動作ノ、移リ亙ル所ヲ示スモノナリ。而シテ、其意義、數種ニ分ル。

(一) 相對スルモノヲ指スハ、「人に與フ」師に問フ」ノ如シ。

○コレハ、羅甸ノ格ノ Dative.（與格）ニ當ルガ如シ。然レドモ、次ナルハ、又、種種ナリ。

(二) 地位ヲ示スモノハ、「机に載ス」都に住ム」山に近シ」水に遠シ」ノ如シ。

(三) 比ブル意ナルハ、「人に劣ル」我に優ル」昨日に增シテ」ノ如シ。

(四) 差抑ヘテイフとノ如キモノハ、「木、石に成ル」水ヲ湯にナス」花ヲ雪に見テ」ノ如シ。

(五) 接續詞ノ意ヲナスとノ如キモノハ、「日に月に」尾花が風に庭の月影」ノ如シ。

又、重用スル動詞ノ間ニ入リテ、まゝノ意ヲナスモノアリ、「降りに降ル」聞キに聞キ、語リに語ル」ノ如シ。

(六) 添フル意ナルハ、「月に村雲」花に嵐」ノ如シ。

(七) 「にて」に於て」ナドノ意ナルハ、「道に聽キテ塗に說ク」朝に道ヲ聞キテ夕に死ストモ」ノ如シ。

(八) 「の爲に」に因て」ナドノ意ナルハ、「花見に行ク」多キに驚ク」人手に死ヌ」人に擊タル」ノ如シ。

(九) 「に就きて」ナドノ意ナルハ、「行フに好シ」悟ルに易シ」ノ如シ。

○此外ニ、「明に」詳に」時に」遂に」案ズルに」ナドノにハ、副詞ノ接尾語ト見タリ。又、第三類ノ天爾波ニモ、にアリ。

(D) を　事物ヲ處分スル意ヲ示スモノニテ、必ズ、他動詞ニ係ル、「書を讀ム」字を記ス」飯を食フ」水を飲ム」ノ如シ。

○コレハ、羅甸ノ Accusative、或ハ、英ノ Objective case.（賓格）ニ當ツベキガ如シ。

又、自動詞ニ係ルモノハ、其意義、異ナリ、「國を去ル」人を別ル」ノ如キハ、よりノ意ヲナシ、「路を行ク」門を過グ」ノ如キハ、其動作ノ行ハルル地位ヲ示スマデナリ。（第三類天爾波ニモ、感動詞ニモ、をアリ）

(E) と　指ス所アル天爾波ニテ、其意義、數種アリ。

(一) 指定スル意ヲ示スモノハ、「コレと定ム」ソレと思フ」ノ如シ。

又、一文、一句ヲ、名詞ト見テ承クルハ、「雪降ル、と見ル」人ハ無シ、とイフ」我ハ行カジ、と思フ」アリヤ、と問フ」無キカ、と疑フ」ノ如シ。

又、「此（コヽ）ニ、と是レヲ、と我ハ、と彼ゾ、と斯く、と誰がいふ忘草、何をか種、と思ひしに」ナド用ヰルハ、畧文、畧句ヲ承ケタルナリ。

(二) 「の如く」ノ意ナルハ、「雪と散ル」霜と消ユ」此川に、紅葉（モミヂ）と浮きて、さしかへる」月日のみ、流る水と、早ければ」ノ如シ。

(三) 「として」ノ意ナルハ、「花と見ル」霜と置ク」ノ如シ。

（四）又、重用スル動詞ノ間ニ入リテ、またノ意ヲナスコトアリ「アリとアル」秋風の、吹きと吹きぬる」山の端に、入りと入りぬる、月ふれむ」ノ如シ。

此語、動詞、形容詞、助動詞ヲ承クルトキハ、其直說法、又ハ、命令法等ノ、意ノ切ルル所ヲ承クルヲ則トス。サレバ、「落つとも見れど、音の聞えぬ」黑鳥の下に、白波を寄すとぞいふ」海賊、追ひ來とぞいふ」濡るとも無しに」心憂しと宣ふ」日も暮れぬと思ふも云云」ナド、尋常直說法ヲ承クルヲ通則トシテ、扨、又、「花ゾ落ツル」と」花コソ落ツレ」と」花落チヨ」と」ナド、ぞやかノ直說法、こそノ直說法、命令法等、皆、其意ノ切ルル所ヲモ承ク。（但シ、「恨みて歷ると、人や見るらむ」出づるとも、入るとも見ゆる」一聲に、明くると聞けど、時鳥」ナド用ヰルハ、間ニアルベキ名詞ヲ畧ケル筆法ナリ、混ズルコト勿レ）

此語、又、上畧ノ筆法ニテ、語句ノ首ニ用ヰルヿアリ、「と見、斯ウ見」とモスレバ」と二斯クニ」とバカリ思フ」ノ如シ、是等、皆、上ニアルベキ語句ヲ畧ケルナリ。

○副詞ノ接尾語ニ用ヰル「ほとほとと叩く」からからと笑フ」ナドノとモ、指定スル意アリ、此條ノとヨリ出デタルモノナリ。

○と　是ハ、指定スル意ハ、前項ノとニ同ジケレド、用法ハ甚ダ異ニシテ、語句ヲ並ブルヿ、接續詞ノ如シ。（漢字ノ與ノ字ニ當レリ。）而シテ、全ク上ノ語ニ附着シテ、下ニ、再ビ、第一類ノ天爾波ヲ履ム。例ヘバ、「鄒と魯と戰フ」月と花との眺メ」內と外とニアリ」彼と此とヲ比ベテ」京と難波とヘ趣カムト」ナドノ如シ。又、「書ヲ讀ムと字ヲ書クと」嬉シキと悲シキと」疾く明けぬると遲く暮るると」ナド用ヰルハ、例ノ名詞ヲ畧ケルナリ。　又、數語ヲ連ネテモ用ヰル、「流れ木と立つ白波と燒く鹽と」ノ如シ。

○此ノとハ幾語重ナリテモ、必ズ加フルヲ則トス。然ルニ二語以上ナルヲバ、常ニ畧スルコトアルハ非ナリ。例ヘバ、「鹽酸と硫酸ノ鹽類ヲ注グ」ナド記ストキハ、「鹽酸と硫酸ノ鹽類とヲ注グ」意トモナリ、「鹽酸ノ鹽類と硫酸ノ鹽類とヲ注グ」意トモナリテ、大ナル誤ヲ生ズベシ。

（F）へ　方向ヲ示ス天爾波ナリ。例ヘバ、「前ヘ進ム」左ヘ向フ」奧ヘ深シ」西ヘ長シ」ノ如シ。此ヘハ、方向ヲ示スモノニテ、前ノにノ地位ヲ示スモノト別ツ。一文中ニテ用ヰ分ケタルハ、「僧正遍昭ガ許ニ、奈良ヘまかりける時」但馬の國ヘまかりける時に、二見の浦といふ所にとまりて」ノ如シ。

○此ノヘトにトヲ混用スルコトアリ、心スベシ。サレバ、「前に進ム」左に向フ」ハ非ナリ、「前ヘ進ム」左ヘ向フナルベシ。（方向）又、「山ヘ登ル」舟ヘ乘ル」ハ非ナリ、「山に登ル」舟に乘ルナルベシ。（地位）然レドモ、にノ方ハ、方向ニ用ヰタルコト無キニシモアラズ、「東の方に行きて住む所求むとて」陸奧の國にそぞろに行き至りにけり」下野にまかりける女に」竹生島にまうで侍りける時に」ナドアリ。サレバ、へハ、方向ニ限リ、にハ、地位ニモ方向ニモ通ハシ用ヰルトスベキカ。

（G）より　から　共ニ、二ツノ間ニ移リ行ク意ヲ示スモノニテ、地位ニモ時ニモイフ、（漢字ノ自從等ノ字ニ當ル。）「人より受ク」敵より奪フ」彼方より來ル」後より襲フ」天より地ニ落ツ」夫レより程歷テ」去年より今年マデ打續キテ」ノ如シ。　又、下、名詞ニ接スルモアリ、「此處より東ノ方ハ」咲き初めし時より後を」ノ如シ。「明日からも若菜摘まむと」明けぬから船を引きつつ上れども」時鳥、まだ鳴かぬから待たるべらなる」ノ如シ。（ゆゑにノ意ナルからハ、コレト異ナリ、ソハ、接尾語ノ中ニ收メタリ。）

○コレハ、雜句ノ Ablative case.（奪格）ニ當ツベキカ。　次ナルハ、英ノ前置詞ノ Than ノ意ナリ。

○より　是ハ、比ベテ科ヲ定ムル意ヲ示シテ、前ノよりト異ナリ、「山より高シ」コレより善シ」命より惜シ」彼より後ル」ノ如シ。　又、「かねてより」今までよりも」獨見むより人と見む」憂きもものかも戀しきよりも」ナド用ヰルハ、間ニ語句ヲ省ケルナリ。　又下、名詞ニ接スルアリ、「花より先と知らぬ」我身も鳥より先に鳴き始めつる」ノ

如シ。又、意義、一轉シテ、其物事ニ限ル意ヲナス、「我より外に人あらじ」「風より外に訪ふ人も無し」ノ如シ。更ニ、畧シテハ、「枕より、（外ニ）また知る人も無き戀を」ノ如シ。

（H）まで　至リ及ブ意ヲ示スモノナリ。例ヘバ、「筑紫までまかる」「都まで送りまうして」「行先の事まで思し知らして」ノ如シ。又、意、稍轉ジテ、さへノ意ヲナスヿアリ、「天の川冬は空までこほるらし」「跡まで見ゆる雪のむらぎえ」ノ如シ。又、「至る程に」ノ意ヲナス、「斯くまで精しき」「さまで思はば」「花と見るまで雪ぞ降りける」「月と見るまで降れる白雪」「物や思ふと人の問ふまで」ノ如シ。（是ハ、間ニ、程トイフ語ヲ畧シタルニテ、即チ程ノ意ヲナスモノナルベシ）

○第二類　此類ノ天爾波ハ、上ニ、各種ノ語ヲ承ケテ、其意ヲ、下ナル動詞、形容詞等ニ通ズ。其承クル所ノ語、一定セザレドモ、亦、慣用ノ用法アリテ、妄リニ承クベカラズ。左ニ、逐條ニ、其意義ヲ釋キ、且、其用例ヲモ、若干、揭グベケレバ、其承クル所ノ種種ナルヲ見ルベシ。

（I）は　事物ヲ、各自ニ差別スル意ノモノナリ。

「人は去リ、我は留ル」「柳は綠ニ、花は紅ナリ」「見ルは善シ」「行キはセズ」「善キは取ラム」「樂シクは思フ」「學バムは好シ」「行カズはアルベカラズ」「取リテは見ム」「斯クマデは無シ」「然はアレド」「如何はセム」「是ヨリは高シ」「我コソは見メ」「京へは行カム」「我ノミはアリ」「花トは見ム」（感動詞ニモはアリ、混ズベカラズ）

○ば　音便ニテ、前項ノはヲ濁ルモノナリ。

「コレヲば取ラム」「カレヲば捨テム」「行カズンばアラズ」「爲ズンばアルベカラズ」ノ如シ。（第三類天爾波ニモばアリ）

（J）も　事物ノ同ジ狀ナルヲ並列スル意ノモノニテ、接續詞ノ如シ。（漢字、亦ノ字ニ當ル）

「をととしも、こぞもことしも、をとつひも、きのふもけふも、吾が戀ふる君」「行クもアリ、歸ルもアリ」「行キもセズ、歸リもスマジ」「長キもアリ、短キも見ユ」「善クもアラズ、惡シクもナシ」「父トも思ヒ、師トも仰グ」「寐テも思フ」「我ニも許セ」「家へも歸ラズ」「東ヨリも來ル」（感動詞ニモもアリ）

（K）ぞ　多クノ中ニテ一ツヲ指ス意ノモノナリ。（「夫」ト指シテイフ語ノ濁レルナラム、「誰ぞ、な行キそ」ナド清ミテイフ語モ、即チ是レナラム）　此語ノ文中ニ入ル𪜈ハ、其文末ノ動詞、形容詞、助動詞等ノ結法(Conjugation.)ニハ、必ズ其第二變化ヲ用ヰルヿ、左ノ用例ニ就キテ知ルベシ。（前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲ參見セヨ）

「花ぞ落ツル」「月ぞ澄メル」「行クぞ善キ」「行キぞワヅラフ」「長キぞ勝ラム」「早クぞ過グル」「然ぞ覺ユル」「コレヲぞ取ルベキ」「我ガ世トぞ思フ」「見テぞ知ル」「見テモぞ思フ」「我ハぞ戀フル」「西ヘぞ行カム」「袖サヘぞ照ル」「去年ヨリぞ見シ」

又、指シ示ス意ニテ、言語ノ末ニ居ルヿアリ。

「思ふがことは、思ふらむや、ぞ」「斯くあるは、世のつねぞ」「物思ふころぞ」「思ふばかりぞ」「妹待つらむぞ」「鳴きわたらむぞ」

又、同ジ用法ナレド、上ニ疑フ語アル𪜈ハ、詰問スル意トナルアリ。

「誰れ聞けと、鳴くかりがねぞ」「言フハ如何ニぞ」「何トスルモノぞ」「誰ガ子ぞ」（「誰そ」ト清ムモ、コレナリ）

○し　ぞニ似テ、指ス意アリ。　用法、古シ。

「神し知らふむ」「道し無ければ」「歎きしまさる」「獨し寐れば」「猶し慕ばも」「今し散るらむ」「身にしあれば」「散らでし止ま

るものならぬ國をしも、さはにあれど」無きにしもあらず」待ちにし待たむ」舟をしぞ思ふ」音のみし泣かゆ」かかれとてしも」我とし言へど」（過去助動詞ノきノ變化ノしト紛ヒ易シ、心スベシ）

但シ、其下ヲ結ブ動詞、形容詞、助動詞ハ、常ノ如ク、第一變化ヲ用ヰルヿ、ぞニ異ナリ。（前ノ用例ヲ見ヨ）

又、「時しもあれ」今日しもあれ」ナド用ヰタルガアルハ、あれノ上ニ、こそヲ省ケルナルベシ。　又、「今しはし」斯くのみし戀ひしわたらむ」ナド、重用セルモアリ。

○此しヲ、從來、「休メ詞」ナド稱シテ、意無キ天爾波トセルハ、誤ナラム、指ス意アリテぞニ似タルコト、前ノ用例ヲ味ヒテ知ルベシ。　歌ノ五文字ノ句ニ、「身にしあれど」ナド加フルコト常ナルガ、コレ、不用ノ語ナラバ、「字餘リ」ニ加フルニ及ブマジ、必ズ、其意義ヲ添ヘズシテハ、カナハヌ場合ナレバ、加フルナルベシ。

（L）なむ　ぞニ似テ、緩ク指ス意ノモノナリ。（此語、散文ニ多ク、歌ニハ少シ）　此語モ、文中ニ入ルトキハ、其末ヲ結ブ動詞、形容詞、助動詞、スベテ、其第一變化ヲ用ヰルヿぞニ同ジ。

「我なむ行くべき」これなむそれなる」無きなむまされる」善くなむ見ゆる」またなむ來べき」斯くなむある」風になむ散る」これとなむ定むる」人をなむ恨むる」遇はでなむ往ぬる」

○なも　なむニ同ジ、「神になもありける」ナド用ヰル、是レナリ。

（M）こそ　多クヲ捨テテ一ツヲ取ル意ノモノナリ。（語原ハ、「是(コ)ハ其(ソ)ナリ」トイフ程ノ意ナリト云）　此ノ天爾波ノ、文中ニ見ハルルトキハ、其末ヲ結ブ所ノ動詞、形容詞、助動詞ノ直説法ハ、スベテ、其第三變化ヲ用ヰル。　左ノ用例ヲ見ルベシ。（尚、前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲ參見セヨ）

「人こそ見えね」路こそ無けれ」行くこそ好けれ」行きこそすれ」樂しくこそ覺ゆれ」貧しきこそ憂けれ」斯くこそ思へ」まさこそ遇はめ」えこそ行かざれ」行きてこそ見め」花をこそ見れ」舟にこそ乘れ」ありとこそ見ゆれ」然(サ)もこそ見め」行かでこそあれ」さればこそ禁(トド)めつれ」相見むことをのみこそ思へ」人知れずこそ思ひそめしか」わが君をにこそは形見とも見たてまつれ」

（N）だに　輕キヲ擧ゲテ、餘ノ重キヲ言外ニ引證スル意ナリ。（語原ハ、「唯ニ」ノ約ニモアラムカ）

「憂き身をぞ、我だにいとふ、いとへただ、そをだに同じ、心と思はむ」（新古）「夢のごと、ありまし君を、夢にだに、今は見るだに、難くもある哉」（六帖）「母御息所を、かげだにおぼえ給はぬを」松の雪だに消えなくに」さらに、入れだに入れず」見だにおくり給へかし」今暫しだにおはせなむ」女御とだに言はせずなりぬる」鳥にだに如(シ)カザルベケムヤ」

又「蔓草だも猶除クベカラズ、況ヤ君ノ寵弟ヲヤ」ナドノだもハ、だにもノ畧訛ナリ。

（O）すら　やはりなほナドイフ意ナリ。（語原ハ、「夫(ソレ)」ノ轉ニテ、指ス意アルベシ）サレド、中古ヨリハ、だにト同意ニモイヘリ。

「こととはぬ、木すらいもとせ、有とふを、ただひとり子に、あるが苦しさ」（万葉）「草木すら、春にはなべて、逢坂の」春日すら、長居しつると」我が身すら容レラレズ」

（P）さへ　重キガ上ニ、又、添ヒ加ハル意ニテ、（語原ハ、「添(ソヘ)」ノ轉カ、或ハ、「其上(ソノウヘ)」ノ約ナラムトモイフ）だにトハ、引證ニ、交互輕重ノ差アリ、混ズベカラズ。

「現(ウツツ)にも、さもこそあらめ、夢にさへ、人目をもると、見るがわびしさ」（古今）「梓弓、おして春雨、けふ降りぬ、あすさへ降らむ、若菜摘みてむ」（古今）「まけてもやまどの御心さへそひて」行交ふ人の、袖さへぞ照る」召(メシ)にさへおたりつるを」涙をさへおぼして臥したり」

（Q）のみ　一アリテ二無キ意ヲイフ。

「我のみ知ル」歎キのみシテ」思フのみナリ」好キのみ取ル」悲シクのみ思フ」サテのみアラムヤ」斯クのみアラバ」言ハデのみアルベキカ」家ニのみアリ」人ヲのみ頼ム」我トのみ知ル」前へのみ進ム」

漢籍讀ノ上ニ「而已耳」ナド訓シテ言切ルハ、下畧ノ法ナリ。

(R)ばかり　意、粗、のみニ同ジ。（語原ハ、「量」ニテ、量ノ限レル意ナラム）

「今日ばかりとぞ、田鶴も鳴くなる」我ばかりアリ」歎クばかりナリ」憂クばかり思フ」天トばかり知ル」斯クばかりアラム」（ほどノ意ヲナスばかりハ、接尾語ニ入ル）

(S)や

(T)か　上ノ二語、共ニ指シテ疑フ意ノモノナリ。　此二語、文中ニ入ルトキハ、其下ヲ結ブ所ノ動詞、形容詞、助動詞ハ、共ニ、其第二變化ヲ用ヰルヲ定則トス。　左ノ用例ニ就キテ知ルベシ。（尙、前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲモ見ヨ）

「春や來ル」花や咲ク」月やは物を思はする」戀ひやわたらむ」行キやスル」惜しくやはあらぬ」白キや花ナル」知ラズやアル」斯クや思フ」花ヲや見ム」人ニや遇ハム」生キモやスル」散ラデやアルベキ」

「誰か見ルベキ」天かアル」孰レか勝レル」何處ニかアル」何處へか行カム」何ヲか取ル」何トかスベキ」四年バカリか歴ニケム」何時マデか待タム」如何デか知ラム」

又、二語、共ニ、語ノ末ニ居テ言切ルコトアリ、多クハ、問掛クル意ヲナス。

「有リや」無シや」聲ハ聞ユや」思ヒ出ヅや」天ト言ハムや」來ムや來ジや」

「我か」人か」有ルか」無キか」聞ユルか」出ヅルか」

やか、ノ、動詞、形容詞、助動詞ノ下ニ連ルトキハ、やハ、必ズ、其第一變化ニ連リ、かハ、必ズ、其第二變化ニ連ルヲ定則トス。　前ノ用例、並ニ、下ノ表ニ因テ知ルベシ。

助動詞ハ、前ノ助動詞表（第三表）ニ就キテ、其第一變化ト、第二變化ト、ニ連ネテ解スベシ。

○一言ノ動詞、助動詞ニハ、其別ヲ誤リ易シ。「得や」得ルか」歴や」歴ルか」來や」來ルか」爲や」爲ルか」行カむや」行カヌか」行キきや」行キしか」ナド、必ズ、其第一變化ト、第二變化ト、ヲ用ヰ分クベシ、「得ルや」歴ルや」來ルや」爲ルや」等皆非ナリ。　但シ、やノ第二變化ヲ承ケタルアラバ、ソハ、大抵、感動詞ノやナリト知レ。

○やか、共ニ、感動詞ニ同形ノモノアリ、注意スベシ。

又、やか、共ニ疑フ意ノ語ナレド、上ニ、他ノ疑辭アルトキハ、例ヘバ、「幾何かアル」如何ニか思フ」何ヲか取ル」誰ナルか」何トスベキか」何處ニアルか」ナド、下ニ、更ニ、かヲ加フルハ常ナレド、斯ル場合ニ、やヲ加ヘタル用例、サラニ無シ、コレヲ異ナリトス。

○「幾何やアル」如何ニや思フ」何ヲや取ル」誰ナルや」何トスベキや」何處ニアルや」ナドハ、ズベテ非ナリ。　但シ、「幾何ゾや」何カアラムや」ナドハ、感動詞ナリ、混ズベカラズ。

	規則動詞				不規則動詞				形容詞	
	第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類
第一變化	押ス　や	受ク　や	報ユ　や	着ル　や	來　や	爲　や	死ヌ　や	有リ　や	善シ　や 無シ　や	惡シ　や 樂シ　や
第二變化	押ス　か	受クル　か	報ユル　か	着ル　か	來ル　か	爲ル　か	死ヌル　か	有ル　か	善キ　か 無キ　か	惡シキ　か 樂シキ　か

○第三類　此類ノ天爾波ハ、上、下、共ニ、動詞、或ハ、形容詞、助動詞ニ接ス、コレヲ動詞ノ天爾波ト泛稱スベシ。

（U）と　とも　此四語、共ニ、上ノ語ノ意ヲ飜スル天爾波ナリ。と、ナルハ、「穂に出でたりと、かひや無からむ」あまたゝ寐ずと、ただ一夜（ヒトヨ）のみ」ノ如ク、ど、ナルハ、「問へど答へず」「逐へど去らず」ノ如シ。（皆、漢字雖ノ字ノ意ナリ）

（V）ど　ども　此ノと、又ハ、ど、ニ、もヲ合シテ、「穂に出でたりとも」「あまたゝ寐ずとも」「問へども」「逐へども」ナド用ヰルヿ、常ナリ。此ノもハ、感動詞ノ如キモノナリ。而シテ、ど、ハ、今世、普通用ナラズ、一般ニハ、とも、ど、どもヲ用ヰル。

抑、此ノ天爾波共ハ、何レモ同意義ナレド、動詞ノ第一變化ニ連ルキハ、清音ニテ、未定ノ意ヲ成シ、其第三變化ニ連ルキハ、濁音トナリテ、既定ノ意ヲ成ス、是レ、其別ナリ。例ヘバ、「受クとも」「爲（ス）とも」「有りとも」ナドハ、未定ナルニイヒ、「受クレど」「爲レど」「有レども」ナドハ、既定ナルニイフガ如シ。又、形容詞ニモ、其第四變化ト、第三變化トニ連リテ、未定ト既定トヲ別ツ、而シテ、其意、全ク同ジ。　下ノ表ノ如シ。又、助動詞モ、前ノ助動詞ノ條ノ第三表ニ於テ、其變化ノ動詞ニ似タルモノハ、（1ヨリ23マデ）其第一變化ニテともニ連リ、第三變化ニテどどもニ連リ、又、形容詞ニ似タルモノハ、（24以下）其第四變化ニテともニ連リ、第三變化ニテどどもニ連リテ、各、未定、既定、ノ別ヲ成スヿ、正ニ、動詞、形容詞ニ同ジ。　第三表ニテ、連續セシメテ、解スベシ。

		規則動詞				不規則動詞					形容詞	
		第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類		第一類	第二類
未定	第一變化	押ス　とも	受ク　とも	報ユ　とも	着ル　とも	來（ク）　とも	爲（ス）　とも	死ヌ　とも	有リ　とも	第四變化	善ク　とも	惡シク　とも
既定	第三變化	押セ　ど ども	受クレ　ど ども	報ユレ　ど ども	着レ　ど ども	來レ　ど ども	爲レ　ど ども	死ヌレ　ど ども	有レ　ど ども	第三變化	善ケレ　ど ども	惡シケレ　ど ども

○「受クとも」「爲（ス）とも」「有りとも」ナドナルベキヲ、動モスレバ、「受クルとも」「爲ルとも」「有ルとも」ナド用ヰルハ、非ナリ、或ハ、とヲ略シテ、「受クルも」「爲ルも」「有ルも」ナド用ヰ、又、或ハ、「善クとも」「惡シクとも」ナルベキヲ、「善クも」「惡シクも」ナド用ヰルハ、愈、非ナリ、注意スベシ、もノミニテハ、雖ノ字ノ意ヲ成サズ。

（W）が　に　を　三語、共ニ、思フニ違ヒテ意ノ反ル意ヲイヒ、皆、動詞、形容詞、助動詞ノ第二變化ニ連ル。「四尺の屏風云云立てたるが、上より見ゆる穴なれど、のぼるべくもあらず」（宿木）「春こそはふりつるが、空はまだ寒きに」「庭の面は、まだかわかぬに、夕立の、空さりげなく、すめる月哉」（新古今）「ただ後れじと思ひつるに、人目も知らずはしられつるを」（枕草子）「つひに行く、道とはかねて、聞きしかど、きのふけふとは、思はざりしを」（古今）「行かじと思ふを、いかでさはいふぞ」かくまであるを、むげに失はむは本意ならず」

（X）て　事、終ハリテ、後ニ移ル意ヲイフ。例ヘバ、「春過ぎて、夏來たるらし」「雨降りて、地固マル」「日暮レて、路遠シ」ノ如シ。（漢字ノ而ノ字ニ當ル）此語ハ、過去ノ助動詞ノつノ第五變化ナルてナレド、稍、趣ヲ變ズル所アリテ、接續詞ノ如クニモ用ヰラルレバ、別ニ掲ゲテ、天爾波ニ列ヲタリ。又、形容詞ノ第五變化ニ連ヲテ、「水、近クて、風涼シ」「心、嬉シクて、獨リ笑ム」ナドイヒ、打消ノずニモ連ヲテ、「君來（コ）ずて、年も暮れにき」ナドイフハ、皆、其間ニありヲ略セルナルベシ。

○左ノ數語ハ、此條ノてヲ、他語ト重用スルモノナルガ、慣用、久シクシテ、一ノ天爾波（或ハ、接續詞）ノ如クナレリ。　類ヲ以テ、此ニ列ヌ。

にて　第一類天爾波ノにト、助動詞ノつノ變化ノてトニテ、其間ニ略語アルナリ。「に於て」ナドノ意ナルハ、「京にて遇フ」「田舍にて見ル」「に因て」ナドノ意ナルハ、「筆にて書ク」「水にて洗フ」「にアリて」ナドノ

如キハ、「頭ハ人にて身ハ魚ナリ」家ハ昔にて人ハアラズ」「に為シて」ナドノ意ナルハ、「月影ヲ、色にて咲ケル、卯ノ花ハ」ノ如シ。

して　「ありて」「て」ノ意ナルハ、「長クして細シ」斯クして別ル」巧ニして速ナリ」答ヘズして去ル」「もて」「にて」ノ意ナルハ、「米して返リ事ス」飯粒して鯛釣ル」人ヲして送ラシム」二人して、結ビシ帶ヲ、一人して」

にして　「にありて」「にて」ノ意ナリ。「都にして逍ヒケル人」人にして鳥ニ如カザルベケムヤ」

とて　第一類天爾波ノとト、助動詞つノ變化ノてトノ間ニ、畧語アルナリ。「と言ヒて」ナドノ意ナルハ、「サリとて」アレバとて」「と思ヒて」ナドノ意ナルハ、「花見ニとて出デ立ツ」書ヲ讀マムとて机ニ凭ル」

(Y)で　打消ノ助動詞ノずト、前條ノてト約マレルナリ。サレバ、動詞ノ第四變化ニ連ルヿずニ同ジ。「行カでアリ」歸ラでアラナム」ノ如シ。

(Z)つつ　過去ノ助動詞ノつヲ重用スルモノニテ、動詞ヲ「行ク行ク」泣ク泣ク」ナド重用シテ副詞トスルト、用法同ジ。例ヘバ、「行キつつ見ル」雪ハ降リつつアリ」ハ、「行キつ行キつ見ル」降リつ降リつアリ」トイハムガ如シ。

○

第一類ナル名詞ニ屬ク天爾波ハ、羅何名詞ノ格トイフモノニ似タリ。羅何名詞ノ格ハ、語尾ノ變化ニテ成レリ、我ガ第一類天爾波モ、名詞ノ語尾ノ變化ト見テ、之ヲ格ト立テムモ可ナルガ如シ。サレド、我ガ天爾波ニハ、意義ニ異様ナルモノモアリテ、羅何ノ格ト合ハヌモ多ク、縱ヒ合ハズトモ、我ハ我ニテ、名詞ノ格ヲ、特ニ數種ニ創制セムモ然ルベケレド、扨、其夥多ナル意義ノアル限リ、悉ク之ヲ格ト立テムモ、妥當ナラザルヲ覺ユ。且、羅何ノ格ノ變化ハ、名詞ノ種類ニ因テ、其體ヲ異ニスルモノモアリテ、固ヨリ離ルベカラザルモノナレバ、（殊ニ、餘國ノ名詞ノ、格ヲ示スニ形ナク、無形ノ地位ニテ、則ヲ立ツルモノノ如キハ、）名詞ニ就キテ、類ヲ以テ規定ヲ立ツルモ、其理ナレドモ、我ガ天爾波ニハ、特ニ一定ノ成形アリテ、且、何レノ名詞ニモ一様ニ接スベク、コレヲ名詞ノ語尾變化ト見テモ、何レノ名詞モ、其變化ハ、が、の、に、を、と、へ、より、まで等ニテ、千篇一律、サラニ異様アルコトナシ。サレバ、羅何ノ格ハ、足ノ如ク、其名詞ニ生得シテ、離ルベカラズ、我ガ天爾波ハ、履ノ如ク、脫シテ衆ニ通用スルコトヲ得ベシ。且、コレヲ別語トスル方、其意義ヲ說クニ、錯雜ヲ避クルコトヲ得テ、教フルニモ、學ブニモ、共ニ便捷ナルガ如ク思ハル、因テ、今ハ本文ノ如シ。

第二類天爾波ハ、洋語ニテ言ヘバ、副詞ニ似タルモアリ、前置詞、接續詞ノ趣ナルモアリ、或ハ、名狀スベカラザルモアリ。然レドモ、其文中ニ立チテ、上ニ種種ノ語ヲ承ケ、下ハ動詞、形容詞等ニ係リテ、其意義ヲ達スルコトハ、何レモ畧、同趣ナルモノニテ、サラニ相別チ難シ。此一類ノ語、實ニ、國語ノ言類中ニテ、一種殊様ノモノタリ。

第三類ノ天爾波ハ、上下、皆、動詞、形容詞、助動詞ニ係ルモノニテ、スベテ、其接續法ト立テムモ、可ナルモノノ如シ。然レドモ、尚、分離シテ、何レノ動詞、形容詞、助動詞モ、通用連續セシムベキコトハ、第一類ノ如シ。（篇中、此類ノばヲ、獨リ別ニ接續法ト立テタルハ、動詞、形容詞、助動詞ノ其變化ニ着キテ、離ルベカラザル語姿ナレバナリ。）

扨以上三類ノ語ハ、皆、固ヨリ、獨立ニハ用ヰラレズ、而シテ、其他語ニ係ル規定ニ差異コソハアレ、其語姿ノ成立ヲ概見スルニ、三類共ニ、究竟、同臭味ノモノタリ、因テ、今ハ、類ヲ以テ別チテ、天爾波ノ一部門ニ總ベタリ。

○本文、天爾波ノ外ニ、ながら、がてら、がてに等、從來、天爾波中ニアリシモノ、尚アリ、是等、本篇ノ類別ニ從ヘバ（種種ノ語ニ屬クモノナレバ）第二類中ニ入ルベキニ似タレド、今ハ、甄別シテ、接尾語中ニ收メタリ。サルハ、第二類ノ天爾波ハ、其語、全ク上下ノ語ニ粘合セズシテ、試ミニコレヲ文中ヨリ加除セムニ、唯、其語ニ有テル意義ノ加除アルノミニテ、原文、サラニ移動スルコト無ク、上下、ソノママ連絡シ、依然トシテ文ヲ成スベシ、前ニ掲ゲタル例語例句中ニ就キテ、加除シテ、試ミバ、必ズ其然ルヲ知ラム。然ルニ、ながら、がてらノ類ハ、全ク其上ナル語ニ粘合シテ、語勢ヲ變セシメ、之ヲ加除セムトスレバ、原文ニ移動ヲ起サザルヲ得ズ、是レ其別ナリ、尚、後ノ接尾語ノ條ヲ見ルベシ。

感動詞（詠歎）

感動詞ハ、喜怒哀樂等、凡ソ、人情、感動スル所アリテ發スル聲ナリ。例ヘバ、「あら喜バシ」「最も畏シ」「悲シキかな」ナドノあらもかなノ如ク、スベテ、其言ヲ述ブルノミニテハ、意ヲ盡サザルニ添ヘテ、發スルモノナリ。

感動詞ハ、汎ク種種ノ感情ニ通ジテイフアリ、專ラ一感情ニ局リテイフアリ。其用法モ、言語ノ上ニ立ツアリ、中間ニ入ルアリ、下ニ添フアリ、而シテ、他語ニ連續スルニ就キテ、亦、各、一定ノ慣用法アリ。左ニ感動詞ノ著キモノヲ擧ゲテ、其用例ノ若干ヲ示サム。

○言語ノ上ニ立ツモノハ、

あ　ああ「ああかしこしや」

あら　「あら熱や」「あら無慚や」

あな　「あなうらやまし」「あな苦し」「あなかしこ」

あはれ　「あはれあなおもしろ」「あはれ、さも寒き年哉」

いで　思ヒ起スヰニ發ス。「いで我を、人なとがめそ」「いで御消息聞えむ」「いで何ぞ、とて取りて見れば」

いざ　誘ヒ立ツルヰニ發ス。「鏡山、いざ立寄りて、見て行かむ」「いざ汲み見てむ、山の井の水」「いざ櫻、我も散りなむ」「いざさせたまへ」

やよ　呼ビカクル聲ノやトよトヲ重ネテイフナリ。「やよ如何に、行方も知らぬ」「やよいづかたへ、行きにけむ」「やよや待て、山時鳥、言傳てむ」

○言語ノ中間、或ハ下ニ入ルモノハ、

も　「からくも我は、老いにける哉」「玉にもぬける、春の柳か」「世ははやも、春にしあれや」「ひとりかも寐む」「雪かも降れる」「移りも行くか」「知らずもあるかな」「いとも畏し」「家やもいづこ」「花とやも見む」「またも來む」「時しもあれ」「無きにしもあらず」「草のはつかに、見えし君はも」「いやとほざかる、我身かなしも」「三笠の山に、出でし月かも」「人は來ぬかも」「枕さびしも」「忘れかねつも」「行方知らずも」「春立つらしも」

や　「花とかや見む」「年はや歴なむ」「否や思へド」「取りやかはさむ」「戀ひやわたらむ」「夢路にさへや、生ひ茂る」「我はもや、やすみこを得たり」「ありがたの世や」「あなあやにくの、春の日や」「行きぬとかや」「行きけるぞや」「吾嬬はや」「立つを、暫しや。と召しよせて」「大原や。をしほの山」「更科や。姨捨山」「難波津に開くや。この花」「時鳥、啼くや。五月の」「いとやすらかなる御ふるまひなりや」「耳馴れ侍りけりや。と聞え給ふ」「いみじくぞあるや」「にほひぞ人に似ぬや。と打ちささめきて」「あぢきなや」「惜むともかたしや」「恨みつべしや」「思しやる方ぞ無きや」

○動詞、形容詞、助動詞ノ、第二類天爾波ノや（疑ヒノ）ノ下ノ結法トナルトキハ、必ズ、其第二變化ヲ用ヰ、又、之ニ反シテ、其やノ、動詞、形容詞、助動詞ノ下ニ屬クトキハ、必ズ、其第一變化ニ屬クヲ規定トスルコト、前ニモ述ベタルガ如シ。サルニ、此條ノやハ、其場合ニ因リテ、種種ナリ、是レ、天爾波ノやト感動詞ノやトノ別ナリ、尙、普ク用例ヲ見テ曉ルベシ。

言ヒカクル意ナルハ、（よノ如シ）「匂ふや、馨るやと」「みな人は、花や蝶や。といそぐ日も」「海賊や。といひて、扇を投げすて」「行ケや」「打テや」

接續詞ノ如ク用ヰルハ、「簫や琵琶や、笙の笛、篳篥など、吹きあはせたるも」

反語ニ用ヰルハ、「思ひきや」「ひとり行かむや」「況ヤコレヲ（言ハヾ）ヤ」「人ニシテ、鳥ニダニ如カザルベケムヤ」

又、「行かばや」「見ばや」ナドハ、間ニ「よからむ」ナドイフ語ヲ略シタルニテ、即チ希フ意ヲナス。

を　古キ感動詞ナリ。「年頃を、住みし所を、名にし負へを」昔も今も、知らずとを言はむ」香をだにほへ」濡れてを行かむ」心にを思へ」苦をあらみ」瀨をはやみ」「その八重垣を」妹待つ我を」月夜清きを」船わたせを。と呼ぶ聲の」

○言語ノ下ニ添フモノハ、

か　「玉にもぬける、春の柳か」「空蟬の、よにも似たるか」櫻花」のどかにもあるか」

かな　前ノかニ、なヲ重用シタルモノ。「夜半の月かな」水の聲かな」年を歷るかな」見ゆるかな」樂しきかな」のどかなるかな」思へるかな」　以上、動詞、形容詞、助動詞ニ添フキハ、必ズ、其第二變化ニ添フ。

かし　念ヲ推シテイフ意ノモノ。「さむかりぞかし」見ゆるぞかし」「見ゆかし」聞ゆかし」いとよう覺えたりかし」難かるべしかし」あはれなりかし」さは思ひつかし」打ちひそみぬかし」行き給ひけむかし」知らずかし」さるけはひもありきかし」思ふ心の、殘るらむかし」おほやけの世繼とぞ言ひ侍りしかしな」斯くぞ覺え侍るかし」絶えずなむおはしますめるかし」えこそせざれかし」思ひ知れかし」疾く行けかし」いざたまへかし」　三種ノ直說法、命令法等、スベテ、語句ノ切レタル後ニ添フ。

な　「彼ぞ聟の少將な」蟬の聲、聞けばかなしな」恨みつべしな」我ハ戀ひむな」忘れドな」知らずな」契りきな」移りにけりな」惡しとこそ思ひたれな」心憂くてこそおはしたれな」いくそと問へな」老いにけるよな」去りたるよな」

は　「いかゞはせむは」風、あらあらしう吹きたるは」かくるるまでに、かへり見しはや」　又、疑ヒノやかニ添ヘテ、反語ニ用ヰルハ、「我れ鶯に、おとらましやは」再びとだに、來べき春かは」思ひはつべき、涙かは」

よ　呼ビカクル聲。「月よ」花よ」我こそ、人よ」こころぼそさよ」行ケよ」鳴ケよ」物を思ふよ」忘れで待ち給へよ」高砂うたひしよ」人の知らぬよ」忘れずよ、またかはらずよ」　又、「我をよ」妹をよ」夢かとよ」頃かとよ」ナドハ、間ニ語ヲ畧セルナリ。

が　專ラ希フ意ニイフ。「老いず死なずの、藥もが」あな戀ひし、今も見てしが」伊勢の海、あそぶ海士とも、なりにしが」

がな　前ノがニ、なヲ重用シタルモノ。「妻呼ぶ聲を、聞きしがな」得てしがな」見る由もがな」長くもがな」無くもがな」

がも　前ノがニ、もヲ重用シタルモノ。「常にもがもな」人にもがもや」

ゑ　古キ感動詞ナリ。「我をさぶしゑ」我を待たむゑ」

感動詞ニハ、重用スルモノ多シ、「やよ」「かな」「がな」「がも」等ハ、前ニ擧ゲタルガ如シ。其他、「あなや」「いざや」「いでや」「やよや」行けよや」いつそなも」見せむやな」老いにけるよな」常にもがもな」人にもがもや」かくるるまでにかへりみしはや」今更に雪降らめやも」ナド、擧グルニ勝ヘズ。

尋常ノ語モ、感情ニ發シテ、感動詞トナルヿアリ、「こは」「こはそも」「いかに」「こはいかに」「さても」ノ如シ。

○「行かむや」見むや」ノ類ノ「むや」ヲ、從來、別ニ一語トセリ、サレド、「行かむ」見む」ハ、接續法ノ將然ニシテ、其間ニ、「よからむ」ナドイフ意ヲ略シテ、希望ノ意ハ、其略セル語ニアルナルベシ、因テ、本篇ニハ、やノ條ニ收メタリ。　又、「おとらましやは」來べき春かは」ナドノ「やは」「かは」ヲモ、一語トセルガ多ケレド、是等ノや、かハ、疑ノ意ノ天爾波ノや、かニテ、其下ノは、もノ方ニ、反語トナル意アルモノナラム、又、「ひとりかも寐む」出でし月かも」ナドノかもモ、疑ノかニテ、もニ感情アルナリ、因テ、是等モ、皆、は、もノ條ニ入レタリ。

○副詞ノな、天爾波ノが、な、は、も、や、か等ニ、感動詞ト同形ノモノアリテ、動モスレバ混淆ス、注意スベシ。

○

○此篇ニ感動詞トイフモノ、從來ノ語學書ニハ、「詠歎ノ詞」或ハ「ながめ」ナド稱シテ、スベテ、天爾波ノ中ニアリ、サレド、別ニ自ラ一類ノ語ナレバ、此ニ集メテ、一門ニ

立テタリ。

○洋文典ノ譯語ニ、歎息詞、(Exclamation.) 或ハ、間投詞、(Interjection.) ナドイフモノ、即チ感動詞ナリ。其間投トイフハ、言語ノ間、所在ニ投ゲ入ルベキモノナレバナリ。(投間詞ナルベシ) サルニ、我ガ感動詞ハ、言語ノ上ニ居リ、中ニ入リ、下ニ添フナド、其用法ニ、各、規定アリテ、而シテ、他語ニ移動ヲ及ボスコトモ少カラズ、宜シク慣用ノ法ニ從フベシ、妄リニスベキニアラズ。

枕詞

枕詞ハ、言語ヲ一種異樣ニ用ヰルモノニシテ、其用法ハ、某ノ語ヲ言ヒ出デムトスル時、他ノ某ノ語ヲ冠セシムルモノナリ。例ヘバ、山、引く、黒き、ナドイフ語ヲ言出ヅル時、其上ニ、「足引の山」梓弓引く」ぬばたまの黒き」ナド置クガ如シ。

枕詞ハ、古代ノ用語ニシテ、其用ハ、專ラ歌ノ口調ノ足ラザルヲトトノヘムトスルニ起リテ、且ハ、言辭ヲ飾ルモノナリト云フ。然レドモ、諸ノ言語、皆、枕詞ヲ冠セシムベキニアラズ、諸ノ言語、皆、枕詞トシテ用ヰルベキニアラズ、某ノ語ニハ、某ノ語ヲ冠スト、自ラ局レル所アリ、「足引のトイフ枕詞ハ、山トイフ語ニ用ヰ、ぬばたまのトイフ枕詞ハ黒きトイフ語ニ用ヰルナドニテ、其所用モ、唯、其冠スベキ語ニ係ルノミ、他語ニハ關セズ、又、之ヲ用ヰルト用ヰザルトハ、其塲合ニ因ルノミニシテ、一定ノ則アラズ。而シテ、古代ノ用語ナルガ故ニ、其意義詳ナラザルモノモ多シ。

枕詞ノ意義ハ、解スベキト、解スベカラザルトアリ、「高光る日」天飛ぶや雁」刈菰の亂る」梓弓引く」玉櫛笥開く」菅の根の長き」ナドハ、其意義知ラルベシトイヘドモ、「久方の天」玉鉾の道」足引の山」百敷の大宮」ナドハ、強ヒテ解キタルモアレド、諸説區區ニシテ、到底、定メ難ク辨ヘ難シ、サレバ、深ク意義ヲ求メズシテ、唯、某ノ枕詞ハ、某ノ語ニ用ヰルモノトノミ知リテ、先ヅハ事足リヌベシ。

枕詞ハ、多クハ、上古ノ用ヰニ出デテ、降リテモ、奈良ノ朝ノ頃ニ、言ヒ出デタリト見ユルモ少シ。今ニ傳ハレルモノ、其數、數百アリ、而シテ、今世ニ在リテモ、和歌ニハ、專ラ之ヲ用ヰレドモ、文章ニハ、其體ノ古キモノニノミ用ヰル。

○枕詞ヲ冠スルハ、名詞、動詞、形容詞、副詞ニ限ルガ如シ。名詞ニ係ルモノハ、「久方の天」あらがねの土」たらちねの母」ちはやぶる神」百敷の大宮」玉鉾の道」あらたまの年」ノ如シ。動詞ニ係ルモノハ、「天雲のたゆたふ」刈菰の亂るる」篠の目の忍ぶ」梓弓引く」玉櫛笥開く」ノ如シ。形容詞ニ係ルモノハ、「ぬばたまの黒き」眞木柱太き」菅の根の長き」ノ如シ。副詞ニ係ルモノハ、「しののめのほがらほがらと」つがの木のいやつぎつぎ」ノ如シ。又、數語ニ通用スルアリ、梓弓ハ、引く、張る、射る、本、末、等ニ用ヰ、十寸鏡ハ、照る、磨く、清き、等ニ用ヰ、玉櫛笥ハ、開く、蓋、奥、等ニ用ヰルガ如シ。又、地名ニ係ルモノハ、「空見つ大和」鷄が鳴く東」細波や滋賀」神風の伊勢」あをによし奈良」ノ如シ、此類、尚、多シ。

○枕詞ハ、一語、五音ノモノ、最モ多ク、上ニ列擧セルモノニ就キテ知ルベシ、希ニハ、三音、四音、又ハ、六音ノモノアリ。三音ナルハ、「千葉の葛野」ナドナリ、四音ナルハ、「空見つ大和」押照る難波」不知火筑紫」新治筑波」春日のかすが」名細し吉野」ナド、尚、アリ。六音ナルハ、「木の暮闇卯月」牡牛の三宅」櫂の音のつばらつばらに」ノ如シ。

かきくらし雨ふる川」みなと入りの蘆分小舟さはり多み」波間より見ゆる小島のはまひさ木久しくなりぬ」足引の山鳥の尾のしだり尾の長長し夜」ナド、十餘音ニモ餘レルヲモ、枕詞トスル説モアレド、是等ハ、詩ニ謂ハユル興比ノ體ニテ、枕詞ニハアラジ。又、「吾妹子に、衣かすがのよしき川、よしもあらぬか、妹が目を見む」是等モ、「吾妹子」ヲ枕詞ナリトイヒ、或ハ、「吾妹子ニ衣」マデヲ枕詞ナリトモイヘド、然ルトキハ、「よしき川」ヲモ、「よしもあらぬ」ノ枕詞トセズハアルベカラズ、是等

モ、與、或ハ、言掛ケナルベシ。

○枕詞ヲ畧シテ用ヰルコトアリ、「久方の（天ノ）星」ぬばたまの（黑キ）夜」足引の（山ノ）木ノ間」足引の（山ノ）嵐吹く夜」ノ如シ。　又、「たらちねの母」百敷の大宮」ナルヲ、「たらちねは、かかれとてしも」百敷や古き軒端」ナド、其枕詞ヲ、直ニ母大宮トシテ用ヰタルモアリ、是等、枕詞ヲ久シク言ヒ馴レテ、終ニハ直ニ其下ノ語ニ代ヘ用ヰルニ至レルナリ、「春日のかすが」飛鳥の明日香」ナルヲ、枕詞ノ字ヲ取リテ、直ニ春日、飛鳥ト讀ムニ至レルモ、是レナリ。

○又、語路ニ因リテ、他語ニ移スコトアリ、「天飛ぶや輕の路」ハ、雁ヲ輕ニ轉ジ、「梓弓入る」ハ、射るヲ入るニ轉ジ、「津の國の何は思はず」ハ、難波ヲ何はニ轉ジ、「山城の常は相見む」ハ、鳥羽ヲ常ニ轉ジ、「陸奥の忍ぶ」ハ、信夫ヲ忍ぶニ轉ズルガ如シ。

○又、語、句、ヲ隔テテ用ヰタルアリ、「ぬばたまの、甲斐の黑駒」梓弓、おして春雨、今日降りぬ」朝開き、入江艚ぐなる檝の音の」足引のやの傍山」ノ如シ。

○縣居ノ翁ノ冠辭考ニ云、こを、或人は、「まくら詞」といへるを、荷田大人は、「かうむりことば」といひつ、實に、枕詞とては、古きみやび言とも聞えず、（畧）物を上に置くことを、冠らすといふも、古へ今に通れる語なれど、これによれり、（畧）公望が日本紀私記に、かの「いまくはし」ちはやぶる」などやうのことをなむ、發語と書て侍り、されば、枕詞てふ語は、延喜承平などの御時までもなくて、後にいひ出でしなりけり、源氏の物語に、「云云の事を枕ごととして」と書けるは、古ことを稱もて、今の思ひをいふ故の語なり、此冠辭は、こを本として、下の意をいふにあらず、ただ、歌の調べのたらぬをととのへるより起りて、かたへは、詞を飾るものにて、いはれ異なり、かの「枕さうし」歌枕」などいふを思へば、その頭にいへりしなり。（下畧）

○枕詞ノ用法ハ、實ニ國語ニ特別ナルモノニテ、名詞、動詞、形容詞、副詞、等、其冠スベキ語モ、種種ニシテ、其所用モ、唯、其冠スル語ニノミ係リテ、他語ニ係ラズ、故ニ、文章上、言類ノ分解（Parsing.）ニ當リテハ、二語ヲ一熟語ト見テ解クベキモノトスベシ。

接頭語　發語

接頭語（Prefix.）ハ、常ニ他語ノ頭ニ接キテ、熟語トナリテ、其意義ヲ添フル語ナリ、サレバ、固ヨリ獨立ニハ用ヰラレズ。　接頭語ノ數、甚ダ多カラズ、又、一定ノ慣用法アリテ、何レノ語、皆、冠ラスベキニアラズ。　今、左ニ、其著キモノヲ擧ゲテ、其用例ノ一斑ヲ示サム。

「初春」初花」初音」初穗」　「初事」初冠」初學」初立つ」　「新参り」新枕」新墾」　「小車」小舟」小川」小篠」小止む」小暗し」　「小家」小松」小路」小暗し」小高し」　「御代」御位」御心」御燈」（大御、御、御）　「眞心」眞白」眞直中」　「素腹」素肌」素顏」　「生絹」生紙」生藥」　「僻目」僻事」僻讀ミ」　「曲者」曲舞」曲事」　「えせ者」えせ車」えせ法師」　「幾年」幾世」幾久し」　「異國」異人」　「諸手」諸人」諸聲」　「彌增す」彌遠し」彌高し」　「逸先」逸早し」　「ほの見ゆ」ほの聞ゆ」ほの暗し」　「屢たたく」屢吹く」ナドナリ。

○漢語ノ「不義」不本意」無位」無慈悲」第一」第二」當年」當代」數人」數年」諸事」諸書」衆人」衆僧」ナドモ、接頭語ナリ。

發語　某語ヲ言ハムトスルトキ、首ニ加ヘテ發スル聲ナリ。　其聲、皆、一音ニシテ、大抵ハ、意義無ク、或ハ、稍、其下ノ語意ヲ強クスルガ如キモノアリ。　而シテ、其用例、亦、局レル所アリ、左ニ、其著キモノヲ示ス。

「さ夜」さ衣」さ男鹿」さ渡る」さ迷ふ」

「み吉野」み熊野」み山」み空」み雪」み坂」み岬」

「を簾」を田」を野」

「け劣る」「け亮ぐ」「け壓る」「け短し」「け長し」「け近し」「け恐し」「け疎し」
「い行く」「い向ふ」「い座す」「い渡る」「い通ふ」「い觸る」
「た忘る」「た比ぶ」「た謀る」「た走る」「た徘徊る」「た靡く」「た弱し」「た易し」「た遠し」
「か易し」「か弱し」「か黒し」「か細し」

接尾語

接尾語（Suffix.）ハ、常ニ他語ノ尾ニ接キテ熟語トナルモノニテ、他語ヲ名詞トスルアリ、動詞トスルアリ、形容詞トスルアリ、副詞トスルアリ、而シテ、亦、漫用スベカラズ、スベテ、慣用ノ例ニ據ルベシ。

○他語ニ接キテ、名詞トスルモノハ、

ども（共）物事ノ數アルヲ總ベテイフ。次ノ二語モ同ジ。「物ども」「事ども」「調度ども」「馬ども」「舟ども」「男ども」
たち（達）專ラ人ニイフ。「皇子たち」「親たち」「大臣たち」「公だち」「友だち」
ばら（儕）亦、人ニイフ。「殿ばら」「法師ばら」「女ばら」「奴ばら」
ごち　互ニ夥伴ナル意ヲイフ、（俗ノどしハ、此轉ナリ）「友ごち」「女ごち」「我れごち」「思ひごち」「思ふごち」「思はむごち」「若きごち」「年歷ぬるごち」「さるべきごち」「さるまじきごち」（千代ノごち）
ら（等）「我ら」「汝ら」「是ら」「夫ら」「少女ら」「成信重家ら、出家し侍りける比」
など　「月花などのながめは貴き賤しきなど、さまざまにて」「院の御さゞきより、千賀の鹽釜などやうの御消息、をかしき物など、持てまゐりかよひたるなども、めでたし」（枕草子）

○此語ハ、名詞ト合シテ、下ニのなも等ヲ履ムコト、他語ヲ副詞トスルなど（後ニ擧グ）ハ、直ニ動詞ニ係ルト異ナリ。又、「あど思ふらむ」ナドノなどハ、眞ノ副詞ナリ、混ズベカラズ。

以上二語ハ、物事ノ數アルヲ示シ、而シテ、其數ノ限リヲ列ネタルニモイヒ、（內等）其外ニモアルヲ畧スルニモイフ。（外等）

げ（氣）以下三語、皆、事物ノ形狀、情態ヲイフ。「人げ」「外げ」「心ありげ」「物思ひげ」「思はずげ」「惡げ」「重げ」「惜しげ」
さ（狀）「遠さ」「深さ」「善さ」「惡しさ」「悲しさ」「嬉しさ」「逢ふさ」「離るさ」「行くさ」「來さ」「歸るさ」「入るさ」
み　「深み」「高み」「青み」「赤み」「重み」「輕み」「無み」

○此ノさトみトニ就キテハ、形容詞ノ語根ノ條ニモ說ケルコトアリ、倂、其條ヲ見ヨ。

か（日）日ヲ數フルニイフ。「二か」「五か」「二十か」「三十か」「五十か」「百か」「幾か」
べ（邊）邊ヲイフ。「山べ」「川べ」「磯べ」
べ（部）群ヲイフ。「忌べ」「物のべ」「下べ」
へ（方）方角ヲイフ。「後へ」「行へ」「片へ」
へ（重）重ヲイフ。「三へ」「十へ」「二十へ」「千へ」「幾へ」
わ（曲）隱リタル所ヲイフ。「浦わ」「川わ」「外わ」「內わ」「郭わ」
り　なり（人）人ヲ數フルニイフ。「一り」「二り」「三たり」「四たり」「幾たり」
て（人）人ヲイフ。「射て」「讀みて」「爲て」

○漢語ノ「何輩」「何等」「一箇」「二號」「三番」「四荷」「五匹」「六枚」「七帖」「八束」「九段」「十通」ナド用ヰルモノ、皆、是レナル

ベシ。

○他語ニ接キテ、動詞、又ハ、形容詞トスルモノハ、

めく　自動詞トシテ、「その如くなる」ナドイフ意ヲナス、變化ハ、規則第一類ナリ。「今めく」「時めく」「春めく」「唐めく」「物化めく」「山里めく」「時雨めく」「ほのめく」

めかす　めくノ他動ナリ、變化ハ、規則動詞ノ第一類ナリ。「今めかす」「時めかす」「色めかす」「物めかす」「ほのめかす」

ばむ　「狀態のそれとあらはるる」意ヲイフ、自動ニテ、規則動詞ノ第一類變化トナル。「心ばむ」「けさうばむ」「老いばむ」「けしきばむ」「枯ればむ」「由ばむ」

がる　「と思ふ」ナドノ意ヲナス、自動詞、規則第一類ノ變化ナリ。「嬉しがる」「ゆかしがる」「悲しがる」「賢がる」「寒がる」「あはれがる」「艶がる」「情がる」「懇がる」

ぶ　自動ニテ、「その如くにてあり」ナドノ意ヲナス、變化ハ、規則動詞第三類ナリ。「大人ぶ」「古ぶ」「田舍ぶ」「鄙ぶ」「都びて」「翁びて」「けさうびて」「尋常びたり」「ことさらびたる」

がまし　形容詞第二類ノ變化トナリテ、「の如し」に似る嫌ひあり」ナドノ意ヲイフ。「隔てがまし」「かごとがまし」「烏滸がまし」「散樂がまし」

○其他、尙、アルベシ、希フノ意ノ「行キたし」「見たし」（形容詞第一類變化）其狀ナル意ヲイフ「男らし」「女らし」（同第二類）其風スル意ノ「學者ぶる」「利口ぶる」（規則第一類）ノたしらしぶるナドモ、是レナリ。

○他語ニ接キテ、副詞トスルモノハ、

がてら　語原ハ「糅テ雜フル」ノ意、事ノ彼此ニ渉ル意ヲ示ス。「秋の野も見給ひがてら、雲林院に詣で給へり」けしきも見がてら、雪を打拂ひつつ」「山川を、導しがてら、まづや渡らむ」「脱ぎかへがてら、夜こそは着め」かさみがてらに、着なむとぞ思ふ」我宿の、花見がてらに、來る人は」「御子日がてら、まゐり給へかし」

ながら　語原ハ、「長ら」ニテ、延ブル意アルベシ。

○「そのまま」「それながら」ノ意ナルハ、「一年を、春ながらにも、暮れななむ」「昔しながらの、山櫻哉」ここながら、かしづきすゑて」御簾の内ながら、宣ふ」御子ども、六人ながら、引連れて」「枝ながら、見よ」

○「なれども」（乍）ノ意ナルハ、「我心ながら、かかる筋におほけなく」心ながら、胸いたく」身ながら、心にえまかせまじくなむ」身の程にもあらずながら」春ながら、雪ぞ降りつつ」さりながら」思ひながら」ゆかしながら」

○「つつ」又ハ、「且」ナドノ意ヲナスハ、「歩みながら見ル」讀みながら考フ」

がてに　「難氣に」ノ約マレルニテ、事ノ成リ難クアル意ヲ示ス。「白露の、溜ればがてに、秋風ぞ吹く」泡雪の、溜ればがてに、碎けつつ」などか我身の、出でがてにする」時鳥、我宿をしも、過ぎがてに啼く」行きがてにのみ、などかなるらむ」歸りがてにして、別れを惜む」

ばかり（許）「計」ノ義ニテ、程限ヲイフ。（第一類天爾波ニ同語アレド、用法異ナリ）

○程ノ意ナルハ、「ひえの山を、はたちばかり、重ねあげたらむ程して」我ばかり、物思ふ人は、またもあらじ」我ばかり、我を思はむ、人もがな」あかつきばかり、憂きものはなし」櫻ばかりの、花無かりけり」三年ばかり歷て」いかばかり」「人に思はればかり、めでたき事はあらじ」泣きぬばかり言へば」よるべとすばかりに」死ぬばかりなる」死ぬるばかりに」人目に見ゆるばかりに」　動詞、助動詞、ノ第一變化、第二變化、何レニモ連續ス。

○頃ノ意ナルハ、「宵打過ぎて、子の時ばかりに」今宵ばかりや、と待ちけるさまなり」その日ばかりに、御迎へにまゐり來

む」八月十五日ばかりの月に」入相ばかり」何時ばかり」

から 「故ニ」ノ意ナリ、古言、故ノ轉ナラム。（よりノ意ノからト異ナリ）「いとふびんなる人から、仲忠の朝臣とひとしくなむ、形心身のさえ侍り」（うつぼ）「聞き馴れ侍りける耳からにや、をしむから、戀しきものを」吹くからに、なべて草木のしをるれば」相見むからに」取りしからに」さるからに」

ごとに（毎）語原ハ「異に」ノ意カ、物事ノ、各、然ル意ヲ示ス。「春ごとに咲く」咲くごとに見る」人ごとに言ふ」年ごとに」日ごとに」

づつ（宛）一箇二箇ノ箇ヲ重ネタル語ナラム、各、宛ノ意ヲ示ス。「とりのこを、十づつ十ハ、重ぬとも」袈裟、衣、など、すべてひとくだりの程づつ、ある限りの大とこたちに賜ふ」下もみぢ、一葉づつ散る、木のもとに」かくしづつ、見るに」少しづつ語り聞えたまふに」

ままに 打任スル意ヲ示ス。「任ニ」ヲ重用シテ約メタル語ナレド、別ニ一種ノ用法ヲナス。「秋霧の、晴るるままに、見渡せば」聲のままに、尋ぬるを」語るままに聞く」欲しきままに取る」山風の吹きのままに」

など（抔）「何と」ノ中畧ナラム、一ニ定メズ、大畧ヲ指シ示ス意ノモノナリ。（他語ヲ名詞トスルなどハ、前ニ擧ゲタリ）「何事ぞなど問フ」行くべしなど言ふ」悲しなど言むかなし」馬になど乘りて」

がり（許）「の許に」ノ意ナリ。「文ハ、大輔がり遣れ、と宣ふ」紀の有恒がり行きたるに」若草の、つまがりこそ」妹がり行けば」供の者具して、國司のがり向ひぬ」女のがり行きて」撫子を人のがりつかはしける」（伊豆の守の女にて居たりけるがりに、文やる」故左衞門がりも、後に物などつかはしたれば）

すがら 「盡ルマデ」ノ意ナリ。「夜すがら、いねず」春の日すがら、またぞ忘れぬ」夜もすがら眠らず」夜をすがらに、起き居つつ」秋の夜を、聲もすがらに、あくる松蟲）

すがら 「ながら」ノ意ナリ。（直從ノ約カ）「行くすがら、心もゆかず」秋霧の、立ちぬるすがら心あてに」路すがら」身すがら」佩せる太刀すがら」

○以上、其著キモノナリ。又「夜ノ明クルころ、起キ出デテ」元祿十年ごろ起リタル」老ユルほど壯ナリ」牛ほど大ナル」足ルくらゐ取ル」馬ぐらゐ捷シ」出來タルだけ送ル」是レだけアル」ナド用ヰル頃、程、位、丈モ、是レナリ。

○「明に」靜に」誠に」常に」丁寧に」心切に」頻りに」盛りに」案ずるに」或ハ「はらはらと」ほとほとと」ナド、副詞ノ語末ニ用ヰルに又ハとモ、接尾語ナルベシ。

○右ニイヘル他語ヲ副詞トスル接尾語ノがてら、ながら、から、ばかり等ハ、天爾遠波ノから、だに、さへ、のみ、ばかりナドト、同趣ノモノナルガ如ク見ユレド、用法異ナリ、委シクハ、前ノ天爾遠波ノ條末ニ辨ジオケリ。

○

右、語法指南ハ、日本文典中ノ、此辭書ヲ使用セムニ、要アリト思ハルル所ノミヲ摘錄シタルモノナリ。サレバ、若シ、コレヲ一部ノ文典ト認ムルヿモアラバ、必ズ、事足ラズ思フ所モアラム、唯、善ク摘錄ナルヿヲ察スベシ。但シ、始衷終、條條ノ敍述ニ於テ、詳畧、釣合ハヌガ如ク見ユル所モアレド、助動詞、天爾遠波等ニ至リテハ、頗ル錯雜セルモノナレバ、敍述モ亦簡ナルヿ能ハズ、言フベキホドノ事ハ、言ハザルヲ得ザルニ因レリ、又此意ヲモ諒セヨ。

（完）

凡例

(一)此篇ニハ、古言、今言、雅言、俗言、方言、訛言、其他、漢語ヲ初トシテ、諸外國語モ、入リテ通用語トナレルハ、皆收メタリ、然レドモ、甚シキ古言ハ、漏ラセルモアリ、且、漢語ハ、普通和文ニ上ルモノヲ限リトセリ、方言ハ、大抵、東西兩京ノモノヲ取リテ、諸國邊土ノ言ハ、闕漏ラセルモ多シ、

(二)篇中、高尙ナル學術ノ專門語、又ハ、地名、人名、等ノ固有名稱ハ取ラズ、但シ、固有名ナレドモ、神佛ノ名、禁闕、宮殿ノ稱、官署ノ號、其他、器物ノ名等ノ、常ニ書册ニ見ハルルガ如キハ取レリ、

(三)熟語ハ、熟シテ別ニ一義ヲ起スモノヲ取レリ、あかがひ、(赤貝)いしばひ、(石灰)やまどり、(山鳥)ノ如シ、而シテ、まつやま、(松山)すぎばやし、(杉林)はるかぜ、(春風)くろくも、(黒雲)ナドハ收メズ、語毎ニ解スベケレバナリ、漢語、外國語ナルモ然リ、

(四)從來ノ辭書ニハ、語ト句トノ別ナク、あしのうら、(足之裏)あふぎのぢがみ、(扇之地紙)ナドヲモ出ダシタレド、是等ハ、自ラ三語ナルベク、其語ヲ各條ニ就テ見バ解セラルベシ、サレバ、此類一切除ケリ、但シ、句ノ如クニテ句ナラズ、一熟語トナリテ、別ニ一義ヲ成セルモノハ、如何ニ長クトモ、皆擧ゲタリ、あまのがは、(天河)よめがさら、(介名)きつね

の-かみそり、(草名)たひ-の-むこ-げんぱち、(魚名)けくに-ものまうす-まうちぎみ、(申食國政大夫)ノ如シ、其長キハ、りゆうぐう-の-おとひめ-の-もとゆひ-の-きりはづし、(海藻名)ヲ極トス、

(五)動詞ノ熟語モ、別ニ一意ヲ成セルヲ取レリ、こころ-う、(心得)おち-いる、(落入)こころ-みる(心見)さか-のぼる、(逆上)ノ如シ、而シテ、あゆみ-ゆく、(歩行)よみ-をはる、(讀了)かき-しるす、(書記)うち-ならす、(擊鳴)ナドハ收メズ、箇箇ニ意ノ解セラルベケレバナリ、

(六)名詞又ハ漢語ニ、す(爲)トイフ動詞ヲ添ヘテ、しをり-す、(栞)しるべ-す、(導)ぎろん-す、(議論)くふう-す、(工夫)ナドト用ヰルヿアリ、是等、一箇ノ動詞ノ如クナレドモ、斯クナサバ、諸ノ名詞、漢語、皆、動詞トナルベキヲ以テ、今ハスベテ擧ゲズ、「しをりヲす、」ぎろんヲす、」ト箇箇ニ解スベキナリ、但シ、つみ-す、(罪)もの-す、(物)なみ-す、(無)けみ-す、(撿)げ-す、(解)かん-ず、(感)おく-す、(臆)ぐ-す、(具)こう-ず、(困)ノ如キハ、善ク熟シテ一語ノ如クナリタレバ、擧ゲタリ、

(七)同語ナレドモ、其意義甚シク變ジテ、別語ノ如クナレルハ、別條ニ擧ゲタルモアリ、例ヘバ、鐘モ、鉦モ、金ト同語ナレド、五金ノ總名ト、つりがねト、たたきがねトハ、義甚ダ同ジカラズ、又「合フ」ト「逢フ」トハ、同語ナルベケレド、一ハ「共ニナル」意ニテ、一ハ「相見ル」意トナル、此類ハ、皆、別條トシテ掲ゲタリ、

(八)不可思議、以心傳心、旁若無人、老少不定ノ類ハ、句ナレドモ、毎ニ音讀シテ通用シ、普通

辭書ニ收ムベキモノナルガ如シ、因テ句トシテ出セリ、

(九)和語、漢語、諸外國語ノ別ナク、スベテ、假名ニテ記シテ擧ゲタリ、其音ノ順序ニ據リテ探グルニ便ニセムトテナリ、而シテ、其頭字ヲ、五十音ノ順ニテ列ネ、其第二字、第三字第四五字以下モ、スベテ五十音順ニテ列ネタリ、

(十)也行ノい、えト、和行ノうトハ、阿行ノい、う、えト、形同ジクシテ別チ難ケレバ、スベテ阿行ノ中ニ收メタリ、故ニ、おゆ、(老)つひゆ、(費)ノゆハ、也行ノ順ニ居テ、おい、(老)つひえ、(費)ノい、えハ、阿行ノ順ニ入リ、うう、(植)すう、(居)ノうハ、阿行ノ列ニアリテ、うゑ、(植)すゑ、(居)ノゑハ、和行ノ列ニ入レリ、

(十一)濁音、半濁音ハ、スベテ其清音ノ次ニ列ネタリ、

(十二)鼻聲ノんト、促聲ノつトハ、常ノ音ナルむ又ハつト、固ヨリ異ナルモノナレバ區別セリ、サレド五十音外ノ假名ニテ、其順序ノ定ムベキナシ、因テ、今ハ、舊慣ニ隨ヒテ、んヲむノ次ニ列ネ、促聲ノつヲ常ノつノ次ニ置ケリ、索引ニモ自ラ便ナルベシ、

(十三)い、ゐ、ひ、　え、ゑ、へ、　お、を、ほ、　わ、は、　う、ふ、　じ、ぢ、　ず、づ、等ノ別、其他、あふぎ、(扇)おふし、(啞)をうな、(女)さふらふ、(候)たふる、(倒)たふとし、(貴)けふ、(今日)てうづ、(手水)めうが、(蘘荷)等ノ假名遣、スベテ區別セリ、委シクハ、後ノ索引指南ニ擧ゲタルヲ見ヨ、

(十四) 俗言、方言等ニハ、語原詳ナラズシテ、假名遣ノ確定シガタキモ、稀ニハアリ、げぢげぢ(蚰蜒)どぢやう(泥鰌)ノぢ、ぢやノ如シ、サル語ハ、假定シテ擧ゲテ、其由ヲ記シ置ケリ、

(十五) はゞき、(脛)かはぼり、(蝙蝠)かはほね、(骨蓬)ハ、今世、音便ニ唱フルヨリ考フレバ、甚ダ異ナル、ヲ覺ユ、因テ、まをす(申)ヲまうすトスル例ニ傚ヒテ、姑クはうき、かうもり、かうほねトシテモアゲタリ、

(十六) 洋語ノ「ウニコオル」(一角)「メエトル」(佛尺)「フウト」(英尺)ノ如キハ、「ウニコール」「メートル」「フート」ト、擧グベキガ如シ、然レドモ、五十音外ノ音符アリテハ、假名ノ索引順序ヲ定ムルニ困ム、因テ、今ハ、假名ニ記セリ、

(十七) 音便ニテ撥ヌル音ハ、皆んト記セリ、つきさくノつんざくトナリ、あきうどノあきんどトナリ、みなみノみんなみトナリ、わらはべノわらんべトナレル類ナリ、而シテ、ゆきけむ、ゆくらむナドハ、むトセリ、けめ、らめトモ變化スレバナリ、

(十八) 漢字音ニ就キテハ、阿行ノい、う、えト、也行ノい、えト、和行ノうトノ別、判然タリ、卽チ、伊、因、郁、(阿行)以、胤、育、(也行)有、(阿行)宇、(和行)衣、英、焉、謁、(阿行)延、營、緣、悅、(也行)等ノ如シ、然レドモ、假名ノ形別チ難ケレバ、今ハ、皆、阿行ノ中ニ混ジ入レタリ、サレド、和行ノ爲、院、域、惠、衞、遠、越等ハ、固ヨリ別テリ、但シ、烏、永、詠、榮、垣等ハ、姑ク舊慣ノ假名遣ニ因リテ、え、えい、えんト[illegible]モセリ、

(十九) 要、陽、雄、容ノ類ハ、スベテ約メテ要、陽、雄、容トセリ、

(二十) 歌、和、階、快、庚、光、隔、郭、葛、滑、感、觀等ノ直音、拗音(濁音ナルモ共ニ)ハ、固ヨリ別チタレドモ、下、化、減、源、決、月等ハ、皆、直音ニテげ、げん、げつトセリ、

(廿一) 陽、庚、青三韻ト、江、肴、豪ノ三韻ノ漢音(上聲去聲ノ同韻ノモノニ通ジテイヒ、濁音モ之ニ倣フ、下皆同ジ、)トニ屬スル字ノ初發ノ音ハ、スベテ、阿ノ段ノ音トセリ、卽チ、櫻、江、相、唐、囊、包、毛、陽、郎、黃、京、青、丁、評、明、兩、光等ノ如シ、

又、尤ノ韻ノ一部ナルハ、伊ノ段ノ音トセリ、尤、求、州、儔、柔、流等ノ如シ、

又、東ノ韻ノ一部ナルト、虞ノ韻ナルトハ、宇ノ段ノ音トセリ、隅、芻、通、風、雄、弓、終、中、隆ノ如シ、

又、蕭ノ韻ナルト、肴ノ韻ノ呉音ナルトハ、衣ノ段ノ音トセリ、遙、教、蕭、朝、饒、飄、猫、寮等ノ如シ、

又、東、冬、蒸ノ三韻ナルト、尤ノ韻ノ一部ナルト、江、豪ノ二韻ノ呉音ナルトハ、於ノ段ノ音トセリ、應、侯、宗、東、農、朋、蒙、容、樓、翁、興、承、寵、氷、龍等ノ如シ、

又、入聲ニテ、緝ノ韻ナルハ、伊ノ段ノ音トセリ、緝、急、集、蟄、入、立等ノ如シ、

葉ノ韻ナルハ、衣ノ段ノ音トセリ、葉、業、妾、蝶、獵等ノ如シ、合ノ韻ナルト、洽ノ韻ノ漢音ナルトハ、阿ノ段ノ音トセリ、押、洽、雜、塔、納、法、蠟等ノ如シ、又洽ノ韻ノ呉音ナルハ、於ノ段ノ音トセリ、劫、法ノ如シ、

(廿二) 芭蕉、紅梅、襖、發昭(紀長谷雄ノ名)等ノ蕉、紅、襖、昭ノ尾韻ヲをトスルコト、往往古書ニ見エタリ、此類、古代ノ用法トシテ擧ゲ、又別ニ、芭蕉、紅梅等ヲモ擧ゲタリ、

(廿三) 尚、水、追、回、遺、類等、宇ノ段ノ音ノ尾韻ハ、皆ゐトシ、其餘愛、海、才、體、快、永、計、世、亭、寧等ハ、皆いトセリ、

以上、スベテ漢字音ノ紛レ易キモノハ、後ノ索引指南ノ條ニ、類ヲ以テ集メテ示セリ、就キテ見ルベシ、

(廿四) 眞、文、元、寒、刪、先、(上聲、去聲、ノ同韻ノモノ、之ニ同ジ、)ノ六韻ニ屬スル字ノ尾韻ハ、舌內音ト稱シテ、皆ぬ或ハに、な、のナルヿ、讃岐、蘭、緣、錢、紫苑、信濃、近衛等ノ讃、緣、錢、苑、信、近ノ如シ、又侵、覃、鹽、咸(上聲、去聲、同ジ、)ノ四韻ナルハ、脣內音ト稱シテ、皆む或ハみナルコト、三郎、三位、陰陽師、燈心、汗袗等ノ三、陰、心、袗ノ如シ、然ルニ、今ノ世ニテハ、皆通ジテんトセリ、此篇モ、索引ニ便ナラシメムト、姑ク眞、文、侵、覃等トセリ、

(廿五) 漢語ヲ、漢音ニ讀ムアリ、呉音ニ讀ムアリ、此篇、一ニ習慣ニ從ヒテ擧ゲタリ、布衣、布衣、飲食、飲食、利益、利益、變化、變化、和解、和解、法體、法度等ノ如シ、

(廿六) 發音ノ假名ノ音ノママナルハ、別ニ標セズ、とらふ、(虎斑)そこひ、(內障眼)ノ如シ、轉呼シテ發音スルモノニハ、振假名ヲ付ク、とらふ、(捕)そこひ、(底)ノ如シ、其他、けふ、(今日)てうな、(手斧)ゐあひ、(居合)あふぎ、(扇)あふぐ、(仰)いはほ、(巖)あはひ、(間)くはへ、(加)はへ、(蠅)ノ如キ、皆、記セリ、あがなふ、(贖)いはふ、(祝)あらふ、(洗)ノな、はらハ、常ニの、お、ろノ如クモ發音スレド、尚、な、わらト發スル方俗ナルガ如クニテ、却テ正シクモアリ、又あがなひ、いはひ、あらひトイフ時ニモ通ハスベキナレバ、今ハ、皆、な、はらノママニセリ、

(廿七) 字音ノ發音モ、おう、をう、こう、とう、ゑよう、ちゆうノ如キハ附セズ、あふ、わう、くわう、きやう、げう、でうノ如キハ、皆附セリ、但シ、きう、ゑふ等ノき、ゑハ、きゆ、ゑゆノ如ク發音スレドモ、其音相近ケレバ、今ハ別ニ附セズ、(後ノ索引指南ヲ見ヨ、)

(廿八) 動詞、形容詞、助動詞ハ、皆其本體ナル直說法ニテ擧ゲテ、其下ニ、語尾ノ變化ヲ示セリ、例ヘバ、「ゆ●く●ク●ケ●カ●キ●ケ」た●つ●ツル●ツレ●テ●テ◎テヨ」あか●し●キ●ケレ●ク●ク」け●り●ル●レ」ノ如シ、其ノ片假名ナルハ語尾ニテ、●以下ハスベテ變化スルモノト知ルベシ、又一音ノ語ハ、全體ノ變化ヲ擧グ、「す●スル●スレ●セ●シ◎セヨ」ず●ヌ●子」き●シ◎シカ」ノ如シ、

(廿九) 動詞、形容詞、助動詞ハ、其本體ノミ擧ゲテ、其變化シタル語ヲ擧ゲザレバ、ゆくれア

リテ、ゆか、ゆけナドハ無ク、あかしハアレド、あかき、あかくナドハ無ク、けりハアレド、ける、けれナドハ無シ、況シテ、ゆかむ、ゆきぬ、ゆかる、ゆかずナドハ無シ、是等ノむ、ぬ、る、ずハ即チ助動詞ノ本體トシテ、別ニ擧ゲテアリ、但シ、動詞ノ名詞トナレルハ出ダセリ、おもひ、あぢはひ、かち、まけ、のぞみノ如シ、又形容詞ノ全ク副詞トナレルモ出ダセリ、まつたく、たやすく、いたく、よろしくノ如シ、又形容詞ノあかし、あかきを音便ニあかいトシ、あかくヲあかうスルナドトハ、固ヨリ一一擧ゲズ、唯變ジテ別ニ一義ヲナセルモノヲノミ擧ゲタリ、

一音ノ語ノ變化ハ紛ヒ易ケレバ、一一出セルモアリ、動詞ニテハ、「く」（來）ノ「くる、こ、き」ノ如ク、「う」（得）ノ「うる、え」ノ如ク、「ふ」（歷）ノ「ふる、へ」ノ如ク、助動詞ニテハ、「ず」（不）ノ「ぬ、ね」の如ク、「き」ノ「し」ノ如シ、

（三十）規則動詞第二類ニテ、「うく、うくる、うくれ、うけ、」（受）「やす、やする、やすれ、やせ、」（瘦）ナドヲ語尾ヲ變化スルモノヲ、口語ニテハ、「うける、うける、うけれ、うけ、」又ハ「やせる、やせる、やせれ、やせ、」トイフガ定マリナリ、サテ、此口調ニ從ヒテ出來レリト覺シキ「ける、けれ、け」（蹴）ヲ初メトシテ、後世ニ成レル「くける、くけれ、くけ、」（カガリテヌフ）「いせる、いせれ、いせ」（シワヨセテヌフ）ナドアリ、サルニ、今更ニ是等ノ語尾ヲ改メテ、くぐる、いする、ナドスベクモアラズ、而シテ、斯ク語尾ヲ變化スル語、今世普通ニ使用シテ、用アルモノ甚ダ多ケレバ、辭書ニ收メザルベカラズ、因テ、今ハ姑ク規則動詞第四類ノ變體トシテ、即チ、きる、きれ、き（著）にる、にれ、に（似）等ノ同類ニ收メタリ、コハ、韻ハ異ナレド、變化ノ狀ハ、全ク同ジケレバナリ、（此事、篇首ノ語法指南ノ動詞ノ變化ノ條ニモ說ケリ、就キテ見ルベシ、次項ノ事モ然リ）

（卅一）又、規則動詞ノ第三類ニテ、「おく、おくる、おくれ、おき、」（起）おつ、おつる、おつれ、おち、」（落）ナドト變化スル動詞ヲモ、口語ニテハ、「おきる、おきる、おきれ、おき、」又ハ、「おちる、おちる、おちれ、おち、」トイヘリ、此口調ニ從ヒテ後世ニ成レル「かうどる、かうどれ、かうど」（揩長）たいぢる、たいぢれ、たいぢ」（退治）ナドアリ、是等モ、省キガタキガ多ク、又、かうずる、たいづるナド改ムベクモアラズ、因テ、此類ハ、皆、規則動詞第四類、即チ、きる、きれ、き（著）ゐる、ゐれ、ゐ（居）等ノ同類トセリ、韻モ、變化ノ則モ、全ク相同ジケレバナリ、

（卅二）きたる（來）トイフ動詞ハ、來ト有リトノ約マレルナルベク、而シテ、ソノありハ不規則動詞ナレバ、ソレト同ジク、きたりヲ本體トスベキナレド、今ハ變ジテ、きたるヲ本體トスルガ故ニ、規則動詞ニ改メタリ、又、かをる（薫）おざる（御座）モ、其原ハ、かをり（香居）おざあり（御座有）ニテ、不規則動詞ナレド、今ハ變ジテ、規則動詞トナレルヿ、正ニきたる

ニ同ジ、　又、かもす(醸)ノかもハ、かむ(醸)ノ名詞法ナルかみノ轉ナレバ、其變化ハ、する、すれ、せ、し、トナルベキ規定ナレド、變ジテす、せ、さ、し、ノ變化トナレリ、　又、おる(降)ハ、るる、るれ、り、ノ變化ナレド、あま(天)ト約マリテ、あもる(天降)トナル𪜈ハ、る、れ、ら、り、ノ變化トナリ、又、いなす(令往)ハ、いぬ(往)ノ第四變化ノいなニ、助動詞ノすノ添ハリタルニテ、其變化ハ、する、すれ、せ、トナルベキニ、變ジテす、せ、さ、し、ノ變化トナレリ、　又、でく(出來)ハ、いで(出)く(來)ノ約マレルニテ、くハ、不規則動詞、くる、くれ、こ、き、ノ變化ナレド、(でこむ、でこず、トハナラズ)くる、くれ、き、ノ變化トナレリ、　此類、尚多シ、皆、其變ジタル方ニ收メタリ、

(卅三)　形容詞ノおほきし(大)すむやけし(速)ノ語尾ノ變化ニ異ナルヿアリ、篇首ノ語法指南ノ形容詞ノ條ヲ見ヨ、(すこし(少)トイフ語モ然リ)

(卅四)　もちゐる(用)トイフ動詞ハ、もち(持)ゐる(以)トノ熟語ナルヿ、疑フベクモアラズ、サレバ、此書ニハ、其語尾ノ變化ヲ、ゐる、ゐれ、ゐ(規則動詞第四類)ノ方ニ定メタリ、抑モ、此語ノ語尾ニ就キテハ、語學家ノ間ニ、異説紛紛タレバ、今、煩ヲ憚ラズ、左ニ衆説ヲ擧ゲテ、其考據ヲ述ブベシ、

「和字正濫鈔」二ノ廿四　用　もちゐ　此假名、いまだ慥なる證を勘がへず、常ニ、かやうにかけり、是正字ならば、はたらく時、もちうといふべし、ゐとう、五音の故なり、もちゆとはいふべからず、ゆはいと通ず、○「和訓栞」前編　もちゐ　用をよめり、以將の義なるべし、もちうともいへり、以を實語に用ゐたるは、論語の「不㆑使㆔大臣怨㆓乎不㆑以㆒」の如き是也、一説ニ、藤原經衡集ニ、宇治殿にて、もちひをおこすとて、「さかなには、何もあれども、此中に、心につかば、是をもちひよ」返しにも、「心もちひ」とよみ入たり、されば、もちひ　もちう　のかななるべし、ともいへり、○「古言梯」　もちゐ　もちう　此假字見えず、しばらく是による、　村田春海云、もちひは、後頼の歌に、「我をもちひのます鏡」と、餅にいひかけたるに、しばらくよりてあるべし、ゐの假字とせんは、據なき説なり、○「古事記傳」十七ノ四　用の假字は、源仲正家集に、元日戀、「千代までも、影をならべて、逢見んと、祝ふ鏡の、用ひざらめや」(夫木集、三十二に載れり、又、後なれど、藤原經衡家集にも、此同ジ人、宇治殿にて、餅をおこすとて、「肴には、何もあれども、此中に、心につかば、是を用ひよ」かへし、「君が代を、心用ひの、うれしきは、いかなる人の、なさけなるらん」)と餅に云かけたるに依て定めつ、(仲正は、後撰集の作者なれば、いまだ假字の亂れざりしほどなり、もちひ　もちふ　もちふると活用く言にて、戀強などと同格の活き也、)○「山口栞」中ノ四十一　もちふといふ詞の活きさま、又そのかなの事、世の人、さまざまにさだめこしを、古事記傳十七卷ニ、源仲正の歌を引證しての明辨出てより、誰も、さぞと志れるなるべし、(後頼朝臣の歌にも、「けふよりは、われをもちひの、ます鏡、うれしきかげを、うつしてぞみる、」とあれど　記傳の考、いよいよ信從すべし、)たゞし、閑居友ニ、「ふつにもちゐることなかれ、とは、いましめ玉はず、」とある如く、かの吉水僧正の比は、これを和行一段の活の格につかひしならんと、かつはおもひよりて、猶考ふれば、尙ふるくよりもしか活かせるためしありき、蜻蛉日記に、「夢をも、佛をも、もちゐるべしや、もちゐるまじや、」とあるをみるに、べしといふ辭、まじといふてにをはへ、ゐ文じよりかゝれるは、必一段の活き言なる例なり、かくて、おもへば、夕霧卷に、「人の御名を、よさまにいひなほす人は、かたきもの也、そこは心清うおぼすとも、しかもちゐる　人は、すくなくこそあらめ、こゝろうつくしきやうに、聞えかよひ給ひて、尙ありしまゝならんこそよからめ」とあるも、ゐ文字、本より誤りにはあらで、かの「夢をも、佛をも、もちゐるべしや、もちゐるまじや、」と同例なりけり、されはぞ、此物語は、數本を見あはせて、人々のとかく挍合すめるにも、こゝのかはれるはなし、と聞えたる、そもそも、此夕霧卷、あるは、閑居友などのは、ひをゐとあやまれるならん、ともいへばいはれぬべけれど、かげろふ日記なるは、いかでさいはん、此理り、よく明むべし、和語燈七丁一「病おもければ、藥を用ゐるが如し、」と見えたるなども、これらに考へ明むべし　(尙、活語雜話三篇ノ末ニ毛用ゐる三斷定シタル文アリ)　○中島廣足ノ「增補雅言集覽」五十五ノ十四　もちふ　用　餅にいひかけたる歌、こゝにあるが如し、　もちふと活きたる例は見えず、俊頼集「我をのみ、世にもちひの、かゞみ草、さきさかえたる、かげぞうかべる、」　もちい　蜻蛉日記、「夢をも、佛をも、もちいるべしや、もちいるまじや、」とさためよと也、」(此假字如何考ベシ)　群書類從中ノ新撰字鏡連字部七百　嘲調、毛知遊　大同類聚法、用の下、皆由と見えたり、三四ヶ所、亦とも見えたるもあれども、傳寫の誤もあるべからず、多きかたにつくべし、此書、大同ノ敕撰はいかゞあらん、舊事記などの僞書のたぐひにて、いと古き僞書なるべくおぼしければ、假字の證にはとるべくや、　もちゐ　源　蜻蛉廿二「たゞ人、はた、あやしき女、世にふりにたるなどを、もちゐるたぐひおほかり」　此語、かく和行一段の活の格につかひし事、蜻蛉日記、また閑居友などを引て、山口栞四十一にくはしくいへり、用をもちゐるの假字に定めたるを、持擧るの義とせる廣道説は誤也、用をもちゐるといふ格にする時は、義門説の如く、一段の活となれり、率は中一段なれば、さらにかなはず、たゞし、改正圖には、率を一段活に從たり、さらばかなふべくや、○村田了阿が「俚言集覽」モチヰは、持と以との二語にて、一言にはあらず、其證は、(日本紀一書)于㆑時、權用㆓他姫婦㆒以㆑乳㆓養皇子㆒焉、此世取㆓乳母㆒養㆑兒之緣也、これ「用㆑某以」三字は、モチヰテとよめる也、(本書)には、豐玉姫將㆓其女弟玉依

姫來到、とあり、又（一書）には、遣女弟玉依姫以來養者也、又（一書）には、留其女弟玉依姫持養兒、又別ところに、（一書）卽遣一婦以奉送焉、とあり、「將云云來」とあるは、ヰテキタリ、とよみ、「遣云云以來」は、マタシテヰテキタリ、とよみ、「留云云持」はトドメテモテ、とよめり、此持字は、用をモチとよめる意にて、何れも、同事を文を異にしてあれども、用將持三字は、モチとよみ、又將以二字は、ヰとよみ、又、將來と、以來と、同語勢あるをもて、用他婦以養は、モチヰテとよめるを知るべし、（然るを、舊點は、用字を、トリとよめるは、非なり）是等、みな、用を毛知爲と、古くよりつかひたる意也、かくの如く、モチヰは一語にあらず、持と、以と、二言の連語にて、本は佛書より出しなり、（佛說觀無量壽經）瓔珞盛縣、持用上王、（法華經信解品）如斯等事、以用供養、（法苑珠林十三因緣部）言一切難捨無過己身、我等今日不能捨心持用相與、（同上十六求婚）時諸獸中有一牛王、向於特虎而說偈言、世人皆取我之糞、持用塗地爲淸淨、是故端正賢特虎應當取我以爲夫（同上十四誕孕）如因果經云、菩薩處胎垂滿十月、身諸支節及以相好、皆悉具足、夫人憶入園遊觀、王勅後宮端正采女凡有八萬四千、以用侍摩耶夫人、（同上十六求婚）食粮醫藥、王子遊獵、殺捕諸獸、以用活命、（同上十七離俗）偈言太子以右羅網指萬字千輻輪相現金色柔輭淸淨手用摩馬王捷陟頭、（同上三十三法施部）迦葉經、爾時世尊而說偈頌曰、三千大世界、珍寶滿其中、以此用布施所得功德少（同上二十九優劣）佛說華聚陀羅尼經云、佛言、若復有人持以七寶如須山等、於一劫中布施辟聞辟支佛、不如有出家在家人能持一錢以用布施初發菩提心得福德多とあり、古へは、佛法盛に行はれし故に、持用以用の連語を、書紀にもつかひ給ひしなり、其が、いつとなく、皇國の一語のやうに、人々思ふ事となりし也、又、（韓非子說林）老馬之智可用也、（佩文韻府）（道字引作老馬之智可師也、）（周禮旅師注）師帥也とあり、師は率と同じく、又、率は、ヰとも、ヒキヰとも訓り、（ヒキヰも、一語にはあらず、本、引と以との連語なり）然れば、師、帥、率、用、四字、皆同じくヰと訓ずべし、「左右曰以」の以を、古來ヰの假字也、（論語）「佛肸以中牟畔」とあるを（說苑五節）「佛肸用中牟之縣畔、」とあり、（國語晉論）晉人以諸人先濟、（注）以、用也、とあれば、これ、用字をヰと訓ずべき證也、又將率の將、ヒキヰともモチともよめば、用、以、將、三字同じくヰともモチヰとも訓ずべし、又（國語吳語）勾踐用帥二三之老、ともあり、假字遣ひの徵は、唐山の書を引も、いかがなれども、義訓は互通のものなれば、此方の假字遣ひにも徵すべし、（つれ〴〵草五ノ七十七）ある有職の人、白きものを衣たる日は、火ばしをモチヰル、くるしからず、と申されたり、又（八十一）錢を奴のごとくしてつかひ用ゐるものとしらば、ながく貧苦をまぬかるべからず、君の如く神の如く、おそれたふとみて、またがへモチヰルことなかれ、とあり、契冲氏の說に、用、モチヰ、常にかやうにかけり、とはれたる所の常は、つれ〴〵草などをいへるなるべし、餅をモチヒの假字は、字鏡、倭名鈔に見えて正し、然るに、今の世に、定家假字遣、倭字通例書などいふ物には、餅をモチヰ、飯をイヰ、とあり、（定家假字遣には、ヒの部に、用、モチヒテ、又、ヰ部に、用、モチヰル、と兩出せり、）是等を見れば、夫木集も、經衡集も、倶に、餅をモチヰに訛りて、用は、毛知爲なるも、知るべからず、然れど、餅にかけたりとて、波行の活用とも一定しがたし、因て姑く契冲氏に從て、毛知爲の假字をせり、谷川氏は、倭訓栞に、經衡集の餅に寄たる事を一說に引ながら、其書の文には、毛知爲のかたを取てつかはれたり、扨又、活用は、和行にて、モチヰ モチヰ モチウといふべし、急居の訓、ツキヰあるを、ツキウと訓る例なり、○榊原芳野氏が說（洋々社談五十五號）ニ曰ク、古事記傳十七に、源仲正

の集を引て、用字の活用を、は行中二段の者とす、元亨建武前よりは、は行中二段の活も雜じれりと見えて、伏見院天皇蕪物合の文中、用ふの語あり、されど、用を餅といひかけたるは、所謂雙關にして、假借の音なるさ、卽、「おしびきの山居」を病といひなし、「今や今や」を「うまやうまや」と通ぜしと同じ、且假字の遊なしともいひがたき時代の歌なれば、かゝ〴〵たしかなる證とは爲難し、然れば、中島萩原二氏の和行一段の語とは定められしなり、さるを、蜻蛉日記の「用ゐるべしや」用ゐるまじやの一語にては、信難しとて、後世の中二段に據れる書とも、此頃は、かつ〴〵見ゆれど、彼の用ゐるの例は諸書に多し、蜻蛉日記の文章の、やすらかならぬさ、誤多きは、人の知る所なれば、疑あらんは理なれど、我が一わたり見し書の中にも、一段なる例證猶多し、其ほかに、用ゐとのみあるは、數へがたきまであれど、かくては確ならず、古き書には、宇治拾遺物語十四「唐綾一ツをぞ、唐には、美濃五匹がほどにぞ用ゐるなる、」（俗本、ゐをひに作る、古寫本は、ゐに作れり、）又寂道自筆の蕪集類抄（貞丈校本、群書類從本皆同じ、）には、「少しなりとも、黑方を用ゐるべきなり、」又、公事根源中「孝經、禮記、毛詩、尙書、論語、周易、左傳、年々めぐりてもちゐる、」又、神皇正統記一「文字をもちゐる事は、之より始れり、」又古本遍照發揮性靈集四の傍訓に、「能書必用好筆」とあり、されば、中古までは、漢文を讀むにも、用ひ用う用ゆなどの誤はなかりしと見えたり、此頃、ふと見出でたるだに、かくあれば、猶其證いくらもあるべし、されど、其活用を知らんには、上の書どもにて足りなんかし、

右ノ說ドモヲ參考スルニ、もちゐる、もちゐるトスル說、着着考證アリテ、動カスベカラザルガ如シ、もちゆハ、固ヨリ論ズルニ足ラズ、もちひ、もちふノ考據モ、甚ダ弱キガ如シ、何トナレバ、もちふ、もちふるト用ヰタル證、一ツモ出デザルノミナラズ、其ノもちひモ榊原氏村田氏ノ考ニ據レバ、いひかけトモ訛トモ言フベケレバナリ、又もちゐる、もちうノ說モ承ケラレズ、サルハ、もちう、もちうるト用ヰタル證モ、サラニ無ケレバナリ、崇神紀ニ、急居此曰菟岐宇トアレバトテ、異ナル語ヲ取リテ證トスルハ、確ナラザルノミナラズ、急居ヲつきうトイフヿ、唯本書ニ一處見エタル異例ニテ、此他サラニ見エズシテ、後ノ諸書ニハ、スベテ、音便ニ、ついゐるトノミ用ヰタリ、サレバ、もちゐる、つきゐる、ひきゐる等ノ語ハ、共ニ、其語尾ハ、ゐる、ゐれ、ゐ、ノ變化ナリ、ト斷定スベシ、

（卅五）あきらか、（明）あづか、（靜）つまびらか、（詳）ナドイフ一類ノ語ハ、ソノママニテハ用ヰラレズ、必ズ下ニよヲ添ヘテ、始メテ用ヲナス、故ニ、此篇ニハ、あきらかよ、あづかよ、ナド、一一よヲ添ヘテ、副詞トシテ擧ゲタリ、又、此ノよニありノ添ハリテ、あきらかなり、あづかなりトナルコアリ、此類、一一擧ゲズ、擧グルニ堪ヘザレバナリ、（篇首ノ語法指南ノ、助動詞ノなり、幷ニ副詞ノ條ヲ見ヨ）

（卅六）語別ハ、畧語ノ標ヲ以テ、各語ノ下ニ記セリ、例ヘバ、（名）ハ名詞ナリ、（代）ハ代名詞ナリ、（動）ハ動詞ナリ、（形）ハ形容詞ナリ、（助動）ハ助動詞ナリ、（副）ハ副詞ナリ、（接）ハ接續詞ナリ、（辭）ハ天爾遠波ナリ、（感）ハ感動詞ナルガ如シ、又、動詞ノ下ニ、（自動）（他動）ナド記セルハ、自動詞、他動詞ナリ、（規、一）（不規、一）等ハ、規則動詞第一類、不規則動詞第一類ナリ、（形、一）ハ形容詞第一類ナリ、凡ソ、是等ノ事ノ詳ナルハ、前ノ語法指南ヲ見ルベシ、又、其畧語符號等ノ解ハ、スベテ後ノ索引指南ニ委シ、

（卅七）動詞ハ、スベテ本體（第一變化）ニテ擧ゲタレバ、「生（イ）ク」避（ヨ）ク」ナドイフ語モ、

い●く●ク●ケ●カ●キ●ケ（自動）（規、一）　よ○く○ク○ケ●カ●キ●ケ（他動）（規、一）

い●く●クル●クレ●ケ●ケ●ケヨ（他動）（規、二）　よ●く●クル●クレ●ケ●ケ●ケヨ（他動）（規、二）

い●く●クル●クレ●キ●キ●キヨ（自動）（規、三）　よ○く○クル●クレ●キ●キ●キヨ（他動）（規、三）

右ノ如ク三樣ノ語、皆、いく、よく、ノ同形ニテ出ヅ、サレバ、動モスレバ、迷フコアルベシ、普ク其下ナル語尾ノ變化、幷ニ（自動）（他動）（規、一）（規、二）（規、三）等ヲ見テ思ヒワクベシ、注釋ノ文中ニモ、紛レ易キハ、皆（規、一）（規、二）ナド記セリ、心ヲ付クベシ、サレド注文ノ中ニテ、自他ノ甚ダ迷ヒ易キハ、第二變化ヲ用ヰタルモアリ、つどふ、つどふる、（集）たがふ、たがふる（違）ノ如シ、

（卅八）篇中、侮語ノ下ニ、直ニ標出セル漢字ハ、雅俗ヲ論ゼズ、普通用ノモノヲ出セリ、日、月、山、川、等ノ正字ハ、固ヨリ論ゼズ、辻、峠、杜若、ノ如キ和字又ハ誤用字ニテモ、通俗ナルヲ擧ゲタリ、而シテ、和漢通用ナルハ、|日|月|山|川|ナドト標シ、又、和用ナルハ、|辻|杜若|ナドト標シテ、語釋ノ末ニ、別ニ漢用字ヲ揭ゲテ、‖十字街（ツジ）‖燕子花（カキツバタ）‖ナドト標セリ、此類識別スベシ、但シ、漢字ノ當ツベカラザルモノハ、スベテ闕ケリ、

（卅九）語原ノ釋ハ、上下ニ〔　〕ヲ加ヘテ、語釋ト別テリ、而シテ、其原義ノ分明ナルハ揭ゲズ、又、或ハ究ムベカラザルモノ、推測ノ信ジ難キモノ、等ハ姑ク之ヲ闕ケリ、漢語ハ、異常ナルモノノ外ハ釋セズ、其他、韓語、梵語、琉球語、蝦夷語、葡萄牙語、西班牙語、羅甸語、蘭語、

（四十）佛語、英語等ハ皆釋セリ、原語ノ洋字等モ、索メ得タル限リハ擧ゲタリ、但シ、近古、西班牙人、葡萄牙人、蘭人等ノ傳ヘタルモノト覺シクテ、詳ナラザルハ、姑ク南蠻語、或ハ洋

語ナドト記シ置ケリ、

(四十) 語釋ハ、一二語ヲ以テセルアリ、數語ヲ以テセルアリ、或ハ、同意ノ異語ヲ用ヰ、或ハ近似セル他語ヲ用ヰ、或ハ、古言ヲ今言ニ易ヘ、雅言ヲ俗言ニ當テ、或ハ、今言俗言ヲ古言雅言ニテ釋キ、種種ニ說キ、迂廻ニ述ベテ、一ニ意ノ融クルヲ期シテ已メリ、看ル者、普ク玩味シテ解スベシ、然レ𪜈、凡ソ、解釋語ノ意ハ、到底其本語ノ意ニ若カザルモノナリ、トモイヘバ、又普ク此趣ヲモ諒セヨ、

(四十一) 典例、儀式、藝術、裝飾等、凡百ノ事物ノ、明治維新前後ニテ、大ニ變遷シ、或ハ、全ク廢セラレ、或ハ、尙稀ニ存スルガ如キモノアリ、此類ノ語釋ノ、往時ノママニテ、一一存廢ヲ言ハザルモアリ、看ル者斟酌スベシ、

(四十二) 洋語ノ翻譯ニ出デタル語ハ、譯者ノ筆ニ因リテ、譯語區區ナルモノモアレバ、篇中多ク收メズ、後ノ一定ノ時ヲ待タムトスルヿ、篇首ノ編纂大意ニモ述ベタルガ如シ、又、熟ヲ思フニ、外來事物ノ新語ノ如キハ、洋書ノ全備セルモ多ケレバ、就キテ求メムニ、其道ヲ得ムヿ、容易カルベシ、內國舊來ノ事物ノ如キニ至テハ、辭書類書ノ全書ニ乏シクテ、一二事物ノ解ヲ得ムトスルニモ、數書ヲ涉獵セザルベカラザルガ如キヿ多シ、此ノ故ニ、此篇ハ、內國從來ノ事物ヲ網羅スル方ニ、力ヲ專ラニセリ、看ル者、

中外ノ事物ニ於テ、偏重スル所アルガ如キヲ咎ムルヿ勿レ、尙大成ノ如キハ、後ノ增補ヲ期スベシ、

(四十三) 從來ノ辭書ノ語釋ノ書法ハ、語每ニ、「何何あり」何何をいふ」ナドト記セリ、斯ク、なり、をいふ等ノ語ヲ、注每ニ加フルガ故ニ、全冊嵩ムノミナラズ、甚ダ辭書語釋ノ體裁ヲ失セリ、此篇ニテハ、凡ソ、文章中ニテ、其本語ト語釋ノ語ト置キ易フル時ハ、原文、ソノママニ文ヲ成シテ解スベカラシムル書法トシ、名詞ハ名詞ニテ釋キ、動詞ハ動詞ニテ注シ、副詞ハ副詞ニテ說ケリ、例ヘバ、あさまだきトイフ副詞ヲ、舊注ノ書法ナラバ、「朝はやきあり」ナド記スベキヲ、此篇ニテハ、「朝早ク」トノミ注セリ、サレバ、原文、「朝まだき嵐の山の寒ければ」ナドアラム處ニ、コレヲ置キ易フレバ、「朝早く嵐の山の寒ければ」トナリテ、ソノママ文ヲ成シ、意モ合ヒテ解セラルベシ、コレヲ舊注ノ體ニテ置キ易フレバ、「朝はやきなり嵐の山の寒ければ」トナリテ、合フベクモアラズ、通篇語釋ノ書法、スベテ此ノ如シ、然レ𪜈、天爾遠波ノが、の、に、をノ如キ、副詞ノはらはら、はとほとノ如キ、感動詞ノあな、かなノ如キ、音響情態ナド狀出スル語ノ、他語ノ代フベキナキナドハ、「何何ノ意ヲイフ語」ナドト注セルモアリ、

(四十四) 同義ノ語數種アルトキハ、其正語又ハ普通語ト覺シキ方ニ釋シテ、其古言、俗言、方

言、訛言ナドノ方ニハ、「某語ニ同ジ、」又「某語ノ古言、又ハ俗言、」ナドト記セリ、にはとり(鷄)にはつとり、ながなきどり、ゆふつけどり、うすべどり、かけ、ナドハ、にはとりニ注シ、さけ(酒)き、ささ、おみき、ナドハ、さけニ注シ、めし(飯)いひ、まま、はん、おぜん、ナドハ、めしニ注セルガ如シ、

(四十五) けふ、こんにち、(今日)ことし、たうねん、(當年)みづかね、すゐぎん、(水銀)はらわた、ちやう、(腸)かり、がん、(雁)ナド、和語、漢語、同義ニシテ、通用ニ差別ナキハ、和語ノ方ニテ釋キ、やまびと、せんにん、(仙人)ふくふくし、はい、(肺)なゐ、ぢしん、(地震)にはくなぶり、せきれい、(鶺鴒)ナドハ、一方、和語ナレドモ、今ハ不通ナレバ、通用ノ漢語ノ方ニテ釋キタリ、

(四十六) 同意語(Synonyme.)ハ語釋ノ末ニ列ネタリ、例ヘバ、くふ、(食)ノ注ノ末ニ、クラフ、ハム、タブ、タウブ、ナド列ネ、又、あふのく、(仰)ノ末ニ、アフヌク、アフムク、アヲノク、アヲムク、ナド列ネタルガ如シ、ワラグツ、ワラウヅ、(藁沓)ワランヅ、ワランヂ、ワラヂ、(草鞋)ナドハ、畢竟同語ニテ、唯音便ノ差アルノミナレド、亦同意語トシテ列ネタリ、其他ノ事物、殊ニ動植物ノ名ニハ、諸國ノ方言等ニ同意語多シ、其著キモノハ、皆此例ニ從ヘタリ、

(四十七) 數種ノ語ヲ、類ヲ以テ、一語ノ下ニ集メテ、其意ヲ釋クトキハ、大ニ說明スニ便ナルヿアリ、然ルトキハ、餘ノ各語ノ下ニハ、「某語ノ條ニ注ス、」或ハ「某語ノ條ヲ見ヨ、」ナドト

記セリ、例ヘバ、わ(輪)ノ條ニ、輞（オホワ）、轂（コシキ）、輻（ヤ）等ヲ集メテ說キテ、おほわ、こしき、や、ノ下ニハ、「輪ノ條ヲ見ヨ、」ト記セルガ如シ、又密ニ相關ハル語ドモニハ、條毎ニ注シテ、互ニ「某語ノ條ヲ見合ハスベシ、」ナドト記シタリ、

(四十八) 動植鑛物、其他諸物ニ、同名異物甚ダ多クシテ、注解ノ文中ニ、紛レ易キヿアリ、斯ル時ハ、漢名ニテ、記シテ傍訓シオケリ、茼麻（イチビ）、黄麻（イチビ）、蘡薁（エビカヅラ）、蒲萄（エビカヅラ）ノ如シ、サレバ、ソノいちび、えびかづらヲ索メム時ハ、善ク其漢名ノ字ニ心ヲ付クベシ、

(四十九) 動植鑛物ノ注ハ、其各學問上ノ綱目等ノ區別ヲ以テ說クベキナレド、今ノ普通邦人ニハ、解シ難カルベシト思ヘバ、今ハ、姑ク、本草家ノ舊解ヲ採リテ、眼ニ視ル所ノ形狀ニ就キテ說ケリ、

(五十) 解釋文中ノ挿注ニハ、上下ニ( )ヲ置キテ別テリ、

(五十一) 同一ノ語ナレドモ、古今ニ因リテ意ノ移レルアリ、所用ニ因リテ義ノ變ズルアリ、此類ハ、(一)(二)(三)(四)(五)等ノ標ヲ以テ區別セリ、而シテ、其次第ハ、古義ヲ先トシ、今義ヲ後トシ、或ハ正義ヲ前ニ掲ゲ、轉義、訛義等ヲ末ニ置ケリ、

(五十二) 成句ニ入リテ、同語ノ異義ヲ成スモノアリ、「骨ヲ折ル」ハ、骨ヲ取リテ正（マサ）シク折ルニハアラデ、「勉メ働ク」意ヲナセリ、「言ヲ食ム」トイヘバトテ、無形ノ言語ハ食ムベ

キニアラズ、乃チ「言ヒ契リタルコトヲ違フ」ノ意トナル、是等ノ成句ハ、其類語ノ下ニ、別ニ、○ヲ記シテ擧ゲタリ、而シテ、「骨ヲ折ル」ハ、骨トイフ語ノ下ニ出シ、「言ヲ食ム」ハ、食ムノ下ニ出セリ、類ニ從ヒテ索ムベシ、

（五十三）解釋文中ノ例語、例句、ナドノ處ニ、其條ノ本語ノ出ヅル時、重複ノ煩ヲ省カムガ爲ニ、其本語ニ當ツルニ、「―」ノ標ヲ以テセリ、例ヘバ、あし（足）ノ釋文中ニ、「机ノ―」或ハ「膳ノ―」ナドアルハ、「机ノ足」或ハ「膳ノ足」ナリ、又あぐ（上）ノ下ニ、「髪ヲ―」「價ヲ―」ナドアルハ、「髪ヲ上グ」「價ヲ上グ」ナリ、

（五十四）凡ソ、此篇中ノ文章ニ見ハレタル程ノ語ハ、卽チ此辭書ニテ引キ得ルヤウナラデハ不都合ナリ、因テ、務メテ其等ノ脫漏齟齬ナキヤウニハシタリ、然レドモ、凡ソ萬有ノ言語ノ、此篇ニ漏レタルモ、固ヨリ多カラム、殊ニ、漢語ノ限リ無キ、編輯ノ際ニ、是ハ普通用ノ語ナラズトテ棄テタルモノノ、知ラズ識ラズ釋文中ニ見ハレタルモアラムカ、唯看ル者ノ諒察ヲ請フ、

（五十五）釋文ノ意ヲ悉クシ難キ所ニハ、圖畫ヲ加ヘバ、更ニ妙ナラムトモ思ヘド、初版ハ其擧ニ及ビ難シ、後ノ增補ヲ俟ツ、

索引指南

（一）引出スベキ語ノ頭字ノ假名ハ、スベテ、五十音ノ順ニテ並ビ、其二字目、三字目、以下モ、皆五十音ノ順ニテ並ビタレバ、其心ニテ引出スベシ、例ヘバ、あ、ああ、あい、あいきやう、あいさ、あいし、あいす、あうぎ、あうおお、あうなし、ナドノ如シ、片假名ニテ記シタルモ同ジ。

（二）語ヲ引出ス時ニ、假名ノ順ヲ求ムル手早キ方法ハ、先ヅ第一ニ、あかさたな、はまやらわノ順ニテ、書物ノ紙ノ小口ヲ、凡ソ十ニ分ケ、（心ノ中ニテ）初カ、中頃カ、末カト、大抵ニ目當ヲ付ケテ、書物ヲ開キ、次ニ、あ‖ニ從フあいうえお、又ハ、か‖ニ從フかきくけこ、又ハ、さ‖ニ從フさしすせそ、トイフヤウニシテ繰出セバ、綱ヲ引上ゲテ、網ノ目ノ上ガルヤウニ出デ來テ、甚ダ早シ、同ジ語ノ中ノ二字目、三字目、ノ假名モ、皆此ノ如クスベシ。

いろは順ハ、諳誦ニセムトテモ、急ニハ馴レヌモノニテ、急ニ引出サムト思フトキ、いろはノ初ノ方ノ假名ノ順ハ、兎モ角モ、中頃ヨリ末ノ假名ノ順ハ、何邊ナラムカト、目ヲ瞑リテ、再三、案ジテモ、俄ニ思出サヌコト多クテ、例ヘバの‖ナラバ、らむうゐのおく、又、け‖ナラバ、やまけふこえて、ナドト、ソノ在ラムト思フ邊ヲ、前後數字、推當テニ口ニ唱ヘテ、ヤウヤウ當ルトイフヤウナルコトトナル、是レガ、頭字ノミナラズ、二字目モ、三字目モ、皆サヤウニテ、手間取ルコト甚シ、

此事、馴レタラバ、トモ思ヘド、何時マデモ馴レヌハ、編者ガ、此字引ヲ作ル十年ノ間、始終、驗メシテ知レル所ナリ、五十音順ノ方、甚ダ早シ。

（三）「やいゆえよ」ノ順ニ入ルベキい、えモ、又「わゐうゑを」ノ順ニ入ルベキうモ、假名ノ形、同ジクテ分チカヌレバ、皆、「あいうえお」ノい、う、え、ノ順ニ入レタリ。（片假名ナルモ同ジ）

（四）ん‖（ン）ハ、む‖ノ次ニアリ、（ロニん‖トイフ言葉ニテ、ん‖ニ無クバ、む‖ノ順ヲ見ルベシ）又、はつと（法度）カツバ（合羽）ナド促マル假名ノつ‖、ッハ並ノつ‖、ツノ次ニアリ。

（五）が‖、ば‖、（ガ、バ）ナド濁ル假名ハ、ソノ濁ミタル假名、か‖、は‖（カ、ハ）ナドノ次ニアリ。

（六）「ウニコール」（一角）「メートル」（佛尺）「フート」（英尺）ナドハ、「ウニコオル」「メエトル」「フウト」ナドトシタリ、一ニテハ、假名ノ順ヲ定メカヌレバナリ。

（七）假名遣ヒニハ、迷ヒヤスキモノ多シ。先ヅ第一ニ、あいうえお（アイウエオ）トわゐうゑを（ワヰウヱヲ）ト、ノい‖、え‖、お‖（イエオ）ト、ゐ‖、ゑ‖、を‖（ヰヱヲ）トノ居ドコロヲ覺エベシ。

（八）次ニ、音ハ同ジヤウニテ、假名ノ異ナルモノヲ、左ニ出ダス、一方ヲ引キテ見エヌ時ハ、他ノ一方ヲ引クベシ。（片假名ナルモ同ジコトナリ）

い、ゐ、ひ	え、ゑ、へ	お、を、ほ	わ、は	う、ふ
じ、ぢ	ず、づ	じや、ぢや	じゆ、ぢゆ	じよ、ぢよ

おう、おふ、あう、あふ、をう、わう	よう、やう、えう、えふ、ゑふ	ゆう、いう、いふ
こう、こふ、かう、かふ、くわう	きよう、きやう、けう、けふ	きゆう、きう、きふ
ごう、ごふ、がう、がふ	ぎよう、ぎやう、げう、げふ	ぎゆう、ぎう、ぎふ
そう、そふ、さう、さふ	しよう、しやう、せう、せふ	しゆう、しう、しふ
ぞう、ぞふ、ざう、ざふ	じよう、じやう、ぜう、ぜふ	じゆう、じう、じふ
とう、とふ、たう、たふ	ちよう、ちやう、てう、てふ	ちゆう、ちう、ちふ
どう、どふ、だう、だふ	ぢよう、ぢやう、でう、でふ	ぢゆう、ぢう、ぢふ
のう、のふ、なう、なふ	によう、にやう、ねう、ねふ	にゆう、にう、にふ
ほう、ほふ、はう、はふ	ひよう、ひやう、へう、へふ	ひゆう、ひう、ひふ
ぼう、ぼふ、ばう、ばふ	びよう、びやう、べう、べふ	びゆう、びう、びふ
ぽう、ぽふ、ぱう、ぱふ	ぴよう、ぴやう、ぺう、ぺふ	ぴゆう、ぴう、ぴふ
もう、もふ、まう、まふ	みよう、みやう、めう、めふ	—
ろう、ろふ、らう、らふ	りよう、りやう、れう、れふ	りゆう、りう、りふ

し、しゆ	しつ、しゆつ	しく、しゆく	しん、しゆん	
じ、じゆ	じつ、じゆつ	じく、じゆく	じん、じゆん	
ち、ちゆ	ちつ、ちゆつ	ちく、ちゆく	ちん、ちゆん	
ぢ、ぢゆ	ぢつ、ぢゆつ	ぢく、ぢゆく	ぢん、ぢゆん	
か、くわ	かつ、くわつ	かく、くわく	かん、くわん	かい、くわい
が、ぐわ	がつ、ぐわつ	がく、ぐわく	がん、ぐわん	がい、ぐわい

えい	けい	せい	てい	ねい	へい	めい	れい	ゑい
—	げい	ぜい	でい	—	べい	—	—	—
うゐ	—	すゐ	つゐ	—	ふゐ	—	るゐ	—
—	—	ずゐ	づゐ	—	—	—	—	—

上ノおう、かふ等ノう、ふニ、おノ如ク發音スルモアリ、心ヲ付クベシ。

おふル（生）かかふル（抱）かふル（替）くはふル（加）ささふル（支）しふル（強）そふル（添）そろふル（揃）たたふル（湛）たふル（堪）つかふル（支）まじふル（雜）ひかふル（控）をしふル（敎）ナドノふヲ、ゆニ誤リ、又、コレト反ニテ、おぼゆ（覺）きこゆ（聞）さかゆ（榮）たゆ（絶）はゆ（生）むくゆ（報）ナドノゆヲ、ふニ誤リ、又、ひきゐる（率）もちゐる（用）ヲ、ひきゆ、もちゆト誤リ思フコトナド多シ。

又、あふぎ（扇）あふみ（近江）或ハ、あふり（泥障）あふひ（葵）あふぐ（仰）たふる（倒）或ハ、あゆ（鮎）はへ（蠅）かへる（蛙）あやにく（生憎）或ハ、ほほ（頰）あかほ（赤穗）まをす（申）まをか（眞岡）あをめ（青梅）あかを（赤魚）ナド迷ヒヤスキモノ、倘、多シ、スベテ心ヲ付クベシ。

（九）あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（當）あか・し・キ・ケレ・ク・ク（赤）斯ク假名ノ間ニ點ノアルハ、語根ト語尾トノ界ニテ、其下ニアル片假名ハ、語尾ノ變化ナリ、故ニ、・ヨリ下ヲ置替ヘテ、あた・る、あた・れ、あた・ら、あた・り、又ハ、あか・し、あか・き、あか・けれ、あか・くナドトシテ、其變化ヲ知ルベシ。但シ、う・ウル・ウレ・エ・エ・エロ（得）又ハ、く・クル・クレ・コ・キ・コロ（來）ず・ズ・デ（不）ナドハ、語根ト語尾ト分レ目ナケレバ、・ヲ界ニシテ、全體、變ルモノト知ルベシ。

倘、右ノ變化ノ委シキコト（同ジ變化ノ重複ニ出デ居ルナド）ハ、前ノ語法指南ノ動詞、形容詞、助動詞、ノ所ヲ見ルベシ。

又、右ノあたる、あかし、ナドハ、あたる、あかし、トノミ出シテ、あたれ、あたら、あかき、あかく、ハ、別段ニ出シテ置カザレバ、其心ニテ、變化ヲ考ヘテ、所所引キ當テテ見ルベシ。

又、みつル（滿）むくル（向）おつル（落）うくル（受）ナドモ、スベテ、みつ、むく、おつ、うくニ出デタレバ、（るハ添ハラズ）其心ニテ引クベシ。又、語尾ノ變化ハ異ナリテモ、同ジ形ニテ出デタルモノモ多シ、例ヘバ滿ツ、向クニテ、

みつ・ツ・テ・タ・チ・ツ（自動）（規・一）　む・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動）（規・一）
みつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動）（規・二）　む・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動）（規・二）

右ノ如シ、善ク其下ノ異ナル所ニ氣ヲ付クベシ。

（十）わづかに（僅）しづかに（靜）あきらかに（明）こまやかに（細）ナドイフ言葉ハ、スベテ、下ニにヲ添ヘテ出ダシタレバ、其假名ノ順ノ所ヲ見ルベシ。

（十一）注ノ中ニ、「約」トアルハ、つづまりナリ、「略」ハ、はぶかりナリ、「轉」ハ、うつりナリ、「延」ハ、のびナリ、「通」ハ、かよひナリ、「義」ハ、わけナリ、「意」ハ、こころナリ、「訛」ハ、なまりナリ。

（十二）活字ノ用ヰ方ハ左ノ如シ。（スベテ、引出ス言葉ニ就テイフ）

やま（山）かは（川）　此活字ナルハ和語ナリ。

きん（金）てつ（鐵）　此活字ナルハ漢語（字ノ音ノ語）ナリ。

アン（餡）パン（麪包）　此活字ナルハ唐音ノ語、其他ノ外國語ナリ。

あか-だひ（赤鯛）あめ-が-した（天下）しよく-だい（燭臺）アマ-デラ（尼寺）

此ノ如ク、假名ノ間ニ小キ筋（Dash.）アルハ、組立テタル言葉ト言葉トノ界ナリ、然レトモ、いし-ばひ（石灰）てん-か（天下）ノ如ク、一度ハ其間ニ界ヲ立ツレドモ、再ビ、いしばひ-いし（石灰石）いつ-てんか（一天下）ナドト出ヅルトキハ、いしばひ、又ハ、てんかノ間ニ、界ヲ立テズ。

あい-らし（可愛）あか-かうじ（赤柑子）アカ-とり（閼伽取）きん-カラ-かは（金唐革）アン-なし-まんぢゆう（無餡饅頭）ナドハ、和語、漢語、外國語ノ雜ナリ、活字ノつかひわけニテ知ルベシ。

ゑんじゆ（槐）きや-はん（脚半）くわ-し（菓子）チヨク（猪口）てつ-ぱう（鐵砲）カツパ（合羽）ナドト、假名ノ間ノ右ノ方ニ、小キ筋アルハ、促ル音ノ標ナリ。

さいはひ（幸）けふ（今日）ゐあひ（居合）しやう-じ（障子）えう-せう（幼少）ナドト振假名アルハ、口ニテ呼ブ聲ノ標ナリ。

略語ノ解

(名)……名詞 (體言) (Noun.)
(代)……代名詞 (Pronoun.)
(數)……數詞 (Numeral.)
(動)……動詞 (用言、作用言、活語) (Verb.)
(自動)……自動詞 (然ル詞) (Intransitive.)
(他動)……他動詞 (然スル詞) (Transitive.)
(規)……規則動詞 (正格活用) (Regular.)
(不規)……不規則動詞 (變格活用) (Irregular.)
(規·一)……規則動詞、第一類 (四段活用)
(規·二)……同、第二類 (下二段活用)
(規·三)……同、第三類 (中二段活用)
(規·四)……同……第四類 (一段活用)
(規·四·變)……同……第四類、變體 (下一段活用)
(不規·一)……不規則動詞、第一類 (加行變格)
(不規·二)……同……第二類 (左行變格)
(不規·三)……同……第三類 (奈行變格)
(不規·四)……同……第四類 (良行四段一格)
(形)……形容詞 (形狀言) (Adjective.)
(形·一)……形容詞、第一類 (ク、シ、キ、活用)
(形·二)……同……第二類 (シク、シ、シキ、活用)
(助動)……助動詞 (活用アル天爾遠波) (Auxiliary.)
(副)……副詞 (Adverb.)
(接)……接續詞 (Conjunction.)
(辭)……天爾遠波 (Post-position.)
(感)……感動詞 (詠歎) (Exclamation.)
(接頭)……接頭語 (Prefix.)
(接尾)……接尾語 (Suffix.)
(發語)……發語
(枕)……枕詞
(句)……句 (Phrase.)

標ノ種種

⌐……古キ語、或ハ、多ク用ヰヌ語、又ハ、其注ノ標。
‡……訛語、或ハ、俚語、又ハ、其注ノ標。
[ ]……和ノ通用字、[迁] [杜若] ナドナリ。
‖ ‖……漢ノ通用字、‖十字街‖ ‖燕子花‖ ナド。(注ノ中ニ置ク)
[‖ ‖]……和漢通用字、[日] [月] [長] [短] ナドナリ。
〔 〕……語ノ原ノ注ノ界。
( )……挿注ノ界。
(一)(二)(三) 等……注ノ意味ノ變ハル界。
「 」……例ニ示ス句、又ハ、格段ナル句ノ界。
、……句讀。
。……段落。
○……句ト成リテ、別ニ一ツノ意味ヲ起スモノ。
一……引出ノ語ノ略標。例ヘバ、あぐ(上)ノ注ノ中ニ、「髮ヲ一」價ヲ一」トアルハ、「髮ヲ上ク」價ヲ上ク」ナリ、あし(足)ノ注ニ、「机ノ一」膳ノ一」トアルハ、「机ノ足」膳ノ足」ナルガ如シ。但シ、此筋ハ、其語ノ、一音ナルニモ、二音、三音、四五音ナルモ、其長サ皆同ジ。

○スベテ、委シク此字引ノ用ヰ方ヲ知ラムトナラバ、前ノ語法指南、幷ニ、凡例、ヲ見ルベシ。

あ-
い-47.
う-94.
え-127.

お-135.

東海上
藏書

あ 五十音圖、阿行第一ノ假名。此ノ一行ノ假名、あ、い、う、え、おノ五音ハ、喉ヨリ單一ニ出デ、又、發聲ノ韻トモナリテ、熟音ヲ成サシム、故ニ、單音、又、母韻ノ稱アリ。あハ、下ニ、う、或ハ、ふ(うニ轉ジテ呼ブモノ)ヲ受クルトキハ、おノ如ク呼ブコトアリ、あうむ(鸚鵡)あふぎ(扇)ノ如シ。

〔あ (代) [吾] われニ同ジ。「一ガ妻」一ガ君」一ガ兄」

〔あ (代) [彼] あれニ同ジ。「一ハト見ル月」

あ (感) 呼ブニ應フル聲。「一ト應ヘテ」‖唯‖

あ (感) ああニ同ジ。

ああ (感) [嗚呼] 泛ク感ズルニツキテ發スル聲。アア。アナ。アラ。

‡あい (名) 鮎ノ訛。

あい (名) [愛] 愛ヅルコト。イツクシムコト。カハユサ。「子ノ一ニ溺ル」

‡あい (感) 應フル聲。‖唯‖

あいきやう (名) [愛敬] 顔色ニカハユゲノアルコト。「一コボル」

〔あいぎやう (名) [愛敬] あいきやうニ同ジ。

あいさ (名) 鳥ノ名、あきさノ音便。

あいさう (名) [愛想] 人ヲモテナスニ、禮アリ情アルコト。「一ヨシ」一ナシ」

あいさつ (名) [挨拶] (一)答フルコト。返答。返辭。‖應答‖ (二)答禮。返禮。

あいし (名) [愛子] 愛ヅル子。殊ニカハユガル子。

あいしふ (名) [愛執] 愛ノ情ニ執着スルコト。(佛經ノ語)

あいす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動)(不規·二) [愛] (一)愛ヅ。イツクシム。イトホシム。カハユク思フ。「子ヲ一」(二)大切ニナス。ダイジニ思フ。「君ヲ一」國ヲ一」(三)面白シト思フ。好ミ樂シム。「山水ヲ一」

あいせふ (名) [愛妾] 意ニカナヒタル妾。

アイゼン (名) [愛染] 〔梵語〕 佛經ニ、明王ノ一、三目六臂ニシテ、頂ニ獅ノ面アリ、威怒ノ相ヲナス。

あいぞう (名) [愛憎] 愛スルト憎ムト。「一心ニ任ス」

‡あいそづかし (名) [愛想盡] 他ニ對シテ、情愛ヲ棄ツルコト。

〔あいだちなし (形) あひだちなしノ音便。

〔あいだてなし (形) あいだちなしノ轉、あひだちなしニ同ジ。

〔あいたどころ (名) [朝所] あしたどころノ音便。

〔あいたんどころ (名) [朝所] あいたどころノ音便、あしたどころニ同ジ。

〔あいだる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動)(規·二) 〔あいハ愛ノ音〕 アマユ。アマエタル。

あいぢやく (名) [愛着] カハユシト思ヒ込ムコト。(佛經ノ語)

‡あいつ (代) 彼奴ノ訛。

〔あいなし (形) あひなしノ音便。

〔あいなし・キ・ケレ・ク・ク (形·一) [無愛] カハユラシゲ無シ。面白ミナシ。

〔あいなだのみ (名) 〔敢無賴ノ轉カト云〕 タノミガヒナキ賴。當ニナラヌタノミ。

あいなめ (名) 魚ノ名、あゆなめノ轉。

‡あいにく (副) あやにくノ訛。

アイノ (名) 蝦夷語、其人種ノ自稱。

あいべつりく (名) [愛別離苦] 佛經ノ語、生死共ニ、親シミ愛スル人ト別離スル悲ミ。

あいまい (名) [曖昧] (一)薄暗キコト。分明ナラヌコト。(二)事ノハキトセヌコト。定マル目當ナキコト。

あいらし・シキ・シケレ・シク・シク (形·二) [愛] カハユラシ。イツクシ。イトホシ。‖可憐‖

あいれん（名）愛憐 イツクシミアハレムコト。イトホシムコト。

あいろ（名）〔文色ノ約〕文目ニ同ジ。「ーモワカズ」

〔あういく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動）（規・二）奥行〕人ノ後ヨリ行ク。

あうぎ（名）奥義 奥深キ義。秘密ニテ肝要ナル意義。（技術ナドニ）

あうおう（名）鶯實 うぐひすのきの實。

あうおくばい（名）鶯宿梅 梅ノ名木ノ稱、八重アリ、一重アリテ、花白ク、香最高キモノナリト云、或云、紅白交リテ、共花最モ異ナルモノナリト。

〔あうなし・キ・ケレ・ク・ク（形・二）無奥〕遠キ慮リナシ。考ヘ淺ハカナリ。淺慮

あうむ（名）鸚鵡 （一）鳥ノ名、熱地ノ産ニテ、舶來スル者ヲ言フ、形、鷄ノ雛ニ似テ、枝ニ立ツコト隣ノ如シ、羽ハ白キヲ常トス、頭、背、共ニ大ク、頂ニ冠毛アリテ、上ニ聳ユ、開ケバ菊ノ花ノ如シ、種類多シ、能ク人ノ語ヲマネテ物言フヲモテ名アリ。（二）鸚鵡貝ノ略。「ーノ坏」

あうん（名）阿吽 佛經ノ語、息ノ出入ノ稱。

あうむがひ（名）鸚鵡貝 螺ノ類、形、鸚鵡ノ背ニ似テ大ク、色白クシテ、紫黒ノ美シキ斑アリ 花瓶又ハ盃ナドニ製シ、又螺鈿ニモ用ヰル。鸚鵡螺

あうむがへし（名）鸚鵡返 和歌ニイフ語、人ヨリ言ヒカケラレタル歌ヲ、イササカ變ヘテ、返歌スルコト、鸚鵡ノ人語ヲ眞似ルニ譬ヘテイフ。

あうむせき（名）鸚鵡石 （一）一種ノ石、物ノ響キニ應ヘテ、同ジ響キヲ發スル性アルモノノ名。響石 （二）俳優ノ假聲ヲツカハム爲ニ、演劇ノ詞ヲ書抜キテ記シタルモノ。（三）孔雀石ノ一種、色ノ淺キモノ、筆ノ質ニ塗ルニ用ヰル。

〔あうよる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・二）奥寄〕奥ノ方ヘ寄ル。

〔あうら（名）足占〕古ヘ占ノ一法、足ヲ蹈ミテセシモノ。アシウラ。

〔あえかに（副）〔危氣ニテ意カト云〕〕カヨワク。タヨワク。「世ノ人ニ似ズー見エタマヒ」

あえん（名）亞鉛 鉒鉼ニ同ジ。

‡あえる（動）あゆノ訛。

‡あおぐ（動）仰グノ訛。

‡あおひ（名）葵ノ訛。

‡あおり（名）障泥ノ訛。

‡あおる（動）煽ルノ訛。

あか（名）赤 （一）色ノ名、色ノ血ノ如クニテカガヤクモノ。（二）赤小豆。「ーノ飯」「ーノ飯」（三）あかがねノ略。

あか（名）垢 （一）膩、汗、ナドノ埃ニ汚レテ肌ニ付キ居ルモノ。（二）水ヨリ生ジテ物ニツク滓、苔ノ如キノモノ。「水ー」「湯ー」

アカ（名）閼伽 〔梵語〕（一）佛ニ供スベキ水又ハ香水ヲ盛ル器ノ名。（二）轉ジテ、佛ニ手向クル水。（三）船底ニ溜レル水。（舟人ノ語）淦

〔あかあかと（副）甚ダ明ルク。「ー日ノ差入リテ」赫赫

あかあしげ（名）赤葦毛 馬ノ毛色ノ名、葦毛ニ赤ミアルモノ。

あかあは（名）赤粟 もちあはノ赤ミアルモノ。

あかあり（名）赤蟻 蟻ノ一種、多ク庭中ニ棲ム、長サ一分許ニシテ、赤クシテ黒ミアリ。一名、いひあり。黄蟻

あかいぬ（名）赤犬 犬ノ毛ノ黄ニシテ赤ミアルモノ。黄犬

あかいも（名）赤薯 さつまいもノ一種、味殊ニ甘キモノ、皮赤ク肉白シ、種類アリ。朱藷

あかいわし（名）赤鰯 （一）鰯ヲ鹽漬ニシ又ハ乾シタルモノ、古ヘハ食用トセリ、後ニハ節分ノ夜ニ、柊ニ添ヘテ、戸口ニサシ、儺鬼ノ具トス。（二）俗ニ、鈍刀ノ錆ビタルヲ嘲リイフ語。

あかう（名）阿衡 〔殷ノ官名、伊尹ノ故事ニ起ル〕攝政ノ異稱。

あかうなぎ（名）赤鰻 うなぎノ類、形、うみどぢやうニ似テ圓ク、全身赤クシテ、眼ノ甚ダ細ク小キモノ。一名、めくらうなぎ。

あかえひ（名）赤鱝 えひノ條ヲ見ヨ。

あかかうじ（名）赤柑子 たちばなノ一種、色赤クシテ美シキモノ。朱橘

〔あかかがち（名）草ノ名、ほほづきニ同ジ。

あかかげ（名）赤鹿毛 馬ノ毛色ニ、鹿毛ノ赤ミアルモノ。

〔あかがさ（名）赤瘡〕麻疹ノ古言。

あかがし（名）赤樫 樫ノ一種、葉ノ形、楕圓ニシテ厚ク堅ク、材ノ色赤キモノ。血櫧

あかがしは（名）赤柏 あかめがしはニ同ジ。

あかかすげ（名）赤糟毛 馬ノ毛色ニ、糟毛ニ赤ミアルモノ。騂油馬

あかかたばみ（名）赤酢漿 かたばみノ一種、莖、葉モ紅紫ニテ、花モ赤ミアルモノ。赤孫施

あかがツぱ（名）赤合羽 赤ク染メタル桐油紙ニテ作レル合羽、下人ノ用トス。

あかがに（名）赤蟹 やまがにニ同ジ。

あかがね（名）銅 〔赤金ノ義〕かねノ名、色赤クシテ黒ミアリ、諸金ノ中ニテ、鐵ニ次ギテ最モ用ヲナシ、金、銀、プラチナニ次キテ、最モ鍛ヘ延バスベク、鋼ヲ除キテハ最モ彈力アリ、而シテ響キノ高キハ諸金ノ第一タリ。

あかがねき（名）銅鷄 ききノ類、形、略、鷭ニ似テ、頸ト背トハ、淡灰紫色ニテ、黒キ斑アリ。

あかがひ（名）赤貝 古名、きさ。介ノ名、形、むまぐりニ似テ圓ク深シ、大ナルハ三四寸ニ至ル、殼ノ表ニ、縱道アリテ微毛アリ、色黒シ、殼ノ裏幷ニ肉ハ紫赤ナリ、肉甘ク旨シ。蚶 魁蛤

あかがへる（名）赤蛙 かへるノ一種、山谷ニ多シ、體痩セテ、形、おながへるニ似テ薄赤クシテ黄ヲ帶ブ、草ノ間ニ棲ミテ、跳ルコト捷シ、疳ヲ治ストテ、皮ト腸トヲ去リテ、炙リテ小兒ニ食ハス。赤蛤 山蛤

あかがり（名）あかぎれニ同ジ。

あかぎ（名）赤木 紫檀ノ類、色赤シ。

あがき（名）足掻 （一）足掻クコト。「馬ノー」（二）‡動キハタラクコト。「ーガツカヌ」

あかきじ（名）赤雉 きんけいニ同ジ。

〔あかぎぬ（名）〔赤衣ノ義〕緋色ノ袍。

あかぎれ（名）〔古言あかがりノ轉カ、或ハ赤切ノ義カ〕寒ニ傷メラレテ、手足ノ皮ノ裂クルコト。アカガリ。皸

あがく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動）（規・二）足掻 （一）前足ニテ地ヲ掻ク。（馬ニイフ）跑 （二）手足ヲウゴカス。モガク。（人ニイフ）

あかくさ（名）赤草 （一）ははきぎ。（二）蔘ノ類、形小ク、野邊又ハ路傍ニ生ジ、穗ヲ出シテ、紅ナル花ヲ開クモノ。野蔘

あかぐま（名）赤熊 熊ノ一種、長、八九尺ニ至ル、毛、茶褐色ニシテ長ク、つきのわ無シ、性甚ダ猛シ、多ク北海道ニ棲ム、土人、其幼ナルヨリ畜ヒテ祭事ニ供ス。魋

あかくりげ（名）赤栗毛 馬ノ毛色ノ、栗毛ニ赤ミアルモノ。

あかげ（名）赤毛 （一）髮ノ毛ノ赤ミタルモノ。（二）馬ノ毛色ノ名、赤クシテ黄ヲ帶ビタルモノ。騂

あかこ（名）赤子 蟲ノ名、溝ナドニ生ズ、甚ダ小クシテ赤シ、捕リテ金魚ノ餌トス。小紅蟲

あかご（名）赤子 生レテ程歷ヌ小兒ノ稱。

あかごけ（名）赤苔 苔ノ類、濕地ニ生ズ、甚ダ細カク、泥土ニ似テ、色赤ク紫ナリ。紫衣

あかごめ（名）赤米 （一）米ノ微紅キ斑アルモノ。（二）陳米ノ赤ミタルモノ。（三）ダイタウマイ。

あかざ（名）藜 〔若葉ノ赤キ故ノ名カ〕一年草ノ名、葉ハ互生シテ、三角ニシテ長ミアリ、周ニきざみアリテ厚シ、若葉ハ紅ニシテ後ニ緑トナル、莖高サ三四尺、秋、穗ヲナシテ粒ノ如キ花ヲ開ク、色緑ナリ、莖ヲ乾シテ杖トス。一名、あかあかざ。又、一種、若葉ノ時、白クシテ灰ヲマキタル如キモノヲあをあかざ、又しろあかざトモ云フ。灰藋 又、のあかざアリ、其條ニ注ス。

あかし（名）明 トモシビ。アカリ。「御ー」燈 燭

あかし（名）明 明スコト。タシカナルシルシ。證據。證

あかし・キ・ケレ・ク・ク（形・二）赤 （一）赤ノ色シタリ。（二）アキラカナリ。アカルシ。（燈ナド）明

あかしだま（名）明石玉 擬製ノ珊瑚珠、播州明石ヨリ産ス。

あかしちぢみ（名）明石縮 絹絲ト綿絲トニテ織レル縮布、播州明石郡ニ産ス、夏ノ服トス。

あかじみ（名）垢染 垢ノ染ミタル汚。

あかじむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動）（規・二）垢染 垢ニ染ミテ汚ル。

あかす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・二）明 經過ス。送ル。「夜ヲー」「年ヲー」過了 送

あかす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・二）明 （一）アキラカニナ

ス、(二)秘シタルヲ顯ハス。「心ヲ―」(三)疑ハシキヲ糺シアキラム。證明
あかすな (名) 赤砂 しんかうすなニ同ジ。
あかずみ (名) 赤墨 しゆずみニ同ジ。
あかぜみ (名) 赤蟬 あきぜみニ同ジ。
あかそ (名) 赤麻 からむしノ一種、形、のまをニ似テ小ク、莖赤ク、葉ノ大サ二三寸ニシテ對生ス。
あがた (名) 縣 〔上リ田ノ義ト云フ〕(一)上古、諸國ニアル朝廷御領ノ地。(二)後ニ縣主ノ治ムル一區ノ地ノ稱。(後ニ大抵、郡トナレリ)(三)國司ノ官人ノ其任國ヲ指シテイフ語。「―果テテ」「―召」(四)轉ジテ、田舍。「―アリキ」
あか-だいこん (名) 赤大根 だいこんノ一種、形、常ノ如クニシテ、葉、根、花、ノ紅ナルモノ。紅蘿蔔
あがた-ぬし (名) 縣主 (一)上世、縣ヲ治ムル職、世襲ナリ。(二)後ニ姓ノ名。
あか-だひ (名) 赤鯛 鯛ノ條ヲ見ヨ。
あか-だま (名) 赤玉 (一)色赤キ玉。(二)琥珀。
あがた-めし (名) 縣召 除目ノ條ヲ見ヨ。
〔あがち (名) 分ツコト。ワカチ。頒
あか-ちさ (名) 赤苣 さんごぢさニ同ジ。
〔あか-つ ツ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動)(規.一) 分チテアテワタス。頒
あか-つき (名) 曉 〔明時ノ轉〕 夜ノ明クル頃。アケガタ。アケ。
あか-つきげ (名) 赤搗毛 馬ノ毛色ニ、つきげニ赤ミ

アルモノ。赭黃馬
あか-づく ク・ケ・カ・キ・ケ (自動)(規.二) 垢付 垢、物ニツク。アカジム。ヨゴル。
あか-つち (名) 赤土 (一)古言、はに。黃赤ニシテ粘アル土、黃土ナドニ製ス、山地所在ニ出ヅ。埴 (二)たいしやせき。(三)烟草ノ一種、常陸ノ多賀郡太田ノ邊ヨリ產スルモノ、氣烈シ。一名、あかまひ。
〔あか-とき (名) 曉 〔明時ノ義〕 あかつきニ同ジ。
あか-とんぼ (名) 赤蜻蛉 古名、あかゑんば。とんぼノ一種、形小シ、其中ニ、春出ヅルハ大ク、秋ナルハ小シ、身、翅、共ニ朱ナリ。又、形大クシテ、身ハ朱ニ、翅ハ褐色ナルアリ。又、甚ダ小クシテ、五分許ナルモアリ。赤卒
アカ-とり (名) 〔閼伽ノ條ヲ見合ハスベシ〕 舟ノ中ノ漏水ヲカイダス器。戽斗
あか-な (名) 赤菜 菜ノ一種、近江ノ日野ニ產ズ、形、あぶらなニ似テ、色紫ニ、根モ亦紫紅ナリ。紫菘
あがなひ (名) 贖 アガナフコト。アガナフ物。
あがな-ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規.一) 贖 (一)物ヲ罪ノ代リニ出シ、請ヒテ其罪ヲ消ス。(二)代リトシテ、物ヲ出ス。ウメアハセヲナス。(三)請ケ出ス。(質物ナド)
あか-なまづ (名) 赤鯰 (一)なまづノ色赤キモノ。(二)ぎぎノ類ニテ、身ノ長サ二三寸アリ、鰭ニ刺アリテ螫スモノ。
あか-にし (名) 赤螺 (一)古名、アキ。螺ノ類、形、さざえニ似テ長ク、外面ニ角刺ナク、紫黑ニシテ、裏赤シ、

肉食スベシ。紅螺 (二)‡俗ニ吝嗇ナル人ヲ罵リテ呼ブ語。
‡あか-ぬ-ける ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動)(規.四.變) 垢拔 (一)垢、脫ケテ淨シ。(肌ニ) (二)しろうとけヲ脫出ヅ。
あか-ね (名) 赤根 蔓草ノ名、山野ニ多シ、春、舊根ヨリ生ズ、莖、方ニシテ、中空ク、葉ト共ニ刺アリ、葉ハ四片一節ニ生ジ、棗ノ葉ニ似テ鋸齒ナシ、秋ノ初、蔓ノ梢、葉ノ節ニ、穗ヲナシテ四瓣ノ白花多ク綴ル、大サ一分許ナリ、實ハ山椒ノ如シ。此根、細條多ク簇リテ黃赤ナリ、採リテ赤色ヲ染ムル料トス、又、藥用トモシテ茜根トイフ。茜草
あか-ね-さす (枕) 赤根刺 〔赤氣差ス、或ハ赤丹差スノ轉〕 日、又ハ、晝ノ枕詞。
あか-ねぶり (名) 垢舐 (一)浴室ニ生ズル蟲ノ名。(二)ゐもり。
あかね-もめん (名) 茜木綿 あかねニテ染メタル綿布、多ク、蘇芳ニテモ染ム。
あか-の-たにん (名) 全ク血緣ナキ他人。
あか-の-まんま (名) 赤飯 (一)小兒ノ語、あづきめしニ同ジ。(二)野蓼ノ一名。
あか-ばうず (名) 赤坊主 麥ノ類、あかぼふしニ同ジ。
あか-はだ (名) 赤肌 〔明肌ノ義〕 (一)肌ノ皮ノ剝ゲタルコト。(二)アカハダカ。スハダカ。
あか-はだか (名) 赤裸 〔明裸ノ義〕 (一)衣ヲ脫ギテ肌ノアラハナルコト。アカハダ。スハダカ。(二)はだかむぎノ一名。

あか-はぢ (名) 赤恥 〔明恥ノ義〕 現ハナル恥。
あか-ばち (名) 赤蜂 蜂ノ一種、腰細ク、翅、黃赤ニシテ、身ニ黑ト黃赤トノ斑アルモノ。稗蜂
あか-ばな (名) 赤花 草ノ名、莖、高サ一尺許、葉ハうつぼぐさニ似テ、狹ク長ク、鋸齒アリテ、對生シ、夏ニ至リテ、色、深紫ニ變ズ、花ノ大サ二分餘、四瓣ニシテ、色紅ナリ。柳葉菜
あか-はな (名) 赤鼻 (一)色赤ラミタル鼻。(二)紀伊ノ海上ニアリトイフ一種ノ大魚ノ名。
あか-ば-む ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規.二) 赤 赤ミツク。次第ニ赤クナル。アカム。アカマル。アカラム。
あか-はら (名) 赤腹 (一)鳥ノ名、狀、つぐみニ似テ、頭、黑ク、背ト翅トハ蒼灰ニシテ、胸ト腹トハ赤シ、觜、短クシテ、囀ラズ、能ク群ヲナス。鶫 (二)ゐもりノ一名。(三)うぐひノ一名。
あか-ひき (名) 赤皸 (一)皸ノ赤ミアルモノ。(二)あかがへる。
あか-ひげ (名) 赤髭 (一)髭ノ色赤キモノ。(二)‡轉ジテ、西洋人ヲ嘲リ呼ブ語。(三)鳥ノ名、てうせんこまノ一名。
あか-ひゆ (名) 赤莧 莧ノ一種、莖葉ノ色、紫赤ナルモノ。訛リテ、アカビヨウ。又古ヘ染料ニ用ヰタリ、故ニ、一名、シヤウエンジ。
〔あが-ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規.一) 贖 あがなふニ同ジ。
あか-ぼうふり (名) ぼうふりむしノ色赤キモノ。

あか-ぼし (名) 赤星 金星ノ條ヲ見ヨ。
あか-ほしほ (名) 赤穗鹽 播州ノ海邊ノ各郡ニ產ズル鹽、赤穗ヲ最トシ、鹽中ノ上品トス。
あか-ぼふし (名) 赤法師 小麥ノ芒ナキモノ。アカバウズ。火燒麥
あか-ほん (名) 赤本 古ク、くさざうしヲ呼ビタル語、ソノコロノ表紙、皆、色ノ赤キヲ用ヰタリシガ故ナリ。
あかま-いし (名) 赤間石 長州ノ厚狹郡豐浦郡ニ產ズル石ノ名、赤間ガ關ヨリ四方ヘ出ス、硯トシテ佳品トシ、色ノ紫赤ナルヲ上トス。
あか-ます (名) 赤鱒 (一)べにます。(二)魚ノ名、はたしろノ類、赤キ斑アリ。
あか-まつ (名) 赤松 まつノ條ヲ見ヨ。
あか-まひ (名) 赤舞 烟草ノ名、あかつちヲ見ヨ。
あか-まる ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規.二) あかばむニ同ジ。
あか-み (名) 赤身 (一)杉ナドノ材木ノ中心ノ色赤キ處、朽チガタキヲ貴ブ、周ナル白キ處ヲしろみ、又ハしらたトイフ、朽チ易ケレバ劣ル。(二)肉ノ色赤キ部。
あか-みそ (名) 赤味噌 味噌ノ色赤キモノ、白大豆ニテ製ス。
あかみ-ばしる ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規.一) あかばむニ同ジ。
あかみ-わたる ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規.一) 赤亙 スベテ赤クナル。
あか-む ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規.二) あかばむニ同ジ。
あか-む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動)(規.二) 赤 赤クナス。

「顏ヲ―」
あが-む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動)(規.二) 崇 〔上ムノ義〕 尊キモノトアツカフ。タフトビウヤマフ。
‡あかん-ばう (名) 赤坊 あかごニ同ジ。(東京語)
‡あかん-べい (名) あかめノ訛。(東京)
〔あか-め (名) 赤女 鯛ノ古言。
あか-め (名) 赤目 (一)下瞼ヲ指ニテ引キヒロゲ赤クシテ、小兒ヲ威ス戲。轉ジテ事ヲ否ミ卻クル意ヲモ示ス。訛リテあかんべい。又、目赤。メカカウ。(其條ヲ見合ハスベシ) (二)魚ノ名、いせごひ。
あかめ-がしは (名) 赤芽柏 一名、アカガシハ。樹ノ名、山野ニ多シ、高サ二丈餘ニ至ル、葉ハ三叉ニシテ、大サ三四寸ヨリ五六寸ニ至リ、鋸齒アリ、互生ス、莖赤ク、芽モ甚ダ赤シ、夏、穗ヲナシテ、黃白色ノ花群ガリ開ク、實ノ大サ二三分ナリ。樹ノ古名ヲあづさトイヒ、弓ノ材トス、又、支那ニテハ、材ヲ版木トス。梓
あかめ-だひ (名) 赤目鯛 小魚ノ名、めばるニ似テ、目、口、大ク、全身ニ紅ト綠トノ斑アリ。
‡あかめる (動) 赤 あかむ(他動)ノ訛。
‡あがめる (動) 崇 あがむノ訛。
〔あか-もがさ (名) 赤疱瘡 はしかノ古言。
〔あが-もの (名) 贖物 身ノ禍ヲ贖ヒ祓フ物。(かたしろノ條ヲ見合スベシ)
〔あから (名) 〔顏赤カニテル義〕 酒ノ古言。
あからか-に (副) 赤 赤ミアリテ麗ハシク。(顏色ナド

ニ

あから-がほ (名) 赤顏 赤バミタル顏色。

〔あから-さまに〕 (副) (一)タチマチ。俄ニ。 倏忽 (二)カリソメニ。ツイチヨツト。「仁和寺ヨリ一京へ御幸アリテ」

あから-さまに (副) 〔明狀テ義カ〕 ウチアケテ。カクスコトナク。アラハニ。明白ニ。 赤地

あから-ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動) (規・三) 赤 アカラム。アカバム。

あから-む・ム・ム・メ・マ・ミ・メ (自動) (規・一) 赤 赤ク色ヅク。アカチル。アカバム。

＋あから-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動) (規・二) 赤 赤クナス。アカム。(他動)

あかり (名) 明 (一)光ヨリ發シテ物ヲ明ニ見スル象。「日ノ一」「燈ノ一」(二)證據。アカシ。「一ガ立ツ」

あがり (名) 上 (一)アガルコト。ノボルコト。(二)上達スルコト。(學藝ニ) 上達 (三)高直ニナルコト。(價ニ) 騰貴 (四)成リ果ツルコト。成就。(工事ニ) 成就

あがり-くち (名) 上口 階段ナドニ上ルベキ所。

あかり-さき (名) 明先 明リノサシクル前。「一ニ立塞ガル」

あがり-ざしき (名) 揚座敷 あがりやヲ見ヨ。

あかり-しやうじ (名) 明障子 細クカナル木ヲ格子ニ組ミテ骨トシ、紙ヒトヘヲ貼リテ、明リヲ透シ、又、風ヲ防ク障子。今略シテ專ラ障子トノミイフ。(障子ノ條ヲ見合スベシ) 亮隔

あがり-だん (名) 上段 高キニ登ル段。階ノ足ヲ蹈ミカクル處。 階

あかり-とり (名) 明取 日ノ光ヲ差込マスル處。(窓ナド) 仰窓

あがり-ば (名) 上場 舟ヨリ岸ニ上ルベキ處。

あがり-や (名) 揚屋 德川氏ノ制ニ、身分アル罪人ノ牢。其上等ナルヲ揚座敷トモ云フ。

〔あか・る〕 ル・レ・ラ・リ・レ (自動) (規・二) 明 アカルクナル。夜明ク。

〔あか・る〕 ル・レ・ラ・リ・レ (自動) (規・二) 赤 赤クナル。アカラム。「醉ヒテ顏一」 酡

＋あか・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動) (規・二) 明 オノヅカラ開ク。 開

あが・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動) (規・二) 上 (一)上ヘ行ク。高キニ至ル。昇ル。 揚 (二)貴クナル。高直ニナル。増ス。(價ニ) 騰貴 (三)善キニ進ム。昇進ス。貴クナル。「役目ガ一」「位ガ一」 進 (四)巧ナルニ進ム。上達ス。熟練ス。(學術ニ) 熟達 (五)成ル。成就ス。デキル。「仕事ガ一」 成就 (六)收マル。「雨ガ一」「乳ガ一」 收 (七)死ヌ。(魚ニイフ、陸ニ上ル意、鳥ノおつるニ對ス) 魚死 (八)マヰル。參上ス。(宮中、殿中、官衙ヘ) (九)沒收トナル。トリアゲトナル。「役ガ一」「扶持ガ一」 沒官 (十)甚ダ古クアリ。「アガリタル世」 上古 (十一)供物トナル。「供物ガ一」「燈明ガ一」「年貢ガ一」 供

あが・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動) (規・二) 〔上ルノ轉〕 くらふノ敬語。

〔あか・る〕 ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動) (規・二) 別 ワカル。放ル。

あかる・し キ・ケレ・ク・ク (形・二) 明 (一)光リテ善ク見ユ。暗カラズ。アキラカナリ。 光明 (二)善ク解シ得ラレテアリ。「法律ニアカルイ」 通明

あかる-み (名) 明 アカルキ處。アカルキ方。 明處

あか-ゑ (名) 赤繪 やきものニ、赤色ノ釉ニテカキタル畫。

〔あか-えんば〕 (名) あかとんぼニ同シ。

あか-を (名) 赤魚 〔あからをノ約〕 形、略、鯛ニ似テ厚ク潤ク、大ナルハ二三尺ニ至ル、頭大ク、口廣ク、眼モ大クシテ、鬼ノ面ノ如シ、尾ニ岐ナク、鱗細カク、全身淡赤クシテ、丹色ノ斑アリ、肉白ク、味淡シ。

あき (名) 秋 一年四時ノ第三ニ當ルモノ、夏ノ次、冬ノ前、往時ハ、凡ソ七月、八月、九月、今ハ凡ソ八月九月十月ナリ。

〔あき〕 (名) 商 アキナヒ。

〔あき〕 (名) あかにしノ古名。

あき (名) 明 (一)明キタル處。ヒマ。スキマ。 隙 (二)明キタル時。イトマ。ヒマ。「工事ノ一」 間暇 (三)空ナルコト。人ノ住マヌコト。「一屋」「一店」 空

あき (名) 厭 厭クコト。倦ムコト。「一ガ出ル」「一ガ來ル」

あぎ (名) 腭 〔明ノ轉カ〕 口ノ中ノ上下ノ骨。アギト。アゴ。

あぎ (名) 阿魏 〔印度邊ノ語ナランカ〕 舶來藥品ノ名、植物ノ脂ニテ、樹ニ採ルト、草ニ採ルト、ノ二種アリ

ト云。

あき-うど (名) 商人 〔商人ノ音便〕 商賈ヲ生業トスル人。アキビト。アキンド。

あき-かぜ (名) 秋風 (一)秋ノ時節ニ吹ク風。(二)秋ヲ厭ノ意ニ寄セテ、男女ノ情ノハナルルコト。(漢ノ班婕妤ノ故事ニテ、秋ノ扇ハ捨テラルル物トシテイフ)

あき-くさ (名) 秋草 秋ニ咲ク草花ヲ總ベイフ語。

あき-ぐみ (名) 秋茱萸 草ノ名、高サ丈餘ニ至ル、葉ハ互生シ、なつぐみヨリ小ク狹ク、面、深綠ニシテ、背、白ク光アリ、枝モ同シ、春ノ末、花ヲ開ク、なつぐみヨリ小シ、實、秋ニ熟ス、大サなんてんノ如ク、赤クシテ白キ點アリ、食フベシ。 野櫻桃一種

あき-さ (名) 秋沙 鳥ノ名、狀、たかべニ似テ、頭ト背トハ灰色ニシテ、腹白ク、觜、細ク尖リ、脚ト共ニ赤シ、秋來リ春去ル。アイサ。アヒガモ。 刁鴨一種

〔あき-しひ〕 (名) 明盲 アキメクラ。

あき-ぜみ (名) 秋蟬 蟬ノ一種、形、大クシテ、翅、赤褐ニシテ透キトホラズ、秋ノ半ニ、晚ニ當リテ多ク鳴ク。アカゼミ。アブラゼミ。 蛁蟟

あきた-じやうのすけ (名) 秋田城介 古ヘ、出羽國ノ秋田城ヲ守ル官、出羽ノ介タル者、コレヲ兼ヌ。

あきた-ぶき (名) 秋田蕗 羽後國ノ秋田郡鹿角郡等ニ産ズル蕗、莖モ大クシテ、高サ七八尺ニ及ビ、葉ノ圍ミ丈餘アリテ、傘ノ如シ。

あき-た・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動) (規・二) 飽足 十分ニ飽ク。滿足ス。

あき-ち (名) 明地 家居ノ無キ地所。 空地

あき-つ (名) 秋津 〔秋之蟲ノ略カ〕 とんぼニ同シ。

あぎ-と (名) 腭 〔腭門ノ義〕 (一)あぎニ同シ。(二)えらニ同シ。

〔あぎと・ふ〕 フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動) (規・一) 〔腭ヲハタラカス〕 (一)水ノ上ニ浮ミテ泡ヲ吹ク。(魚ニ云) 喚喁 (二)カタコトニ物言フ。(小兒ニ) 咿唔

あきなひ (名) 商 アキナフコト。シヤウバイ。

あきな・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動) (規・一) 商 〔商、行フノ意〕 賤ク買ヒテ貴ク賣ル。ウリカヒスル。商賣ス。賣買ス。

あき-の-かた (名) 明方 歲德神ノ條ヲ見ヨ。

あき-は・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動) (規・二) 厭果 全ク厭ク。

〔あき-びと〕 (名) 商人 あきうどニ同シ。

あき-ふたげ (名) 秋二毛 鹿ノ毛色ニイフ語、行縢ナドニ用ヰルニイフ、秋ニ至リテ、古毛長ク、新毛短ク、生ヘ交リタル、其古毛ヲムシリ去レルモノ、色、夏毛ヨリ濃シ。

あき-んど (名) 商人 あきうどニ同シ。

あきんど-やど (名) 商人宿 旅ノ商人ヲ宿ス旅店。

あき-めくら (名) 明盲 盲目ノ一種、眼ノ狀、常ニ變ルコトナクテ物ノ見エヌモノ。アキシヒ。 靑盲

〔あき-もの〕 (名) 商物 商ヒニスル品物。

あき-もも (名) 秋桃 秋ニ熟スル桃ノ實、味、殊ニ美ナレバ名アリ。

あき-や (名) 明家 人ノ住マヌ家。 空屋

あ-ぎやう (名) 阿行 五十音圖ノ第一ノ行。

あきらか-に (副) 明 (一)クモリナク。アカルク。ハキト。(二)疑ヒナク。善ク解シ得テ。「意味一知ラル」

あきら-け・し キ・ケレ・ク・ク (形・二) 明 (一)アキラカニテアリ。ハキトシタリ。(二)思ヒ迷フコトナシ。善ク解セラル。

あきら・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動) (規・二) 明 アキラカニ究メ知ル。「理ヲ一」 辨諦

あきら・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動) (規・二) 〔明ラメテ止ム意〕 念ヲ絶ツ。オモヒキル。 絶念

あきらめ (名) 絶念ムルコト。思ヒヲ絶ツコト。オモヒキリ。「一ガ早イ」 絶念

＋あきらめる (動) あきらむノ訛。

＋あ・きる キル・キレ・キ・キ・キヨ (自動) (規・四) 厭クノ訛。

あき・る ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動) (規・二) 呆 物事ノ思ヒノ外ナルニ遇ヒテ心ヲ失フ。 惘 瞠若

あきれ (名) 呆 アキルルコト。アキレタルコト。

＋あきれる (動) 呆ルノ訛。

あく (名) 灰汁 〔惡汁ノ義カ〕 (一)灰ヲ水ニ浸シテ、ソノうはずみヲ取リタルモノ、布帛ノ垢ナドヲ洗ヒ去リ、又ハ紅、紫、ナド染ムルニ用ヰル。(二)又、單ニ、灰。(三)轉ジテ、植物類ヨリ出ヅル澁アル液。「蕨ノ一」「茶ノ一」

あく (名) 惡 (一)アシキコト。ワロキ事。善カラヌ物。「善ト一トヲ分ツ」(二)邪ナルコト。道ニ外ツレタルコト。「一ヲタクラム」(三)歌舞伎ニ、惡人ニ扮ツコト。カタキヤク。 丑

あく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動)(規・一) 【明】 (一)自ラ開ク。「戸ガー」「口ガー」 開 (二)内ノ物無クナル。空ニナル。「匣ガー」「家ガー」 一空 (三)暇ニナル。業絶ユ。「手ガー」「役目ガー」 成暇 (四)卄始マル。「商ヒノ口ガー」「芝居ガー」 開

あく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動)(規・一) 【飽】 欲スル思ヒニ滿足ス。足ル。十分ナリ。「食ヒテー」

あく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動)(規・一) 【厭】 〔飽キテ嫌フ意〕 厭フ心ニナル。イヤニナル。アグム。

あく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動)(規・三) 【明】 (一)過ギ了ル。歴ツ。タツ。「夜ー」「年ー」「年季ー」 過

あく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動)(規・三) 【明】 (一)押シ開ク。「戸ヲー」「口ヲー」 開 (二)内ノ物ヲ無クナス。空ニス。「匣ヲー」「家ヲー」「路ヲー」 一空 (三)暇ニナス。「手ヲー」「仕事ヲー」 (四)卄始ム。「商ヒノ口ヲー」「芝居ヲー」 開
○穴ヲー。穿ツ。○間ヲー。隔ツ。

あぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動)(規・三) 【上】 高クス。登ス。上ヘ送ル。(二)手ニ持チテ高クス。「盃ヲー」 擧 (三)官職ニ用ヰル。登用 (四)高直ニナス。「價ヲー」 昂 (五)調子ヲ高クス。「聲ヲー」「音ヲー」 (六)弘ム。「名ヲー」 揚 (七)沒收ス。トリアゲニス。メシアグ。「役目ヲー」「扶持ヲー」 褫 (八)タテマツル。獻 (九)轉ジテ、動詞ト熟語ニナリテ敬語トスル語。「申シー」「聞コエー」 (十)結フノ敬語。「髮ヲー」 (十一)成ス。遂グ。終ヘ果タス。「爲ー」「作リー」 成功 (十二)卄胃ヨリ物ヲカヘス。吐ク。 嘔吐

あく-い (名) 【惡意】 惡ヲ爲サムトスル心。

あく-うち (名) 【灰汁打】 紙ニ灰汁ヲヒキテ打チタルモノ。

あく-えん (名) 【惡緣】 男女ノ緣ノ思フママニナラヌ、又ハ運ノ凶シキモノ。

〔あくがらす・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規・一) あおがらすニ同ジ。

〔あくがる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動)(規・二) あおがるニ同ジ。

あく-き (名) 【惡鬼】 荒ビテ祟リヲナス鬼。怨靈。

あく-ぎやう (名) 【惡行】 アシキオコナヒ。

あく-ぎやく (名) 【惡逆】 (一)人ノ道ニ逆ヒテ惡シキ事ヲスルコト。(二)八虐ノ一。

あく-とう (名) 【惡口】 ワルクチ。罵ルコト。 惡言 罵詈

あく-じ (名) 【惡事】 惡シキシワザ。善カラヌ所業。「好事門ヲ出デズ、ー千里ヲハシル」

あく-じう (名) 【惡獸】 猛クシテ害ヲナス獸。「ー毒蛇」

あく-しん (名) 【惡心】 惡シキココロ。惡事ヲタクラム心。

あく-しやう (名) 【惡性】 (一)ワロキウマレツキ。(二)卄轉ジテ、淫奔。

あく-しよ (名) 【惡所】 遊里。 狹邪

卄あく-せく (副) 〔齷齪ノ音カ〕 事ニカカハリテ暇ナク。

卄あく-せん (名) 【惡錢】 不正ノ事ニテ得タル錢。「ー身ニツカズ」

あく-そう (名) 【惡僧】 惡行ノ僧。暴逆ナル僧。

あくた (名) 【芥】 〔粗腐ノ意カ〕 敗レ腐リテ捨テラレタル雜物。ゴミ。 塵芥

卄あく-たい (名) 【惡對】 惡口ニテ對フルコト。惡口ヲ言ヒカクルコト。罵ルコト。 惡罵

卄あく-たう (名) 【惡黨】 ワルモノナカマ。 惡徒

卄あく-たれ-もの (名) 惡シキ所行ヲナス者。アバレモノ。 惡漢

卄あく-たれる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動)(規・四・變) 〔あくハ惡ノ音〕 惡シキ所行ヲナス。惡行ヲ恣ニス。 暴行

あく-ち (名) 【惡血】 病ノ爲ニ質ヲ變ジタル血。

あく-ぢよ (名) 【惡女】 (一)心惡シキ女。 毒婦 (二)醜キ女。 醜婦

あくと (名) 〔足川處ノ意カ〕 キビス。カカト。 踵

あく-と (名) 【惡徒】 ワルモノ。アクタウ。

卄あく-どし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 〔惡痛シノ意ナラム〕 濃キニ過ギテ嫌ハシ。クダクダシク、ウルサシ。シツツコシ。

あく-にん (名) 【惡人】 心惡シキ人。邪ナル人。

あくね-せうちう (名) 【阿久根燒酎】 薩摩ノ出水郡中阿久根ノ邊ヨリ產ズル燒酎ノ稱。

あく-ねん (名) 【惡念】 惡事ヲ心ニ念ヒ居ルコト。惡心。

卄あぐ-ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ (自動)(規・四・變) あぐむニ同ジ。(東京語)

卄あく-ば (名) 【惡婆】 心ノ善カラヌ女。 毒婦

あくび (名) 【欠】 アクゴト。倦ミ疲レ、或ハネムタキ時ナドニ、口、自ラ開キテ氣大ニ出ヅルコト。

あく-ひつ (名) 【惡筆】 (一)製ノ粗ナル筆。(二)拙キ手跡。 拙書

あく-びやう (名) 【惡病】 (一)性ノ惡シキ病。(癩ナド) 惡疾 (二)エヤミ。疫病。 疫

〔あくぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動)(規・一) 【欠】 〔厭ブノ意カ〕 欠ヲナス。

あく-ふう (名) 【惡風】 (一)草木、人家ナドニ害ヲナス大風。(二)惡シキ風俗。「ーニ染ム」

あく-ま (名) 【惡魔】 魔ノ條ヲ見ヨ。「ー外道ノモノ」

あく-まで (副) 【飽】 〔飽ク迄ノ意〕 トドノツマリマデ。果ノ果マデ。

〔あぐみ (名) 【足組】 アグムコト。アグラ。 趺

あく-みやう (名) 【惡名】 惡シキヒヤウバン。惡行アリト人ニ知ラルルコト。

〔あぐむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規・一) 〔足組ムノ義〕 兩ノ脛ヲ打チチガヘニ組ミテ坐ル。アグラカク。 趺

卄あぐむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規・一) 〔厭ムノ意カ〕 厭ク。爲遂ゲカヌルヲ見テ倦ム。 厭倦

あぐら (名) 〔足座ノ義〕 (一)胡床、椅子ノ類。(二)胡床ニハ趺ニテ坐ルヨリ轉ジテ、アグミ、即チ、脛ヲ打チチガヘテ坐ルコト。然、坐ルヲ「ーヲカク」トイフ。 趺 盤坐

あく-りやう (名) 【惡靈】 怨ナドアル死靈ノ祟ヲナスコト。怨靈。 鬼祟

あくる-あさ (名) 【明朝】 前ノ夜明ケテノ朝。翌朝。

あくる-とし (名) 【明年】 前ノ年過ギテ其次ノ年。翌年。

あくる-ひ (名) 【明日】 前ノ日過ギテ次ノ日。翌日。

あ-くわい (名) 【亞槐】 大納言ノ異稱。亞相。

あ-くわん-ぼく (名) 【亞灌木】 灌木ノ條ヲ見ヨ。

あけ (名) 【朱】 〔赤ノ轉〕 赤キコト。赤キ色。「ーニ染ム」

あけ (名) 【明】 (一)明クルコト。(二)夜ノ明クルコト。アカツキ。 天明

あげ (名) 【上】 (一)上グルコト。(二)童子ノ服ノ肩、腰ナドニ、長キヲ縫ヒアゲテ襞ヲツケオクコト。(體ノ成長ニ供フ)「肩ー」「腰ー」 (三)卄あげどうふ、又ハあぶらあげノ略。

卄あげ-あし (名) 【擧足】 (一)他ノ足ヲ擧ゲタル時ニツケイリテ、其足ヲ取テ倒スコト。「ーヲ取ル」「ーヲネラフ」 (二)轉ジテ、人ノ言語ノ誤リヲ求メ、ツケイリテ詰ルコト。

あげ-あぶら (名) 【揚油】 あぶらあげニ用ヰル水油、おまのあぶら、又ハなたねあぶらヲ用ヰル。

あげ-いし (名) 【上石】 圍碁ノ語、圍ミテ殺シテ、取リアゲタル敵ノ石。ハマ。 死子

あげ-いた (名) 【上板】 あげぶたニ同ジ。

あ-けう (名) 【阿膠】 〔支那、山東、兗州府ノ東阿縣ノ井水ニテ、黑牛皮ナドヨリ、膠ヲ煮テ貢スルヲ、上品トスルヨリ名アリ〕 膠ノ藥用トスルモノ。(をときにかはノ條ヲ見合スベシ)

あけ-がた (名) 【明方】 夜ノ明ケムトスル時。アカツキ。 天明

あげ-く (名) 【擧句】 (一)連歌ノ、下ノ七七ノ二句。(發句ニ對ス) (二)轉ジテ、ヲハリ。終。シマヒ。トドノツマリ。「ーノハテ」 結局

あけ-くれ (名) 【明暮】 日ノ明クル時ト暮ルル時ト。「ーノツトメ」 朝暮

あけ-くれ (副) 【明暮】 朝ニ夕ニ。日日ニ。ツネニ。「ー思ヒクラス」 朝暮

あげ-こし (名) 【上輿】 輿ヲ肩ニカタガスルコト。(下輿ニ對ス) 平肩輿

あげ-さげ (名) 【上下】 (一)上グルト下グルト。(二)卄褒ムルト謗ルト。 褒貶

あけ-さる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規・一) 【明去】 全ク明ク。過ギ了ル。「夜ー」「年ー」 過了

あげ-しほ (名) 【上潮】 上ゲ來ル潮。サシシホ。(ひきしほノ反、潮ノ條見合スベシ)

あげ-しほ (名) 【上潮】 あげしほヲ見ヨ。

あげ-だい (名) 【揚代】 遊女ヲ招ク身代。

あげ-だし (名) 【揚出】 豆腐、茄子ナド、暫時、油ニテ揚ゲテ出シタルモノ。

あげ-だたみ (名) 【上疊】 疊ノ兩面共ニ、表ト緣トヲツケタルモノ、コレヲ一枚ホド、座敷ノ疊ノ上ニ敷キテ、貴人ノ坐處トス、コレヲ御座トイフ。

あけ-たて (名) 戸ヲ明クルト閉ツルト。 開閉

〔あげつらひ (名) 【論】 アゲツラフコト。論。

〔あげつらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規・一) 【論】 理ヲ擧ゲテ言ヲ述ブ。論ズ。

あけ-どうふ （名） 【揚豆腐】 豆腐ヲ胡麻ノ油、又ハ菜種油ニテ煠ゲタルモノ。アブラアゲ。アブラゲ。

あけ-に （名） 【明荷】 竹葛籠ノ一種、外ヲ席ニテ被ヒ、角角又ハ押緣ニ、割竹ヲツヅリツケタルモノ、旅行ノ具トシ、假ニ細引ニテ束ネテ、時時明クルニ供フ。

あけ-のこる・ル・レ・ラ・リ・レ （自動）（規・一） 【明殘】 夜、未ダ全ク明ケズ。「ー空ノ星」

あけ-のみやうじやう （名） 【曉明星】 金星ノ條ヲ見ヨ。

あけ-ば （名） 【揚場】 船ヨリ物ヲ岸ニ揚グル處。 〖埠頭〗

あけ-はなし （名） 【明放】 アケハナスコト。

あけ-はなす・ス・セ・サ・シ・セ （他動）（規・一） 【明放】 (一)皆開ク。(二)開キタルママニテ閉ヂズ。

あけ-はなる・ル・ル・レ・レ・レ・レヨ （自動）（規・二） 【明離】 夜、全ク明ク。

あけ-は-の-てふ （名） 【揚羽蝶】 (一)蝶ノ一種、形大ク、翅ノ色、ウスチヤイロニシテ、黒キタテスヂ、アミメ、小キ輪ナドノ斑アルモノ、物ニ上ルニ、多ク翅ヲ揚ゲテ合ハス、さんせうむしノ羽化セルモノナリ。 〖鳳蝶〗

あけ-ばん （名） 【明番】 泊番ノ朝ナド、勤メ果テテ退出スルコト。 〖下班〗

あけ-ばり （名） 〔揚張ノ義〕 蓆ノ類、四方ト上トヲカコヘルモノ。 〖幄〗

あけび （名） 〔朱實ノ轉カ〕 あけびかづらトイフベキヲ略。蔓草ノ名、山野ニ多シ、葉ノ形、楕ニシテ、五葉一處ニテツヅリテ生ズ、大ナルハ四五寸アリ、夏ノ初、若葉ノ間ニ、細キ枝ヲ垂レテ花ヲ開ク、三瓣ニシテ、大サ四五分ナリ、色ハ薄紫ト白トノ二種アリ、實ノ形瓜ノ如ク、長サ二寸餘、皮、熟スレバ紫ナリ、肉白ク核黒ク、食スベシ。 〖通草〗

あけ-びさし （名） 【上庇】 つきあげびさしニ同ジ。

あけ-ぶた （名） 【上蓋】 厨ナドノ板間ノ床ニ、釘付ケニセズ、蓋ノ如ク上ゲテ開クベク作リシ處、下ニ物ヲ貯フ。アゲイタ。

あけ-ぼの （名） 【曙】 〔明仄ノ義〕 (一)夜ノ明ケムトシテ、仄ニアカルクモレル時。アカツキ。シノノメ。(二)烏賊ヲ素乾ニシタルモノ。(加州)

あけぼの-ぞめ （名） 【曙染】 染色ノ名、紅又紫ナドニテ、處處ヲ暈リ、曙ノ空ノ色ノ如クぼかしニ染メタルモノ。

あけ-まき （名） 【揚卷】 (一)小兒ノ髮ノ結ヒヤウノ名、髮ヲ左右ニ分ケ、揚ゲテ卷キテ、兩ノ髻ヲ結ヒ、雙角ノ如クセルモノ。 〖總角〗 (二)紐ノ結ヒヤウノ名、左右ニ輪ヲ出シ、中ヲイシダタミニ結ベルモノ、諸具ノ飾リトス。(三)介ノ類、まてノ條ヲ見ヨ。(四)さきやうがひトイフ介ノ久シク曝レテ、上落チテ下ノミ殘レルモノ、五出ノ花ノ如シ。

あけ-まど （名） 【上窓】 つきあげごノ造リノ窓。 〖吊窓〗

あけ-むつ （名） 【明六】 曉ノ六ツ時。(暮六ニ對シテイフ、時ノ條ヲ見ヨ)

あけ-もち （名） 【揚餅】 菜種油ニテ煠ゲタル餅ノ稱。 〖油餻〗

あけ-もちゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ （他動）（規・四） 【擧用】 人ヲ採リテ官職ニ居ラシム。 〖登庸〗

あけ-もの （名） 【揚物】 菜蔬魚肉等ヲ、水ニ溶シタルうどんこニ塗シテ、ごまのあぶら又ハなたねあぶらニテ煠ゲタルモノ。別チテ、菜蔬ナルヲしやうじんあげトイヒ、魚介ナルヲてんぷらトイフ。

あけ-や （名） 【揚屋】 遊女ヲ招キテ遊興スベキ家。 〖青樓〗

あけ-ゆく・ク・ケ・カ・キ・ケ （自動）（規・一） 【明行】 次第ニ明ク。漸ク過グ。「夜ー」「年ー」

‡あげる （動） 明ク(規・二)ノ訛。

‡あげる （動） あぐノ訛。

‡あ-げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ （他動）（規・四・變） 【揚】 (一)油ニテ煠ル。(二)遊女ヲ招ビテ興ズ。

あけ-わたる・ル・レ・ラ・リ・レ （自動）（規・一） 【明渡】 夜、全ク明ケテ、一天皆明ニナル。

〔あこ （名） 【吾子】 子ヲ親ミ呼ブ語。

あ-こ （名） 【下火】 〔字ノ宋音〕 火葬ノ時、火ヲツクル僧ノ役目。(禪宗ニイフ)

‡あご （名） 【腭】 (一)アギ。アギト。(二)專ラ、下ノ腭ノ外面。シタアゴ。オトガヒ。 〖下腭〗 ○ーヲ外ス。大ニ笑フ。

‡あこう （名） 赤魚ノ訛。

あこがらす・ス・セ・サ・シ・セ （他動）（規・一） アコガルルヤウニナス。アクガラス。

あこがる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ （自動）（規・二） 〔在處離ルノ意カ〕 (一)思ヒアマリ心落チツカズシテ浮カル。魂、身ニソハズアクガル。(二)思ヒコガル。胸ヲモヤス。

あこぎ （名） 【阿漕】 〔勢州安濃郡地名、「逢ふことをーの島に引く鯛のたびかさならば人も知りなむ」トイフ古歌ニ出ヅ〕 (一)事ノ度重ナルコト。(二)轉ジテ、イツマデモ非道ニ貪ルコト。

あこだうり （名） 瓜ノ類、ぼうぶらノ一種、形小ク眞圓ニシテ、徑六寸許ノモノ、皮赤クシテ襞無シ。

あこめ （名） 【袙】 〔間籠ノ義カ〕 (一)婦人童女ノ身ニ近ク著ル服。(二)男子モ、裝束ノ下ニ用ヰル服ノ名。

あこやがひ （名） 【阿古屋貝】 介ノ名、大ナルハ六七寸、小ナルハ一二寸、形、方ニシテ、外面ニザラツキアルコト蜊売ノ如シ、裏ハ白クシテ青紫ヲ帶ブ、売ノ緣、薄クシテ紙ノ如シ、眞珠ヲ出ス、肉、はしら、共ニいたやがひノ如クニテ、食スベシ。シンジユガヒ。 〖珠母〗

あこやのたま （名） 【阿古屋珠】 あこやがひノ珠。即チ、眞珠。

あさ （名） 【朝】 〔明早ノ義カ〕 夜明ノ後、眞晝ノ前ノ稱。アシタ。

あさ （名） 【麻】 (一)草ノ名、春蒔キテ秋刈ル、莖、方ニシテ、直ニ生ズルコト、七八尺ニ至ル、葉ノ形、かへでノ葉ニ似テ、長大ニシテ對生ス、莖ノ皮ヲ績キテ、絲トシ布トス。 〖大麻〗 草ニ雌雄アリ、をあさハ、淡綠ナル細カキ花ヲ生ジテ、實無シ。一名、ヲギ。サクラアサ。 〖枲麻〗 めあさハ、花ナクシテ、細カキ粒ノ如キ子ヲ結ブ、あさのみトイヒテ食用トス。一名、メギ。ミアサ。 〖苴麻〗 (二)あさいとノ略、其條ヲ見ヨ。「ーニテ織ル」(三)あさぬのノ略、其條ヲ見ヨ。「ーノ衣」

あざ （名） 【痣】 瘡、傷ナドノ痕ノ肌ニ色ツキテ殘レルモノ。

あざ （名） 【字】 あざなノ條ヲ見ヨ。

あさ-あさ （副） 【朝朝】 朝毎ニ。

あさ-あさ・し・シキ・シケレ・シク・シク （形・二） 【淺淺】 考ヘ深カラズ。アサハカナリ。 〖淺薄〗

〔あさ-い （名） 【朝寢】 あさねニ同ジ。

あさ-いと （名） 【麻絲】 麻ヨリ作レル絲、秋、莖ヲ刈リテ、蒸シテ外皮ヲ剝ギ、水ニ浸シ、細ニ裂キテ絲トス、布ニ織リ、繩ニナフ、強クシテ、用ヲナスコト極メテ多シ。

あさ-うら-ざうり （名） 【麻裏草履】 ふぢくらざうりノ底ニ、粗ナル麻絲ノ組緒ヲ縫ヒツケタルモノ。

あさ-うり （名） 【淺瓜】 (一)しろうりノ一名。(京都) (二)へちまノ一名。

あさ-おき （名） 【朝起】 朝ニ早ク起クルコト。 〖晨起〗

あさ-がけ （名） 【朝駈】 軍ニテ、朝ニ早ク、不意ニ敵ヲ襲フコト。

あさ-がほ （名） 【朝顏】 (一)蔓草ノ名、葉ハ互生シ、三尖或ハ五尖ニシテ、微毛アリ、花ノ形、漏斗ノ如クニシテ、瓣、五尖ニ分ル、夏ノ末ヲ盛リトシ、朝ニ早ク開キ、日ニアタレバ萎ム、花ノ色、紅、白、紫、碧、雜色等、形色種類、極メテ多シ、人家ニ植エテ花ヲ賞ス。 〖牽牛花〗 (二)桔梗ノ古名。(三)木槿ノ古名。(四)蟲ノ名。かげろふニ同ジ。

あさ-がら （名） 【麻幹】 麻ノ莖ノ絲ヲ取リタルモノ、白クシテ稜アリ、輕クシテ折レ易シ、聖靈祭ニ箸トシ、畫工ニ燒筆トシ、燒キテ火口ノ炭トシ、合藥ニモ用ヰル。一名、ヲガラ。 〖麻稭〗

あさ-がら （名） 灌木ノ名、葉ハ圓クシテ末尖リ、春夏ノ間、白キ花ヲ開ク、垂ルルコト藤ノ花ノ如シ、實ヨリ油ヲ採ル。 〖白辛樹〗

あさ-がれひ （名） 【朝餉】 (一)〔朝ノ餉〕 朝ノ食事。(二)天皇ノ朝ノ供御。(三)朝餉ノ間ノ略、清涼殿ノ内ニアリ、御膳所ニテ、即チ天皇ーヲキコシメス所。

〔あさ-ぎ （名） 【淺黃】 黃ノ色ノ淡キモノ。 〖淡黃〗

あさ-ぎ （名） 【淺葱】 〔淡キ葱ノ葉ノ色ノ義、濃キヲ萌葱トイフノ反〕 色ノ名、藍色ノ淡キモノ。 〖淡縹〗

あさぎ-ざくら （名） 【淺葱櫻】 櫻ノ一種、花、一重ニシテ白ク、蕚、甚ダ綠ニシテ、瓣ニ映リテ青ク見ユルモノ、花ノ時甚ダ遲シ。

あさくさ-がみ （名） 【淺草紙】 東京淺草ノ邊地ニテ製スルすきがへしがみノ下品ナルモノ、其色黒キヲ黒保トイフ、又石灰ナド加ヘテ、色、稍白キヲ白保トイフ。

あさくさ-のり （名） 【淺草海苔】 〔古ヘ武州淺草川ニ産ズ〕 あまのりノ一種、武州ノ品川大森等ノ海ニ産ズルモノ、海中ニ樹枝ヲ立テ、樹ニツキテ生ズルヲ採リテ、漉クコト紙ノ如クス、色、紫黒ナリ、炙リ食フ、此種ノ最上品トス。 〖紫菜〗

あさ-ぐつ （名） 【淺沓】 〔雨雪ノ時ノ深沓ニ對ス〕 裝束着用ノ時ニ常用スル沓、桐ニテ作リ、外ヲ漆ニテ塗リ、内ニ紙ヲ貼ル。

あさくらざんせう (名) 【朝倉山椒】 〔元ハ但馬ノ養父郡朝倉村ノ產〕 古言、ナルハジカミ。又、フサハジカミ。(はじかみノ條見合ハスベシ) 山椒ノ一種、葉ハ常ノ山椒ヨリ大クシテ、木ニ刺ナシ、實モ三倍ノ大サニテ、辛味、香氣、共ニ多シ、今丹波越前等諸國ヨリ出ヅ。 蜀椒

〔あさけ〕 (名) 【朝食】 (一)朝飯。 (二)朝飯ヲ炊クコト。「—ノ烟」

あさけぶり (名) 【朝烟】 朝ニ飯ヲ炊キ、又、瓦ナド燒クヨリ起ツ烟。

あさけり (名) 【嘲】 アザケルコト。謗リ笑フコト。「人ノ—ヲ受ク」

あさけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動) (規・二) 【嘲】 〔淺シトスル意〕 (一)他ノ心ヲ淺シトサミス。謗リ笑フ。 (二)轉ジテ、思ヒヲハラス。「月ニアザケリ、風ニウソムク」

あさごろも (名) 【麻衣】 麻布ニテ作レル服、多ク喪服ニイフ。

あさざ (名) 【莕菜】 水草ノ名、池澤ノ中ニ生ズ、葉ハ水面ニ浮ビテ、根ハ水底ニアリ、莖細ク、葉ノ形、じゆんさいノ如クニシテ、稍圓ク、一方ニ缺アリテ、面緑ニ、背紫ナリ、夏、五瓣ノ黃花ヲ水面ニ開ク、大サ錢ノ如シ。一名、ハナジユンサイ。 莕菜

あさざけ (名) 【朝酒】 朝ニ酒ヲ飲ムコト。 卯飲

あさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 【淺】 (一)深サ少シ。底近シ。深カラズ。「瀨—」「水—」 (二)薄シ。少シ。「智—」 (三)淡シ、濃カラズ。「色—」

あさすず (名) 【朝涼】 夏ノ朝ノ間ノ涼シキ時。

あさせ (名) 【淺瀨】 瀨ノ淺キ處。

あさだち (名) 【朝立】 朝ニ早ク、旅路ニ出デ立ツコト。 早發

あさぢ (名) 【鱁】 (一)魚ノ名、口大ク、鱗細クシテ斑アリト云フ、詳ナラズ。 (二)又、魚ノ名、おひかはニ同ジ。

あさぢ (名) 【淺茅】 茅ノ疎ニ生ヒタルモノ。

あさぢざけ (名) 【淺茅酒】 酒ノ類、肥後ノ產、色白クシテ濃シ。

あさぢはら (名) 【淺茅原】 茅ノ疎ニ生ヒタル原。

あさぢはら (枕) 【淺茅原】 つばらつばらにトイフ語ノ枕詞。(茅花ヲ詳ニカケテイフ)

あさつき (名) 【淺葱】 〔淺之葱ノ義〕 葱ノ類ニテ、葉甚ダ細ク、色、淺緑ナルモノ、春ヲ過グレバ、葉コハクシテ食フベカラズ。 麥葱

あさつきなます (名) 【淺葱膾】 煮デタル淺葱トあさりノむきみトヲ酢味噌ニテ和ヘタルモノ、上巳ノ膳ニ供フ。

あさづけ (名) 【淺漬】 大根ヲ淡ク乾シテ、麴又ハ糠ヲ加ヘ、淡ク鹽ニ漬ケタルモノ、香ノ物トス。(澤庵漬ニ對シテ淺漬ノ名アリ)

あさつて (名) あさてニ同ジ。

あさて (名) 【明後日】 〔明日去リテノ約カ〕 今日ヨリ一日隔テテ來ベキ日。明日ノ明日。ミヤウゴニチ。 明明日

あさで (名) 【淺手】 微シノ傷。〔闘ニイフ〕 微傷

あざな (名) 【字】 〔糺名ニテ、交ルニ用ヰル意カ、或云、梵語、惡刹那(文字ノ誤用カト〕 (一)支那ニテハ、實名ノ外ナル一種ノ名ニテ、他ヨリ其人ヲ敬ヒテ呼フ時ニ用ヰルモノ。 (二)此ニテハ正シキ名ノ外ニツケテ、定レル名トモナクテ、呼ビナラヘル名。アダナ。 渾名 (三)村ノ內ニアル更ニ狹キ地名ノ稱、略シテ、あざ。

〔あさなあさな〕 (副) 【朝朝】 〔なハあさなゆふなノなノ轉〕 朝每ニ。マイアサ。

あさなぎ (名) 【朝和】 朝ニ海上ノ和ギタルコト。

〔あざなは・る・ル・レ・ラ・リ・レ〕 (自動) (規・二) 【糾】 糾フヤウニナル。マトハル。

〔あざな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ〕 (他動) (規・二) 【糾】 交ヘ合ハスナフ。ヨルマトフ。(繩ナド)

〔あさなゆふな〕 (名) 〔なハ飯肴ノ義〕 朝飯ト夕飯ト。

あさなゆふな (副) 【朝夕】 〔前條ノ語ノ轉〕 朝ニ夕ニ。アケクレ。 朝暮

あさぬの (名) 【麻布】 麻絲ヲ以テ織リタル布。ヌノ。 紵布

あさね (名) 【朝寢】 朝ニ遲クマデ寢過ゴスコト。 晏起

あさのは (名) 【麻葉】 染模樣ノ名、麻ノ葉ノ形ナリ、但シ周ヘ平等ニ六出シ、其形ヲ縱橫ニ幷ベ列ヌ。

あさのはがめ (名) 【麻葉龜】 玳瑁ノ類、南洋諸島ノ產、大サ常ノ龜ノ如クニシテ、あさのはノ文アリ。

あさのみ (名) 【麻實】 めあさノ子、小キ粒ニシテ、黑ク光ル、食用又藥用トス。 麻蕡

あさはか・ニ (副) 【淺】 考ヘアサアサシク。底、深カラズシテ。 淺薄

あさはん (名) 【朝飯】 あさめしニ同ジ。

〔あざは・る・ル・レ・ラ・リ・レ〕 (自動) (規・二) 【糾】 あざなはるニ同ジ。

あさひ (名) 【朝日】 朝、昇ル時ノ日。 旭 暾

あさひがに (名) 【朝日蟹】 蟹ノ一種、海ニ產ズ、甲、竪、六寸許、濶サ、四寸許、色赤クシテ疣多ク、後脚、杓子ノ狀ヲセリ。一名、ベニガニ。 紅蟹

あさひがひ (名) 【朝日貝】 蛤ノ類、大サ一寸ニ足ラズ、殼ハ圓ク薄クシテ皺アリ、蓋ハ平ニシテ、孔一ツアリ、色薄赤シ。又、其薄黃色ナルヲ、夕日貝トイフ。

あさひかまぼこ (名) 【朝日蒲鉾】 板付ノかまぼこノ上面ヲ、紅ニテ染メタルモノ、橫ニ切レバ、邊、紅ニ、弓形ヲナシテ、旭ノ如シ。

〔あさびらき〕 (枕) 【朝開】 〔朝ニ港ヲ開船スル意〕 漕グトイフ所ノ枕詞。「—漕ギ出デテ」「—漕ギニシ舟」

あさぼらけ (名) 【朝朗】 夜明ノ空ノ薄ク明ミタルコト。 開旦

あさまし・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) (一)〔驚クホドニ甚シ〕 思ヒノ外ニ肝潰ル。(善キニモ、惡シキニモ) 驚歎 (二)興醒ム。呆ル。(多ク、惡シキニ)

あさまだき (副) 【朝未】 〔朝未シキノ意〕 朝、早ク。夜ノ未ダ明ケ果テヌニ。「—起キテゾ見ツル」「—差スヤ朝日ノ」 味早

あさまつげ (名) 【朝熊黃楊】 つげノ類ノ大ナルモノ、伊勢ノ朝熊山ヨリ多ク出ヅ。 錦熟黃楊

あざみ (名) 【薊】 草ノ名、春ノ初、芽ヲ出ス、葉ハ、地ニ就キテ生ジテ、刺、多シ、春ノ末、三四尺ノ莖ヲ出ス、亦刺アリ、後、花ヲ開ク、蕚毛刺アリテ、花ノ色、紫ナリ。人家ニ種ウルモノハ、ハナ—、マユハキ—ナドイヒテ、花、紅、白、紫、黃等種種アリ。又、山—、鬼—、野—、狐—等アリ、各條ニ注ス。

あざみぐは (名) 【薊桑】 桑ノ一種、葉ノ刻缺ノ深キモノ。 雞桑

あさみどり (名) 【淺綠】 綠色ノ淡キモノ。

〔あさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ〕 (他動) (規・二) (一)思ヒノ外ナリト驚ク。(褒貶共ニイフ) 驚歎 (二)淺ハカナリト賤シム。考ヘ淺シト貶ス。

あざむき (名) 【欺】 アザムクコト。タバカリ。

あざむ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動) (規・二) 【欺】 (一)人ヲ惑ハシ陷シイル。僞リ誘フ。タバカル。誑カス。スカス。ダマス。 (二)謗ル。「アザムキ笑フ」 謗

あさめし (名) 【朝飯】 朝ノ食事。アサゲ。アサハン。 朝餐

あざやか・ニ (副) 【鮮】 〔明サヤカノ約カ〕 麗ハシク分明トシテ。

〔あざや・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ〕 (自動) (規・二) 【鮮】 アザヤカニテル。

あさやけ (名) 【朝燒】 ゆふやけノ條ヲ見ヨ。

あざらし (名) 【海豹】 〔蝦夷語カトモ云〕 海獸ノ名、北海ニ多シ、頭、粗、狗ニ似テ、前脚、短ク、後脚、魚ノ尾ノ如クニテ、擻岐ヲナス、水、陸、共ニ棲ム、盤、四五尺、毛ハ、粗ク短クシテ、光リテ白シ、冬ニ至レバ、黑キ斑ヲ生ジテ美シ、皮ヲ馬具ナドノ飾ニ用ヰル。

あさり (名) 【淺蜊】 〔漁リ介ノ略カ〕 介ノ名、蛤ノ類ニシテ、殼、薄ク、表ニ、細カキたてをぢアリテ、斑ハ種種ナリ、海ノ沙中ニ產ズ。 蛤仔 又、沖—アリ、其條ニ注ス。

あさり (名) 【漁】 アサルコト。スナドリ。イサリ。「—スル」舟

アザリ (名) 【阿闍梨】 〔梵語、阿闍黎耶ノ略、軌範ノ義〕 僧ノ師トナルベキ者。アジャリ。(僧ノ稱號トス)

あさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動) (規・二) 〔足探ル意カ〕 (一)食物ヲ求メ步ク。(鳥獸ニ) 求食 (二)探リ求ム。タヅネサガス。 搜索 (三)轉ジテ、專ラ、魚介ヲ探リ採ル。スナドル。イサル。 漁

〔あざ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ〕 (自動) (規・二) 【餒】 腐ル。饐ユ。(魚肉ナドニ)

〔あざ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ〕 (自動) (規・二) 【戲】 〔あざハ嘲ノ意カ〕 タハムル。戲ル。

あざわら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動) (規・二) 【嘲笑】 アザケリワラフ。謗リワラフ。

あし (名) 【足】【脚】 (一)動物ノ下ノ方ノ肢ニテ、即チ地ヲ蹈ミテ立チ行キスルモノ。 (二)足ノ踝以下ノ稱。アシクビ。 (三)足ニテ步クコト。アユミ。「—ヲハヤメテ」「ハヤ—」 步 (四)スベテ、物ノ下ニアリテ、其體ヲ支フル脚ニ似タル物ノ稱。「机ノ—」「膳ノ—」 脚 (五)山ノ下ノ方。モト。 麓 (六)船ノ底ノ水ノ中ニ入レル部、積荷ノ輕重ニ因リテ、水ニ沈ム量ニ就キテイフ。 吃水

○日ノー。雲ヲ透シテ差ス日ノ光。日脚 或ハ、月日ノ過ギ行クコト。居 ○雲ノー。雨雲ナドノ垂レタル如ク見ユル處。雲脚 ○雨ノー。雨ノ降リ過グルコト。雨脚 ○ーヲ洗フ。賤シキ生業ヲ止メテ良民トナル。○ーヲツケル。逃ゲ行キタル方ヲ索ム。蹤迹 ○ーガツク。逃ゲ行キタル方、知ラル。

あし (名) 〔世ニ通用スルコト、足アリテ行クガ如キ意〕 錢ノ異名。

あし (名) 蘆葦 草ノ名、水邊ニ多シ、春、宿根ヨリ生ジテ、苗、高サ丈餘ニ至ル、枝ナクシテ、莖ノ中、心、空シ、葉ハ、竹ニ似テ互生ス、秋ニ至リ、莖ノ梢ニ、白穗ヲ成シテ花ヲ生ズ、穗ニ枝多シ。一名、ヨシ。

あし・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 惡 善クアラズ。惡ナリ。ワロシ。ワルシ。

あしあと (名) 足跡 歩ミタル足ノ地ニ印シタル處。

あしあぶり (名) 足炙 冬、火ヲ盛リテ足ヲ炙リ暖ムル器。アンクワ。脚爐

あしうち (名) 足打 (一)器ニ脚ヲ打チ添ヘタルモノ。アシツキ。(三方ノ臺、又ハ、折敷ナドニ) (二)あしうちをしきノ略。

あしうちをしき (名) 足打折敷 折敷ニ脚ヲ添ヘタルモノ。略シテ、アシウチ。又、アシツキ。膳ノ脚アルモノ。

〔あしうら (名) 足占 あうらニ同ジ。

あしおと (名) 足音 歩ミ行ク音。跫音

あしか (名) 葦鹿 〔或云、海鹿ノ約カト〕 海獸ノ名、東南海ニ産ス、形、かはうそニ似テ、圓ク肥エ、長、四五尺ヨリ丈餘ニ至ル、目大ク、耳小ク、口少シ尖ル、全身、茶色ナルヲ常トス、或ハ、白、黑白雜、蒼黑等アリ、毛ハ、密ニ柔ニシテ短シ、前脚ハ兩脇ニアリ、後脚ハ尾ヲ挾ミテ、共ニ鰭ノ如シ、尾ハ小クシテ獸ノ尾ノ如シ。一名、ウミヲソ。海驢

〔あじか (名) 簣 土ナド運ブ器、竹、又ハ、藁ナドニテ作リテ、笊ノ如シ。

あしがかり (名) 足掛 高キニ登ルニ、足ヲ蹈ミカクベキ處。

あしかし (名) 足枷 枷ノ條ヲ見ヨ。

あしかせ (名) あしかしニ同ジ。(枷ノ條ヲ見ヨ)

あしがため (名) 足固 歩ムコトヲ健ニセムトテ、遠足ナドスルコト。

〔あしがちる (枕) 葦散 難波ノ枕詞。

〔あしがなへ (名) 足鼎 かなへノ條ヲ見ヨ。

あしかのばん (名) 葦鹿番 あしかノ、晴レタル日ニハ、岩ノ上ニ群レテ眠レル中ニ、一匹、眠ラズシテ居ルモノ、人ヲ見レバ鳴ク、群、皆起キテ、共ニ海ニ入ル。

〔あしかび (名) 葦芽 葦ノ穎。葦ノ芽。

あしがひ (名) 葦貝 蛤ノ類、黄褐色ニテ、葦ノ如キ斑アリ。

あしがも (名) 葦鴨 (一)常ノ鴨、多ク葦ノ生ヒタル邊ニ居レバイフ。(二)又、鴨ノ一種、頭ハ灰色ニシテ赤ミアリ、眼ノ上ニ、白、黑ノ小條アリ、胸ハ赤黑ク、腹ハ灰白ニ、背ハ灰碧ニシテ赤黑ノ條アリ、翅ニ青羽交リテ、觜、脚、黑シ。

‡あしがら (名) 足搦 他ノ足ニ、己レノ足ヲ搦ミテ倒スコト。「ーヲカケル」

あしがる (名) 足輕 賤シキ兵卒ノ徒歩ニテ出立ツモノ。ザフヒヤウ。歩卒

〔あしぎぬ (名) 絁 〔惡帛ノ義カ〕 粗キ絲ニテ織リタル帛。

あしきる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動)(規・二) 刖 〔足切ルノ義〕 膝蓋骨ヲ切リ去ル。(支那ノ刑)

あしくび (名) 足頸 (一)足ノ踝ノ上ノ處。脚腕 (二)足ノ踝以下ノ總名。

あしげ (名) 葦毛 馬ノ毛色ノ名、白毛ニ、黑キ差毛アルモノ。騅

あしげ (名) 惡氣 惡シキ狀。「ーニ言ヒナス」

あしげ (名) 足蹶 足ニテ蹶ルコト。「ーニスル」

〔あしけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 惡 惡シキ、狀ナリ。

あしこ (代) 彼處 あそこニ同ジ。

あじさし (名) 鳥ノ名、形、稍、燕ニ似テ、大クシテ、又、大小ノ二種アリ、常ニ海上ニ飛ビテ、陸ニ來ルコト少シ。

あしざまに (副) 惡樣 惡シキヤウニ。惡キガ如クニ。「ー言フ」

あしじろ (名) 足代 材ヲ組ミ立テテ、高キ處ニ登ル足掛リトスルモノ。アナナヒ。アシバ。間架

あしずり (名) 足摩 足ヲ蹈ミ摩ルコト。アガクコト。(怒リ、又、歎ク時ナドニ云フ) 蹉跎

あしぞろへ (名) 足揃 人馬ノ足ヲ揃ヘテ列ヲ整フルコト。ゼイゾロヘ。(出陣ナドニ)

あした (名) 朝 〔朝立ノ轉約カ〕 (一)朝ノ時。アサ。(二)俗ニ、明日。

あしだ (名) 足駄 〔足下ノ轉〕 雨路ニ用ヰルはきもの名、多ク桐ニテ作ル、下ニ二脚ヲツクルヲ齒トイヒテ、欅、又ハ、樫ニテ作ル、上ニ緒ヲツケテ、足ニカケテ行ク、形、種種ナリ、婦人ノ用ナルハ、漆ニテ塗レルモアリ。ゲタ。屐

あしだかぐも (名) 足高蜘 くもノ一種、床ノ下、又ハ、箱ノ中ナドニ棲ム、長サ四五分、八足ニテ、甚ダ細ク高クシテ絲ノ如シ、全身、淡灰色ナリ、一目ニシテ、絲ヲ吐カズ、行クコト迅シ。蟏蛸

あしたぐさ (名) 草ノ名、海濱ニ生ズ、葉ハ、はまうどニ似テ、大ク、厚ク、光リテ淡綠ナリ、莖ヨリ黃ナル汁出ヅ、夏ノ半ニ、枝ノ梢ニ、白キ花ヲ開ク、細カクシテ、狀、傘ノ如ク、はまうどノ花ニ似タリ、此草、食用トスベシ。一名、アシタバ。鹹草

あしたづ (名) 葦田鶴 常ノ鶴、葦邊ナドニ居ルニツキテイフ。

〔あしたどころ (名) 朝所 太政官中ニアル間ノ名。或云、八省院ノ別名。音便ニ、アイタドコロ。アイタンドコロ。

あしだのはいれ (名) 足駄ノ齒ノ損ジタルヲ入レカヘスルコト。

あしたば (名) あしたぐさニ同ジ。

あしだまり (名) 足溜 軍ニ、地ヲ相テ暫シ陣取ル處。

あしだを (名) 足駄緒 足駄ノはなを。屐緒

あしつき (名) 足付 (一)あしうちニ同ジ。(二)歩ム狀。

あしつぎ (名) 足繼 〔足ノ丈ヲ繼グ義〕 身ノ丈ノ屆カヌ高キ處ヘ、手ヲトドケムガ爲ニ、蹈ミ上ルニ用ヰル臺。フミツギ。フミダイ。蹬

あしで (名) 葦手 あしでがきニ同ジ。

あしでがき (名) 葦手書 和歌ナド書クニ、文字ヲクヅシテ、葦ノ生ヒ亂レタル狀ニ擬ヘテ書クコト。又、水ノ流ルル狀ニ書クヲ水手トイフ。

あしてまとひ (名) 物ノ手足ニ纏ヒテ、働キノ自在ナラヌコト。ホダシ。(多ク妻子ナドノ累ヒトナルニ云フ) 累

あしどめ (名) 足留 人ノ遠クニ行クヲ禁メオクコト。(不時ノ用ノ爲ニ)

あしどり (名) 足取 足ノハコビノ狀。アシブミ。(跡ナドニ)

あしなが (名) 足長 想像ノ人種、其脚甚ダ長シトス。

あしながだこ (名) 足長蛸 てながだこニ同ジ。

あしなへ (名) 足蹇 不具ノ名、足ノ蹇ヘテハタラキノ自在ナラヌコト。蹇

あしなみ (名) 足並 足ノ列、足取ヲソロヘテ行クコト。(人馬ノ行列ナドニ)

あしば (名) 足場 あしじろニ同ジ。

あしばやに (副) 足早 歩ミヲハヤメテ。疾走

あしはら (名) 葦原 葦ノ生ヒ茂リタル廣キ地。

あしはらがに (名) 葦原蟹 (一)葦原ニ居ル蟹。(二)蟹ノ一種、螯ニ毛アリテ、脚ニ毛ナキモノ。

〔あしび (名) あせみニ同ジ。

あしびきの (枕) 足引 山トイフ語ノ枕詞。後ニハ、直ニ、山ノコトトス。「ー石根」ー木ノ間」

あしびやうし (名) 足拍子 足蹈ミシテ拍子ヲトルコト。(舞ニ)

あしぶみ (名) 足蹈 足ノハコビサマ。アシドリ。アシビヤシ。

あしへん (名) 足偏 漢字ノ偏ニアル足ノ字。路、跡、蹈ノ如シ。足旁

あしぼね (名) 足骨 (一)足ノ骨。(二)足ノ力。「ー强キ」 脚力

あしま (名) 葦間 葦ノ生ヒタル間。

あしまとひ (名) 足絡 はりがねむしノ一名。

あしもと (名) 足元 歩ム足ノ邊。「ーガ分ラヌ」ーカラ鳥ノ立ツ」 脚下

あしやう (名) 亞相 〔相、即チ大臣ニ亞グ意〕 大納言ノ異稱。

あしやがま (名) 葦屋釜 中世、筑前、遠賀郡、葦屋村ニテ鑄出シタリシ釜、土佐光信等ノ名工ノ下畫ニテ、松竹梅ナド鑄出セリ、茶家ニ珍重ス。

アジャリ (名) 阿闍梨 あざりヲ見ヨ。

アーシュラ (名) 阿修羅 〔梵語、阿ハ非ナリ、修羅ハ天ナリ〕 佛說ニ、六界ノ一、其果報、諸天ニ鄰次シテ、

天ニテラストス、常ニ略シテ修羅トノミイフ。

アシユラだう (名) 阿修羅道 阿修羅ノ界ヘ趣ク道。(阿修羅ヲ見ヨ)

アシユラわう (名) 阿修羅王 佛經ニ、神ノ名、力強ク、能ク梵天帝釋ト權ヲ爭ヒテ鬪フトイフ。

あしよわ (名) 足弱 (一)步行ノ健ナラヌコト。(二)轉ジテ、老人、兒女ノ稱。

あしらひ (名) アシラフコト。アヘシラヒ。

あしらふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規.二) あへしらふニ同ジ。

あじろ (名) 網代 [あみしろノ略] 川瀨ニ、數多ノ竹木ヲ編ミ列ネ、網ニ代ヘテ、魚ヲ捕フルモノ、山城ノ宇治川ニテ、冬日、氷魚ヲ捕ルニツキテ名アリ。 𡋽

あじろ (名) 網代 [字ハ借字ナリ、古言、編席ノ轉] ひのきヲ薄ク削ギタルモノ、又ハ、竹、葦ナドヲ、薄ク細ソクシタルモノヲ、縱橫ニ、斜ニ、編ミタルモノ、席トシ、又、種種ノ用トス。「―笠」―車」―天井」 筵席

あじろごし (名) 網代輿 板輿ニ次ギテ、晴ノ時ニ用キル輿、背竹ノあじろニテ、外ヲ張リツケ、黑塗リノ押緣ヲ打ツ。

〔あしわけをぶね (名) 葦別小舟 水中ニ葦ノ茂リタル中ヲ、押シ分ケテ漕ギ行ク小舟。萬葉集ノ「湊いりの、―障多み、我がおもふ君に、あはぬころかも」トイフ歌ヨリ出ヅ。轉ジテ、物事ニ故障アルコトニ譬ヘテイフ。

あす (名) 明日 [明スノ略カ] 今日ノ次ノ日。ミヤウニチ。

あす (副) 明日 明日ノ日ニ。「―行カム」

〔あす スル・スレ・セ・セ・セヨ (自動)(規.二) 淺 (一)淺クナル。(川水ナド) (二)淡クナル。サメテカハル。ウスラグ。(色ナドニ)

あすこ (代) 彼處 あそこニ同ジ。

あすならう (名) あすはひのきヲ見ヨ。

あすは (名) あすはひのきニ同ジ。

あすはひのき (名) [明日ハ檜ニ爲ラムノ意ト云、故ニ、明日爲ラウトモ云] 樹ノ名、ひのきニ似テ、葉、粗大ニシテ、冬モ凋マズ。略シテ、アスハ。アスヒ。又、アスナラウ。常ニ檜葉トモイフ。 羅漢柏

あすひ (名) あすはひのきニ同ジ。

＋あすび (名) あそびノ訛。

＋あすぶ (動) あそぶノ訛。

あせ (名) 汗 (一)動物ノ體ノ熱シタル時、肌ニ生ズル水。(二)血ノ異名。(齋宮ノ忌詞) ○手ニ―ヲ握ル。氣遣ヒテ精神ヲ凝ラス。

あぜ (名) 畔 田ノ中ニ、長ク土ヲ盛リテ界トスルモノ。クロ。

あぜおり (名) 畔織 布帛ノ織リヤウノ名、緯絲ノ太キト、細キトヲ、互ニ用キテ織リ、地ニ、タカビクヲナセルモノ。

あせぐむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規.二) [汗含ムノ約] あせばむニ同ジ。

あぜくら (名) 校倉 [あぜハ、糾ヘノ約カ] 方ナル材ヲ、横ニ組ミ上ゲ、四隅ニテ打違ヘテ、井樓ノ如クニ作リタル倉、古代ノ製ナリ、稀ニ社寺等ニアリテ、寶物ナド收ム。

あせじみ (名) 汗染 アセジムコト。衣ナドニ汗ノ染ミツキタル痕。

あせじむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規.二) 汗染 汗出デテ物ニ染ム。

あぜち (名) 按察使 古ヘ、諸國ノ中、多クハ陸奧出羽ヘ遣ハシ、敎化、風俗ヲ觀シメタマヒシ使、國司ノ政ノ治否ヲ察シタマフナリ。

あせてぬぐひ (名) 汗手拭 汗ヲ拭フニ供フル小キ布。アセノゴヒ。アセフキ。 汗巾

あせとり (名) 汗取 肌ニツケテ着テ、汗ヲ染マセテ去ル用トスル服。カザミ。 汗衫

あせのごひ (名) 汗拭 汗ヲ拭ヒ去ル布。アセフキ。

あせばむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規.二) 汗、肌ニ出デムトス。アセグム。 發汗

あせふき (名) 汗拭 あせのごひニ同ジ。

あせぼ (名) あぜみヲ見ヨ。

あせぼ (名) [汗疣ノ約] あせもニ同ジ。

あせみ (名) あぜみヲ見ヨ。

あぜみ (名) 馬醉木 [古言あしびノ轉] 灌木ノ名、山ニ多シ、高サ五六尺、葉、細ク長クシテ鋸齒アリ、ひさかきノ葉ニ似テ、薄クカタク、互生シ、冬、枯レズ、春、枝ノ梢ニ、三寸許ノ穗ヲ垂レテ、小白花ムラガリ開ク、ねぢきノ花ノ如シ、小キ子ヲ結フ、亦、ねぢきノ子ノ如シ。アシビ。アセミ。アセボ。 梫木

あぜみち (名) 畔路 畔ノ上ヲ路トスル處。 畷

あせみづ (名) 汗水 汗ノ水ノ如ク出デ流ルルコト。(甚シクハタラク意)「―ニナル」 流汗

あせんやく (名) 阿仙藥 五倍子ヲ煎煉シタルモノ、塊ヲナシテ、形、種種ナリ、色、紅、黑、又、紫アリ、舶來アリ、又、和製アリ、藥用トス。 百藥煎

あせも (名) [汗疣ノ約轉] 汗ニ因リテ、肌ニ生ズル小キ疱。アセボ。 疿子

＋あせる ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規.二) [あハ發語ニテ、せるハ競ルカ] 急キテ心ヲツカフ。苛ツ。 焦心

あそこ (代) 彼處 かしこニ同ジ。アシコ。アスコ。

あそばす ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規.二) 遊 爲スノ敬語。

あそび (名) 遊 (一)アソブコト。ナグサミ。(二)アソビメ。ウカレメ。 妓

あそぶ ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動)(規.二) 遊 (一)己ガ樂シトスル事ヲシテ心ヲヤル。心ヲ慰ムルワザヲス。(二)物見遊山ニ行ク。(漢文ノ意)「吉野ニ―」玉川ニ―」(三)＋俗ニ、人ヲ誑リテ樂ム。嘲弄ス。(人ヲモテアソブ意) 愚弄 (四)＋俗ニ、仕事無クテル。暇ニテル。 空手

あそみ (名) 朝臣 [吾兄臣ノ約、親ミテ呼ブ語] 姓ノ名、第二等ニ居ル。アツソン。アソン。

あそん (名) 朝臣 あそみノ音便。

あた (名) 仇 [當ノ義] (一)我ニ當リテ害ヲナス者。カタキ。(二)攻メ來ル者。我ヲ襲フモノ。テキ。「外國ノ―」 寇 (三)怨アルコト。「―ヲ返ヘス」―ヲ報ユ」 讎 (四)怨ヲムクユルコト。「―ヲナス」 復讎

〔あた (名) 咫 [開手ノ意カ] 上古ノ尺度ノ名、大指ト小指トヲ張レル間。

＋あだ (名) 仇 あたノ訛。

あだ (名) (一)假初ナルコト。ハカナキコト。「―人」―寢」(二)イタヅラナルコト。ムダナルコト。實ナキコト。 徒

＋あだ (名) [前條ノ語ノ轉] イロメキタル貌。

あだうち (名) 仇討 君、親、兄弟、朋友ナド殺シタル人ヲ覓チ殺シテ、仇ヲ報ユルコト。カタキウチ。 復讎

あたがたき (名) 仇敵 あた、又、かたきニ同ジ。 讎敵

あたかも (副) 恰 [當哉ノ義カ、當處モカ] 善ク合ヒテ。マサシク。サナガラ。チヤウド。

あだくち (名) 徒口 實ナキ言。空ナル言。

＋あだける ケル・ケレ・ケ・ケ・ケロ (自動)(規.四.變) 荒レタチテ騷ク。

あたごおけ (名) 愛宕皆 [山城ノ愛宕山ニ多シ] 深山陰地ニ生ズル植物、蔓、細クシテ絲ノ如ク、葉ハ、ひのきニ似テ薄ク、冬、黃赤ニカハリテ枯レズ。エイザンゴケ。 地柏

あだごと (名) 徒言 實ナキ言。アダクチ。

〔あたし シキ・シケレ・シク・シク (形.二) 異ナリ。他ナリ。

＋あだじけなし キ・ケレ・ク・ク (形.二) 吝シ。吝嗇ナリ。

あだしごころ (名) 他心 [徒之心ノ義] 誠ナクテ他ニ移ル心。

あだしちぎり (名) 他契 共人ヲ捨テテ他人ニ契ルコト。

あだしびと (名) 他人 他ノ人。タニン。

あたす スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動)(不規.二) 寇 寇ヲナス。

敵對ス。ハムカフ。

あたたかし キ・ケレ・ク・ク (形.二) 暖 アタタカニテアリ。

あたたかよ (副) 暖 ヨキホドニ熱ク。寒カラズニ。アタタカク。ヌクトク。(日、又、火ノ熱ニ)

あたたけし キ・ケレ・ク・ク (形.二) 暖 アタタカキ狀ニテアリ。

あたたまり (名) 暖 アタタマルコト。アタタカニナルコト。

あたたまる ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規.二) 暖 アタタカニナル。ヌクトマル。

あたたむ ムレ・ムレ・メ・メ・メロ (他動)(規.二) 暖 アタタカニス。

あだな (名) [假初ナル名ノ義、或云、字ノ轉] 人ヲ嘲リ賤シミテ、別ニツケテ呼ブ名。 綽號 渾名

あだな (名) 徒名 ウハキノ名ノ世間ニタツコト。

〔あたなふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動)(規.二) 寇 寇ヲナス。

あだなみ (名) 徒波 動キテ定マラヌ波ヲ、人ノ心ノ定マラヌニタトヘテ云フ語。

あだに (副) (一)假初ニ。ハカナク。(二)イタヅラニ。ムダニ。無用ニ。空ニ。「―思フ」骨折モ―ナル」 徒爲

あだばな (名) 徒花 イタヅラニ咲ク花。實ヲ結バヌ花。(瓜、瓜ナド) 謊花

あたひ (名) 價 [當テ交ヒノ略カ] (一)賣物ノ代ニ定メタル金錢ノ高。直。直段。「―イクバク」(二)價ノ代ノ錢。「―ヲ取ル」 價金 (三)人、物、ノ品評。ネウチ。 品位

〔あたふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動)(規.二) 能 [當テ合フノ約]

爲ルコトヲ得。此語、常ニ、「能ハズ」ト打消ヲ添ヘテ用ヰルノミナリ。

あたふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動）（規・二）與 己ガ物ヲ渡シテ他ノ物トス。贈ル。授クル。ヤル。ツカハス。

あたへ（名）直 〔古言あたひノ約〕上古ノ姓ノ名、後ニ連ニ入ル。

あたへ（名）與 アタフルコト。アタフル物。「天ノ―」

卄あたへる（動）與フノ訛。

あたま（名）天窓 〔貴尚ノ轉カ、或云天玉ノ意カト〕（一）カシラノイタダキ、頭蓋骨。（二）後ニ、スベテ頸ヨリ以上ノ稱。カシラ。カウベ。頭（三）スベテ、物事ノ最モ上、又、初ナル所。頭（四）卄俗ニ、人ヒトリヲ數フル語。「―割」「―數」○卄―ヲ搔ク。失敗リテ困マル。

卄あたまがち（名）體ノ釣合ニ勝チテ、頭ノ大ナルコト。

卄あたまわり（名）頭割 人頭ニ應ジテ物ヲ割付クルコト。

アダン（名）阿旦 〔琉球語ナラム〕熱帶地ニ產スル常綠草ノ名、葉ノ形、莖ノ如クニシテ、兩邊ニ刺アリ、中心ヨリ長キ莖ヲ出シテ、花ヲ開ク、淡紅、又ハ黃ナリ。草蘆薈

あだめく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動）（規・一）イロメク。

あだや（名）徒矢 射テ外レタル矢。虛箭

あたら（接頭）惜シキ。惜ムベキ。「―御身」「―盛リ」「―事」可惜

〔あたら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）惜シ。惜ムベシ。可惜

〔あたら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）新（一）アラタニテアリ。舊ク無シ。（二）未ダ日ヲ歷ズ。腐ラズ。（肉、菜ナドニ云）鮮

あたり（名）當 當ルコト。思フ目的ニ至リトドクコト。

あたり（名）邊 〔其處ニ當リノ義〕其所ニ近キ處。ワタリ。ホトリ。卄マハリ。

あたり（副）邊（一）其處近ク。「門ノ―過キ行ケバ」（二）頃ニ。「去去年―見タル物」

あたりあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動）（規・一）當合 タタカフ。キリアフ。鬪

あたりまへ（名）當前（一）理ノ當ル處。當然（二）ツネナルコト。ナミ。ツウレイ。尋常

あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・一）當（一）強クユキアフ。ウチツカル。（二）觸ル。サハル。（三）恰モヨク合フ。アテハマル。「理ニ―」「其時代ニ―」「小兒ノ頭ハ大人ノ腰ニ―」（四）アリ。居リ。「北海道ハ日本ノ北ニ―」在（五）出合フ。デクハス。「其時ニ―」「其場ニ―」會（六）物事目サス所ヘイタリトドク。外レズ。「矢ガ―」「占ガ―」「鬮ガ―」中（七）思ヒノ如クニ成就ス。機ヲ得テ行ハル。（目途ニ中ル意）「謀ガ―」「芝居ガ―」「商ヒガ―」「やまガ―」○氣ニ―。怒ル。○火ニ―。暖マル。

あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・一）中 〔當ル意〕傷メラル。ソコナハル。病ム。「食ニ―」「毒ニ―」「時候ニ―」

あち（代）彼方 あなた、又、かなたニ同ジ。

あぢ（名）鰺 海產ノ魚、狀、鯖ニ似テ小ク、長サ二三寸ヨリ尺ニ至ル、鱗ナクシテ、兩面ノ腮ノ下ヨリ尾マデ、線ヲナシテ、鱗ノ如キヲ、折レテ並ブ、コレヲぜいご、又、ぜんご（竹筴）トイフ、背、青クシテ赤ミアリ、腹ハ微白ナリ、夏、秋、多ク、肉、美ナリ。竹筴魚

〔あぢ（名）あぢがもヲ見ヨ。

あぢ（名）味（一）食物ノ舌ニアリテ生ズル甘キ、辛キ、苦キ、酸キ、鹹キナドノ感。アヂハヒ。（二）轉ジテ、物事ノ人ノ好ニ感ズルコト。オモムキ。趣味

あぢうり（名）味瓜 まくはうりニ同ジ。

あぢがも（名）古名、アヂ。鳥ノ名、鴨ニ似テ小ク、頭、青綠ニシテ、黃赤ヲ帶ビ、翅ハ灰色ニ、胸ハ黃赤ニシテ、小キ黑點アリ、腹ハ白ク、背ハ灰白ニシテ、赤黑キ毛マジル、常ニ、數百羽、群レヲナス。

あぢきな・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）〔味氣無シノ意ト云〕（一）無益ナリ。詮ナシ。無益（二）面白ミナシ。妙ナラズ。無味（三）ツラシ。ナサケナシ。

あぢさ（名）樹ノ名、ちちのきヲ見ヨ。

あぢさゐ（名）紫陽花 〔古言あづさゐノ轉〕灌木ノ名、高キハ五六尺ニ至ル、葉ハ對生シテ、大サ四五寸アリ、長楕ニシテ、先キ尖リ、周邊ニ鋸齒アリ、初夏ニ、莖ノ頭ニ、小キ花ヲ開ク、四瓣ニシテ數十ムラガリ咲ク、色ハ、初メ黃白ニシテ、後ニ、碧、或ハ、淡紫ニ變ズ。紫繡毬

あぢはひ（名）味（一）アヂハフコト。アヂ。（二）オモムキ。趣味

あぢは・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動）（規・一）味 〔味ヲハタラカス〕（一）味ヲ試ミル。（二）意義ヲ深ク考フ。「文義ヲ―」玩味

あぢは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動）（規・二）味 前條ノ語ニ同ジ。

卄あぢはへる（動）あぢはふ（規・二）ノ訛。

あぢまさ（名）樹ノ名、びらうニ同ジ。

卄あぢゃらづけ（名）蓮根、大根、ずゐきナドヲ、細ニキザミテ、酢、酒、醬油ニ漬ケタル食物。

あちら（代）あなたニ同ジ。

あ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動）（規・二）當（一）強クツキアハス。打チ付ク。（二）觸レシム。サハラス。「顏ニ手ヲ―」（三）合ハス。カナハス。アテハム。「法律ニ―」「茶ヲ酒ニ―」（四）割リ付ク。「課役ヲ―」充（五）目的ニトドカス。「的ニ―」中（六）推察シテ得。（占ナドニ）中（七）卄計拱ノ如クニ成就セシム。「シバヰヲ―」「やまヲ―」○物差ヲ―。度ル。差ス。○熨斗ヲ―。熨ス。○火ニ―。炙ル。暖ム。

あついた（名）厚板 〔古ヘ、厚キ地ノ織物ヲ板トイヘリ〕絹布ノ一種、練絲ヲ經トシ、生絲ヲ緯トシテ、地紋ヲ織リ出セルモノ。綃

卄あつかは（名）厚皮 〔恥ニ感ゼヌハ、面ノ皮厚キ意〕恥ヲ恥ト思ハヌコト。鐵面皮

あつかひ（名）扱 アツカフコト。アツカフ仕方。

あつかひにん（名）扱人 爭論ヲ和解スル人。

あつか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動）（規・一）扱 〔當テ使フノ略カ〕（一）セワヤク。（二）計ラヒオコナフ。トリサバク。處置（三）モチヰル。ツカフ。「槍ヲ―」「長刀ヲ―」使用（四）モテナス。アシラフ。「重ク―」接待（五）爭論ナドノ間ニ入リテ宥ム。調停

卄あつかまし・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）〔面ノ皮、厚カマシノ意〕恥ヲ恥ト思ハズ。恥ヲ知ラズシテアリ。

あつがみ（名）厚紙 紙ヲ糊ニテ數枚貼リ合セテ厚ク堅クシタルモノ、帳面ノ表紙ナドニ用ヰル。

あつかん（名）熱燗 酒ノ燗ノ甚ダ熱キモノ。熱酒

あづかり（名）預（一）預カルコト。受託（二）引受ケテ守ル者。（三）一所ノ司ノ長。「畫所ノ―」

あづか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・一）與（一）カカハル。參リ合フ。「政事ニ―」（二）因ル。係ル。「品行ハ敎育ニ―」（三）其列ニ入ル。「褒美ニ―」

あづか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動）（規・一）預 〔あづけらるノ約〕預ケラレテ守ル。引受ク。受託

あつぎ（名）厚着 衣ヲ厚ク重ネテ着ルコト。重襲

あづき（名）小豆（一）豆ノ類、實ノ大豆ヨリ小キモノ。セウヅ。おかー、まろー、くろー、やへなりー等アリ。（二）專ラ、おかーノ稱、夏、種ヲ下シテ、秋、收ム、高サ尺許、枝、葉、ささげニ似テ小ク、實、赤クシテ黑ミアリ。赤小豆 大小ノ二種アリ。小キハ、早ク熟ス、夏ートイフ。麻熟 大ナルハ、秋、熟ス、秋ートイフ。秋赤豆 共ニ種類アリ。

あづきがは（名）赤豆革 なめしがはノ、厚クシテ大しぼアリテ、赤黑ク染メタルモノ、色、あづきノ實ノ如シ、元ハ、和蘭ノ產ヲ舶來セリ、今ハ、專ラ、和製ニス。

あづきめし（名）赤豆飯 煮タルあづきヲ、米ニ交ヘテ炊ギタル飯、色、紅ナリ。アカノメシ。

あづきもち（名）赤豆餅 餅ニあづきノ餡ヲカケタルモノ。

卄あづ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動）（規・二）預 〔當テ付クノ意カ〕物ヲ人ニ引受ケサセテ守ラス。寄託

あつくる・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）熱苦 苦シク熱シ。

あつけ（名）夏ノ暑氣ニ中リテ病ムコト。中暑

卄あつけ（名）驚キテ呆ルルコト。「―ニトラル」瞠若

あづけ（名）預（一）預クルコト。（二）罰ノ名、某ノ人ニアツケテ守ラセオクコト。保管

〔あつけ・し・キ・ケレ・ク・ク（形・一）熱シニ同ジ。

卄あつけな・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）物足ラズ。十分ナラズ。

卄あづける（動）あづくノ訛。

あつさ（名）暑氣 夏ノ時候ノ感。

あづさ（名）梓 あかめがしはヲ見ヨ。

あづさみこ（名）梓巫 梓弓ノ弦ヲ鳴ラシテ、神降ヲスル巫女。

あづさゆみ（名）梓弓 古ヘ梓ニテ作レル弓。（常ニ、武夫ノ執ルベキ節操ニツケテイフ）

あづさゆみ（枕）梓弓 引ク、張ル、音、本、末ナドイフ語ノ枕詞。

卄あつさり（副）淺ク。淡ク。濃ニナク。淡泊

〔あづさゐ（名）あぢさゐノ古言。

アッシ（名）厚子 〔蝦夷語〕あつにノ樹ノ皮ヲ剝ギ

テ、紋ギテ織レル布、蝦夷人製シテ常ノ服トス。

あつ・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）厚 (一)表ヨリ裏ヘ間アリ。重リ多シ。薄カラズ。(二)深シ。濃カナリ。疎カラズ。「志ー」「情ー」

あつ・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）熱 (一)熱烈シ。甚ダ強クホトル。(二)暑氣強シ。暑 (三)思ヒ烈シク凝ル。「アツクナル」熱心

〔あつ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）病ミテ熱アリ。悶熱

あつ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動）（不規・二）壓 強ク壓ス。

あつそん（名）朝臣 あそみヲ見ヨ。

あつたう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動）（不規・二）壓倒 オシタヲス。勢ニテ負カス。

†あつたかし（形）あたたかしノ訛。

†あつたまる（動）あたたまるノ訛。

†あつためる（動）あたたむノ訛。

†あつたら（接頭）あたらノ訛。「ー手」

あづち（名）堋 射垜〔古言あむつちノ約〕弓射ルコトヲ習フトキ、的ヲカクル處、土ニテ築ク。イクハドコロ。

†あつち（代）彼方 あちノ訛。

あづちもん（名）堋門 築地ニ作リタル門。

あつと（副）感ト音便。「ーサケブ」「ー感心ス」

あつに（名）樹ノ名、北海道、日光、木曾等ノ山中ニ産ス、楡ノ一種ナリ、葉ノ形、楕圓ニシテ、端、裂ケテ三五尖ヲナス、春ノ末、枝ノ上ニ、敗小花ムラガリ開ク、筒狀ニシテ、端、五ツニ裂ケテ淡綠ナリ、實モ楡ノ

莢ニ似タリ、樹ノ皮、柔ク、シナヤカニシテ、剝ギテ薪ヲ束ベシ、蝦夷ハあつしノ布ニ製ス。楡一種

あつぱれ（感）遖〔古言、天晴ノ轉〕讚美驚歎ニ發スル感動詞。「ー勇士」

あつびたひ（名）厚額 冠ノ一種、磯ノ厚キモノ、十六歳以後用ヰル。

あつぶさ（名）厚總 馬具ノ鞦ニ、絲ノ總ヲ多ク飾リツケタルモノ。

†あつぼつた・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）〔厚太シノ轉訛〕甚ダ厚シ。

あづま（名）吾妻 東國〔日本武尊、碓氷嶺ニ登リテ、東南ヲ望ミ、弟橘媛ヲ顧ビテ、吾嬬者耶ト宣ヒシニ起ル〕畿内ヨリ遙ニ東ノ方ナル國國ノ泛稱。

〔あづまあそび（名）東遊 神樂ノ類、六人、揩衣ニテ舞フ。

〔あづまうた（名）東歌 萬葉集、古今集等ニ載セタル東國人ノ詠歌ノ稱。

〔あづまうど（名）あづまびとノ音便。

あづまぎく（名）東菊 草ノ名、山野ニ自生ス、春、莖ヲ出シテ、淡紅ナル花ヲ開ク、菊花ノ如シ、又、色白クシテ、瓣ノ長キモアリ。

あづまげた（名）東下駄 下駄ニたたみおもてヲ付ケタルモノ。

あづまごと（名）東琴 わごとノ一種、六絃ノ手、神樂及雅樂ニ用ヰル、日本古代ヨリノ樂器ニシテ、古ヘ

六弓ヲ並ベテ彈ケルニ起レリトイフ。一名、ヤマトゴト。又、和琴。

あづまぢ（名）東路 京都ヨリ東ノ方陸奧ニ至ルマデノ路筋ノ稱。

あづまなまり（名）東訛 東國邊鄙ノ訛言。

あづまびと（名）東人 東國ノ人。

あづまひやくくわん（名）東百官 人ノ通稱ニ用ヰル、伊織、多門、左膳、求馬ナドイフモノ。往時、關東ノ武士多クコレヲ用ヰテ、其字面、朝廷ノ百官ニ似タレバイフ。（近古ノ事ナリ、平將門ニ始マルトイフハ誤レリ）

あづまや（名）東屋 四方ヘ屋ヲ葺キオロシ、四柱ニシテ壁ナキ家作ノ名。四阿

あつまり（名）集 アツマルコト。アツマリタル數。

あつまりぜい（名）集勢 諸方ヨリ集リテ、心ノ一致セザル軍勢。烏合衆

あつま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・二）集 多ク一ツ處ニ寄ル。ツドフ。ムラガル。

あづまをとこ（名）東男 東國ノ男子。

あつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動）（規・二）集 多ク一ツ處ニ寄ス。ツドフル。マトム。

†あつめる（動）あつむノ訛。

あつもの（名）羹〔熱物ノ義〕すひものニ同ジ。

あつもりさう（名）敦盛草〔平敦盛ガ母衣ヲ負ヘル形ニタトヘテイフト〕宿根草、葉ハえびねニ似テ廣シ、花ハ紫ニシテ、母衣ヲ負ヒタルガ如シ、日ヲ畏ル。

あつら・ふ・フ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動）（規・二）誂 (一)頼ミテ爲サシム。(二)注文シテ造ラシム。

あつらへ（名）誂 アツラフルコト。注文シテ作ラスルコト。

あつらへる（動）あつらふノ訛。

あて（名）高貴 貴キコト。貴クミヤビナルコト。「ー人」

あて（名）當 (一)當ツルコト。(二)物ヲ打ツ時、下ニ置ク盤。砧 (三)的。ネラヒ。(四)メアテ。タノミ。「ーニナラズ」「ーニスル」恃

あて（名）宛〔字ハ充ノ誤、當ノ義〕(一)ソレト差シアツルコト。「手紙ノ名前ナドニ」(二)アテガヒ。「一人ニ一ツー」

あておこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動）（規・二）宛行 (一)事ニ充テテ行フ。(二)アテガフ。

あてがひ（名）宛行 アテガフコト。アテガフ物。

あてがひぶち（名）宛行扶持 (一)其人ニアテガフ扶持米。(二)†轉ジテ、俗ニ、他ノ望ミニ應セズ、心マカセニ物ヲアテガフコト。

あてが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動）（規・二）宛行 (一)割リ充テテ與フ。配リテワタス。「知行ヲー」「扶持ヲー」分與 (二)他ノ望ミニ係ハラズ、心マカセニ物ヲ割リ與フ。(三)其處ニ當テハメテオク。充 (四)†試ミニ合ハセテ見ル。

†あてこすり（名）當擦 アテコスルコト。諷詆

†あてこす・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・二）當擦 人ノ心ニ當テテサトルヤウニ誹ル。他ノ事ニカコツケテ謗ル。

諷詆 譏誚

†あてこと（名）當事 ソレト充テテ頼ミトスル事。

あてじ（名）當字 其字ノ意味ニ係ハラズ、音ノミ借リテ當テ用ヰルコト。（多ク誤用スルニ云フ）假借字

†あてつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動）（規・四・變）當付 あてこするニ同ジ。

あてど（名）當所 當ツル處。メアテ。

あてな（名）宛名 手紙ナドニ、宛テテ送ルベキ人ノ名。

〔あてに（副）高貴 貴ク品好ク。アテヤカニ。「ーウツクシ」「ーナマメク」「アテナル女」

あてはま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・二）當テテ程ヨク塡マル。適當

あては・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動）（規・二）當テテ塡ム。程ヨク合ハス。其用ニ向ケテモチヰル。適用

あてはめる（動）あてはむノ訛。

〔あてびと（名）貴人 タフトキヒト。

〔あてぶみ（名）充文 其人ニ充テムト官ヨリ下ス公文。

あてみ（名）當身 拳ニテ人ノ急所ヲ突クコト。（柔術ノ語）

あてもの（名）中物 物ヲ隱シテ、考ヘテ知リ中ツルコト。

あてやかに（副）(一)高貴ナル狀ニ。(二)品ヨクシテ美シク。嫺姸

†あてる（動）當ツノ訛。

あと（名）跡〔足處ノ義〕(一)歩ミタル所。アシアト。「ーヲ認ム」「ーヲツク」「ー無シ」足跡 (二)往來。ワウライ。「ー絶ユ」人行 (三)去リタル方。行方。「ーヲ慕フ」「ーヲ隱ス」「ーヲクラマス」蹤跡 (四)物事ノ過ギテ後ニ遺ルシルシ。「ー殘ル」「政治ノー」痕 遺蹟 (五)永ク世ニトドマル神佛ノ靈、又ハ人ノ功德。「ーヲ垂ル」(六)ナリキタリ。タメシ。例。「ーヲ同ジウス」往蹟 遺例 (七)家ノ名ヲ相續スルコト。名跡。跡目。「ーヲ繼グ」「ーヲ立ツ」○ーヲ垂ル。本地、又、垂跡ノ條ヲ見ヨ。○ーヲクラマス。出奔ス。晦迹 ○筆ノー。記シタル文字。筆蹟 ○ーヲツケル。行方ニ隨ヒテ求ム。蹤跡 ○ーヲ取ル。家督ス。

あと（名）後〔跡ノ義〕(一)後。(二)ウシロノカタ。シリヘ。「ーニツク」背後 (三)前ニ過ギタルコト。「ーノ月」「三年ー」前 (四)人ノ死シタル後ノ靈。「ーヲ訪フ」身後 ○ーヲ弔フ。追善ヲナス。供養ス。追福 ○ーヲ引ク。永ク續ク。限リナク欲ス。○ーノ祭。爲ル事ノ機ニ後レタルコト。

〔あど（名）〔相人ノ略カ〕能ノ狂言ノ脇師。和伎者

あとあし（名）後足 獸ノ尻ノ方ノ兩脚。後脚

〔あどうがたり（名）物語ノ應答ナリト云フ。或ハ、なぞなぞがたりナリト云フ。或ハ後語ノ延ニテ、かげおと、かげくちナリト云フ。

〔あどう・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動）（規・二）(一)和伎者ヲナス。

(三)他ノ話ニ口ヲ合ハセテ話ス。機嫌ヲムカヘテ話ス。迎合

あとおさへ (名) 後押 行列ナドノ最後ヲ警メ行ク役。押後

あとかた (名) 後肩 さきかたヲ見ヨ。

あとかたなし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 無跡形 (一)跡モ形モ無シ。在リタル痕見エズ。無形跡 (二)ワケワカラズ。

あとげつ (名) 後月 せんげつニ同ジ。前月

あとけなし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 〔和役者氣ナシノ意カ〕思慮無シ。爲スコト幼シ。(小兒ニ)

あとさき (名) 後先 後ト前ト。先後 ○―ニナル。後ノ手先トナル。○―見ズ。思慮ナシ。

あとしき (名) 跡式 あとめヲ見ヨ。

あとしざり (名) 後退 (一)背ノ方ヘ退ルコト。卻行 (二)畏レ、又、タジロギテ後ヘ退ルコト。逡巡 (三)すりばちむしノ一名。

あとずさり (名) 後退 (一)あとじさりノ轉。(二)すりばちむしノ一名。

あとぞなへ (名) 後備 (一)後ニツク軍勢。後軍 (二)軍勢ノ後ノ備ヘトスルモノ。斷後

あとつぎ (名) 跡繼 父ノ跡目ヲ繼グベキ子。アトトリ。嗣子

あととり (名) 跡取 あとつぎニ同ジ。

あとなし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) あとけなしニ同ジ。

あとのり (名) 後乘 行列ナドニ、最後ヲ騎馬ニテ押ヘ行ク者。

〔あとはかなし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 遺レル跡無シ。痕ノ認ムベキナシ。

あとばら (名) 後腹 產後ニ腹ノ痛ムコト。兒枕痛 ○―ガ病ム。果テタル事ノ後ニ障ヲ起ス。

‡あとひき (名) 後引 飽クコトヲ知ラズシテ、限リナク欲スルコト。

あとびさり (名) 後退 (一)あとじさりノ音轉。(二)スリバチムシ。

‡あとびつさり (名) あとびさりノ訛。

‡あとびつしやり (名) あとびさりノ訛。

あとべ (名) 後方 ウシロノカタ。シリヘ。

‡あとぼう (名) 後棒 あとかたニ同ジ。(さきかたノ條ヲ見ヨ)

あとまはし (名) 後廻 仕事ヲ繰合ハセテ後ニ延バスコト。

あとめ (名) 後目 後。シリ。ウシロ。「―ニ附キテ」背後

あとめ (名) 跡目 (一)父兄ノ家督ニ代ハルコト。跡式。「―ヲ繼グ」(二)役目ニ、先役ニ代ハルコト。

あともどり (名) 後戾 (一)來シ方ヘ引返スコト。(二)巧ナルヨリ拙キニ移ルコト。(技ナドニ) 退步 倒行

〔あともふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規・一) 〔後伴フノ意カ〕引連ル。トモナフ。ヒキヰル。率

あとり (名) 獦子鳥 鳥ノ名、雀ヨリ稍大ク、頭、頸、灰青色ニシテ、黒キ斑アリ、頷、胷、黄赤ニ、背ハ蒼黒ニ赤ミアリテ、黒キ斑アリ、胸、腹、赤クシテ黒ミアリ、翅、尾ハ黒ク、胸ハ黄赤ナリ、深山ニ產シ、秋ノ末ニ群リテ來ル。花鷄

あな (名) 穴 (一)物ノ面ニ、ウツロニ穿テル處。(貫ケタルモ、凹ミタルモイフ) 孔 (二)サアヤマチ。キズ。失

あな (感) 汎ク事ニ感ズルニ發スル聲。アア。アラ。(常ニ他語ノ首ニアリ)「―恐ロシ」「―戀ヒシ」「―惡シ」噫

〔あない (名) 案内 あんないノ略。

あないち (名) 穴一 錢打ノ一種、地ニ穴ヲ穿チ、錢ヲ拋チテ取ルモノ。

〔あなうら (名) 足裏 〔足之裏ノ轉〕アシノウラ。蹠

あなかしこ (句) 穴賢 〔字ハ當字ナリ〕(一)噫畏シ。アア恐レ多シ。アラ勿體ナシ。(二)愼ムベシ。尊ビ秘スベシ。(文章ノ末ニ記ス語)

あながち (副) あながちにニ同ジ。

あながちに (副) 〔穴穿チニノ意ナラムト云、或云、噫勝ニノ意カト〕分ニ過ギテ。強ヒテ。オシテ。強

〔あなかま (句) 噫喧 アナ喧シ。(制止スル語)

あなかんむり (名) 穴冠 漢字ノ頭ニアル穴ノ字、空、究、窄ノ如シ。穴字頭

あなぐま (名) 穴熊 (一)熊ノ洞ニ棲ムモノノ稱。(二)又、獸ノ名、あなほりノ一名。

あなぐも (名) 穴蜘 つちぐもニ同ジ。

あなぐら (名) 穴藏 地ヲ掘リテ穴ヲ作リ、倉ノ用ヰトナスモノ、今、多クハ大ナル匣ヲ地中ニ埋メテ造ル。土窖

あなぐる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動)(規・二) 〔穴轉ルノ意カ〕探リモトム。穿鑿ス。撿覈

あなご (名) 穴子 魚ノ名、東海ニ多シ、形、はもニ似テ、黄赤ニシテ黒ミアリ、兩脇ニ、白キ小點アリテ、一條ニ連リテ尾ニ至ル、腹白シ、大ナルハ二尺ニ至ル、味、うなぎニ次ゲリ、亦炙リテ食フ。海鰻鱺一種

〔あなし (名) 西北ノ風。アナセ。

〔あなすゑ (名) 足末 〔足之末ノ轉〕足ノ先。足端

あなぜ (名) 〔古言、あなしノ轉〕西北ノ風。(畿內、中國)

あなた (代) 彼方 〔彼之方ノ約轉〕(一)方向ノ代名詞。彼ノ方。カナタ。(二)以前。(三)轉ジテ、對稱ノ代名詞。今、尊長ヨリ同輩ニ掛ケテ相語ルニ、最モ多ク用ヰル。

あなぢ (名) 穴痔 痔漏ニ同ジ。

〔あなづる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動)(規・二) あなどるニ同ジ。

あなどり (名) 侮 アナドルコト。「他ノ―ヲ受ク」

あなどる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動)(規・二) 侮 賤シク劣レルモノト見ル。輕輕シク認ム。ミサゲカロンズ。

‡あななし (名) 女ノ不具ノ名、人道ノ通ゼザルモノ。

アナナス (名) 鳳梨 〔Ananas. 東印度語ナリ〕熱帶地ノ植物、葉、地ヨリ叢生シテ甚ダ長大ナリ、實ノ狀、松毬ノ如クニシテ、甚ダ大ナリ、肉食スベシ。

〔あななひ (名) (一)アナナフコト。助クルコト。(二)高キニ上ル足掛リトスル具、材ヲ組ミテ作ル。アシシロ。アシバ。

〔あななふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規・一) 助ク。扶助ス。扶

あなにく (句) 噫憎シ。生憎

〔あなはじかみ (名) 生薑ノ古名。(はじかみノ條、見合ハスベシ)

あなばち (名) 穴蜂 つちばちニ同ジ。

あなほり (名) 穴堀 (一)工人ノ、梁、柱ナドニ穴ヲ穿ツヲ業トスルモノ。(二)葬リノ穴ヲ堀ルヲ業トスル者。(三)獸ノ名、山中ニ穴居ス、毛黒ク黄ニシテ、頭細ク、喙尖リ、目圓クシテ鋭ク、四足短ク、爪長シ、尾大クシテ短ク、頭ヨリ尾マデ二三尺アリ、體疲セテ、走ルコト飛鳥ノ如シ、晝伏シ、夜出ツ、好ミテ果ヲ食トス。一名、アナグマ。貒

あに (名) 兄 (一)同ジ親ニ生マレタル男子ノ先ニ生レタルモノ。エゼ。イロセ。コノカミ。(二)又、人ヲ親シミ尊ビテ呼ブ稱。

あに (副) 豈 何トシテ。如何ニシテ。イカデ。(下、必ズ、反說スル語ニ應ズ)「―知ラムヤ」「―勝ラシカ」

‡あにき (名) 〔兄君ノ略〕元ハ、兄ノ尊稱。後ニハ、只、兄トイフニ同ジ。

‡あにき (代) 〔前條ノ語ノ轉〕對稱ノ代名詞、馴レ親シミ、稍、敬ヒテ呼ブニ用ヰル。哥哥 大哥

あにご (名) 兄御 兄ノ尊稱。(他ノ兄ヲ稱スルニイフ) 介兄

あにでし (名) 兄弟子 我ガ師ニ、我レヨリ先ニ、就キテ學ベル者。

あによめ (名) 兄嫁 兄ノ妻。嫂

あね (名) 姉 (一)女ノ兄。イロネ。(二)又、汎ク、女ヲ尊ビ親ミ呼ブ稱。

あねご (名) 姉御 姉ヲ尊ビ呼ブ稱。(他ノ姉ヲ稱スルニ用ヰル)

‡あねご (代) 姉御 〔前條ノ語ノ轉〕對稱ノ代名詞、女ヲ親シミ敬ヒ呼ブニイフ。大姐

あねはづる (名) 姉羽鶴 形ハ、まなづるニ似テ、胷ノ本ハ、淡綠ニシテ、末ハ黄ヲ帶ブ、胸、背、淡黒ク、腹ハ眞黒ニシテ、長キ毛ヲ垂ル、頭ニ長キ毛アリテ、灰色ナリ。蓑衣鶴

あねむこ (名) 姉聟 姉ノ夫。姐夫

あの (代) 彼 かのニ同ジ。

あは (名) 粟 (一)穀ノ名、苗モ、葉モ、きびニ似テ、一根一莖ニシテ一穗ヲ出ス、大―、小―等、種類多ク、皆早、中、晩、粳、糯ノ品アリ。大―ハ、穗、大クシテ、長キ毛アリ、故ニ、毛―トモイフ、毛ニ黒ト赤トアリ、粒ハ粗ナリ、小―ト共ニ黒、白、赤ノ品アリ、白キハ餅トシ、黄ナルハ飯トス。粱 小―ハ、穗稍小ク、粒モ細シ。粟 モチ―ハ、粘アルモノ。秫 (二)寒サノ肌ニ迫ルトキ、毛孔ノ粟粒ノ如ク起ルモノ。「肌ニ―ガ立ツ」

〔あはあはし・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 淡々 (一)甚ダ淡シ。(二)趣意ナシ。

あはう (名) 阿房 愚ナルコト。タハケ。痴

あはうどり (名) 阿房鳥 海ニ棲ム鳥、形、かもめニ似テ、雁ヨリ大ナリ、全身、白クシテ青ミアリ、觜、長

クシテ、少シ反ル、脚赤シ、性愚ニシテ、肉臭シ。別名、ライ。オキノタイフ。トウクラウ。 信天翁

あはうばらひ (名) 阿房拂 武家ニテ、大小ノ兩刀ヲ褫ヒテ追放スルコト。

あは-おもし (名) おもしおめノ條ヲ見ヨ。

あは-がひ (名) 粟貝 蜾ノ類、黄ニシテ小キコト、粟粒ノ如シ。

〔あはく・クル・クレ・ケ・ケ・ケロ (自動) (規・二) 縮リ無クテアリ。

あばく・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動) (規・一) 發 (一)土ヲ堀リヒラキテ埋マリタルヲ出ス。「塚ヲ—」 (二)他ノ隱事ヲ摘キテ世ニ現ハス。「隱謀ヲ—」 訐

あはし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 淡 (一)濃カラズ。薄シ。アッサリトシタリ。(色ニ、味ニ、趣キニ) (二)厚カラズ。淺シ。(情ニ、交リニ)

あはす・ス・セ・サ・シ・セ (他動) (規・一) 合 (一)合フヤウニス。カレトコレト共ニス。 (二)調合ス。(藥、又、煉香ナド)

あはせ (名) 袷 〔合衣ノ略〕 表、裏ヲ合ハセテ作レル服。(單衣、綿入ニ對ス) 夾衣

〔あはせ (名) 飯ニ合ハセテ食フ菜。

あはせかがみ (名) 合鏡 二ツノ鏡ニテ、照ラシ合セテ項ナドノ目ニ見エヌ所ヲ見ルコト。

〔あはせたきもの (名) 煉香ニ同ジ。

あはせつち (名) 合土 砂利、赤土、石灰ニ、にがしほヲ合セタルモノ、滷、泉水ノ底ナドヲ、コレヲ撒キテ、叩キ固メテ作リ、堅キコト石ノ如クナル。タタキ。 三和土

あはせど (名) 合砥 砥ノ一種、刀劍、剃刀ナド研グニ用ヰルモノ、山城ノ鳴瀧砥、最モ名アリ。 砥

あはせめ (名) 合目 二ツノ物ヲ合ハセタル際。

┼あばた (名) 痘痕ニ同ジ。

あは-たけ (名) 粟茸 黄ニシテ黒ミアル菌ノ名、秋、山野ニ生ズ、莖ニひだナクテ、針目多シ、食フベカラズ。

あは-だつ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動) (規・一) 粟立 毛孔、粟粒ノ如ク起ツ。ミノケ、イヨダツ。(恐レ、或ハ、寒クシテ) 毛起

あはた-やき (名) 粟田燒 京都ノ粟田口ニテ作ル陶器、十燒ニテ、釉、多クハ褐色ナリ、錦手、金襴手多シ。

あはつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動) (規・二) 周章 あわつノ轉。

〔あは-つけし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 浮キタル狀ニテアリ。「アハツケキ戯狀」

あは-の-みづあめ (名) 粟水飴 粟ノもやしニテ製セル水飴。

あはひ (名) 間 〔相合ノ約カ〕 (一)兩ノ中。アヒダ。間。 (二)交リノ中。 交際

あはび (名) 鰒 鮑 介ノ名、殼、一片ニシテ蓋ナク、海底ノ石ニ貼ク、徑、二三寸ヨリ、大ナルハ一尺ニ至ル、殼ノ邊ニ、乳頭ノ形シタルモノ、十餘アリテ、大、小、順次ニ連リ、其七八ハ穿テリ、外面、粗糙ナリ、內ハ淡藍ニシテ光ル、螺鈿ニ用ヰル、雄ハ、肉青ク、雌ハ、赤褐ナリ、肉、シナヤカニシテ、味、美ナリ。 石決明

〔あはふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動) (規・一) かばふニ同ジ。

あは-ほ (名) 粟穗 (一)粟ノ穗。 (二)草ノ名、春、宿根ヨリ葉ヲ叢生ス、凡ソ、三枝九葉ヲ一葉トス、一葉ノ形、つたノ如クニシテ、厚ク光ル、莖ハ粟ノ稈ノ如シ、夏、長キ莖ヲ出シ、秋ノ末、長キ穗ヲナシテ花ヲ開ク、大サ三分許、六瓣ニシテ白ク、內ニ白蘂多クシテ絲ノ如シ、根ヲ藥用トス。 升麻

〔あはむ・ムル・ムレ・メ・メ・メロ (他動) (規・二) 〔淡クスル意〕 疎ム。

あは-もち (名) 粟餅 もちあはニテ製セル餅。

あはや (感) 事ノ將ニ然ラムトスル時ニ、氣遣ヒテ發スル聲。「—落チムトスル時」

┼あばら (名) あばらほねノ略。

〔あばら-ま (副) 荒 荒レ頽レテ。ウチコハレテ。「—ナリテ」アバラナル家」

あばら-ぼね (名) 肋骨 〔荒骨ノ義〕 胸ヨリ左右ノ脇ヘ連ル骨、左右合セテ二十四條アリテ、幷行セリ、後ノ端ハ、脊骨ニ連リ、前ノ端ハ、多ク胸骨ニ連ル。古名、カタハラボネ。

あばら-や (名) 荒屋 荒レ頽レタル家。 敗宅

あ-ばり (名) 網針 あみばりノ略。

〔あばる・ルル・ルレ・レ・レ・レロ (自動) (規・二) 荒 荒ニナル。(家ナドニ)

あはれ (名) 哀 〔次條ノ感動詞ヲ、專ラ傷シキニ用ヰタルナリ〕 憐ムベキコト。傷ハシキコト。フビン。「—ト思フ」「—ヲモヨホス」

あはれ (感) 天晴 〔日神、天岩戸ヲ出デタマヒ、天始メテ晴レタル時ニ稱ヘタル語ニ起ル〕 天ヲ仰ギテ感ズル聲。「—我身ハ」

〔あはれし・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 哀 哀ナル狀ナリ。

〔あはれぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動) (規・一) 憐 あはれむニ同ジ。

〔あはれぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動) (規・三) 憐 あはれむニ同ジ。

あはれみ (名) 憐 アハレムコト。

あはれむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動) (規・一) 憐 〔天晴ヲハタラカセタルカ〕 (一)人ノ艱難ヲ傷ハシク思フ。フビンニ思フ。 (二)イツクシム。

┼あばれ-もの (名) 暴キ所行ヲスル者。 暴人

┼あばれる・レル・レレ・レ・レ・レロ (自動) (規・四・變) 〔荒ルノ訛〕 無法ニ荒レマハル。亂暴ナル所行ヲナス。 暴行

あひ (名) 間 〔合ノ義カ〕 (一)アヒダ。アハヒ。マ。「山—」「谷—」 (二)他ノ酒飲ム間ニ、盃ヲ受ケテ、復タ、差スコト。「酒ノ—ヲスル」

┼あひ (名) 鳥ノ名、あひるノ略。

あひ (名) 逢 逢フコト。面會。「—ニ來ル」

あひ (副) 和 〔合ヒノ義〕 (一)互ニ。共共ニ。「—慕フ」 (二)書狀ナドノ文ニ、意義ナクシテ、動詞ノ上ニ用ヰル語。「—成ル」「—遂ス」

アヒ (名) 阿弗 あひおぶくヲ見ヨ。

あひ-あか (名) 間赤 婦人ノ禮服ニ、打着ノ下ニ着ル紅絞ナドノ小袖ノ稱。

あひ-あひがさ (名) 相相傘 二人シテ一ツノ傘ヲ共ニ差スコト。

あひ-いん (名) 合印 割符ニ押ス印形。

あひ-うち (名) 相擊 鬪ヒテ互ニ擊タルルコト。

┼あひ-えん-きえん (名) 合緣氣緣 男女ノ緣、若シクハ、友ドチノ交ナドノ、互ニムスボホレタルヲイフ語。(多クハ、傍人ヨリハ不倫シカラズ思ハルルニイフ)

あひ-おい (名) 相老 〔相生ヲ誤解シテ轉セルナリ〕 諸共ニ、久シク存命フルコト。(夫婦ナド) 偕老

あひ-おひ (名) 相生 諸共ニ生ヒ立チユクコト。(同年ナドノ意ナリト云、相追ト解クハ非ナルベシ)「高砂、住吉ノ松モ、—ノヤウニオボエ」

あひ-かぎ (名) 合鍵 其鎖ニ添ヘル鍵ノ外ニ、更ニ一ツ、同ジク合フヤウニ作リ置ク鍵。 天下同

あひ-かた (名) 相方 あひてニ同ジ。

あひ-がも (名) 間鴨 (一)かもトあひるトノ間ニ生レタルモノ。 (二)あひる。(鶩鴨ノ意ニモアルカ) (三)又、鳥ノ名、おきさノ一名。

あひ-ぎり (名) 間切 一節切ノ類ニテ、竹ノ節ト節トノ間ヲ切リテ作レルモノ。

あひ-くぎ (名) 間釘 兩端尖リタル釘、材ト材トノ間ニ打籠メテ、一ツニ繼合ハスルニ用ヰル。 兩尖釘

あひ-くち (名) 合口 (一)鍔無クシテ、おひぐちト緣ト合フヤウニ造レル短刀。 (二)┼心ノ善ク合ヒテ打語ラフ人。

┼あひこ (名) 相子 互ニカチマケ無キコト。

あひ-ことば (名) 合詞 豫テ定メオキテ、和圖ニ用ヰル言。 暗號語

あひ-しやう (名) 相性 人ノ生年ヲ五行ニ配當シタル性ニ、相生、相剋ノ義ヲ寄セテ、人人ノ氣象、男女ノ緣ナド、相合ヘリトスルコト。(五行、幷ニ性ノ條ヲ見合ハスベシ)

あひしらひ (名) あへしらひニ同ジ。

あひ-しらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動) (規・一) あへしらふニ同ジ。

あひ-じるし (名) 合印 兵隊ナド、組組ノ紛レヌ爲ニ、豫テ定メオキテ、物具ニ付クル標。

┼あびせる (動) 浴ス(規・二)ノ訛。

あひ-だ (名) 間 〔間處ノ轉カ〕 (一)カレトコレトノ中。アヒ。アハヒ。マ。 (二)絕間。「—無ク思ヒ煩フ」 (三)程。「路行ク—ニ雨降レリ」

あひ-だ (副) 間 〔間ヲ讀易ヘタルモノカ〕 ニ因テ。ガ故ニ。(多ク書狀文ニ)「承リ候—罷出候」

あひ-たい (名) 相對 (一)互ニ對フコト。 (二)他人ヲ交ヘズ、二人ニテ事ヲハカラフコト。

あひたい-じに (名) 相對死 男女ノ緣ニ妨ゲアルヲ、互ニ思迫リテ、語ヒテ死ヌルコト。(德川政府ノ法語)

あひたい-づく (名) 相對盡 他ニ詢ラズ、二人語ヒテ爲スコト。

あひ-たがひ (名) 相互 諸共ニ同ジキコト。

あひだ-がら (名) 間柄 〔間自ノ義カ〕 ツヅキアヒ。「親類ノ—」

〔あひ-だち-なし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 〔間斷無シノ義ナラ

ム」分ケ隔テ無シ。分別ナシ。アイダテナシ。（此語、多ク、音便ニ、あいたちなしト記セリ）

アビ-ぢごく（名）【阿鼻地獄】（阿鼻ハ、梵語ニテ、無間ト譯ス）無間地獄ニ同ジ。

あひ-づ（名）【相圖】軍ナドニ、豫メ約束シ置キテ、烽火、旗色、又ハ、鉦、大鼓ノ音ナドニテ、事ヲ告ゲ知ラスルコト。

あひ-づち（名）【相鎚】（一）互ニ打チ合ハスル鎚。（鍛冶ナド）（二）卄轉ジテ、俗ニ、他ノ說ニ合セテ說ヲ吐キテ、他ヲ助勢スルコト。「―ヲ打ツ」

あひづ-らふそく（名）【會津蠟燭】岩代ノ會津ノ地方ヨリ產ズル蠟燭。

あひ-て（名）【相手】（一）相共ニ事ヲ爲ル人。（二）相向ヒテ鬪フ人。勝負事ヲスル一方ノ人。「碁ノ―」鬪ヒノ―」敵手

あひ-でし（名）【相弟子】同ジ師ニツキテ相學ブ人。同門

あひ-てどる（ル・レ・ラ・リ・レ）（他動）（規・一）【相手取】相手トナス。敵トス。（訴訟ナド）

あひ-てん（名）【相殿】あひどのニ同ジ。

あひ-どの（名）【相殿】同ジ社殿ニ合セ祀ルコト。「―ノ神」

あひ-ともに（副）【相共】クミアヒテ。トモドモニ。

〔あひ-なし（キ・ケレ・ク・ク）（形・二）【無間】隔ナシ。ウチツケナリ。分別ナシ。（此語、多クハ、音便ニ、あいなしト記セリ）

あひ-なめ（名）【相嘗】あひんべニ同ジ。

あひ-の-きやうげん（名）【間狂言】能ニ屬シタル一種ノ伎、能ノ一番終ハリタル毎ニ、其間ニ行フ、多ク滑稽ノ事ヲナス。

あひ-の-しゆく（名）【間宿】宿場ト宿場トノ間ニ、立場、旅店ナドアル里。站

あひ-のり（名）【相乘】共ニ乘ルコト。（車ナドニ）同車

あひ-はん（名）【合判】割符ノ用ニ捺ス印判。

あひ-ばん（名）【相番】共ニ番スルコト。當番ノ相手。

あひ-びき（名）【相引】（一）軍ニ、雙方共ニ引キ退クコト。交綏（二）袴ノ名所、もゝだちニ同ジ。（三）卄俗ニ、竊ニ相援キテ、事ヲタクラムコト。ズレアヒ。援黨

卄あひ-ぼう（名）【相棒】駕籠ヲ舁ク先肩ト後肩トノ伴。

あひ-みたがひ（名）【相身互】互ニ助ケ又助ケラルルコト。相援

あひ-むこ（名）【相聟】妻ノ姉妹ノ夫。婭

あひんべ（名）【相嘗】（相嘗ノ音便）又、あひなめ。古ヘ十一月上ノ卯ノ日ノ神事、新稻ニテ釀セル酒ヲ、天子飮ミタマヒテ、諸神ニモ相饗ヘタマフ意ナリ、豫テ定マレル社社ハ、神祇官ヨリ奉幣アリ。

あひ-よめ（名）【相姻】兄弟ノ妻。娌婦

あ-ひる（名）【鶩】（足廣ノ轉、みづかき廣シ）古言、あひろ。家ニ畜フ鳥、形、鴨ニ似テ大ク、雄ハ、あをくびノ鴨ニ似タリ、雌ハ、黃ナル斑アリテ、文采少シ、或ハ、黑、白、種々ナリ、雌ハ、常ニ鳴キテ喧シ、水ニ泛ビ、陸ニ步シテ、飛ブコト能ハズ、自ラ卵ヲ抱カズ、人、鷄ヲシテカヘサシム。

卄あびる（動）浴ブノ訛。

〔あ-ひろ（名）【鶩】（足廣ノ義）あひるニ同ジ。

〔あひ-わたる（ル・レ・ラ・リ・レ）（自動）（規・一）【逢渡】逢ヒツツ年月ヲ渡ル。

あ-ふ（フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ）（自動）（規・一）【合】（一）二ツノ物事、一ツニ寄リツク。カレト、コレト、共ニテル。（二）相協フ。アテハマル。同ジクアリ。

あ-ふ（フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ）（自動）（規・一）【逢遇會】〔顏ノ合フ義〕（一）面ヲ合ハス。互ニ相見ル。（二）出合フ。デクハス。アタル。「災ニ―」

あ-ふ（フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ）（他動）（規・三）【合】〔合フノ他動〕（一）合ハス。（二）取リ合ハセテ雜フ。（食物ニ）「胡麻ニテ―」味噌ニアヘテ」韲

〔あ-ふ（フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ）（他動）（規・三）【饗】食物ヲ取リ合ハセテ、モテナス。フルマフ。

あ-ふ（フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ）（他動）（規・三）【敢】推シテ爲ス。堪ヘ遂グ。「敢ヘテ行ハズ」隱シ敢ヘズ」

あぶ（名）【虻】蟲ノ名、牛―、花―、青―等ノ總名、類多シ。牛―ハ、形、黑蠅ノ如クニシテ、綠ヲ帶ビ、大サ夏蟬ノ如シ、利キ嘴アリ、牛馬ニ付キ、血ヲ吸ヒテ、害ヲナス。木虻 花―ハ、形、山蜂ノ如クニシテ、鬚ナク、刺ナク、色黃ニシテ、好ミテ花ヲ吸フ。黃虻 青―ハ、花―ヨリ小クシテ、長サ六分許アリ、頭ハ綠ニシテ利キ刺アリ。蜚虻

あ-ぶ（ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ）（他動）（規・二）【浴】自ラ身ニ注ギカク。（湯水ナド）

あふぎ（名）【扇】扇グモノ。數條ノ竹片ヲ骨トシ、要ニテ本ヲ綴ヂ合ハセ、末ヲヒロゲテ、地紙ヲ貼リ、折リタタムベク作レル物、帛ニテ貼ルモアリ、其用、團扇ニ同ジ、兩端ノ骨、稍太シ、おやぼね、ひらぼねナドイフ。別名、スヱヒロ。センス。摺扇

あふぎ-あはせ（名）【扇合】互ニ扇子ヲ出シ、詩歌ナド書キテ、コレヲ合ハセテ、勝負ヲ定ムル戲。

あふぎ-がひ（名）【扇貝】（一）車渠ノ一名。（二）又、介ノ名、あげまきニ同ジ。（まてノ條ヲ見ヨ）（三）又、ほたてがひノ一名。

あふぎ-がみ（名）【扇紙】扇ニ貼ルニ用ヰル一種ノ紙。地紙。

あふぎ-ばこ（名）【扇箱】扇ヲ入ルルニ用ヰル細長キ箱、足付ノ臺ニ據セテ贈物ニ用ヰル。

あふぎ-びやうし（名）【扇拍子】扇ヲ打鳴ラシテ、謠ノ拍子ヲ取ルコト。

あふ-ぐ（グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ）（自動）（規・一）【仰】上ヘ向ク。アヲムク。「天ヲ―」仰ギ見ル」

あふ-ぐ（グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ）（他動）（規・一）【仰】（前條ノ語ノ轉）ウヤマフ。タフトブ。「古ヲ―」德ヲ―」

あふ-ぐ（グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ）（他動）（規・一）【扇】扇子、團扇ナドヲ動カシテ風ヲ出ス。

卄あぶく（名）【泡】あわニ同ジ。

あふこ（名）【朸】あふごニ同ジ。（中國、四國）

あふご（名）【朸】物ヲ掛ケテ荷フニ用ヰル棒。アフコ。テンビンボウ。擔

あふ-ど（名）【會期】人ニ會フ時。

〔あふ-さ-きる-さ（名）〔合フサ離ルサノ義〕一方善ケレバ、一方惡シ、ナドイフ意ニイフ語。「世ノ謗リヲツツムニ、心ノ暇ナク、―ニ思ヒ亂レ」

〔あふ-ぢやう（名）【壓狀】人ヲ威シテ思フヤウニ書カスル文。（俗ニ、無理―、又ハ、―ズクメ、ナドイフモ此語ナリトイフ、往生ノ條、見合ハスベシ）

〔あぶ-す（ス・ス・セ・サ・シ・セ）（他動）（規・一）餘マス。遺ス。棄ツ。

〔あぶ-す（ス・ス・セ・サ・シ・セ）（他動）（規・一）【浴】次條ノ語ニ同ジ。

あぶ-す（スル・スレ・セ・セ・セヨ）（他動）（規・三）【浴】注ギカク。（湯水ナド）

あふち（名）【楝】樹ノ名、高サ丈餘、葉ノ形、なんてんニ似テ、鋸齒アリ、光澤アリ、夏、長キ穗ヲナシテ、五瓣ノ淡紫花、聚リ開ク、大サ錢ノ如シ、雌樹ハ、四五分ノ圓キ實ヲ垂レ結ブ、秋、熟シテ黃ナリ、樹、成長シ易ク、材モ亦用ヰルベシ。一名、センダンノキ。

あぶな-し（キ・ケレ・ク・ク）（形・二）【浮雲】アヤフシ。危

〔あふぬ-く（ク・ケ・カ・キ・ケ）（自動）（規・一）【仰】あふぐ、あをむくニ同ジ。

〔あふの-く（ク・ケ・カ・キ・ケ）（自動）（規・一）【仰】あふぐ、あをむくニ同ジ。

あふひ（名）【葵】（仰グ日ノ略カ）（一）草ノ名、葉、大サ二三寸、圓クシテ、五ノ稜ヲナシテ、尖ラズ、細鋸齒アリテ、互生ス、莖、直上スルコト二五尺、春、葉ノ間ニ、五瓣ノ花ヲ開ク、白クシテ黃紫ヲ帶ブ、殆ド四時ニ花アリ、花後、細キ子ヲ結ブ、藥用トス。同種ノ他名ニ對シテ、寒―、冬―ノ名アリ。冬葵 又、ゼニ―、タチ―、花―、加茂―、唐―、ツユ―等、各條ニ注ス。（二）カモアフヒ。（其條ヲ見ヨ）

あふひ-ぐさ（名）【葵草】かもあふひノ一名。

あふひ-まつり（名）【葵祭】山城ノ加茂ノ神社ノ、四月中ノ酉ノ日ノ祭、（陰暦）此祭ニ、かもあふひヲ用ヰテ神事ヲ行ヒ、競馬ノ時ニモ、騎ル者、其葉ヲ簪トスレバ名トス。（かもまつりノ條見合ハスベシ）

あふ-へい（名）【押柄】驕リタカブルコト。オホフウ。傲慢

あ-ぶみ（名）【鐙】（足踏ノ義）馬具ノ名、鞍ノ兩脇ニ垂レ、騎ル人ノ足ヲ踏ミカクルモノ。

あふみ-おもて（名）【近江表】近江ノ蒲生郡ノ邊ヨリ產ズル疊表、細藺ニテ作ル、備後表ヨリハ、粗ニシテ劣ル。

あぶみ-がはら（名）【鐙瓦】からくさがはらヲ見ヨ。

あふみ-かぶら（名）【近江蕪】蕪ノ一種、近江ノ大津ノ邊ニ產ズルモノ、根、扁クシテ圓ク、徑リ七八寸ニ至ル、根ノ先ニ三尾アリテ、鼎ノ足ノ如シ、故ニ、すわりかぶらノ名モアリ、蕪ノ中ノ最モ大ナルモノナリ。九英菘菁

あふみ-がや（名）【近江蚊屋】近江ノ坂田、蒲生等ノ諸郡ヨリ產ズル蚊幬。

あふみ-ざらし（名）【近江晒】近江ノ神崎、愛知、犬

上諸郡ニ產ズル晒布、野洲川原ニテ晒シ出ストテ野洲晒トモイフ、白麻布ノ上品トス。

あぶみ‐ずり (名) 鐙摺 馬ノ脇ノ鐙ノアタル處。

あぶむく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動)(規.二) 仰 あふぐ、あをむくニ同ジ。

あぶよう (名) 亞芙蓉 〔花、芙蓉ニ亞グ意〕 罌粟ノ名。

あぶよう (名) 阿芙容 〔亞芙容ノ轉〕 阿片ニ同ジ。

あぶら (名) 膏脂 〔炙リ取ル意カ、溢ルノ意カ〕 (一)動物ノ體中ヨリ出ツル滑ニ粘リテ凝レルモノ、種種ノ用ヲナス、「豚ノー」「牛ノー」 (二)人ノ膚、手、足ノ皮ナドヨリ、汗ノ如ク出デテ粘アルモノ。膩

あぶら (名) 油 〔膏ノ轉〕 植物ノ種ナドヨリ絞リ取ル、滴ニ似テ淡クシテ流ルルモノ、燈ニ用ヰ、或ハ食用、藥用ナドトス、「胡麻ノー」「菜種ー」「荏ノー」

あぶら‐あげ (名) 油揚 あげどうふニ同ジ。

あぶら‐あし (名) 脂足 人ノ性ニテ、足ノ底ニ、多ク膩ノ出ヅルモノ。

あぶら‐いし (名) 瀝石 (一)黑褐ニシテ光ルコト瀝ノ如キ石、美濃ノ赤坂ノ山中ニ產ス。(二)石炭ノ一名。

あぶら‐いし (名) 油石 (一)黃ニシテ油色ナル石、美濃ノ河邊ヨリ出ヅ。(二)油色ノ甚ダ小キ石、米ノ中ニ雜リテアルモノ。

あぶら‐いろ (名) 油色 菜種油ノ色、黃ニ赤ミアリテスキトホル如キ色。

あぶら‐かす (名) 油粕 菜種ヨリ油ヲ搾リタル後ノ滓、肥トス。

あぶら‐かみ (名) 油紙 桐油紙ニ同ジ。

あぶら‐がや (名) 油茅 形、すすきノ如クニテ小ク、黃綠色ニシテ厚ク滑ナリ、夏、二三尺ノ莖ヲ抽キ、葉、互生シテ、穗ヲ出ス、もろこしきびノ穗ニ似テ、色、黃赤ナリ、油色ニシテ、又、油ノ臭アリ。アブラシバ。ミチクサ。黃茅

あぶら‐ぎく (名) 油菊 菊ノ一種、山野ニ生ズ、莖、葉、淺綠ニシテ、黃ナル小花ヲ開ク、單瓣、短クシテ、心、大ナリ。野菊。苦薏

あぶら‐ぎっちょ (名) 蟲ノ名、螽斯ノ褐色ナルモノ、善ク鳴ク。

あぶら‐ぎり (名) 油桐 桐ノ類、樹、桐ノ如ク、葉ハ、三尖、或ハ、五、七尖ニシテ、鋸齒ナシ、實ハ八九分許、圓ク扁クシテ、續隨子ノ如シ、內ニ子アリ、毒アリ、搾リテ油ヲ取ル、桐油トイフ、材ヲ白桐ニ代用ス、別名、ヤマギリ。イヌギリ。ドクヱ。罌子桐

あぶら‐ぎる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規.一) 〔油漲ルノ意〕 (一)油、浮ビ滿ツ。(二)脂、多シ。脂、溢ル。(動物ノ體ニ)

あぶら‐け (名) 油氣 (一)油ノ氣。油ノ味ヒ。(二)脂ノ氣。(動物ノ體ニ) 膩

あぶら‐げ (名) 油揚 あぶらあげノ約、あげどうふニ同ジ。

あぶら‐こき (名) 油扱 麻絲ヲ染メテ、油ヲヒキタルモノ。

あぶら‐こし・キ・ケレ・ク・ク (形.二) 油濃 (一)油ノ氣、ツヨシ。(二)脂、多シ。脂、滿ツ。膩

あぶら‐ごま (名) 油胡麻 ごまノ條ヲ見ヨ。

あぶら‐さし (名) 油差 (一)とぼしあぶらヲ貯ヘテ、油皿ニ注グニ用ヰル器。アブラツキ。油注 (二)桶ナドノ中ノ油ノ量ヲ測ルニ用ヰル尺。

あぶら‐ざら (名) 油皿 燈油ヲ盛リテ、油燈ヲ點スニ用ヰル小キ皿。燈蓋。燈盞

あぶら‐しば (名) 油芝 あぶらがやニ同ジ。

あぶら‐しやうじ (名) 油障子 明障子ノ紙ニ、油ヲ塗レルモノ、雨ナド防グ用トス。アマシヤウジ。

あぶら‐ぜみ (名) 油蟬 あきぜみニ同ジ。

あぶら‐だる (名) 油樽 油ヲ入ルルニ用ヰル樽、內ニ紙ヲ貼リテ澁ヲ塗ル。

〔あぶら‐つき (名) 油坏 あぶらざらニ同ジ。

あぶら‐つぎ (名) 油注 あぶらさしニ同ジ。

‡あぶらつ‐こし (形) あぶらこしノ訛。

あぶら‐な (名) 油菜 單ニ菜トノミモイフ、秋分ニ種ヲ下ス、葉、互生シテ、色、濃シ、莖、高サ、四尺許、紫ヲ帶ブ、春ノ末、四瓣ノ黃花ヲ開ク。芸薹 夏、實、熟ス、なたねトイフ、油ヲ搾リ取ル、なたねあぶらトイフ、燈用、食用等、用多シ。菜油子

あぶら‐び (名) 油火 とぼしあぶらニ燈心ヲ浸シテ點ス燈火。燈火

あぶら‐み (名) 脂身 肉ノ脂多キ部。膏肉

あぶら‐むし (名) 油蟲 (一)夏秋ノ間、厨ニ多シ、長サ一寸餘、翅アリテ、夜、飛ブ、全身油色ニシテ黑ミアリ、又、油ノ臭アリ、口ニ利齒アリテ、物ヲ嚙ミ損ズ、ゴキアラヒムシ。蜚蠊 (二)又、蟲ノ名、ありまきノ一名。(三)俗ニ、附着リテ妨ゲトナル者。

あぶら‐め (名) 油女 〔油色ナレバ云フ〕 魚ノ名、いたちうをニ同ジ。

あぶら‐ゑ (名) 油畫 みつだのあぶらニ、繪ノ具ヲ加ヘタルモノニテ、紙、布、漆器、ビイドロ等ヘ畫ク畫。

あふり (名) 障泥 〔翻リノ義〕 下鞍ノ下ヨリ、鐙ノ內ニ垂レテ、馬ノ兩脇ヲ覆フ具、泥ノ飛テ衣ヲ汚スヲ防グ、革、或ハ虎、熊、等ノ毛皮等ニテ、幅濶ク作ル。

あふり (名) 翻 アフルコト。風ニ吹カレテ、動キ、又ハ發ツコト。「戶ノー」「火ノー」「烟ノー」

あふり‐いか (名) 障泥烏賊 烏賊ノ一種、濶ク大クシテ、周ニ肉緣アリ、肉、柔ニシテ、味美シ、又、するめトス。花枝

あぶり‐こ (名) 焙籠 (一)竹籠ニテ造リ、火ヲ覆ヒテ、衣服ナド暖ムルニ用ヰル具。フセゴ。(二)餅ナド炙ルニ用ヰル鐵ノ網、又ハ、棒。炙床

あぶり‐だし (名) 炙出 紙ニ、明礬ニテ畫ヲカキ、乾ケバ白紙ノ如ク見ユ、火ニ炙レバ畫現ハルルモノ、小兒ノ玩トス。

あぶり‐もの (名) 炙物 炙リタル魚肉。ヤキモノ。ヤキザカナ。炙

あふり‐やうし (名) 押領使 古ヘ、諸國ノ狼藉者ヲ押ヘムガ爲ニ遣ハサルル使。

あふる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動)(規.二) 溢 滿チ餘リテコボル。入ルニアマル。餘リテ出ヅ。「酒、盃ニー」「人、席ニー」

あふる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規.一) 翻 風ニ吹カレテ動ク。ヒルガヘル。「開戶ガ風ニー」

あふる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動)(規.一) 翻 吹キ動カス。ヒルガヘス。「風ガ開戶ヲー」「團扇ニテ烟ヲー」「鐙ニテ障泥ヲー」

あぶる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動)(規.一) 炙 (一)火ニカザシテ、程好ク燒ク。「肉ヲー」 (二)火ニ當テテ暖メ又乾ス。カワカス。「手ヲー」「着物ヲー」 烘 焙

〔あぶる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動)(規.二) 零落 おちぶるニ同ジ。

‡あぶれ‐もの (名) 不法ニテ手ニ餘ル者。

‡あふれる (動) 溢ルノ訛。

‡あぶれる・レル・レレ・レ・レ・レロ (自動)(規.四.變) 溢 (一)溢ルノ訛。(二)役ニ充テラレテ不用トナル。餘マサレテ使ハレズ。(人夫ナドニイフ)

〔あへ (名) 饗 饗フルコト。飲食ノモテナシ。

あへ (名) 韲 韲フルコト。交セタルモノ。「胡麻ー」「味噌ー」

あべかは (名) あべかはもちノ略。

あべ‐かは‐もち (名) 安倍川餅 〔東海道、駿河ノ安倍川ノ邊ニテ製シ賣ルニ起ル〕 餅ヲ燒キテ、きなこト砂糖トニ塗シタルモノ。

あへぐ・グ・グ・ガ・ギ・ゲ (自動)(規.一) 喘 息ヲ急ニナス。急シク呼吸ス。イキダハシクアリ。イキギレス。

あへしらひ (名) アヘシラフコト。トリアツカヒ。トリアハセ。

あへ‐しらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規.一) 〔合ヘ觸ノ義〕 (一)挨拶ス。應答 (二)程好ク他ノ相手ヲナス。モテナス。トリアツカフ。アヒシラフ。アシラフ。接待 (三)添ヘテ趣ヲ作ル。取合ハス。「松ニ石ヲー」「刺身ニ山葵ヲー」 粧點 點綴

〔あへ‐たちばな (名) 九年母ノ古名。

あへて (副) 敢 押シキリテ。強ヒテ。「ー行ハズ」

あへ‐なし・キ・ケレ・ク・ク (形.二) 〔敢ヘ無シノ義〕 チカラナシ。タノミナシ。ハリアヒナシ。

アヘン (名) 鴉片 阿片 〔Opium ノ音譯字ヲ音讀セルナリ〕 罌粟ノ實、又ハ、蕾ヲ刺シテ、其汁ヲ取リ、乾シテ製シタルモノ、麻醉ノ劇藥ナリ。阿芙蓉。

アヘン‐タバコ (名) 鴉片烟草 鴉片ヲ加ヘテ製シタル烟草、支那人、好ミテ吸フ、甚ダ人ニ害アリ。

あへ‐もの (名) 韲物 蔬菜ヲ物ニ韲ヘタルモノ。韲

‡あへる (動) 韲フノ訛、合フ(他動)ノ條ヲ見ヨ。

‡あほ (名) あはうニ同ジ。

アボス (名) 〔蘭語ナルベシ〕 吸出シノ膏藥ノ名。

あほひ (名) 葵 あふひニ同ジ。

あま (名) 天ノ轉。「ーノ河原」「ーノ川」「ー降ル」

あま (名) 雨ノ轉、熟語ニノミ用ヰル。「ー雲」「ー夜」「ー水」

あま (名) 海 〔青間ノ約カ、蒼海ノ約轉カ〕 海ニ同ジ。「一ノ原」

あま (名) 海人 〔海人ノ略カ〕 海ニ漁リスルヲ業トスル者。アマビト。

アマ (名) 尼 〔朝鮮語おみ(壮)ノ轉ト云、或ハ云、梵語〕 (一)比丘尼ニ同ジ。 (二)卄女ヲ罵リ呼ブ卑語。

アマ (名) 亞麻 〔羅甸語 Amania ノ音譯字ナラム〕 草ノ名、莖、直上スルコト三四尺、葉ハ、小柳葉ノ如クニテ、莖ヲメグリテ互生ス、夏ノ初、莖ノ上ニ、數叉ヲ分チテ、淡藍花色ノ花ヲ開ク、五瓣ナリ、房ヲ結ブ、中ニ數十子アリ、一分許、薄ク扁クシテ、茶色ナリ、藥用トシ、又ハ油ヲ取ル、又、莖ノ皮ヲ績ギテ絲トシ布トス。一名、ヌメゴマ。

あま-あがり (名) 雨上 雨ノ收リタル後。雨後‖

あま-あし (名) 雨足 雨ノ降リ過グルコト。雨脚‖

あま-いぬ (名) こまいぬノ條ヲ見ヨ。

〔あま-うけばな (名) 〔天承鼻ノ義〕 鼻ノ孔ノ仰ギタルモノ。仰鼻‖

あま-え-たる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動)(規二) あまゆニ同ジ。

卄あまえ-たれる (動) あまえたるノ訛。

卄あまえる (動) あまゆノ訛。

あま-おさへ (名) 雨押 板塀ナドノ上ニ亙ス細長キ板。カサギ。

あま-おち (名) 雨落 屋根ノアマダリヲ落シ去ル處。屋溜‖

あま-おほひ (名) 雨覆 雨ヲ防グ爲ニ物ニ覆フモノ、布、又ハ、板、油紙ナド。

あま-がさ (名) 雨傘 さしがさノ、大クシテ、紙ニ油ヲヒキ、雨天ニ用キルモノ。(日傘ニ對シテ云フ)

あま-かす (名) 甘糟 酒糟ノ甘クシテ食用トスベキモノ。甜糟‖

あま-がつ (名) 天兒 〔天禍ノ約カ〕 木偶ノ類、尺餘ノ竹筒ノ上ニ、白絹ニテ、首ヲ付ケ、又、尺餘ノ筒ヲ首ノ下ニ横タヘテ肩トス、邪祟ヲ負ハスル爲メノ用ナリ。

あま-ガッパ (名) 雨合羽 合羽トイフニ同ジ。

あま-かは (名) 甘皮 樹、又ハ、果ノ内膜ノ皮。

〔あま-がは (名) 雨皮 輿、車ナドニ用キテ雨ヲ凌グ具、生絹ニテ作ル。

あまがひ (名) 介ノ名、からくもがひニ似テ、四分許アリ、白クシテ黒キ斑アリ。

あま-が-べに (名) 天之紅 夕霞ノ赤キコト。(赤丹差ス日トイハムガ如シ)「一差シタ」

あま-がへる (名) 雨蛙 かへるノ一種、形小ク、色、鮮綠、又ハ、灰色ナリ、又、灰褐ニ變ズルアリ、指、三尖ニシテ、端ニ黒キ珠アリ、此珠ニテ、能ク樹ノ上ニ付キテ登ル、雨降ラムトスル時、必ズ鳴ク、冬ハ土中ニ蟄ス。雨蛤‖ 樹蛤‖

アマカン (名) あまかわヲ見ヨ。

アマカワ (名) 亞瑪港 〔借字ニ天川トモ書ス、支那ノ廣東ノ傍ノ港、今ノ澳門、(Macao.) 初メ、其地ヨリ渡シシヨリ名トス〕 珊瑚ノ上品ナルモノノ稱、又、アマカン。アマカウ。

〔あま-き (名) 甘木 かんざうニ同ジ。

あま-ぎ (名) 雨着 合羽ナド、衣ノ上ニハフリテ、雨ヲ防グニ用キル衣。雨衣‖

〔あま-ぎぬ (名) 雨衣 雨ヲ凌グニ着ル服。

〔あま-ぎら-す・ス・セ・サ・シ・セ (自動)(規二) あまぎるニ同ジ。

〔あま-ぎら-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動)(規二) あまぎるニ同ジ。

あま-ぎり (名) 雨霧 小雨ノ如キ霧。

〔あま-ぎ-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規二) 天霧 雲霧ニテ、空、曇ル。アマギラフ。アマギラス。

あま-ぐ (名) 雨具 雨天ニ出行ク時、身ニ裝フ笠、傘、合羽、足駄ナド。雨裝ノ具。雨裝‖

あま-くさ (名) 甘草 (一)かんざうニ同ジ。 (二)つるあまちやニ同ジ。

あまくさ-ど (名) 天草砥 礪ノ上品ナルモノ、肥後ノ天草、又ハ肥前ノ島原ヨリ産ス。

〔あま-くだ-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規二) 天降 天ヨリ降ダス。

あま-くだ-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規二) 天降 天ヨリ降ル。

卄あま-くち (名) 甘口 人ノ心ニ適フヤウニ賺シ言フ語。甘言‖

あま-くち-ねずみ (名) 甘口鼠 〔人、獸、コレニ嚙マレテモ、死ヌルマデ、痛ミナケレバ名ヅクトゾ〕 はつかねずみニ同ジ。

あまくに-の-はうけん (名) 天國寶劍 文武帝ノ大寶ノ頃、大和ノ宇多郡ニ住メル天國トイフ人(鍛冶ノ大祖トス)ノ鍛ヘタル刀ノ稱、世ニ寶物トス。

〔あま-ぐも (名) 天雲 天ノ雲。

あま-ぐも (名) 雨雲 雨降ラムトスル雲。

あま-け (名) 雨氣 雨ノ降ラムトスル空合。

あま-ご (名) 甘子 嘉魚ノ類、長サ七八寸、鮎ニ似テ、赤黒キ小斑アリ、鱗細カシ。似嘉魚‖

あま-ごひ (名) 雨乞 旱ノ時ナドニ雨ノ降ラムコトヲ、神ニ祈リ乞フコト。雩‖ 祈雨‖

あま-ごもり (名) 雨天ヲ厭ヒテ家ニ籠リ居ルコト。

〔あま-ごろも (名) 天衣 天人ノ衣。

〔あま-ごろも (名) 雨衣 あまぎぬニ同ジ。

〔あま-ごろも (名) 海人ノ着ル衣。

〔あま-さかる (枕) 天離 〔都ヨリ鄙ヲ見レバ、天ノ如ク離リテ見ユル意〕 鄙トイフ語ノ枕詞。

あま-さぎ (名) 形、常ノ鷺ヨリ稍小ク、頭、頂、ハ、黄赤ニシテ、後ニ白ク變ズルモノ。

あま-ざけ (名) 甘酒 炊キカケノ飯ニ、麴ヲ交ヘテ、熟シテ醸セル酒、搾ラズシテ飲ム、甚ダ甘シ。古言、こさけ。又、ヒトヨザケ。醴‖

〔あま-さへ (副) 剩 〔餘サヘニテ、餘分ニ加ハル意〕 あまつさへニ同ジ。

あま-ざらし (名) 雨曝 雨ニ曝ラスコト。覆フ物ナクシテ、雨ニ濡ルルママニ濡ラシオクコト。

あま-し・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 甘 〔旨シノ轉カ〕 (一)砂糖、飴ナドノ味アリ。甜‖ (二)鹽氣淡シ。淡‖ (三)鈍シ。鋭カラズ。(刀劍ナドニ) 鈍‖ (四)旨クシテ人ノ心ニ入ルベキヤウナリ。「アマイ詞」 (五)緩シ。シカトセズ。「釘ガ一」「楔ガ一」 寬‖ (六)嚴ナラズ、强カラズ。「親ガ子ニ一」「異見ガ一」 慢‖

〔あま-じし (名) 〔餘肉ノ義〕 疣、瘤ナド、餘リテ出來タル肉。寄肉‖

あま-じたく (名) 雨支度 雨具ヲ着ケテ、雨ニ濡レヌ用意スルコト。アマヨソヒ。雨裝‖

あま-じたり (名) 雨滴 雨ノシタタリ。アマダリ。

あま-じほ (名) 魚肉ナド淡ク鹽ニ漬クルコト。淡醃‖

あま-じめり (名) 雨濕 (一)雨ニカカリテ物ノ濕ルコト。 (二)霖雨ノ頃、物ニ濕氣アルコト。

あま-しやうじ (名) 雨障子 あぶらしやうじニ同ジ。

あま-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規二) 餘 餘ルヤウニナス。ノコス。悉ク盡クサズ。

〔アマ-ぜ (名) 〔尼御前ノ略〕 尼ヲ敬ヒ呼ブ語。

あまた (副) 許多 〔餘ル意カ〕 數、多ク。タクサンニ。「一見ユ」「一アリ」

あまた-たび (副) 許多度 タビタビ。シバシバ。數度。幾度モ。數回‖

あま-だひ (名) 甘鯛 鯛ノ類、頭、方ニシテ、眼ノ上、高ク起リ、脊尖リ、身狹ク、鱗、鰭、淡赤クシテ、青ミアリ、大サ五六寸ヨリ尺餘ニ至ル、肉白ク脆ク、味甘ク美ナリ。西國ニテ、クッチ。方頭魚‖

あま-だり (名) 雨垂 あまだれニ同ジ。

あま-たる-し・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 〔甘弛シノ轉カ〕 甘キ味、程ニ過グ。

あま-だれ (名) 雨垂 雨水ノ簷ナドヨリ滴リ落ツルモノ。アマダリ。雨滴‖ 點滴‖

あま-ちや (名) 甘茶 (一)樹ノ名、きあまちやヲ見ヨ。 (二)きあまちやノ莖葉ヲ採リテ、揉ミテ青汁ヲ去リテ、煎ジタルモノ、又、或ハ、甘草ヲ茶ニ交ヘテ煎ズ、四月八日ノ灌佛會ニ用ヰル。 (三)草ノ名、あまづらノ一名。

あまちや-づる (名) 甘茶蔓 つるあまちやニ同ジ。

あま-つ-かぜ (名) 天津風 〔天之風ノ義〕 天ノ風。天風‖

あま-つ-かみ (名) 天津神 〔天之神ノ義〕 天ニ座ス神。

あま-つ-くに (名) 天津國 〔天之國ノ義〕 日神ノ座ス所。

あまつ-さへ (副) 剩‖ 〔あまりさへノ音便〕 餘分ニ添ハリテゾノウヘニ。アマリサヘ。アマサヘ。

あま-つ-そら (名) 天津空 〔天之空ノ義〕 (一)天。空。 (二)禁中。朝廷。

あま-つばめ (名) 雨燕 (一)形、あまどりヨリ大クシテ、兩翼、尾ヨリ長シ、全身黒ク、足ハ短ク小クシテ腹ノ羽ニ隱ル、雨降ラムトスル時、空中ニ群リ飛ビテ、蟲ヲ捉ル。 (二)又、あまどりノ一名。

あま-つ-ひつぎ (名) 天津日嗣 〔天之日嗣ノ義〕 日嗣、即チ、天皇ノ御位ノ尊稱。天位‖

あまづら（名）【甘葛】蔓草、深山ニ生ズ、蔓ヨリ細キ根ヲ出シテ、他ノ樹ニツク、葉ハ楕圓ニシテ鋸齒アリ、梢ニ、小キ花集リ開キテ傘ノ狀ヲナス、色白シ、古ヘハ、此蔓ヨリ汁ヲ取リ、砂糖ニ代ヘテ用ヰタリ、味、あまづらノ如シ、又葉ヲ煎ジテ、煉リテみづあめノ如クシテ、食物ニ和シ、甘味ヲツク。一名、アマチヤ。蘞莓

あまつをとめ（名）【天津乙女】〔天之少女ノ義〕（一）天人。（二）五節ノ舞ヲ舞フ女。

アマデラ（名）【尼寺】尼ノミ居ル寺。

あまてらす・ス・セ・サ・シ・セ（自動）（規．一）【天照】（一）大空ニ照リワタル。「一日」（二）天ノ下ヲ知シメス。（天皇ニ）「天照シ治メ聞食ス」

あまど（名）【雨戸】家ノ周ニ、雨ヲ防ギニ、又ハ夜中ニ、閉ヅル戸。

あまどころ（名）【甘草薢】宿根草、春、山ニ生ズ、莖、高サ一二尺ヨリ四五尺ニ至ル、形、なるこゆりニ似タリ、但シ、莖、粗大ニシテ三稜アリ、本ハ紫ニシテ、末ハ青ク、節、紫黒ナリ、葉、互生シ、楕ニシテ長ク、細キ縦道アリ、質強ク、光ラズシテ白ミアリ、花、實ノ形狀、なるこゆりニ似タリ、根白クシテ横ニ這フ、長キハ尺餘ニ至ル、味甘ク生ニテ食スベシ。ヱミグサ。萎蕤

あまどり（名）【雨鳥】つばくらニ似テ大ク、胸、紫ナラズ、ひばりノ如キ斑アリテ、腹ノ下、黄ナリ、雨降ラムトスル時、群リテ飛ブ。オホツバメ。アマツバメ。胡燕子

あまな（名）【甘菜】（一）薺ナド、味旨キ菜ノ總稱。

（芥ナドニ對ス）（二）草ノ名、葉ハ水仙ノ如ク、高サ三四寸、兩葉ニシテ、中ヨリ莖ヲ出シ、梢ニ六瓣ノ白花ヲ開ク、一花ニシテ、瓣ノ外ニ淡紫ナル條アルモノ、常ナリ、又、淡紅黄花等ノ異種アリ、又、苗大ク、一二尺アリテ、數花ヲ生ズルモアリ、根ハ水仙ノ如シ。山慈姑

〔あまなふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動）（規．一）〔甘ンジ合フ意〕心ニカナヒテ好シト思フ。ウベナフ。甘心

〔あまなふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動）（規．三）交ヲ好クセサス。和睦セシム。諧和

あまねし・キ・ケレ・ク・ク（形．二）【遍周】至ラヌクマナシ。廣ク及ブ。悉クトドク。ユキワタル。

〔あまねはす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規．一）遍クセシム。周

あまのいはと（名）【天岩戸】あめのいはやどニ同ジ。

あまのうきはし（名）【天浮橋】神代ニ、天ト地トノ間ニ懸レル橋。

あまのがは（名）【天河】白ク光リテ、川ノ如ク、又帶ノ如ク、長ク大空ニ亙リテ見ユルモノ、無數ノ星ノ密ニ布ケルナリ、秋ノ晴レタル夜、最モ善ク見ユ。銀河

あまのさかほこ（名）【天逆鉾】神代ニアリシ鉾ノ名。轉ジテ人ノ世トナリテノ物ニモイフ。

あまのさけ（名）【天野酒】河内ノ天野ノ地ヨリ製リ出ス酒。

あまのざこ（名）〔天探女ノ訛〕（一）殊更ニ人ノ言ニ逆ヒテ、己ガ心ノママニフルマフ者。アマノジャク。（二）誤リテ、兩金剛ノ蹈マヘタル小惡鬼ノ稱。（或ハ天邪鬼ノ轉カトイフ）

あまのざやく（名）あまのざこニ同ジ。

あまのざやこ（名）〔あまのざこノ轉カ〕蟲ノ名、地上ニ二分許ノ穴ヲ作リテ棲ム、燈心ヲ油ニ浸シテ入ルレバ、付キテ出ヅ、長サ一寸許、黄白色ニテ、首ハ赤黒シ、形、むかでノ如ク、背ニ二ツノ封アリテ、駱駝ノ如シ。一名、ニラダウムシ。ヂムシ。釣䖸駝

あまのはごろも（名）【天羽衣】（一）神ノ服。（二）天人ノ服。（三）天皇ノ祭事ノ湯沐ノ時ニ召シタマフ御衣ノ名。

あまのはら（名）【天原】〔原ハ廣キ處ノ義〕汎ク天上ヲ指シテイフ語。

〔あまのむらぎみ（名）【天邑君】神代ニ、農人ノ長ノ稱。

あまのり（名）【甘海苔】海苔ノ一種、冬、海中ノ石ニ付キテ生ズ、生ナルハ綠黑ニシテ、乾ケバ紫黑ナリ、或ハ、生ハ綠ニシテ、乾ケバ紫ナルモアリ、下品ナリ、此ノ種ニあさくさのりアリ、最上品トス。一名、ムラサキノリ。紫菜

あまはだ（名）【甘肌】〔檜ノ甘皮ノ意〕まいはだノ條ヲ見ヨ。

あまばたいし（名）【雨畑石】あめはたいしノ條ヲ見ヨ。

あまびこ（名）【天彥】物ノ聲ノ空中ニ響キテ應フルモノ。（山ニ響クヲ山彥トイフト同意）

あまびこ（名）【雨彥】蟲ノ名、やすでニ同ジ。

〔あまびと（名）【海人】海人ノ條ヲ見ヨ。

あまびる（名）【雨蛭】かうがいびるニ同ジ。

〔あまふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動）（規．三）謝ス。ワブ。（罪ヲ）

あまほし（名）【甘干】微シ乾シタルコト。（乾魚、ころがきナドニ）

アマほふし（名）【尼法師】あまトイフニ同ジ。比丘尼。

あまま（名）【雨間】（一）雨ノ降リテアル時。雨中（二）雨ノ降リ止ミタル間。

あまみづ（名）【雨水】雨ノ水。

あまんず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動）（不規．三）【甘】〔甘ミスノ音便〕旨シトス。意ニ適ヒテ好シト思フ。滿足ス。

あまも（名）〔海藻ノ義カ〕海草ノ名、葉ハ、しやうぶニ似テ細長ク、生ナルハ青クシテ、枯ルレバ黒シ、生ナルヲ麥ノ肥トシ、又、乾シテ葺屋トス、甚ダ輕シ。別名、モシホグサ。スゲモ。リユウグウノオトヒメノモトユヒノキリハヅシ。大葉藻

あまもり（名）【雨漏】雨水ノ屋ヨリ漏リ入ルコト。屋漏

あまやかす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規．一）アマユルヤウニ育ツ。嬌養

あまやどり（名）【雨宿】雨ノ晴ルルマデ、暫シ宿リテ休ムコト。

あまやみ（名）【雨止】雨ノ降リ止ムコト。

あまゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動）（規．二）〔甘ヲハタラカス〕恩ニ馴レテキママヲナス。アイダル。ソバユ。アマエタル。（小兒ニ）撒痴嬌

あまよ（名）【雨夜】雨ノ降ル夜。

あまよけ（名）【雨避】物ノ雨ニ濡ルルヲ避クル爲ニ覆フ物。

あまよそひ（名）【雨裝】雨中ニ行ク裝ヒ。アマジタク。（簑、笠、合羽、足駄ナド）

あまり（名）【餘】アマルコト。アマリタルモノ。ノコリ。

あまり（接尾）【餘】數詞ノ下ニ添ヘテ、其外ニ、尚、數アルヲイフ語。「十ー二ツ」「三十ー五ツ」有

あまり（副）【餘】あまりにニ同ジ。「ー命ノ永クシテ」「ー限ナキ夜半ノ月カナ」

〔あまりさへ（副）【剩】〔餘りさへノ義〕あまつさへニ同ジ。

あまりに（副）【餘】程ヲ過ギテ。法外ニ。

あまりよう（名）【雨龍】龍ノ屬、角ナク、黄蒼色ニシテ、尾、細ク長シト云フ。螭龍

あまる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規．一）【餘】（一）量ヲ過ギテアリ。分ヲ超エテ多シ。過グ。殘ル。「百ニー」「數ー」（二）分ニ應セズ。分外ニ多シ。「身ニー」「思ヒニー」「力ニー」「手ニー」「目ニー」

あまをとめ（名）【天乙女】あまつをとめニ同ジ。

あまをとめ（名）【海少女】少女ノ海人。

あまをぶね（名）【海小舟】（一）漁リスル小舟。（二）介ノ名、形、あさりニ似テ厚ク、竪、四五分、横、七分許、横ニ筋アリテ深シ、内外白クシテ、緣、紅紫ナリ、紀伊ノ海邊ニ多シ。蛤蜊

あみ（名）【網】〔編ミノ義〕（一）絲ヲ、斜ニ、打違ヘニ、編ミ結ベルモノ、魚鳥ヲ捕ル等、種種ノ用ヲナス。（二）かなあみノ略。○天ノー。天罰。天網

あみ（名）蝦ノ類ノ最モ小キモノ、泥海ニ生ズ、白クシテ赤ミアリ。糠蝦 まほからトモナス。醬蝦

〔あみいた（名）【編板】あんだヲ見ヨ。

あみうち（名）【網打】投網ヲ打チテ漁リスルコト。又、其人。

あみがさ（名）【編笠】（一）物ヲ編ミテ作レル笠。「菅ノー」（二）藺ニテ粗ク編ミ作レルカブリガサ、形、圓ク扁キヲ二ツニ折レルガ如ク作ル、多ク人目ヲ忍ブ者ノ用トス。

あみがさがひ（名）【編笠貝】介ノ名、形、編笠ニ似テ、色黒ク、裏ニまつたけノ裏ノ如キ條アリ。

あみがさもち（名）【編笠餅】まんぢうヲ圓ク薄クシテ、二ツニ折リテ、餡ヲ包ミタルモノ、形、あみがさノ如シ。

あみがさゆり（名）【編笠百合】莖、葉、共ニ百合ノ如クニシテ、春、早ク開クガ故ニ、むつゆりノ名モアリ、花ノ形、あみがさニ似タリ、根ニ、子ヲアツム。古名、ははくり。貝母

あみがひ（名）【網貝】細カキ孔アリテ、網ノ目ノ如キ文アル介、色ハ濃キ紫ナルモアリ、白キモアリ。

あみざこ（名）糠蝦ニ同ジ。

あみざやこ（名）あみざこノ轉、糠蝦ニ同ジ。

あみす・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動）（規．二）【浴】あぶすニ同ジ。

あみすき (名) 網結 網ヲ結キテ作ルコト。又、其人。

あみすきばり (名) 網結針 網ヲ結クニ用ヰル針、竹、又ハ、鯨鬚ニテ作ル。一名、アミバリ。又、アバリ。

あみそ (名) 網麻 網ヲ結ク料ニ用ヰル麻絲。

アミダ (名) 阿彌陀 〔梵語、無量壽ト譯ス〕 佛經ニ、如來ノ名、淨土ノ中ニ坐ストイフ。

アミダがさ (名) 阿彌陀笠 介ノ名、形、よめがさニ似テ大ク、笠ノ狀シタリ。 老蜂牙

あみづな (名) 網綱 引網ノ綱。アミナハ。

〔あみど (名) 編戸 竹、又ハ、片木ヲ編ミテ作レル戸。

あみど (名) 網戸 かなあみニテ張レル戸。

あみなは (名) 網繩 あみづなニ同ジ。

あみのめ (名) 網目 (一)網ニ編ミタル絲ノ隙。(二)斜ニ打チ交ヘタル網ノ目ノ如キ模樣。 羅紋

あみのりもの (名) 網乘物 乘物ノ四面ニ網ヲカケタルモノ、身分アル重罪人ヲ送ルニ用ヰル。 囚轎

あみばり (名) 網針 あみすきばりニ同ジ。

あみめ (名) 編目 編ミ合ハセタル處。

〔あむ (名) 蝱ノ名、あぶニ同ジ。

あむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動)(規.二) 編 (一)打交ヘテ組ミ織ル。(絲、繩、竹片ナドニテ、籠、網、席、簾、竹垣ナドヲ) (二)書キ集メテ作ル。(漢文ノ上ニ)「書ヲ―」

あむ・ムル・ムレ・ミ・ミ・ミヨ (他動)(規.三) 浴 浴ブニ同ジ。

あん (名) 庵 (一)イホ。イホリ。(二)住宅ノ號ニ用ヰル語。

あん (名) 案 (一)ツクヱ。(二)シタガキ。下書。「文章ノ―ヲ立ツ」(三)カンガヘ。スヰリヤウ。「―ノ如シ」―ニタガハズ」―ニ相違ス」

アン (名) 餡 〔字ノ宋音ト云〕 (一)あづきヲ煮テ、擂リテ粉トシ、漉シテ皮ヲ去リ、砂糖ニ和シテ、再ビ煮タルモノ、餅ニ包ミ、團子ニ塗シ、或ハ、溶シテ汁粉トス、漉サザルヲつぶしートイフ。(二)轉ジテ、葛粉、又ハ、わらびのこニ、酒、醬油等ヲ和シテ煮テ液トシタルモノ、食物ニ被テ用ヰルクズダマリ。「―カケ豆腐」―カケ饂飩」

あんい (名) 安意 ココロノヤスマルコト。

あんいつ (名) 安佚 骨折ル事無クシテ、徒ニ暮ラスコト。

あんか (名) あんくわヲ見ヨ。

あんが (名) 晏駕 〔天子ハ、晨ニ出ヅ、崩後、尙、駕ヲ晏ク出ダストスルナリ〕 崩御ニ同ジ。

あんかう (名) 安康 ヤスラケキコト。ヤスラカナルコト。無難ナルコト。「國家―」

あんかう (名) 鮟鱇 魚ノ名、東海ニ產ズ、形、扁ク闊クシテ、盤ノ如ク、肉厚ク、腹大ク、尾細ク長クシテ、全體、琵琶ニ似タリ、大サ二三尺、鱗無クシテ、背黒ク腹白シ、眼、鼻上ニ向ヒ、口大ク、吻上ニ兩ノ長キ鬚アリ、性、遲緩ニシテ泳ガズ、海底ニアリテ、口ヲ開キテ小魚ヲ吞ム、肉、冬春ヲ美ナリトス、骨甚ダヤハラカナリ。 琵琶魚

アンかけうどん (名) 餡掛饂飩 饂飩ニくずたまりノ餡ヲ被ケタルモノ。

アンかけどうふ (名) 餡掛豆腐 豆腐ヲ煮テくずだまりヲカケタルモノ。

あんがふ (名) 暗合 物事ノ、互ニ知ラザルニ、相合ヘルコト。自然ニ相同ジキコト。

あんかん (名) 安閑 (一)身、安ク、事、閑ナルコト。(二)轉ジテ、心ヲツカハズ、徒ニ暮ラシテ居ルコト。

あんき (名) 安危 安キト危キト。「天下ノ―」

あんき (名) 諳記 諳ニオボユルコト。ソランズルコト。

アンギャ (名) 行脚 〔字ノ宋音〕 禪家ノ語、抖擻ニ同ジ。(頭陀ノ條ヲ見ヨ)

あんぐ (名) 暗愚 愚ニシテ理ノワカラヌコト。

アングウ (名) 行宮 〔字ノ宋音〕 天子ノ京ノ外ニ座ス時ノ居所ノ稱。アンザイ。

あんくん (名) 暗君 暗愚ノ君。オロカナル君。

あんくわ (名) 〔行火爐ノ略カ、或ハ、案下火鉢ノ略トモイフ〕 火ヲタクハヘテ足ナド暖ムル具。アシアブリ。 脚爐

あんぐわい (名) 案外 オモヒノホカナルコト。推量ニタガフコト。存外。 意外

あんご (名) 安居 僧ノ他出セズシテ靜ニ家ニ籠リ居ルコト。(結夏ノ條ヲ見ヨ)

†アンころもち (名) あんもちノ條ヲ見ヨ。

あんざ (名) 安坐 (一)落着キテ坐リ居ルコト。(二)アグラヲカキテ居ルコト。 盤坐

アンザイ (名) 行在 〔字ノ宋音〕 天子ノ巡幸ナドノ時ノ御座所。行宮。アンザイショ。

アンザイしよ (名) 行在所 あんざいニ同ジ。

あんさつ (名) 暗殺 ヤミウチ。

あんさつ (名) 按察 キンミシテシラブルコト。究メ糺スコト。

あんさつし (名) 按察使 あぜちヲ見ヨ。

あんざん (名) 安產 ヤスラカニ子ヲ產ムコト。 平產

あんざんじゆ (名) 安產樹 熱地ノ植物、舶來ス、長サ六七寸、枝多ク分レテ、內ニ卷キ屈ム、葉ノ形、よめなニ似テ、小クシテ厚シ、安產ノ効アリト云フ。 含生草

あんじ (名) 案 案ズルコト。カンガヘ。「―ガ好イ」

〔あんじち (名) 庵室 あんじつニ同ジ。

あんじつ (名) 庵室 イホリ。

あんしん (名) 安心 心ヲヤスンズルコト。心配ナキコト。 安堵

アンジャベル (名) 〔蘭語、アンゲリイルノ訛ト云〕 草ノ名、藥用トス、石竹ノ一種ニシテ、長大ナリ、莖長シ、花ハ八重ニシテ、紅、白、又ハ白ニ紅縷アリ。

あんじゆ (名) 庵主 イホリノアルジ。僧、尼ナドノ庵ヲカマヘテ居ルモノ。

あんしよう (名) 諳誦 ソラヨミ。

†あんじる・ジル・ジレ・ジ・ジ・ジヨ (他動)(規.四) 案ズノ訛。

〔あむしろ (名) 編席 〔あみむしろノ約〕 あじろニ同ジ。

〔あむす・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規.一) 浴 あぶす(規.一)ニ同ジ。

〔あむす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動)(規.二) 浴 あぶす(規.二)ニ同ジ。

アンズ (名) 杏 〔杏子ノ宋音、或云、杏仁〕 樹ノ名、古名、カラモモ、幹、枝、葉、共ニ梅ニ似テ肥ユ、花ハ紅梅ニ次テ開ク、形モ稍似テ淡紅ナリ、花ノ後ニ、葉ヲ生ズ、梅ニ似テ大ナリ。花ノ八重ナルハ實ナシ、花―トイフ。花ノ一重ナルハ實ヲ結ブ、梅ノ實ニ似テ大ナリ、味、甘ク酸ク、熟シテ黃ナリ。 金杏 又、實ノ形、大クシテ黃白色ナルヲ、白―ト云フ、上品ナリ。 白杏

アンズ (名) 按司 琉球ノ官、王子ノ次、親方ノ上ニ位ス。

あんず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動)(不規.二) 案 (一)考ヘ思フ。工夫ス。(二)轉ジテ、物思ヒヲナス。思ヒワヅラフ。心配ス。アンジル。 苦慮

アンズうめ (名) 杏梅 梅ノ類、花、一重ニシテ、淡紅ニテ、杏花ニ似タリ、實モ、酸ミ少クシテ、杏ノ如シ。

あんぜん (名) 安全 安クシテ全キコト。危キコト無ク欠ケタルコト無キコト。「家內―」

あんそく (名) 安息 安ラカニ息ムコト。

あんそくかう (名) 安息香 舶來藥品ノ名、熱地ノ樹ノ脂ナリト云フ、狀、松脂ニ似テ、赭黃色ナリ。

あんそくにち (名) 安息日 耶蘇敎ニテ、日曜日ノ稱。

あんだ (名) 〔古言、編板ノ轉〕 板ヲ編ミテ架トシ、竹ヲ釣トシテ舁クモノ、罪人、旅人、手負ナドヲ載ス。アヲタ。 箯輿

あんたい (名) 安泰 安ラカナルコト。無難ナルコト。

あんち (名) 安置 (一)据ヱ置クコト。(二)崇メ祀ルコト。(佛像ナド)

アンチモニー (名) 安質母尼 〔英語、Antimony.〕 いよおうめノ條ヲ見ヨ。

あんぢゆう (名) 安住 身ヲ安ク住フコト。落着キテ住ムコト。

〔あむづち (名) 〔編土ノ意カ〕 射垜ヲ見ヨ。

あんど (名) 安堵 〔堵ハ居處ノ墻ニテ、安居ノ意〕 (一)身ノ居處ニ安ンジテ居ルコト。安心シテ住ムコト。(二)安堵ノ地、即チ知行ノ地ヲ賜ハルコト。「―ノ證文」(三)安堵ノ地ヲ得ル意ヨリ轉ジテ、心ノ落着クコト。安心。 安意

アンドウ (名) 行燈 あんどんニ同ジ。

アンドン (名) 行燈 〔字ノ宋音、元ハ携ヘ行クニ用ヰタルナリ〕 燈火ヲ點シテ据エ置ク具、木ニテ框ヲ作リ、紙ヲ貼リ、中ニ燈蓋ヲ置キテ、油火ヲトボス。アンドウ。 方燈

あんない (名) 案內 (一)文案ノ內ノ事。「―ヲ撿ス」(二)轉ジテ、物事ノ內情ノ容子。「―ヲ知ル」「不―」 內情 (三)土地ノ容子ヲ知リテ導スルコト。ミチビキ。「―ヲスル」 導 (四)告ゲ知ラスルコト。シラセ。 通知 ○―ヲ乞フ。門ニオトナフ。 通謁

あんないしや (名) 案內者 導スル人。 導者

あんないじやう (名) 案內狀 事ヲ告ゲ知ラスル書

狀。通隙

アンなしまんぢゆう（名）【無餡饅頭】麪包ニ同ジ。

あんねい（名）【安寧】ヤスラケキコト。禍亂ナドナクシテ安穩ナルコト。安泰。

あんばい（名）【安排】（一）程ヨク排ベテ置キ据ウルコト。（二）程好ク味ヲツクルコト。味ノ程。（常ニ鹽梅ノ字ナド假借ス）調味（三）ホド。カゲンアヒ。程度（四）病ノ程。「ーガヨイ」「ーガワルイ」病勢

あんぴ（名）【安否】安キト否ラザルト。安ラカナリヤ否ヤノコト。アンテ。「ーヲ訪フ」

あんぷ（名）【安否】あんぴニ同ジ。

あんぷく（名）【按腹】腹ヲ揉ミ摩ル伎。（按摩ノ一法）

アンペラ（名）（東印度邊ノ語ナリト云、或云、編片ノ轉カト）舶來スル一種ノ席、南洋ノ諸國ニ產ズ、貝多羅ノ葉ヲ、竪ニ細ソク裂キテ、さんくづしニ編ミタルモノ。貝多葉莚

あんぽつ（名）（徑輿ノ轉カ）垂襴籠ニ似テ、稍、小キモノノ稱。（東京）

あんぽんたん（名）（阿房鯛ノ轉カト云）（一）魚ノ名、かさごニ同ジ。（二）＋癡人ヲ罵リ呼ブ稱。（東京）

あんま（名）【按摩】（一）醫ノ一法、手ニテ身體ヲ按ミ摩リテ療スル伎、コレヲ行フヲ「ーヲ取ル」トイフ、今多ク盲人ノ業トス。モミレウヂ。（二）アンマトリ。（三）＋俗ニ訛シテ、盲人。瞽者

あんまとり（名）【按摩取】按摩ノ伎ヲ行フ人。

＋あんまり（副）餘ノ音便。

あんみん（名）【安眠】安ラカニ眠ムルコト。寢ヲ安ク睡ルコト。

アンも（名）（一）東京、小兒ノ語、あんもちノ略。（二）轉ジテ、餅。

アンもち（名）【餡餅】（一）餅ノ中ニ餡ヲ包ミタルモノ。（二）餅ノ上ニ餡ヲ塗シタルモノ。アンコロモチ。

あんもん（名）【案文】シタガキノ文。

あんや（名）【暗夜】暗キ夜。ヤミヨ。

あんらく（名）【安樂】身、心、安ラカニシテ樂シキコト。骨折、苦勞無キコト。

あんらくわ（名）【安蘭花】樹ノ名、形、榠樝ニ似テ、春ノ末ニ、淡紅ノ花ヲ開ク、實モ、くわりんニ似テ、香、味、少シ異ナリ。安蘭

あんをん（名）【安穩】安クオダヤカナルコト。無事ナルコト。

あめ（名）【天】（蒼見ノ約カ、或云、仰キ見ル意ナリト）（一）人ノ頭上ニ、仰ギ望メバ、大地ヲ覆ヒテ、蒼蒼トシテ廣大無邊ニ見エ、日月星辰ノ懸レル處。ソラ。テン。虛空。（二）日ノ神ノ坐スル處。

あめ（名）【雨】（天水ノ約轉カ）（一）雲ノ、冷エテ水トナリテ、滴リ降ルモノ。（二）雨ノ如ク滴ルモノ。「涙ノー」

あめ（名）【飴】（甘水ノ約轉カ）食物ノ名、もちごめヲ蒸シテ、熱氣アル中ニ、大麥ノもやしヲ入レ、熱湯ヲ加ヘテ搾リ、釜ニテ煉リ作ル。其甚ダユルキヲ水ー

又汁ートモ云フ。濕飴 膠飴 再ヒ煉リテ、油ヲツケテ、引キタタミシテ固クナセルヲ固ートイフ。餳 ○＋ーヲ食ハス。先ヅ喜バセテ、後ニ欺キ陥シイル。

あめ（名）【鯇】あめのうをヲ見ヨ。

あめ（名）介ノ名、よめがさらニ似テ、長サ一寸餘、肉、薄赤ク、味、甘シ。

あめいし（名）【飴石】石ノ一種、外ハ、ザラツキテ、碎ケバ、内、あめいろナルモノ。

あめいろ（名）【飴色】淡黃褐ニシテ、スキトホリテ、水飴ノ如キ色。

あめうし（名）【飴牛】牛ノ毛色ノあめいろナルモノ。黃牛

あめうり（名）【飴賣】街上ニ飴ヲ賣リアルク者。

あめがした（名）【天下】あめのしたニ同ジ。

あめざいく（名）【飴細工】かたあめニテ、鳥獸人物ナドノ形ヲ作リテ、小兒ノ玩トスルモノ。

あめつち（名）【天地】天ト地ト。天地。

〔あめつちのふくろ（名）【天地袋】初春ニ、縫ヒテ作ル袋ノ名、天地ヲ縫ヒ合ハスル心トシ、幸ヲ納ルル祝物トス。

あめのいはと（名）【天岩戸】あめのいはやどニ同ジ。

あめのいはやど（名）【天岩屋戸】神代ニ、天上ニアリシ石屋ノ戸口。アメノイハト。アマノイハト。

あめのうを（名）【鯇】（一）本名。アメ。魚ノ名、形、さけニ似テ、脊ノ上、尾マデトホリテ、黑甲アリ、鱗細カナラズ、大ナルハ二尺ニ至ル、肉白ク、又、淡赤キモアリ。

一名、アメマス。（二）又、魚ノ名、きすごノ一名。

あめのした（名）【天下】（一）國土ノ總稱。天下。（高天原ニ對シテイフ）（二）日本全國。

あめのむらくものつるぎ（名）【天叢雲劍】さんしゆのじんぎノ條ヲ見ヨ。

あめはたいし（名）【雨畑石】甲州巨摩郡雨畑村ノ山中ヨリ出ヅル石、色黑シ、硯トス。アマハタイシ。

〔あめびと（名）【天人】天上ノ人。天人。

あめふらし（名）【雨降】（一）動物ノ名、薩摩ノ山中ニアリテ、雨中ニ出ヅ、形、おはびニ似テ、痩セテ、殼無シ。雨虎（二）又、海產ノ動物ノ名、形、なめくぢニ似テ、大ク、黑褐雜駁色ナリ、頭ニ、二ツノ肉角アリ、コレニ觸ルレバ、背ヨリ紅紫ナル汁ヲ吹キテ身ヲ隱スコト、烏賊ノ墨ヲ吹クガ如シ。

あめふり（名）【雨降】雨ノ降リテアル間。雨中

あめます（名）【鯇鱒】あめのうをニ同ジ。

アメンドウ（名）（蘭語、Amandel ノ訛）（一）印度地方ヨリ舶來スル杏桃類ノ核、狀、杏核ヨリ大クシテ、黃ナリ、紋細カクシテ堅シ、形、種種ナリ、其仁ヲ藥トシ果トス、味、栗ノ如シ。巴旦杏（二）壽星桃ノ一名。

アメンドウス（名）巴旦杏ニ同ジ。

＋あめんばう（名）蟲ノ名、みづすましニ同ジ。

＋あめんぼう（名）餳ヲ棒ニ捩シタルモノ。

〔あもる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規、二）【天降】（天降ルノ約略）あまくだるニ同ジ。

あや（名）【文】（一）物ノ面ノ種種ノ象モヤウ。（自然ノ斑ニモ、織物、彫物、染物等ニモ、スベテイフ）（二）仕組ノスヂワケ。「計畫ノー」

あや（名）【綾】（文帛ノ略）紋地ノ織物ノ名、文ヲ織出シテ美シキモノ。

あや（感）あなニ同ジ。

あやかし（名）（怪シノ轉カ）（一）海上ノ妖怪ノ名。（二）こばんざめノ一名。

あやかる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規、二）（肖ユノ轉）觸レテ似ル。他ニ感ジテ、淡同ジクナル。肖

あやし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）（あやハ文理ノ意カ、或ハ感動ノ聲カ）（一）考ヘ及ビガタシ。奇シ。フシギナリ。靈異 神瑞（二）常ニ異ナリ。メヅラシ。キタイナリ。奇異 非常（三）イブカシ。ウタガハシ。怪（四）賤シ。見苦シ。「ーノ下衆」「ーノ小家」

あやしび（名）【怪火】起レル由ノ知ラレヌ火災。

あやしぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（他動）（規、二）あやしむニ同ジ。

あやしみ（名）【怪】アヤシムコト。ウタガヒ。

あやしむ・ム・メ・マ・ミ・メ（他動）（規、二）【怪】（奇ヲハタラカス）怪シト見ル。フシギニ思フ。ウタガフ。

あやす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規、二）流ユルヤウニナス。出ダス。流ガス。滴ラス。「血ヲー」「汗ヲー」流

あやす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規、二）（あやなすノ意カ）アヘシラヒ樂シマス。（赤子ヲ）

あやすぎ（名）【文杉】（一）樅ノ一種、變葉ノモノ、其葉、杉ニ似テ、細小ニシテ、柔ク、背ハ白シ。塔杉（二）人

字ノ如キ文ヲ連ネタル形、刀劍ノ中心、又ハ、三味線ノ胴ノ裏ナドニ彫リツクルモノ。

あやつ（代）【彼奴】彼ニ同ジクシテ、罵リ呼ブニ用ヰル代名詞。アイツ。

あやつり（名）【操】（一）アヤツルコト。アヤツル仕掛。機（二）アヤツリニンギヤウ。

あやつりにんぎやう（名）【操人形】傀儡ノ流、人形ニ、絲ヲ仕掛ケアヤツリテ、音曲ニ合ハセテ舞ハスルモノ。人形芝居。コレヲ舞ハスル者ヲ、人形まはし、人形つかひナドイフ。

あやつる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動）（規、二）【操】（文、釣ルノ義）（一）絲ヲ仕掛ケテ、引キ釣リテハタラカス。「機ヲー」（二）カケヒキヲナス。アヤナス。

あやどる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動）（規、二）【操】（文、取ルノ義）（一）アヤツル。（二）アヤナス。

〔あやなし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【無文】理、立タズ。ワケ、ワカラズ。漫

あやなす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規、二）（文なすノ意）巧ニアツカフ。程好クアヘシラフ。

〔あやに（副）【奇】（あやしノ條ヲ見ヨ）（一）奇シク。奇妙ニ。フシギニ。「ー畏シ」（二）ワイダメナク。ムシヤウニ。ムヤミニ。「ー戀シ」漫

あやにく（副）【生憎】あやにくにニ同ジ。

あやにくに（副）【生憎】（嗟憎テノ義）（一）嗟、憎ク。アナニク。（二）思フニ違ヒテ、意地ワロク。間ヲワロク。アイニク。

〔あやぬの（名）【文布】（古ヘ、文アル布ハ、倭文布ノミ

倭文布ニ同ジ。

あやぶ・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）【危】難ニ近ツク。害ニ逢ハムトス。アブナシ。

あやぶ・む・ム・ム・メ・マ・ミ・メ（他動）（規・一）【危】アヤフシト認ル。アブナク思フ。

あやぶ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動）（規・二）【危】アヤフクス。難ニ逼ハス。「社稷ヲアヤブメムトス」「人ヲアヤブメテ」

あやまち（名）【過】アヤマツコト。シソコナヒ。マチガヘ。

あやまつ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動）（規・一）【過】爲損フ。シソンズ。マチガフ。アヤマル。

あやまり（名）【誤】（一）アヤマルコト。シソコナヒ。（二）詫ブルコト。謝罪‖

あやまり-ぢようもん（名）【誤證文】誤ヲ詫ビタル證トシテ送ル狀。

あやまる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動）（規・一）【誤】（一）爲テ理ニ外ル。シソコナフ。マチガフ。アヤマツ。（二）轉ジテ、詫ブ。（誤リヲ詫ビ訴フル意）謝罪‖

あやむ・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動）（規・二）（一）怪シム。イブカル。（二）傷フ。殺ス。「人ヲ―」

あやめ（名）【文目】スヂワケ。シャベツ。「―モワカズ」―モ知ラズ」

あやめ（名）〔文目ノ義ニテ、葉ノ理ニツキテイヘルカ〕（一）草ノ名、古歌ニイヘルハ、本名、あやめぐさニテ、今ノ菖蒲ナリ、其條ヲ見ヨ。（二）今、花ヲ賞スルハ、はなあやめノ略、其條ヲ見ヨ。

あやめ-がひ（名）【菖蒲貝】蛤ノ類、色、紫ナリ、三ツ寄スルトキハ、はなあやめノ花ニ似タリ。

あやめ-ぐさ（名）【菖蒲草】菖蒲ニ同ジ。略シテ、アヤメ。

〔あやめ-たむ（名）草ノ名、われもかうニ同ジ。

あやめ-だんご（名）【菖蒲團子】（一）竹串ヲ四叉ニワカチ、叉毎ニ、小キ團子ヲ四ツヅツ貫キタモルノ、形、はなあやめノ花ニ似タリ。（二）いときりだんごニ、餡ヲ塗シタルモノ。

あや-ゐがさ（名）【綾藺笠】藺ニテ編ミタル一種ノ製ノ被笠。

あゆ（名）【鮎】〔字ハ和字ナリ、神功后、此魚ヲ釣リテ勝敗ヲ占ハセタマヒキ、故ニ占ニ從フト云〕魚ノ名、春ノ初、河海ノ間ニ生ジテ、河ニ泝ル、長キハ八九寸、鱗細カクシテ腹白シ、雌ハ首小ク、身潤クシテ、色、黃ヲ帶ビ、雄ハ身狹クシテ淡黑シ、秋ノ末、河海ノ間ニ歸リ、子ヲ生ミテ死ス、アイ。溪鰛‖香魚‖

〔あ-ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動）（規・二）似ル。アヤカル。肖‖

〔あ-ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動）（規・二）流レ出ヅ。滴ル。（血、汗、ナド）流‖

〔あ-ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動）（規・二）熟ス。ツユ。（果ニ）熟‖

〔あゆ-かす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・一）【搖】ユルガス。ウゴカス。

〔あゆ-ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動）（規・一）【搖】ユルグ。ウゴク。

〔あゆ-く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動）（規・一）【步】あゆむニ同ジ。

あゆ-なめ（名）【鮎並】海魚ノ名、もうをノ類、猪首ニシテ、身狹ク、鱗細カク、口、眼、大ナラズ、身、黃褐ニシテ、黑キ斑アリ、尾ニ赤ミアリ、頰、黃ナリ、小キハ一二三寸、大ナルハ尺餘アリ、味甚ダ佳ナリ。アイナメ。

〔あ-ゆひ（名）【足結】足ニ結ヒ纏フモノ。脛巾。脚帶‖

あゆび（名）【步】あゆみニ同ジ。

あゆ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動）（規・一）【步】あゆむニ同ジ。

あゆみ（名）【步】アユムコト。アルクコト。「―ヲハコブ」

あゆみ-いた（名）【步板】步ミ渡ラムガ爲ニ物ノ上ニ亙ス板。

あゆ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動）（規・一）【步】足ヲ動カシテ進ム。行ク。アリク。アルク。

あゆ-もどき（名）〔鮎擬ノ義〕魚ノ名、山城ノ桂川ニ產ズ、鮎ニ似テ、口ニ、どぢやうノ如ク鬚アリ、大ナルハ一尺許アリ。

〔あよ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動）（規・一）【步】あゆむニ同ジ。

あら（名）魚ノ名、形、鱈ニ似テ、頭長ク、鱗細カク、黃黑色ニシテ斑アリ、小キハ一二尺アリ、大ナルハ三尺許ニ至ル、味淡シ、北海ノ產ナリ。鯇魚‖

あら（名）〔粗ノ義〕（一）骨。（二）魚ヲ料理シタル後ノ骨ニ餘肉ノ添ハレルモノ。骨邊肉‖（三）轉ジテ、善キヲ擇リ取リテ後ノ棄ツベキ處。殘餘‖（四）又、轉ジテ、アヤマチ。キズ。「人ノ―ヲ言フ」瑕‖

あら（名）【新】新ナルコト。未ダ用ヰヌコト。「―ノ品」

あら（感）あなニ同ジ。「―暑ヤ」―寒ヤ」―嬉シ」

あら（接頭）【粗】粗キ。粗ナル。「―ガネ」―タマ」

あら（接頭）【荒】荒キ。荒ルル。「―海」―夷」

あら（接頭）【新】〔生ノ意カ〕アラタナル。アタラシキ。「―手」―刃」

あら-あら（副）【粗粗】大略。オホヨソ。ザット。約略‖

あら-あら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）【粗粗】甚ダ粗シ。ソマツナリ。太粗‖

あら-あら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）【荒荒】甚ダ荒シ。タケシ。猛‖

あら-いそ（名）【荒磯】荒波ノ打寄スル磯。

〔あら-いみ（名）【荒忌】神事ニ與カル人ノ、マヘカタヨリスルモノイミ。散齋‖ 神事ニ近ツキテスルヲ眞忌トイフ。致齋‖

あら-う（名）【荒鵜】荒キ鵜。馴レヌ鵜。

あら-うま（名）【荒馬】猛クシテ制シガタキ馬。悍馬‖

あら-うみ（名）【荒海】荒波ノ立ツ海。オホウミ。

あら-うみ-の-さうじ（名）【荒海障子】淸涼殿ノ弘廂ノ北ニアル布障子ノ稱、荒海ノ畫ヲカケリ。

あら-えびす（名）【荒夷】王化ニ馴レヌ荒荒シキ夷。

あら-かじめ（副）【預】〔粗假占ノ約カ、粗ク初メノ約カ〕其事ノ前ニ。マヘカタヨリ。カネテ。マヘビロニ。

あら-かせぎ（名）【荒稼】荒仕事ノ生業。力役‖

あら-かた（副）【粗方】オホカタ。大抵。大概。

あら-がね（名）【粗金】（一）山ヨリ堀リ取リタルママニテ、未ダ製煉セヌ金類。鑛‖（二）鐵。

あら-がね-の（枕）【粗金】土トイフ語ノ枕詞。

あら-かは（名）【粗皮】（一）毛皮（つくりかはニ對ス）生皮‖（二）モミガラ。

あらが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動）（規・一）【爭】〔荒ヲハタラカス〕あらそふニ同ジ。

あら-かべ（名）【粗壁】粗塗ノママナル壁。

〔あら-がみ（名）【現神】天皇ヲ差シテ申シ奉ツル語、現世ニ神ニテマシマス意。

ア-ラカン（名）【阿羅漢】〔梵語、阿ハ不ナリ、羅漢ハ生ナリ〕佛ノ稱號、後世ノ中ニ、サラニ生セザル者ノ意、常ニ略シテ羅漢トノミイフ。「十六―」五百―」

〔あら-き（名）【殯宮】〔荒城ノ義〕屍ヲ未ダ葬ラズシテ暫シ收メ置ク所。

あら-き（名）【粗木】材木ノ、切リ出シタルママニテ、皮ヲ去ラザルモノ。樸‖

アラキ（名）【阿剌吉】〔蘭語、Arrak.〕和蘭ヨリ古ク渡セル飲物、丁子、肉桂、茴香、等ヲ合セテ、燒酎ニ浸シ製セシモノト云。荒氣酒。

あら-きだ（名）【荒木田】武州豐島郡町谷村尾久村邊ノ荒川ニ沿ヘル荒木田原ヨリ出ヅル土、粘リアリ、壁ニ塗リ、又、陶器ニ用ヰル。（東京）

〔あら-き-はり（名）【墾】新ニ田ヲ墾ルコト。新地ヲ始メテ草ヲカヘシテ、一年ナルモノ。其二年ニシテ漸ク和スルヲ熟トイヒ、三年ニシテ新田トナル。

あら-ぎやう（名）【荒行】修驗者ナドノ、甚シキ艱難ヲ凌ギテスル行。

〔あら・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動）（規・二）〔粗クナル意〕散ニナル。ハナレバナレニナル。散‖

あら・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動）（規・二）【荒】荒ル。荒レ立ツ。

あら-ぐし（名）【粗櫛】齒ノ粗キ櫛、先ヅ髮ヲ解クニ用ヰル。トキグシ。梳‖

あら-くま（名）【荒熊】猛キ熊。

〔あらくま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）荒キ狀ナリ。アラアラシ。

あらく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動）（規・二）（一）粗クナル。細ヤカナラズ。（二）荒クナル。荒レ立ツ。

あらくれ-もの（名）アラクルル者。亂暴ナル者。暴人‖

あら-けな・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）〔荒氣痛シノ意〕甚ダ荒シ。アラアラシ。

〔あら-こ（名）【麁籠】目ノ粗キ籠。

あら-こ（名）【粗粉】糯粉ノ粗キモノ、砂糖、飴ナドニ和セテ、菓子ノ種ニ用ヰル。「―落雁」

あら-ごと（名）【荒事】歌舞妓ニテ、剛ノ者ノ事ヲスルコト。

あらごと-し（名）【荒事仕】あらごとニ扮ツ俳優。

あら-こも（名）【粗薦】新シキ薦ノ、觸ルニ粗粗シキモノノ稱。

あら-し（名）【嵐】〔荒風ノ轉カ、荒シカ〕雨、風ノ吹キ荒ルルモノ。風雨‖

あら・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）【麤】【麁】【粗】〔あらハ生ノ轉ナラム〕コマヤカナラズ。ナメラカナラズ。粗末ナリ。

あら・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）【荒】〔粗シノ轉〕猛ク烈シ。強ク荒ブ。猛‖

あら-しこ（名）【粗鉋】〔粗おほきノ略〕工匠ノ語、鉋ノあらけづりニ用ヰルモノ。次ニ用ヰルヲ中鉋トイヒ、

仕上ゲニ用キルヲ上鉋トイフ。

あらしこ (名) 荒子 (一)農家ナドノ下賤ノ手。(二)軍卒。雜兵。

あらしごと (名) 荒仕事 力業ニテ骨ノ折ルル仕事。 力作

あらじよたい (名) 新所帶 新シキ所帶。新ニ起シタル住居。 新居

あらす・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規・二) 荒 (一)荒レシム。害フ。コハス(田園ナド) 殘破 (二)荒ルニ任カス。毀ルルマヽニシテ、繕ハズ。(家ナド)「住ミ―」 任荒破

あらそひ (名) 爭 アラソフコト。イサカヒ。

あらそふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規・一) 爭 〔荒ヲハタラカス〕 他ニ逆ヒテ己ガ意ノ如クニセムトス。競ヒテ勝タムトス。イサカフ。アラガフ。

あらた (名) 荒田 耕作セヌ田。荒田。 廢田

あらたかに (副) 〔生高ノ意カ〕 威力、イヤチコニ。靈驗、遊バス(神佛ニ) 顯然 灼然

あらたし・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 新 アラタナリ。アタラシ。

あらだつ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動)(規・二) 荒立 荒クナル。荒ビ始ム。(風雨、鬼神ナド) 暴發

あらだつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動)(規・二) 荒立 アラダツヤウニナス。荒クナス。(人ノ心ナド) 激動

卄あらだてる (動) あらだつ(他動)ノ訛。

あらたに (副) 新 〔あらハ生ノ轉カ〕 始メテ別段ニ。アタラシク。

〔あらたへ〕(名) 粗栲 栲ノ條ヲ見ヨ。

〔あらたへの〕(枕) 粗栲 衣、布衣、葛衣等ノ枕詞。

あらたま (名) 粗玉 玉ノ堀リ取レルマヽニテ未ダ磨カザルモノ。 璞

あらたまの (枕) 新玉 〔新間ニテ移リ行ク意ト云、或云、璞ヨリ砥ト言ヒ掛ケタリト〕 年、月、日、夜、春ナドイフ語ノ枕詞。

あらたまる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規・一) 改 〔新ヲハタラカス〕 新ニナル。變ハル。ナホル。

あらたむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動)(規・二) 改 〔新ヲハタラカス〕 (一)新ニス。變フ。ナホス。(二)糺ス。調ブ。吟味ス。「人別ヲ―」「關ノ切手ヲ―」 撿

あらため (名) 改 (一)アラタムルコト。ナホシ。(二)糺シトシラベ。吟味。「人別―」「宗門―」 點撿

卄あらためる (動) あらたむノ訛。

卄あらつぽし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) (一)粗シ。コマヤカナラズ。(二)荒シ。アララシ。猛シ。

あらづもり (名) 粗積 オホカタニ測ルコト。 概算

あらて (名) 新手 未ダ戰ハズシテ疲レヌ兵隊。 生兵

あらと (名) 粗砥 砥ノ一種、始メテ新刃ヲ研グニ用キルモノ、質、粗クシテ、ザラツク、赤キアリ、白キアリテ、樣ノ文アリ。 礪

あらどこ (名) 新床 疊ノ床ノ新シキモノ。

あらなは (名) 荒繩 繩ノ肌ニ觸レテ粗粗シキニイフ語。「―ニテ紮ル」 粗索

あらなみ (名) 荒波 荒レ立チテ打ツ波。 怒濤

あらぬか (名) 粗糠 もみぬかニ同ジ。

あらぬり (名) 粗塗 初ニ粗ク塗ルコト。シタヌリ。(壁泥ナドニイフ、中塗、上塗ニ對ス)

あらの (名) 荒野 荒レタル野。 曠野

あらは (名) 新刃 刃物ニ新ニ付クル刃。

〔あらはかす〕・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規・一) あらはすニ同ジ。

あらはす・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規・一) 顯現 (一)現ニナス。オホヤケニス。隱サズニ見ス。(二)書ヲ作リテ世ニ出ス。著述ス。 著

あらはに (副) 顯現 〔あらハ生ノ意カ〕 (一)隱レズニ。アラハレテ。覆物ナクテ。「―見ユ」 (二)隱サズニ。發キテ。アラハシテ。「―語ル」

あらはる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動)(規・二) 顯現著 (一)現ニナル。カクレナクアリ。表ニ出ヅ。「雲晴レテ月―」「思ヒ、顏ニ―」(二)隱シタルコト、人ニ知ラル。露顯ス。「隱謀―」 發覺

卄あらはれる (動) あらはるノ訛。

あらひ (名) 洗 (一)洗フコト。(二)魚ノ生肉ヲ刻ミ、冷水ヲ注ギテ洗ヒ、肉ヲ縮マシメタルモノ、生ニテ醬油ニ浸シテ食フ。

あらひこ (名) 洗粉 まろあづきヲ細末ニ製シタルモノ、物ヲ洗フニ用キテ、油ナドノ汚レヲオトス。 澡豆

〔あらひとがみ〕(名) 現人神 現世ニアリテ人ノ體ナル神。

あらひのり (名) 洗海苔 あまのりノ一種、出雲ヨリ

産スルモノ。

あらひはり (名) 洗張 故キ衣服ヲ洗濯シテ張リテ、滑ラカニスルコト。

あらひよね (名) 洗米 かしよね又ハせんまいニ同ジ。

あらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規・一) 洗 〔新ヲハタラカス〕 水ニテスヽギテ淨ム。

あらぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビロ (自動)(規・三) 荒 (一)荒ル。荒レタツ。「アラブル神」「アラブル人」「アラブル潮」 暴起 (二)開ラケズニテアリ。荒ル。(國土ナド) 荒蕪 (三)(情、疎)ネル。「アラブル妹ニ戀ツツゾ居ル」

あらまき (名) 粗蒔 田ヲカヘサズニ種ヲ蒔クコト。

あらまき (名) 苞苴 〔粗卷ノ義〕 苞、竹ナドニテ魚ヲ包ミ卷キタルモノ、贈物ナドニ用キルニイフ。

〔あらまし〕(名) アラマスコト。行末ノコヽロアテ、豫メ心ニ計ルコト。 豫期

あらまし (副) 荒増 〔前條ノ語ノ轉〕 オホカタ。タイテイ。 大抵

〔あらまし〕・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 荒キ狀ニテアリ。

〔あらます〕・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規・一) 預メ心ニ思ヒハカル。 預期

あらまほし・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 有ラムコトヲ欲スアリタシ。

あらみ (名) 新刃 新ニ鍛ヘタル刃。新刃。

あらみたま (名) 荒御魂 荒ブル御魂。(神ノ)

あらむしや (名) 荒武者 (一)猛キ武者。 猛士 (二)卄轉シテ、所行ノ荒荒シキコト。 兇暴

あらめ (名) 荒布 海藻ノ名、海底ノ石ニ貼キテ生ズ、葉、扁ク長クシテ、一根ヨリ叢生シ、長キハ四五尺ニ至ル、色黑ク、縱ニ粗キ皺アリ、晒シテ煮テ食フ。 黑菜

あらもの (名) 新物 新ニ作リテ未ダ用キザルモノ。(器ナド)

あらもの (名) 荒物 草鞋、塵取、竹帚ナド、種種ノ粗キ器ノ稱。(商ヒ物ナルニイフ)「―屋」

あらゆる 有ラ被ノ分詞法。アルカギリノ。(被ノ條見合ハスベシ) 所有

あららかに (副) 荒荒シキ狀ニテ。甚ダ荒ク。「聲―言フ」

あららぎ (名) 蘭 (一)草ノ名、深山ニ生ズ、早春、舊根ヨリ生ジ、葉ハ、むらさきぎはうしゆノ如クニシテ、縱道ナシ、莖、高サ八九寸、三葉下ニ互生シテ、頂ニ花ヲ開ク、韮ノ花ニ似テ大ク、六瓣淡紫ナリ、又、白キモアリ、實モ韮ノ如ク、根ハ、水仙ノ如クニテ絲ニテ包ム、臭氣ナシ。一名、ギヤウジヤニンニク。 茖葱 (二)又、樹ノ名、いちゐニ同ジ。

あららぎ (名) 塔ニ同ジ。(齋宮ノ忌詞)

あられ (名) 霰 〔粗ノ意ナルベシ〕 (一)雪ノ粒ノ、氷トナリテ降ルモノ、冬月、雪ノ前ニ降ル。(二)織文、又ハ染文ノ名、いしだたみノ細カキモノ。(三)餅ヲ采目ニ刻ミテ炒リタルモノ。(四)細カキ糒ヲ炒リ焦シテ、湯ニ點ジテ飲ムモノ。(五)みぢんこニ砂糖ヲ和セテ、捏テ方形ニ切リタルモノ。(六)砂糖ヲ采目ニ固メ製セルモノ。

あられいし (名) 霰石 (一)炭酸石灰、大、小、粒ヲナシテ、光アリ、色白シ。其管ノ狀ヲナスモノヲ鵝管石トイフ。(二)方解石ノ一名。

あられがひ (名) 霰貝 螺ノ類、殼ノ外面ニ、あられノ如キモノ、並ビ付キテ、體、脹レタリ。

あられがま (名) 霰釜 釜ノ外面ニ、霰ノ如キモノヲ、高ク並ベテ鑄出シタルモノ。

あられこもん (名) 霰小紋 染模樣ノ名、霰ノ如キ小紋ヲ、隙ナク染出シタルモノ。

あられざけ (名) 霰酒 濁酒ノ麴ノ溶ケズシテ霰ノ如ク交レルモノ。

〔あらればしり〕(名) 踏歌ノ條ヲ見ヨ。

あられもなし・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 〔有ラ被モ無シノ義〕 有ラルベクモナシ。有リ得ズ。

あり (名) 蟻 小キ蟲、春、土ヨリ出デ、秋ノ末、食ヲ貯ヘテ、地中ニ蟄ス、六足ニシテ、腰、くびル、市中ニ居ルハ、體、一二分ナリ、山野ニアルハ、七八分ニ至ル、皆赤、黑、等ノ種アリ、體ニ比スレバ力強シ、樹中ニ棲ムモアリ、ありづかヲ作リテ居ルモアリ。

あり (名) 大クシテ平タキ板ノ反ルヲ防ガムガ爲ニ、別ニ、木目ト打違ヘニ、溝ヲホリテ、細ソキ木ヲ塡メタルモノ。

あり (名) 有 アルコト。現在スルコト。「―ノママ」「―ト無シト」

あり・ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(不規・四) 有 (一)無シノ反。存

在ス。(二)居ル。止マル。「家ニ―」「東ニ―」 在

ありあけ (名) 有明 月ハ天ニアリナガラ、夜ノ明クルコト。(十六夜以後ノ月ニ云フ) 殘月

ありあけアンドン (名) 有明行燈 終夜、點シ置ク行燈。長夜燈

ありあはす（スル・スレ・セ・セ・セヨ） (自動)(規・二) 有合 ありあふニ同ジ。

ありあはせ (名) 有合 ありあひニ同ジ。

ありあひ (名) 有合 アリアフコト。アリアハセ。見在

ありあふ（フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ） (自動)(規・一) 有合 正ニ其場ニアリ。見在

ありあまる（ル・レ・ラ・リ・レ） (自動)(規・一) 有餘 入用ニ餘ル。

〔ありありて〕 (副) 在在 ソノマヽニ在リテ。

ありありと (副) 在在 分明ニアリテ。ハキト。

ありうる（ウル・ウレ・エ・エ・エヨ） (自動)(規・二) 有得 世ニアルコトヲ得。永ク世ニ存ル。

〔ありか〕 (名) 〔生ヒナガラニ有ル臭ノ意カ〕 わきがニ同ジ。狐臭

ありか (名) 在所 物ノ在ル處。所在

ありがたし（キ・ケレ・ク・シ） (形・二) 難有 (一)〔存在スルコト難シ。在リカヌ。(二)類ヒ少シ。希ナリ。希世 (三)カタジケナシ。忝

ありがたなみだ (名) 難有涙 辱サ、又ハ喜バシサニ感ジテ出ヅル涙。感涙

ありがためいわく (名) 難有迷惑 忝キヤウニテ、却テ迷惑ナルコト。

ありがね (名) 有金 現在、手許ニアル金錢。見存金

〔ありき〕 (名) 歩 アリクコト。アユミ。

ありきたり (名) 有來 元ヨリ有ルコト。モトヨリ傳ヘタルマヽナルコト。從來

ありきり (副) 有切 アルカギリ。アリタケ。

〔ありく（ク・ケ・カ・キ・ケ）〕 (自動)(規・一) 歩 あるくニ同ジ。

ありさま (名) 有樣 有ル狀。アリヤウ。ヤウス。狀

ありすひ (名) 蟻吸 小鳥ノ名、きつつきノ小キモノ、目赤クシテ白キ環アリ、頭ト背トハ、淡褐ニシテ黒キ斑アリ、喉ヨリ腹ハ、淡黄ニシテ黒キ斑アリ、尾、長クシテ、淡黄ニテ亦黒キ斑アリ、脚毛淡黄ナリ、其舌、蛇ノ如ク、細ソクシテ長シ、能ク小蟲ヲ啜ヒ食フ。啄木鳥一種

〔ありそ〕 (名) 荒磯 あらいその約。「―海」「―松」

ありだか (名) 有高 ソコニ有ルホドノ嵩。見存數

ありたけ (副) 有丈 ソコニアルカギリ。

〔ありたつ（ツ・テ・タ・チ・テ）〕 (自動)(規・一) 在立 立ツトイフニ同ジ。

ありぢごく (名) 蟻地獄 すりばちむしニ同ジ。

ありづか (名) 蟻塚 蟻ノ巣トシテ作ルモノ、泥土ヲ積ミテ作ル、全體、細孔ヲナスコト、海綿ノ如シ、其中ニ棲ム。アリノタフ。蟻垤

〔ありつかはし（シキ・シケレ・シク・シク）〕 (形・二) 似ツカハシ。似合ハシ。

ありつき (名) 有付 アリツクコト。

ありつく（ク・ケ・カ・キ・ケ） (自動)(規・一) 有付 (一)似合フ。(二)住ミツク。住ミ馴ル。(三)賴ヲ得。

ありてい (名) 有體 アリノマヽ。アカラサマナルコト。

ありどほし (名) 〔有通ノ義ニテ、實ノ冬ヲ歷ルニイフカ〕 小木ノ名、山中ノ陰地ニ生ズ、高サ二三尺ニ過ギズ、葉ハ枸杞ニ似テ、短クシテ尖リ、葉ノ本毎ニ刺アリ、故ニ「小鳥止ラズ」ノ名アリ、春、葉ノ間ニ白キ花ヲ開ク、後、圓キ實ヲ結ブ、熟スレバ紅ナリ、冬ヲ歷テ落チズ。虎刺

〔ありならふ（フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ）〕 (自動)(規・一) 慣ヒ來ル。仕癖トナル。

〔ありのすさび〕 (名) 有リテ進ブルニ任スルコト。

ありのたふ (名) 蟻塔 (一)ありづか。(二)小草ノ名、原野ニ生ズ、細キ莖ヲ出ス、高サ五六寸、葉、對生ス、大サ豆ノ如シ、一名、ノミトリグサ。

ありのぢごく (名) 蟻地獄 すりばちむしニ同ジ。

ありのとわたり (名) 蟻門渡 (一)蟻ノ、甚ダ細ソキ隙ヲ、列ナリテ行クコト。(二)會陰。

〔ありのひふき〕 (名) 桔梗ニ同ジ。

〔ありのまがひ〕 (名) 物、多クアリテ、亂レ紛フコト。

ありのまま (副) 有儘 物事ノアル姿ノ儘ニツクロヒ隱シナドセズシテ、アリテイニ。白地

ありのみ (名) 有實 (一)梨ノ異名。(無シニ通フヲ忌ミテ、有リトイフナリ) (二)又、やまなしノ一名。

〔ありはつ（ツル・ツレ・テ・テ・テヨ）〕 (自動)(規・二) 存在シテ終ル。

〔ありふ（フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ）〕 (自動)(規・二) 有經 世ニアリテ年月ヲ經。

ありふる（ルル・ルレ・レ・レ・レヨ） (自動)(規・二) 有觸 世ニ常ニアリ。何地ニモ多クアリ。

ありまい (名) 有米 有合ノ米。見存米

ありまき (名) 蟻卷 小蟲ノ名、竹又ハ草木ノ嫩葉ノ間ニ生ズ、形、黍ノ粒ノ如ク、身圓ク、頭尖リテ、兩ノ鬚、六ノ脚アリテ、綠ナリ、後ニ羽化ス、此蟲、味甘シ、故ニ、蟻多ク集リテオヅル、黒蟻集マレバ色黒クナリ、赤蟻ナレバ、赤クナル。アブラムシ。竹蝨

ありまつしぼり (名) 有松絞 なるみしぼりノ條ヲ見ヨ。

ありやう (名) 有樣 (一)アル樣。アリサマ。ヤウス。(二)眞實ノ狀。

〔ある（ルル・ルレ・レ・レ・レヨ）〕 (自動)(規・二) 生 うまるニ同ジ。

ある（ルル・ルレ・レ・レ・レヨ） (自動)(規・二) 荒 (一)荒ビサワグ。アレタツ。(神ニ、人ニ) (二)烈シク起ル。荒クナル。(風ニ、浪ニ) 暴起 (三)破ルルニ任セテアリ。手ヲ入レズシテアリ。(家ニ、田畑ニ) 荒廢 (四)膩乏シクナル。(手足ニ)

ある (助) 有 ありヲ見ヨ。

ある 或 有リノ分詞法。名ヲ知ラズ、又ハ、名ヲ定メズ物事ヲ指シテイフ語。某ノ。「―人」「―時」「―處」「―男」

あるかぎり (副) 有限 有ル程ヲ盡クシテ。

あるき (名) 歩 アルクコト。アユミ。アリキ。

あるく（ク・ケ・カ・キ・ケ） (自動)(規・一) 歩 あゆむニ同ジ。アリク。

アルコオル (名) 〔亞刺比亞語ニテ、和蘭ヨリ入ル、Alcohol.〕 酒ヲ蒸溜シタルモノ。燒酎。酒精

あるじ (名) 主 〔有主ノ約カ〕 (一)家ノ主。アロジ。主人。テイシュ。(二)主人トナリテ人ヲモテナスコト。フルマヒ。チサウ。饗應

あるじまうけ (名) 饗應ノ設ケヲナスコト。

あるは (接) 或 あるひはニ同ジ。

あるひは (接) 或 〔或謂ハノ約〕 是レカ、彼レカト、二ツ物事ニワタリテイフ語。又ハ。「月―花」

あるひは (副) 或 〔前條ノ語ノ轉〕 若シハ。何トカセバ。(漢籍讀ニ)「―アラム」「―然ラム」

アルヘイ (名) あるへいたうニ同ジ。

アルヘイたう (名) 有平糖 〔佛語、アルヘイトム(砂糖ニ起ルトモイヘド詳ナラズ)〕 砂糖ヲ煮テ、煉リテ、餳ノ如クシタルモノ、種種ノ形ニ作ル。アルヘイル。アルヘイ。氷絲糖 窩絲糖

アルヘイル (名) あるへいたうニ同ジ。

あれ (名) 荒 雨風ノ荒ルルコト。アラシ。風雨

〔あれ〕 (代) 我ニ同ジ。「妹ト、我トいるさノ山」

あれ (代) 彼ニ同ジ。

あれた (名) 荒田 打チ捨テテ耕サヌ田。廢田

あれち (名) 荒地 田畠ニモ宅地ニモセズシテ、打チ捨テテアル地。荒蕪

あれの (名) 荒野 荒レタル野。

あれはつ（ツル・ツレ・テ・テ・テヨ） (自動)(規・二) 荒果 全ク荒ル。

〔あれます（ス・セ・サ・シ・セ）〕 (自動)(規・一) 生坐 生ルノ敬語。

あれゆく（ク・ケ・カ・キ・ケ） (自動)(規・一) 荒行 荒レナガラニ年月ヲ經。

あれる (動) 荒ルノ訛。

あれわたる（ル・レ・ラ・リ・レ） (自動)(規・一) 荒亙 廣ク荒レテ見ユ。

〔あろじ〕 (名) 主 あるじニ同ジ。

あわ (名) 泡沫 (一)水中ニ空氣ヲ含ミテ、圓ク脹レアガリタルモノ。アブク。(二)硝子ノ中ノ虛。氣眼 (三)口ノ邊ニ噴ク唾。(怒レル時ナドニ) ○―ヲ食フ。周章ツ。(東京部語) ○―ヲ吹ク。不意ヲ打タレテ怒ル。

あわただし（シキ・シケレ・シク・シク） (形・二) 周章 周章テタル狀ニテアリ。惶忽

あわつ（ツル・ツレ・テ・テ・テヨ） (自動)(規・二) 周章 俄ニ驚キテ戲ビサワグ。ウロタヘサワグ。狼狽

あわてる (動) あわつノ訛。

あわふきむし (名) 沫吹蟲 小キ蟲、山茶ナドノ枝葉ノ間ニ生ジテ、唾ノ沫ノ如キモノヲ出シテ、其中ニ棲ム。ツバキムシ。

あわもり (名) 泡盛 〔盃ニ注ク時、泡立チテ盛リアガルヨリイフト〕 燒酎ノ一種、上品ナルモノ、琉球ノ名産ナリ、上白米ニテ釀シ、瓶ニ密封シテ、歷轉シテ、

數年ニシテ成ル。

あわもり-さう (名) 泡盛草 升麻ノ類、苗、葉、短ク、葉ハ深綠ニシテ光ル、春夏ノ間、白キ花ヲ開ク。

あわ-ゆき (名) 泡雪 (一)春ナドノ雪ノ泡ノ如キモノ。(二)梨ノ子ノ一種、味、最モ美ナルモノノ稱、白ク柔クシテ、水氣多ク、雪ヲ嚙ムガ如シ。

あわゆき-どうふ (名) 泡雪豆腐 製、常ノ豆腐ノ如クニシテ、終ニ、布ニ包ミ壓ヲオクコトヲセズシテ、柔カク服レテ、泡雪ノ如キモノ。

あゐ (名) 藍 (一)草ノ名、春、種ヲ下ス、葉ハ蓼ニ似テ大ク、深綠ニシテ、互生ス、苗、高サ一二尺、枝多ク、夏、枝ノ梢毎ニ、穗ヲナシテ花ヲ開ク、蓼ノ花ニ似タリ。一名、タデアヰ。アヰタデ。(二)染料ノ名、夏、藍ノ葉ヲ刈リテ、切リコナシ、乾シテ黑クヌレルヲ、家ノ内ニテ、數日ノ間、屢、水ヲ注キテ、筵ヲ覆ヒテ返ス、コレヲすくも製トイフ、又臼ニテ、水ヲ和シテ、搗キテ塊トスルヲ藍玉トイフ、染料、繪具、藥用トス。 藍澱 (三)藍ニテ染メタル色、靑ノ甚ダ濃キモノ。 藍色

あゐ-がみ (名) 藍紙 つゆくさノ一種大ナルモノノ花ノ汁ニテ染メタル紙、其草ハ、冬、種ヲ下シ、春ノ末ニ、移シ植エ、夏、花ヲ開ク、其花瓣ノ汁ヲ搾リテ染ム、繪ノ具トス、近江ノ栗太郡山田村ノ產ナリ。ウツシバナ。ゴンガミ。アヲガミ。

あゐ-がめ (名) 藍瓶 藍ヲ浴シタル水ヲ貯フル瓶、染屋ニ用ヰル。アヰツボ。 藍缸

あゐ-けねずみ (名) 藍氣鼠 染色ノ名、ねずみいろニ、藍ノ色ヲ帶ビタルモノ。

あゐ-ざめ (名) 藍鮫 鮫ノ屬、皮ヲ刀劍ノ鞘ニ卷キ用ヰル、伊豆駿河ニ產ズ、大小二種アリ。 靑沙魚

あゐ-ずみ (名) 藍墨 あをずみニ同ジ。

あゐ-たけ (名) 藍茸 (一)蕈ノ藍色ナル菌、上野ノ山中ニ生ズ。(二)をつだけノ一名。(備前、備中)

あゐ-たで (名) 藍蓼 (一)あゐニ同ジ。(二)又、蓼ノ一種、葉圓クシテ、藍ニ似タルモノ。

あゐ-だま (名) 藍玉 藍ノ葉ヲ搗キテ團トシタルモノ。(藍ノ條ヲ見ヨ) 藍澱

あゐ-つぼ (名) 藍壺 あゐがめニ同ジ。

あゐ-ねずみ (名) 藍鼠 染色ノ名、どんぶやうノ濃キモノ。

あゐ-はな (名) 藍花 つゆくさニ同ジ。

あゐ-みるちや (名) 藍海松茶 染色ノ名、綠ノ濃クシテ黑ミアルモノ。 油綠

あゐ-らふ (名) 藍蠟 藍瓶ノ上ノ泡ヲ取リテ乾シタルモノ、繪ノ具トス。 靛花 今、多クハ、故キ藍染ノ布ヲ染メテ煮テ取ル。

あを (名) 靑 (一)七色ノ一、晴レタル日ノ空ノ如キ色。(二)靑、綠等ノ泛稱。「―葉」「―草」(三)馬ノ毛色ノ名。(あをうまノ條ヲ見ヨ) (四)未熟ナルコト。未ダ成長セザルコト。「―侍」「―女房」

〔あを (名) 襖 〔字ノ音あうノ古キ假名遣〕 (一)袍ノ、兩腋、明キタルモノ、袖ハ、括リ寄スベク作ル。(二)襖子。

あを-あかざ (名) 靑藜 あかざノ條ヲ見ヨ。

あを-あづき (名) 靑小豆 やへなりニ同ジ。

あを-あを-と (副) 靑靑 遍ク靑ク。スベテ綠ニ。

あを-うきくさ (名) 靑浮草 うきくさノ一種、葉小ク、楕圓ニシテ、みづはこべノ如ク、面モ背モ綠ナリ。 靑萍

〔あを-うなばら (名) 靑海原 海原ヲ蒼蒼ト見ユルニツキテイフ語。アヲウミ。 滄溟

あを-うま (名) 靑馬 (一)馬ノ毛色ノ、白クシテ微ニ靑ミアルモノト云。 白馬 (二)(あをうまのせちゑノ略。) (三)常ニハ、毛ノ黑クシテ靑ミアル馬。 鐵驄馬

あをうま-の-せちゑ (名) 白馬節會 陰曆正月七日、左右ノ馬寮ヨリ、あをうま二十一疋ヲ、庭中ニ引キワタスヲ、天皇御覽ゼラレテ、(陽氣ヲ助クトゾ)後ニアル節會ノ稱。

あを-うみ (名) 靑海 海ヲ其色ノ蒼キニツキテイフ語。アヲウナバラ。 蒼海

あを-うめ (名) 靑梅 梅ノ實ノ生ニシテ靑キモノ。

あを-うり (名) 靑瓜 (一)まくはうりノ、皮ノ靑クシテ光リアルモノ、まくはうりヨリ後レテ出ヅ。モミウリ。 田鷄瓜 (二)又、まるづけうりノ一名。

あをえ-しもさか (名) 靑江下坂 備中ヨリ鍛ヘ出ス刀劍ノ稱、鳥羽帝ノ頃ノ人、安次ヲ祖トス。

〔あを-かづら (名) 靑葛 つづらふぢニ同ジ。

あを-かはづ (名) あをがへるニ同ジ。

あを-がひ (名) 靑貝 (一)螺鈿。(二)蚫ノ殼ヲ用ヰテ、螺鈿ノ如ク製スルモノ、色白クシテ紫綠ヲ帶ブ。

あを-がへる (名) 靑蛙 かへるノ一種、綠色ニシテ、水ノ中ニ棲ミ、喧シク鳴クモノ。アヲカハヅ。

あを-がみ (名) 靑紙 おんがみニ同ジ。

あを-き (名) 靑木 常葉木、大ナルハ丈餘ニ至ル、幹ハ靑綠ニシテ、葉ノ長サ、三五寸アリ、粗キ鋸齒アリテ對生ス、夏ノ初、細小ナル暗紫ノ花ヲ開ク、實ノ形、珠ノ如シ、冬、熟シテ紅ナリ。 桃葉珊瑚

あを-ぎなこ (名) 靑黃粉 黃粉ニ靑粉ヲ交ヘテ、色ヲ綠ニシタルモノ。

あを-ぎり (名) 靑桐 桐ノ一種、樹、直ニ聳エ、多ク枝ヲ分ツ、皮、靑綠ニシテ、葉ハ三尖ナリ、夏、枝ノ頭ニ、長キ穗ヲ出シ、枝ヲ分チテ、小花集リ開ク、楝ノ花ニ似テ、小錢ノ如ク、五瓣、黃白色ナリ。 梧桐 後ニ、角ノ如キモノヲ生ジテ、内ニ實アリ、圓クシテ大豆ノ如シ。 梧桐子

あを-くさ (名) 靑草 草ノ蒼ク生ヒタルヲイフ語。

あを-くさ-し・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 靑臭 靑草ナドノ如キ臭アリ。 草氣

あを-くび (名) 靑頸 鴨ノ頸ノ羽ノ綠色ナルモノ。 綠頭鴨

あを-げら (名) 鳥ノ名、きつつきノ一種、大サひよどりノ如ク、全身、淡綠ニシテ、頭、頰、尾ハ深紅ニ、背、足、黑シ。

あを-こ (名) 靑粉 (一)あをのりノ粉。(二)おほばがらしノ葉ヲ乾シテ粉トセルモノ、食物ニ綠ノ色ヲツクルニ用ヰル。

あを-ごけ (名) 靑苔 土石樹木ナドニ付キテ生ズル綠ナル苔。

あを-さ (名) (一)海苔ノ類、海中ノ石ニ付キテ生ズ、形、あまのりニ似テ綠ナリ、乾セドモ紫ニ變ラズ、糊リアリ、食用トス。 石蓴 (二)又、かはあをのりノ一名。

あを-さぎ (名) 靑鷺 形、常ノ鷺ヨリ大クシテ、背、淡靑シ、冠毛黑ク長シ、頭上ヨリ頸マデ、長毛白クシテ、淡黑キ斑アリ、腹白ク、翅ノ端黑シ。一名、ミトサギ。 靑鵠

あを-ざし (名) 靑緡 (一)靑苧ノ緡。(二)轉ジテ、スベテ、緡ニ貫ケル錢ヲ人ニ與フル時ニイフ語。靑銅。

あを-さしば (名) 鳥ノ名、形狀、スベテ隼ニ似テ、小クシテ靑色ナルモノ。

あを-さば (名) 靑鯖 鯖トイフニ同ジ。

あを-ざ-む・ムル・ムル・ムレ・メ・メ・メロ (自動)(規・二) 靑ク變ハル。靑ミヲ帶ブ。(顏色ニ)

あを-さんごじゆ (名) 靑珊瑚珠 珊瑚ニ似テ、色、綠ナルモノ。 琅玕

あを-ざむらひ (名) 靑侍 少壯キ未熟ナル侍。

‡あを-ざめる (動) あをざむノ訛。

〔あを-し (名) 襖子 〔襖ノ條ヲ見合ハスベシ〕 袷ノ服ノ名、寒ヲ防グニ用ヰルモノ。又、綿ヲ入レタルモアリ。略シテ、襖。

あを-し・キ・ケレ・ク・ク (形・二) 靑 (一)靑ノ色シタリ。(二)綠ナリ。「草木―」(三)未熟ナリ。

あを-じ (名) 靑鵐ノ略。鳥ノ名、のじこニ似テ、少シ大ナリ、頭、背、黑ク、羽ハ褐綠ニシテ、眉ハ淡黃褐ナリ、腹ハ淡黃ニシテ、翼ハ黑ニ褐綠ヲ帶ブ、尾、觜、黑ク、脛ハ淡赤シ、秋、群リ來リテ、能ク囀ル、捕リテ食スベシ。 靑雀

〔あを-じ (名) 靑瓷ニ同ジ。

あを-じし (名) 靑鹿 かもしかニ同ジ。

あを-じとど (名) 靑鵐 あをじノ條ヲ見ヨ。

あを-ずみ (名) 靑墨 藍蠟ニテ墨ノ形ニ製セルモノ、繪ノ具トス、アヰズミ。

あを-すもも (名) 靑李 (一)李ノ實ノ、未ダ熟セズシテ、食フニ堪ヘザルモノ。(二)又、李ノ一種、實、熟シテモ、皮ノ色靑キモノ。 靑李

〔あを-ずり (名) 靑摺 神事、神樂等ニ用ヰル服ノ名、白キ布ヲ粉張ニシテ、山藍ニテ、草、鳥ナドノ模樣ヲ刻版ニテ摺リ出ス、スリゴロモ。

あを-せきれい (名) 靑鶺鴒 せきれいノ一種、きせきれいニ似テ甚ダ小ク、大サみそさざいノ如キモノ。

あを-そ (名) 靑麻 麻ノ粗皮、繩ナドニ作ル。

あを-ぞら (名) 靑空 天ヲ色ノ靑キニツキテイフ語。 蒼天

あを-た (名) 靑田 苗ノ生ヒタチテ、靑靑トシタル田。

あを-た (名) 籃輿 あんだヲ見ヨ。

‡あを-た (名) 觀場ナド、無代ニテ押入リテ見ル者ノ稱。

あを-だいしやう (名) 靑大將 蛇ノ一種、靑クシテ、

形大ク、長サ三四尺ニ至ル、所在ニ多シ、舉動遲緩ニシテ、人ヲ害セズ、人家ニ入リ、鼠ナド捕リ食フ。 黄頷蛇

あを-たけ (名) 青竹 生竹ノ青キ幹。

あを-だま (名) 青玉 一種ノ人造ノ珠、紺色ニテ淡シ。

あを-ぢ (名) 青地 織物ノ地ノ青キモノ。「一ノ錦」

あを-ぢく (名) 青軸 梅ノ一種、萼、嫩枝、共ニ綠ナルモノ。 綠萼梅

あを-と (名) 青砥 砥ノ一種、あらとトまどトノ間ニ用ヰテ研グモノ、色青シ。 青礪

あを-とかげ (名) 青蜥蜴 とかげノ青ミアリテ、尾、最モ青碧ナルモノ、瘠セテ長サ四五寸許ナリ。

あを-どさ (名) 青土佐 紙ノ名、おんどさヲ見ヨ。

あを-とんぼ (名) 青蜻蜓 とんぼノ一種、色青キモノ。 青蜓

あを-な (名) 青菜 (一)菜蔬ノ總名。 (二)菘。

あを-なし (名) 青梨 梨ノ一種、實ノ皮、青ク、形、稍、長クシテ、早ク熟スルモノ、味好シ。

〔あを-に (名) 青土 いはろくしやうニ同ジ。

あを-にび (名) 青鈍 はなだいろニ青ミアルモノ。

〔あを-に-よし (枕) 青丹吉 平城ノ枕詞。

あをの-く・ク・ク・カ・キ・ケ (自動)(規.一) 仰 あをむく(自動)ニ同ジ。

あをの-く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動)(規.二) 仰 あをむく(他動)ニ同ジ。

あをのけ-さま (副) 仰 アヲムク方ニ仰ギテ。「一ニ倒ル」

あをのけ-よ (副) あをのけさまニ同ジ。

あを-のり (名) 青海苔 海苔ノ一種、海中ニ生ズ、甚ダ細ソクシテ絲ノ如クニテ綠ナリ、食用トス。 海苔菜

あを-ば (名) 青葉 (一)樹木ノ青キ葉。 (二)若葉。 嫩葉 (三)初夏ノ頃、若葉ノ生ヒ茂リテ、青青トシタルヲイフ語。 新綠

あを-はだ (名) 青肌 あをまめニ同ジ。

あを-はた (名) 青畑 あをまめニ同ジ。

あを-ばち (名) 青蜂 おがはちノ一種、長サ一寸許、青黑クシテ、腰細キモノ。

あを-ばと (名) 青鳩 山ニ棲ム、形、どばとノ如クニシテ大ナリ、全身、綠ニシテ黑ミアリ、胸ハ淡黃ニ、腹ハ白ク、共ニ綠ナル斑アリ、脚ハ紅ナリ。 青鵻

〔あを-ばな (名) 青花 (一)つゆくさノ一名。 (二)うつしはなノ一名。

あを-ばな (名) 青洟 兒童ナドノ垂ルル青キ洟汁。

あを-ばへ (名) 青蠅 蠅ノ青黑クシテ大サ四分許アルモノ、聲高シ。 蒼蠅

あを-はんめう (名) 青斑猫 蟲ノ名、形、斑猫ヨリ狹ク小クシテ、長サ六七分許アリ、綠ニシテ金光アリ、腹最モ光ル、舶來スマダラムシ。 芫青

〔あを-ひとくさ (名) 青人草 世ノ人ノ生レ出ツルヲ、草ノ彌益ニ生ヒ茂ルニ譬ヘテイヘル語、民トイフニ同ジ。

タミクサ。 蒼生

あを-まめ (名) 青豆 大豆ノ一種、粒大ク、色淡綠ナルモノ、多クハきなこトス。アヲハダ。アヲバタ。 綠大豆

あを-み (名) 青 吸物、刺身ナドノ點綴ニ用ヰル菜蔬ノ稱。

あをみ-い-づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (自動)(規.二) 青出 青ミテ生ヒ出ヅ。青青ト萌エ出ヅ。(草ナドニ)

あを-みかん (名) 青蜜柑 たちばなノ類、實ノ青キ時ヨリ食スベキモノ、朝鮮ノ種ナリ。 綠橘

あを-みどり (名) 青綠 (一)綠色ノ濃キモノ。 深綠 (二)苔ノ名、溜リ水、又ハ、川ノ淀ナドニ生ズ、綠ニシテ、水ノ面ニ浮フ。アヲミドロ。 水綿

あを-みやうばん (名) 青明礬 ろうはニ同ジ。

あをみ-わた・ル・ル・レ・ラ・リ・レ (自動)(規.一) 青亙 遍ク青ム。(草木ニ)

あを-む・ム・ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規.一) 青 青クナル。(顏色ニ、草木ニ)

あを-むき (名) 仰 アヲムクコト。上ヘ向クコト。

あを-む-く・ク・ク・カ・キ・ケ (自動)(規.一) 仰 (天ヲ向ク意カ) 上ヘ向ク。アフヌク。アフノク。アフムク。アヲノク。

あを-む-く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動)(規.二) 仰 上ヘ向カス。

あを-むけ (名) 仰 アヲムクルコト。上ヘ向カスルコト。アヲノケ。

あを-むし (名) 青蟲 菜ノ葉ニ生ズル小キいもむし、色綠ナリ、後ニ羽化シテ、白蝶トナル。 螟蛉

あをめ-じま (名) 青梅縞 武州多摩郡、青梅ノ邊ニ產スル織物、粗ナル絹絲ヲ經トシ、綿絲ヲ緯トシテ織ル。又、絹絲ニテ織ルヲモイフ。

あをめ-わた (名) 青梅綿 武州、青梅ノ邊ニ產スルもめんわた。

あを-もち (名) 青餅 くさもちニ同ジ。

あを-もの (名) 青物 畑ニ生ズル菜蔬ノ總名。「一市」「一屋」 菜蔬

あを-やぎ (名) 青柳 柳ノ葉ノ茂リテ青キニイフ語。

あを-やま (名) 青山 草木ノ茂リタル山、青葉ノ山。

あを-ゐ (名) 青藺 ふとゐニ同ジ。

あを-ゑ (名) 青繪 呉須ノ條ヲ見ヨ。

い

い 五十音圖、阿行第二ノ假名。(あノ條ヲ見合ハスベシ)

い (名) 膽 動物體中ノ機關ノ一、右ノ脇、肝ノ下ニアリテ、小キ囊ノ如シ、コレヲ膽囊トイフ、中ニ膽汁ヲ貯フ。

〔い (名) 寢 寢入ルコト。「朝一」「熟一」「一モ寢ズ」「一ヲ安ク」

〔い (名) 蛛蜘ノ絲。 蛛網

〔い (名) 馬ノ聲。(いななく、いはゆノい是レナリ) 馬聲

い (名) 意 (一)ココロバセ。「一ニ適フ」「一ニ背ク」 (二)ココロ、ワケ。意味。「文字ニ一無シ」

い (名) 醫 (一)病ヲ愈ヤス術。「一ヲ學ブ」 (二)醫ノ術ヲ行フ人。クスシ。醫師。「一ヲ迎フ」「名一」

い (名) 異 異ナルコト。奇異。「人人コレヲ一ナリトス」「一ナ事」

〔い (數) 五 イツ。イツツ。五。「一十」「一百」

〔い (數) 五十 イソ。五十。「一日」「一鈴」

〔い (感) 呼ビ掛クル聲、よニ同ジ。「百濟王敬福伊」

い (發語) 動詞ナドノ上ニ被ラセテ意ナキ發語。「一行ク」「一坐ス」「一向フ」「一渡ル」「一通フ」「一觸ル」

い-あ-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動)(規.一) 射合 互ニ射ル。「互ニ射合ヒ、切リ合ヒテ」

イイ (數) 一 (字ノ唐音) ヒトツ。イチ。(猜拳ノ語)「一、兩、三」

いい-ぎり (名) 蟲ノ名、秋ノ夜ニ、廚ノ竈ノ邊ナドニ出デテ、棄テタルモノヲ食フ、長サ七分許、首小ク、身大ク、背高ク、頭、尾、低ク、稍、馬ノ體ニ似テ、褐色ニシテ黑斑アリ、雄ハ黑キ翅アリテ、稀ニ鳴ク、雌ハ翅無クシテ鳴カズ、共ニ六七寸ノ鬚アリ。方言、別名、甚ダ多シ。オカマコホロギ。(東京) 竈馬

いう (名) 優 シトヤカナルコト。落着キテ品ノ好キコト。

†いう-いう-かん-かん-と (副) 優優閑閑 急グベキニ、急ガズシテ、氣ヲ長ク。

いう-いう-と (副) 優優 落着キテ急ガズニ。氣ヲ長ク。

いう-いん (名) 誘引 イザナフコト。サソフコト。

いう-えき (名) 有益 事ニ益アルコト。有用。

いう-がく (名) 遊學 遊歷シテ學問スルコト。他國ニ出デテ學ブコト。

いう-き-たい (名) 有機體 化學ノ語、動物植物等、體ニ、死活、生枯ノ機關ヲ具ヘテ生長スルモノノ稱。鑛物ノ如キ生長ノ機關ナキヲ無機體トイヒ、其物ヲ無機物トイフ。

いう-き-ぶつ (名) 有機物 有機體ノ物。

いう-きよ (名) 幽居 世事ヲ避ケテ閑靜ナル地ニ住ムコト。又、其住居。

いう-きよう (名) 遊興 遊ビ興ズルコト。ナグサミ。

いう-く (名) 憂懼 ウレヘ、オソルルコト。

いう-くん (名) 遊君 遊女ニ同ジ。

いう-げ (名) 遊戲 アソビ、タハムルルコト。

いう-げい (名) 遊藝 遊興ニ屬キタル藝能。(謠、舞、ナド)

いう-げん (名) 幽玄 (理之微妙者、爲玄) 趣意ノ深ク遠クシテ、尋常ノ及ビガタク勝レタルコト。

いう-こう (名) 有功 功アルコト。利目アルコト。

いう-し (名) 有志 其事ニ志アルコト。

いう-し (名) 有司 官吏。役人。

いう-し (名) 猶子 (兄弟之子、猶子) 兄、弟、親族、若シクハ、他人ノ子ヲ己ガ子トスルコト。(家督ノ養子ト異ナリ) 義子

いう-じん (名) 友人 トモダチ。

いうじん（名）幽人 閑靜ニ住ヒテ居ル人。
‡いうじん（名）優人 優長ナル人。氣ノ長キ人。
・いうそく（名）有職〔有識ノ誤ニテ、元ハ、ものしりノ意ナリ、いうそくノ條ヲ併セ見ヨ〕故實ノ例式ナド明ラムル學。
いうせい（名）遊星 星ノ一類ノ、太陽ヲ中心トシテ、各、其軌道ヲ行キテ、太陽ノ周ヲメグルモノ、自轉シテ晝夜ヲナシ、公轉シテ年ヲナス、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星ノ八ヲ大ナルモノトシ、其外ニ小キモノ四アリ。別名、行星。惑星。（恆星、衞星、彗星ナドニ別ツ）
いうぜんぞめ（名）友禪染〔又、友仙、友泉、友染トモ書ス、京都、祇園町ノ畫工、梅丸友禪ノ工夫ニ出ヅ〕染模様ノ一法、種種ノ彩色ニテ、人物花鳥等ノ模様ヲ、鮮麗ニ絹帛ニ染メ出ダスモノ。
いうぜんと（副）悠然 落着キテ、氣長ニ。
〔いうそく（名）有識 モノシリ。學者。（有職ノ條ヲ併セ見ヨ）
いうちやう（名）優長 心オチツキテ急カヌコト。氣ノ長キコト。
いうぢよ（名）遊女 客ニ枕席ヲススムルヲ業トスル賤シキ女。アソビ。娼妓
いうに（副）優 (一)シトヤカニ、ミヤビテ。落着キテ品好ク。「容―オハス」(二)巧ニ。妙ニ。（藝ニ）「―妙ナリ」「優ナル琴ノ音」
いうび（名）優美 シトヤカニ美シキコト。ミヤビテ品高キコト。
いうひつ（名）右筆 祐筆 物書ク事ヲ掌ル役人。モノカキ。カキヤク。筆吏
いうびん（名）郵便 國中遠近ノ書狀ノ運送。（專ラ政府ニテ行フニ云フ）
いうほ（名）遊步 アソビテアルクコト。
いうむ（名）有無 アルト無キト。有無。「―相通ズ」
いうめい（名）有名 世ニ名アルコト。名高キコト。
いうめいむじつ（句）有名無實 名ノミアリテ、實ハ無シ。
いうめん（名）宥免 宥メ免スコト。恕
いうよ（名）有餘 餘アルコト。アマリ。餘分。
いうよ（名）猶豫〔猶、獸名、聞人聲豫登木無人乃下〕(一)進退、決セザルコト。タメラフコト。タユタフコト。イサヨフコト。(二)免シテ時日ヲ延バスコト。
いうらく（名）遊樂 アソビ、タノシムコト。佚樂
いうらん（名）遊覽 (一)遊ビニ覽ルコト。(二)物見遊山。
いうり（名）遊里 遊女ノ居ル地。狹邪
いうれい（名）幽靈 (一)死シタル人ノ靈。亡キ魂。(二)又、想像ニ、其靈ノ、形ニ現ハレテ見ユトスルモノ。陰鬼
いうれいだけ（名）幽靈茸 草ノ名、山林陰地ニ生ズ、莖、葉、花、共ニ水白色ニシテ、萌芽ノ如シ、高サ五六寸、鱗ノ如キ葉ヲ着ク、莖ノ上ニ、一花傾キ開ク、形、臘梅ノ花ノ開カザルモノノ如シ。ズヰシヤウラン。野拙
いうれき（名）遊歷 名蹟ヲ尋ネ、風俗ヲ觀ムガ爲ナドニ、國國ヲ歷廻ルコト。
いうれつ（名）優劣 マサルト、オトルト。オトリ、マサリ。「―無シ」
いうれふ（名）遊獵 遊ビニ、獵スルコト。（職業トスルニ對ス）
‡いえる（動）癒ユノ訛。
〔いか（名）五十日 (一)日數、五十。(二)小兒生レテ五十日目ノ祝ヒ、儀式アリ、餅ヲ製ス。
いか（名）烏賊 (一)海產ノ動物。春夏ノ間ニ多シ、身ハ小キ甕ノ如クニシテ、下ニ、短キ八足、聚リ着キ、別ニ二條ノ鬚ノ如キモノアリテ、長サ尺ニ過グ、口ハ體ト足トノ間ニアリテ、眼ハ口ノ上ニアリ、皮ハ、灰色ニシテ斑アリ、肉白シ。體中ニ、黑キ汁ヲ含ミ居テ、觸ルレバ吐ク、いかのくろみ、又、をみトイフ。烏賊墨 又、體中ニ、一枚ノ骨アリ、白ク脆クシテ、形、小舟ノ如シ、いかのかふトイフ。海螵蛸 又、アフリ―、尺八―、スルメ―等アリ、各條ニ注ス。(二)スルメ。(三)いかのぼりノ略。
いか（名）衣架 衣桁ニ同ジ。
いか（名）以下 (一)コレヨリ下。以下。(二)德川氏ノ制ニ、家臣ノ身分ノ、將軍ノ謁見ヲ得ザルモノノ稱。（謁見ヲ得タルヲ以上トイフ）
いが（名）栗ノ實ノ外皮ニ、刺ノ聚リ生ヒタルモノ。毬彙
〔いかいかし・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）甚ダ嚴シ。猛ク強シ。アララシ。

‡いかいこと（副）〔嚴キ事ノ音便〕甚ダ多ク。タクサンニ。
いかう（名）衣桁 脫ギタル衣服ヲ掛ケテ置ク具、二個ノ細ソキ柱ノ上ニ、横木ヲ亙シテ作ル、漆塗ナドトス。ミソカケ。衣架。
〔いかう（副）一向ニ同ジ。ヒタスラ。
いかう（名）異香 尋常ニ異ナル香。「―馥郁タリ」
‡いかう（副）嚴ク、ノ音便。甚シク。キツク。ヒドク。「―タクサンニ」
いかが（副）如何 (一)疑ヒ、又、危ブミ思フ意ヲイフ語。何ト。ドノヤウニ。イカニ。「―アラム」(二)疑ヒ問フ意ヲイフ語。「―思ヘル」
いかがはし・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）如何 如何ニヤ疑ハシ。オボツカナシ。可疑
〔いかき（名）蜘網ヲ結ギタルコト。「蛛ノ―」
いかき（名）竹籠。笊。籭
〔いがき（名）忌垣 みづがきヲ見ヨ。
いかく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動）（規・二）射掛 向ヒテ射ル。放射
〔いかく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動）（規・二）沃懸 注ギカク。「水ヲ―」注
いがく（名）醫學 醫術ノ學。
いがぐり（名）毬栗 栗ノ實ノ毬彙ニ包マレテアルモノ。
いかけ（名）沃懸 いかけぢヲ見ヨ。
いかけ（名）鑄掛 銅器、鐵器ナドノ罅、割ニ、銅、又ハ、まろめナドヲ鎔シ、注ギカケテ塞グコト。錮
いかけし（名）鑄掛師 鑄掛ノ事ヲ生業トスル者。補鍋
いかけぢ（名）沃懸地 漆塗ニ、漆ノ上ニ、金粉ヲ沃懸ケタルモノ、梨子地ノ如シ。イカケ。
‡いかける・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動）（規・四・變）鑄掛ヲナス。
‡いかさま（副）如何樣 實ニ然リト肯フ意ニイフ語。ナニサマ。ナルホド。實ニ尤モ。
‡いかさま（名）〔いかさま然リト思ハスル意〕似セテ眞ヲ欺クコト。（東京俗語）「―ノ品」「―ニハメル」欺罔
いかさまに（副）如何樣 如何ナル樣ニ。ドノヤウニ。「―思フ」「―爲ム」
いかし・キ・ケレ・ク・ク（形・一）嚴 (一)イカメシ。オゴソカナリ。(二)荒シ。猛シ。(三)甚シ。ヒドシ。甚 (四)大ナリ。多シ。タイサウナリ。太
〔いかし・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）嚴 オゴソカナリ。重大ナリ。
いかす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・一）活 (一)生クルヤウニナス。ヨミガヘラス。「氣絕セルヲ藥ニテ―」(二)生キテアラシム。生ケテオク。「魚ヲ生シオク」(三)效アルヤウニ用ヰル。「錢ヲ生シテツカフ」活用
いかだ（名）筏〔浮棚ノ略約カト云〕竹木ノ材ヲ綴ヂ合ハセテ舟ノ如クシ、水ニ流シテ運ブモノ。
いがた（名）鎔〔鑄形ノ義〕金類ノ器ヲ鑄テ造ル具、鑄ベキ器ノ形ヲ空虛ニ作リ、コレニ鎔シタル金類ヲ注キ入レテ鑄ル。
〔いがたうめ（名）伊賀專女〔たうめハ、狐ノ異名ニテ、伊賀伊勢ニテ、專ライフト云〕(一)狐ノ異名。(二)狐ヲ稻荷ノ神ノ使トイフヨリ、狐ヲモ神ト祀レルモノ。「―ノ祭」(三)媒妁。（媒ノ、動モスレバ人ヲ欺クヲ、狐ニ譬ヘテイヘルナリ）(四)轉ジテ、誑ルコト。
いかだし（名）筏師 筏ニ棹サシテ、水ノ上ニ行ルヲ業トスル者。イカダノリ。
いかだのり（名）筏乘 いかだしニ同ジ。
‡いかつし・キ・ケレ・ク・ク（形・一）嚴シク強キ風アリ。（人ノ風采ニ）
いかづち（名）雷〔いかハ嚴ニテ、つハ之ノ義、ちハ尊稱ナリ〕空氣中ニ電氣ヲ發シ、空氣ト相觸レテ發ル烈シキ響。カミナルカミ。カミナリ。ライ。
いかで（副）(一)如何ニシテ。何トシテ。ドウシテ。イカデカ。「―知ルベキ」「―カクハアルベキ」「―及バム」爭 (二)何トカシテ。ドウゾシテ。（願フ意）「―逢ハナム」「―都ヘ告ゲ遣ラム」
いかていに（副）如何體 如何ナル體ニ。イカヤウニ。
いかでか（副）爭 いかでニ同ジ。
‡いかないかな（副）如何ナリヲ重ネ言ヒテ、諾ハヌ意ニ言フ語。イカデ、イカデ。
いかなご（名）〔如何子ノ義ニテ、成長シテ何魚ナルヲ知ラヌ意トイフ〕魚ノ名、形、ひしこニ似テ、長サ三四寸、淡褐色ナリ、春夏ノ際ヲ時トス、脂多シ、煮テ燈油ヲ取ル。畿內ニテ、其煮がらヲ謬リ認メ

テ、かますノ子トシ、かまもおト云フ。

いかなごしやうゆ（名）魚ノいかなごニテ製セル醤油、讃岐ノ産ナリ。

‡いかなれば（句）如何ナル故ニテカ。ドウイフモノデ。（卻ケテ詰ル意）

いかに（副）如何 (一)知ラレヌ事ヲ疑ヒ問フニイフ語。何ト。ドノヤウニ。「―爲ム」「―アラム」(二)推シ量リテ定ムル語。ドレホド。サゾカシ。「―嬉シカラマシ」

‡いかにも（副）如何ニ思ヒテモ。ナニサマ。實ニ。ナルホド。

いかのぼり（名）凧（烏賊幟ノ義、凧ハ風巾ノ合字）玩具ノ名、細キ竹串ヲ骨トシテ、紙ヲ貼ル、己ニ絲ヲツケ、風ニ吹カシメテ空ニ上ス、元ハ、多ク、烏賊ノ形ニ作リテ、數條ノ脚アリ、今ハ、蛸ノ形、鳶ノ形、其他、方圓種種ノ形ニ作リテ、字ヲ記シ、畫ヲカキ、巨大ナルモノヲモ作ル。略シテ、いか。紙鳶 風箏 諸國方言多シ、蛸（關東）凧旗（九州）天旗（奥州）凧（信、越）

いがばかま（名）伊賀袴 半袴ノ裾ヲ、紐ニテ膝ニ括リツケ、下ニ、別ニ脚半ヲ用キルモノ、野服ナリ。一名、タチツケ。

いかばかり（副）如何許 (一)イクバクノホド。ドノクラヰ。「―アラム」幾何 (二)ナニホドカ。ドノヤウニカ。「―言ハム」如何

いがひ（名）貽貝 形、とぶがひノ如クニシテ、一頭ハ狹ク、一頭ハ廣シ、長サ三四寸、外ノ色黒ク、肉ハ紅紫ニシテ、味美ナリ、口ノ邊ニ、黒キ毛アリ、ニタリガヒ。淡菜

いかへす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・一）射返 (一)矢ヲ射掛ケテ、敵ヲ追ヒカヘス。(二)敵ヨリ射タル矢ヲ取リテ、再ビ射テ遣ル。

いかほど（副）如何程 イクバク。イカバカリ。ナニホド。

‡いがみ（名）歪 ゆがみヲ見ヨ。

いがみあひ（名）啀合 (一)互ニ啀ムコト。（獸ニ）(二)‡言ヒ爭フコト。イサカヒ。（人ニ）論爭

いがみあふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動）（規・一）啀合 (一)互ニ啀ム。（獸ニ）(二)‡轉ジテ、言ヒ爭フ。イサカフ。（人ニ）論爭

いがむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動）（規・一）啀 怒リテ咆ユ。噛付カムト向フ。（獸ニ）

‡いがむ（動）歪 ゆがむヲ見ヨ。

いかん（副）如何 いかにノ音便。「―トス」

いかんぞ（副）如何（いかにぞノ音便）何トシテ。如何ナレバトテ。（漢籍讀ニ）

いかんとならば（接）如何ニト答フナラバ。

いかめし・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）嚴 嚴キ狀ナリ。オゴソカナリ。威儀、嚴重ナリ。

いがもち（名）毬餅 あんもニ餡ヲ包ミテ、外ニ、糯米ヲ付ケテ蒸シタルモノ、飯粒、毬栗ノ如シ。

‡いかもの（名）如何ハシキ物。マガヒモノ。ニセモノ。偽物

‡いかものぐひ（名）嚴物食 能毒ヲ擇バズ、妄ニ物ヲ食フコト。異嗜

いかものづくり（名）嚴物作 嚴メシキ製作。「―ノ太刀」

いかやうに（副）如何樣 如何ナル樣ニ。ドノヤウニ。

いからかす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・一）いからすニ同ジ。

〔いからし・キ・ケレ・ク・ク（形・一）嚴 嚴キ狀ナリ。勢、强シ。嚴シ。

いからす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・一）怒 (一)怒ルヤウニナス。(二)角ダタス。ソビヤカス。イカラカス。「肩ヲ―」「鼻ヲ―」○眼ヲ―。睨ム。

‡いがらつぽし（形）ゑがらつぽしノ轉、ゑぐしノ訛。

いかり（名）碇〔石掛ノ略カト云〕船ヲ一處ニ泊メム爲ニ、綱ニ付ケ、水底ニ沈メ置キテ、鎭トスルモノ、古クハ、石ヲ用ヰタリ。碇 後ニハ、鐵ニテ作ル、端、四ツニ裂ケテ、上ニ曲ル、大小種種ナリ。錨 又、西洋製ナルハ、形モ異ニシテ、巨大ナルアリ。

いかり（名）怒 怒ルコト。ハラダチ。立腹。

いかりさう（名）碇草 常綠ノ草、山谷ニ生ズ、一根ヨリ數莖ヲ生ズ、細ソクシテ硬ク、高サ尺ニ及ブ、莖每ニ三枝アリ、枝每ニ三葉アリ、葉ハ卵形ニテ細鋸齒アリ、夏、莖上ニ數花ヲ連ネテ、倒ニ垂ル、四瓣ニシテ淡紫ナリ、內ニ長キ蕊アリ、瓣ニ沿ヒテ四出シ、端、上ニ曲ガリテ、碇ノ如シ。又、白花、淡黃花モアリ。淫羊藿

いかりづな（名）碇綱 碇ニツクル綱、藁、麻ニテ作リ、或ハ、鎖ヲモ用キル。

いかりなは（名）碇繩 いかりづなニ同ジ。

いかる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・一）怒 (一)意ニ逆フコトニ堪ヘズシテ、氣烈シク起ツ。ハラダツ。オコル。立腹ス。(二)角ダツ。聳ユ。「イカル手」「イカレル磯」「肩、―」「鼻、―」稜起

‡いかる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・一）〔生けらるノ約〕水ニ挿サレテアリ。「花ガ瓶ニ―」

〔いかるが（名）斑鳩 鳥ノ名、まめまはしニ同ジ。

いき（名）息〔生ノ義カ〕動物ノ、鼻口ヨリ、肺ヘ、空氣ヲ出入セシムルコト。ソノ出入セシムルヲ、―をつくトイフ。呼吸。氣息 ○―ヲ切ル。喘グ。○―切ル。喘グ。又、死ヌ。○―絶ユ。死ヌ。○―ヲ繼グ。息フ。

いき（名）生 生クルコト。生キテアルコト。「―死」「長―」

いき（名）行 行クコト。行クコト。

いき（名）意氣 (一)ココロバセ。ココロダテ。氣象。(二)‡氣象ノミヤビタルコト。風采ノサッパリトシタルコト。洒洒

いき（名）異儀 (一)物ノカハリタル姿。(二)常ニ異ナリタル事。「―無シ」異狀

いぎ（名）意義 ココロ。コトワケ。意味。

いぎ（名）異議 他ニ異ナリタル議論。「―ヲ唱フ」「―無シ」

いきあひきやうだい（名）ゆきあひきやうだいニ同ジ。

いきあふ（動）行合 ゆきあふニ同ジ。

いきいきと（副）生生 生キタル如キ狀ニテ。勢ヒ盛ンニ。活動

いきいづ・ツル・ツレ・デ・デ・デヨ（自動）（規・二）〔息、出ヅノ義カ、生キ出ヅカ〕ヨミガヘル。イキカヘル。蘇生

〔いきうす・スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動）（規・三）行失 行方無クナル。行キ去ル。

いきうつし（名）生寫 (一)生キナガラノ姿ヲ見ツツ、寫シ取ルコト。活像 寫生 (二)生キタル貌ノ、眞物ト紛フバカリニ妙ナルコト。

いきうめ（名）生埋 人ヲ、生キナガラニ、地ニ埋メテ殺ス刑。

〔いきかくる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動）（規・二）行隱 去リテ、行方知ラレズナル。

‡いきがけ（名）行掛 ゆきがけニ同ジ。

いきかへる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・一）生返 再ビ生クヨミガヘル。イキイヅ。蘇生

いきぎも（名）生肝 生キナガラニ、肝ヲ切取ルコト。

いきぎれ（名）息切 息ノ急シクテ苦シキコト。アヘグコト。喘

いきくさ（名）生草 べんけいさうニ同ジ。

いきごみ（名）息込 イキゴムコト。競ヒ。盛氣

いきごむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動）（規・一）息込 勢ヒヲナス。競フ。イキセイハル。盛氣

いきざし（名）息差 (一)息スル狀。イキヅカヒ。「―ハゲシク」氣調 (二)イキゴミ。氣象。

いきしに（名）生死 生クルト、死ヌルト。

いきす（名）海髮 海藻ノ名、長サ一尺許、甚ダ細ソクシテ、枝アリテ亂髮ノ如シ、色青ク、乾ケバ紫黑トナル、水ニ洗ヒ晒セバ白クナルヲ、ところてんヲ製スル如クニシテ、食用トス。仙草

‡いきすぎる・ギル・ギレ・ギ・ギ・ギヨ（自動）（規・四）行過 (一)ゆきすぐノ訛。(二)分ヲ超エテフルマフ。

いきすだま（名）生靈 生靈ニ同ジ。

‡いきせいはる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・一）息勢張 氣力ノアル限リヲ出ス。烈シク競フ。イキゴム。盛氣

いきせき（副）息急 息ヲ急キテ。烈シク急ギテ。喘氣

いきたつ（動）行立 ゆきたつニ同ジ。

〔いぎたなし・キ・ケレ・ク・ク（形・一）〔寢ノきたなしノ義〕目覺ムルコト難シ。ネバウナリ。貪眠

いきだはし・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）息急 息、急シ。息切ルル狀ナリ。喘

いきち（名）生血 動物ノ生キナガラノ血。「人ノ―ヲ取ル」「鶏ノ―ヲ吸フ」

‡いきぢ（名）意氣地 人ト競ヒテ退カヌコト。イキハリ。抗氣

いきちがふ（動）行違 ゆきちがふニ同ジ。

〔いきちる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動）（規・一）行散 分レ分レニナリテ去ル。

いきづかひ（名）息遣 息ヲツク狀。イキザシ。「―セハシ」氣調

いきつぎ（名）息繼 切ルルバカリノ息ヲ繼グコト。急シク働キタル後ニ休ムコト。休息。

いきつ・く（タ・ケ・カ・キ・ケ）（自動）（規・二）【行着】（一）ゆきつくニ同ジ。（二）‡轉ジテ、盡キ果ツ。「身代ガー」破産 （三）‡死ヌ。
〔いきつ・く（タ・ケ・カ・キ・ケ）（自動）（規・二）【息衝】長ク太ク息ヲ衝ク。太息
〔いきつ・む（ム・メ・マ・ミ・メ）（自動）（規・二）【息詰】息、腹ニ張リ詰マル。氣塞
‡いきつ・む（ム・メ・マ・ミ・メ）（自動）（規・二）【行詰】行キツマル。狹ク窮シ。
いきづゑ（名）【息杖】擔ヒタル物ニ、杖ヲ支ヒテ、暫シ息繼スルコト。
いきどころ（名）【行所】行クベキ處。
いきとしいけるもの（名）世ニ生キテアル程ノモノ。アラユル生物。
いきどほり（名）イキドホルコト。
いきどほ・る（ル・レ・ラ・リ・レ）（自動）（規・二）〔息、滯ル意カ〕（一）歎キ憂フ。心平ナラズ。懊惱 （二）恨ミ怒ル。心ニハラダツ。憤
〔いきどほろ・し（シキ・シケレ・シク・シク）（形・二）心、不平ニシテ憂フル狀ナリ。
〔いきとま・る（ル・レ・ラ・リ・レ）（自動）（規・二）【生止】生キテ世ニ留マル。イキノコル。生存
いきとまる（動）【行止】ゆきとまるニ同ジ。
‡いきなり（副）【行成】事ノ成リ行クママニ。程ヲハカラズニソノママスグニ。（東京俗言）唐突
‡いきにへ（名）【牲】いけにへノ訛。

いきにんぎやう（名）【生人形】生寫ニ作レル人形。
いきのした（名）【息下】息ノ絶エムトスル際ニ、聲ノカスカナルコト。「―ニ、オロオロ言ハレケル」
いきのね（名）【息根】息ノ元。イノチ。「―ヲ止ム」
いきのを（名）【息緒】息ノツヅキ。タマノヲ。イノチ。
いきはり（名）意氣地ヲ張ルコト。
いきはりづく（名）意氣地ヲ張リ盡クシテ競フコト。
いきは・る（ル・レ・ラ・リ・レ）（自動）（規・二）【息張】息ヲ腹中ニ張ル。イキム。
〔いきぶれ（名）【行觸】穢物ニ行合ヒテ觸レタルヲ穢レトスル稱。後世、ふみあはせトイフニ同ジ。
いきボトケ（名）【生佛】生キテ現世ニアル佛ノ意ニテ、高徳ノ僧ノ稱。活佛
いきほひ（名）【勢】（一）イキホフコト。競フ力。「勝タムトスルー」（二）他ニ勝ツ力。威光。威力。「政府ノー」「多人數ノー」勢力 （三）發ラムトスル氣。「火ノー」
〔いきほ・ふ（フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ）（自動）（規・二）【勢】〔息競フノ約〕氣、盛ニ發ル。キホフ。
いきま・く（ク・ケ・カ・キ・ケ）（自動）（規・二）【息卷】急キテ、息差アララカニナル。嘆氣
いきみ（名）イキムコト。
いきみたま（名）【生御魂】陰暦七月ニ、生者ヲ饗スル式ノ名。又、盂蘭盆會ニ、兒女ヨリ、生ケル父母、尊長ヲ饗應スルコト。
いき・む（ム・メ・マ・ミ・メ）（自動）（規・二）〔息ヲハタラカス〕息ヲ腹ノ中ニ張ル。イキバル。（通氣、産氣ニ）裏急

いきもの（名）【生物】生キテ居ル物。命アル物。動物。氣形
いぎやう（名）【異形】常ニ異ナル形。怪シキ姿。「―異體」
いきりやう（名）【生靈】生キタル人ノタマシヒノ他ニ祟ルコト。イキスダマ。（死靈ニ對ス）
〔いき・る（ル・レ・ラ・リ・レ）（自動）（規・二）【熱】熱クナル。「耳―」
‡いきる（動）生ク（規・三）ノ訛。
‡いき・れる（レル・レレ・レ・レ・レヨ）（自動）（規・四・變）空氣、蒸スガ如ク熱クナル。熱蒸
いきわか・る（ル・ルレ・レ・レ・レヨ）（自動）（規・二）【生別】生キナガラニ、遠キニ別ル。（死別ルニ對ス）
いきわかる（動）【行別】ゆきわかるニ同ジ。
いきわかれ（名）【生別】イキワカルルコト。
いきわたる（動）ゆきわたるニ同ジ。
い・く（ク・ケ・カ・キ・ケ）（自他）（規・二）【行】ゆくニ同ジ。
〔い・く（ク・ケ・カ・キ・ケ）（自動）（規・二）【生】次條ノ語ニ同ジ。
い・く（クル・クレ・キ・キ・キヨ）（自動）（規・三）【生】〔規・一ノ轉〕（一）息アリテ世ニアリ。死ナズシテ居ル。（二）ヨミガヘル。イキカヘル。蘇
い・く（クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ）（他動）（規・三）【生】生キテアラシム。生カス。活
い・く（クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ）（他動）（規・三）〔生ケ置ク意〕（一）瓶ノ水ニ挿ス（草木ノ枝ヲ）插 （二）轉ジテ、埋メ置ク。「炭火ヲ灰ノ中ニ―」埋 （三）植エ立ツ。「柱ヲ地ニ―」「植木ヲ鉢ニ―」植

いく（接頭）【幾】（一）物ノ數、又、程ノ知ラレヌ意ヲイフ接頭語。イクバクノ。ナニホドノ。「―度」「―夜」「―日」 （二）數數ノ。多クノ。「―年モ過ギテ」
いくか（名）【幾日】（一）イクバクノ日數。（二）多クノ日數。「―モ歷テ」
〔いく・む（ム・メ・マ・ミ・メ）（自動）（規・二）〔息、含ムノ意カ〕怒リヲ含ム。怒リヲ胸ニコメオク。憤
いくさ（名）【軍】（一）兵卒。軍勢。「―ヲ出ダス」「―ヲ召ス」兵 （二）兵ト兵トノ爭ヒ。タタカヒ。合戰。戰爭。「―ヲス」「―ヲ起ス」戰鬪
いくさがみ（名）【軍神】軍ノ勝利ヲ祈ラムガ爲ニ祀ル神、兵家ニテ北斗星ヲ祀ル、其第七ニ、破軍星アリテ、劍ヲ圖スレバナリ。
いくさだち（名）【軍立】軍ニ出デ立ツコト。出師
いくさならし（名）【軍馴】調練ニ同ジ。操練
いくさにん（名）【軍人】いくさびとニ同ジ。
いくさびと（名）【軍人】軍スル人ツハモノ。イクサデ。
いくさぶね（名）【軍船】軍ニ用キル船。兵艦
いくさぼし（名）【軍星】北斗星ノ一稱。（いくさがみノ條ヲ併セ見ヨ）
〔いくさよばひ（名）【軍喚】鬨ニ同ジ。
〔いくし（名）【齋串】玉、幣ナド懸クル榊、小竹ナドノ稱。
いくせ（名）【幾瀬】（一）幾何ノ瀨。（二）轉ジテ、幾何。
いくそ（副）〔幾十ノ義〕いくばくニ同ジ。「―ノ春」「―ノ人」
いくそばく（副）〔幾十許ノ轉〕いくばくニ同ジ。
いくたり（名）【幾人】（一）イクバクノ人。（二）多クノ人。「―モ來ル」
‡いくぢ（名）〔意氣地ノ轉カ〕氣ノ張リ。（下ニ、必ズ、反説ノ語ヲ用ヰル）「―無シ」氣力
いぐち（名）【兎缺】上脣ノ中ノ缺ケタル不具ノ名。ミツクチ。
いくつ（名）【幾箇】（一）イクバクノ數。（二）又、多クノ數。「―モアリ」
いくどうおん（句）【異口同音】口ハ異ナレドモ、音ハ同ジ。數人ノ論、和同ジ。「―ニ歌フ」「―ニ答フ」
いくばく（副）【幾何】〔幾計ノ轉〕數ノ確ト知ラレヌニイフ語。イクラバカリ。ナニホド。ドレホド。○―モ無ク。程無ク。永ク時ヲ隔テズシテ。無幾
〔いくはどころ（名）〔射處ノ轉カ〕射垜ニ同ジ。
いくひ（名）【幾日】いくかニ同ジ。
いぐひ（名）魚ノ名、うぐひニ同ジ。
いくひさ・し（シキ・シケレ・シク・シク）（形・二）【幾久】幾世久シ。永ク變ラズ。
〔いくひのたるひ（名）【生日足日】祝詞ニ、祭日ヲ美メテイフ語、命長ク、萬ニ事足リテ生クル日ノ意。
〔いく・ふ（フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ）（他動）（規・二）射ル。射込ム。
いくへ（名）【幾重】（一）イクバクノ重リ。（二）多クノ重リ。

〔いく・む（ム・メ・マ・ミ・メ）（他動）（規・二）【射組】互ニ射ル。射交ス。
いくよ（名）【幾夜】（一）イクバクノ夜。（二）多クノ夜。
いくよ（名）【幾世】（一）イクバクノ世。（二）多クノ世。
いくら（副）【幾等】いくばくニ同ジ。
いくる（動）いく（規・二、又ハ規・三）ヲ見ヨ。
いぐわい（名）【意外】オモヒノホカ。
いくわん（名）【衣冠】（一）衣ト冠ト。（二）冠ト袍トニ、指貫ヲ着クコト、下襲モ、裾モ、石帶モ、無クシテ、腰帶ナリ。
いけ（名）【池】人ノ掘リ作リテ水ヲ湛フル處。湖ノ小キモノ。（田ノ用水、庭ノ粧飾ナドニ）
いげ（名）【以下】ソレヨリ下。以下。
いけうを（名）生ケテ置キテ、不時ノ用ニ供フル魚。
いけがき（名）【生垣】樹ヲ植列ネテ垣トシタルモノ。立樹ノ垣。籬
いけす（名）【籞】〔生ケ簀ノ義〕水ノ中ニ、竹籬ヲ結ヒ、食用トスベキ魚ヲ、生ケテ畜ヒ置ク所。
いけずみ（名）【埋炭】櫟ノ炭ヲ、灰ニ埋ケ置キテ、久シク保タシムル故ノ稱。櫟炭
いけだずみ（名）【池田炭】櫟ノ炭、攝州一庫村（河邊郡）山中ニテ燒キテ、池田村（豐島郡）ヨリ四方ヘ出ス。一名、イチクラズミ。櫟炭
いけづくり（名）【生作】料理ノ法、鯉鮒ナドヲ、生ケナガラニ肉ヲ切リタルヲ、膳ニ供フルモノ。
いけどり（名）【生捕】（一）イケドルコト。生擒 （二）イケ

ドリタル人。トリコ。俘囚

いけ-どる・ル・レ・ク・リ・レ（他動）（規・一）生捕 生ケナガラニ搦メ捕ル。「人ヲ—」「熊ヲ—」生擒

いけ-にへ（名）牲〔生贄ノ義〕獸ヲ、生ケナガラニ、贄トシテ、神ニ供フルモノ。

〔いけ-はぎ（名）生剝 獸ナド、生ケナガラニ皮ヲ剝グコト。

いけ-はな（名）生花 草木ノ花枝ヲ瓶ニ挿シ、水ニテ生ケ置キテ飾トスル技、立花ノ技ヨリ派レタルモノニテ、枝ヲ種種ノ態度ニ揉メ作ル。挿花

いげふ（名）醫業 醫ノ生業。

〔いけ-ぶくろ（名）生袋 鷹ノ餌袋ノ、雀ナド、生ケナガラ入レ置クニ用ヰルモノ。

いけ-ぶね（名）生舟 水槽又ハ舟ヲ、鯗ノ用トスルモノ。

いけ-ま（名）生馬〔馬ノ病ニ效アレバイフトゾ〕蔓草ノ名、春、宿根ヨリ蔓ヲ生ズ、綠ニシテ紫ヲ帶ブ、葉ハががいもニ似テ、濶ク圓ク、毛無クシテ、對生ス、夏ノ末、葉ノ間ニ、細ソキ莖ヲ生ジ、小キ花集リ開ク、五瓣ニシテ白シ、花、實、共ニががいもノ如シ、根ハやまのいもニ似タリ、藥トス、馬醫專ラコレヲ用ヰル。牛皮消

〔いけ-みぐさ（名）池見草 蓮ノ異名。

い-けん（名）意見（一）心ニ思フ所。ゾンジヨリ。ミコミ。（二）轉ジテ、意見ヲ告ゲテ、諫メ警ムルコト。（多クハ下輩ニ就キテイフ、常ニ、誤リテ、異見ノ字ヲ書ス）

い-けん（名）異見（一）人ニ異ナル意見。異存。（二）告ゲ警ムルコト。（意見ノ條ヲ見ヨ）

‡いける（動）いく（規・二）ノ訛。

‡い-ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動）（規・四・變）〔行キ得ルノ約〕（一）行クコトヲ得。行カル。得行（二）成ルコトヲ得。行ハル。（成ク、ノ條ヲ見合スベシ）得成

い-ご（名）以後 コレヨリ後。

‡いごき（名）動 うごきノ訛。

い-こく（名）異國 我國ト異ナル國。外國

‡いごく（動）動 うごくノ訛。

い-こく-じん（名）異國人 異國ノ人。外國ノ人。

い-こく-せん（名）異國船 異國ノ船。外國ノ船。

い-こく-ばり（名）異國張 故衣ヲ洗張シテ、新ナルガ如クスル一種ノ工。

〔いこ-の・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動）（規・一）罵ル。

いこ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動）（規・一）息憩 息ヲ繼ガムト休ム。休息ス。

〔いこ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動）（規・二）息 息フヤウニナス。息ハシム。

い-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動）（規・一）射込 射テ入ル。

〔いこよか-に（副）丈高ク。岐嶷

いさ（副）如何ナラムカ。ドウデヤラ。（下ニ必ズ「知ラズ」ト承ク）「人ハ—心モ知ラズ」「—我レ知ラズ」女、甚ジク恥カシク、「—」ト應フ」外ハ—、訪ヒ來ル人モ跡絶エテ」

いざ（感）誘フ時、又ハ、心ノ進ム時ニ發スル聲。イデ。サア。ドリヤ。（常ニ他語ノ首ニ用ヰル）「—諸共ニ若菜摘ミテム」「—立寄リテ見テ行カム」

いさ-がに（名）あしはらがにニ同ジ。

いさかひ（名）諍 イサカフコト。イヒアヒ。口論。

い-さか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動）（規・一）諍〔言逆フノ約〕言語ニテ爭フ。口論ス。イヒアフ。

いさき（名）魚ノ名、夏ヨリ秋ノ間、最モ多シ、形、せいごニ似テ、身圓ク、色ハ灰黑ニシテ赤ミアリ、腹ノ上ニ、黃ナル一條アリ、脂多ク、味好シ。オクセイゴ。（奧州）鷄魚

い-さき（名）〔五尖ノ義ニテ、葉ノ形ニイフカト云〕樹ノ名、あなぎりノ一種、子ヲ結ブコトモ同ジ、葉モ似テ薄ク、背光ル、子ヲ炒リテ食フベク、又、皮ニテ綱ヲ作ルベシ、對馬ニ多シ。一名、イツサキ。ツシマギリ。

いさぎよ・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）潔〔いさハ瀰ノ轉カ、或ハ發語カ〕（一）甚ダ清シ。（二）汚レ無シ。鄙劣ノ念ナシ。潔白ナリ。（心ニ）廉潔（三）ワルビレズ。「潔キ討死」

いさご（名）砂〔石子ノ轉カ、或ハ石砂子ノ約カ〕すなご、又ハすなニ同ジ。

いさご-むし（名）砂蟲 蟲ノ名、流水ノ石ノ上ニ生ズ、背ニ小キ砂ヲ綴リ負ヒテ、石ニ着ク、形、蠶ニ似テ小ク、長サ五六分ニシテ、淡黃ナリ、漁人取リテ釣ノ餌トス、後ニ羽化ス。一名、セムシ。石蠶 又、一種、長サ一寸許ニシテ、背黑キアリ、かねつけとんぼニ羽化ス。

〔いさゝ（接頭）細小 イササカナル。ワヅカナル。「—小川」

いさゞ（名）〔細小ノ義〕（一）魚ノ名、攝州兵庫、又、駿州笠ニ產ズ、冬、淡水ニ生ジ、春夏ノ際ニ採ル、長サ一寸許、白クシテ黑ミアリ、目睛黑ク、體、粘リテこおやうノ如シ、乾シテざらをほしトス。一名、トロメン。シラス。鱊魚（二）又、近江ノ滋賀郡ノ湖邊ニ產ズル魚ノ名、長サ一寸許、頭圓クシテ、はぜニ似タリ。（三）又、越前、足羽川ニ產ズル魚、はぜニ似テ一寸許アリ、炎天ニ捕ル、鮨ニ作リテいさざずしトイフ。

い-さゝか（副）〔いハ發語ニテ、さゝかハ細小ノ意〕（一）僅ニ。スコシバカリ。些少（二）苟且ニ。チヨツト。「—復爾耳」（淡齋說ニ）聊

〔いさゝけ・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）細小ナリ。少シバカリナリ。

いざ-させ-たまへ（句）誘ハレサセ給ヘ。イザ、俱ニ行キタマヘ。

〔いさゝめ-に（副）〔少間ニノ轉カ〕假初ニ。「—時待ツ間ニテ日ハ歷ヌル」

いざ-さらば（感）人ヲ誘ヒ、或ハ、自ラ思立テル時ナドニイフ感動詞。

〔いざ-たまへ（句）いざさせたまへニ同ジ。

〔いさ・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チロ（自動）（規・三）足搔シテ泣ク。啼泣 哭

〔い-さと・し・キ・ケレ・ク・ク（形・二）寢聰 眠リ覺メ易シ。メザトシ。

いざ-とよ（句）〔不知トイフヨ、ノ義ニモアラムカ〕否否、夫レニモ仔細アルヨ、ナドイフ意ノ辭。

〔いさ-な（名）勇魚 鯨ヲ美メテイヘル古言。

〔いさな-とり（枕）勇魚取 海、濱、灘等ノ枕詞。

いさな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動）（規・一）誘 率ヰテ行カムトスモヨホシタツ。サソフ。導ク。

いさ-は（名）草木ノ葉ノ綠ナルニ、常ニ變ハリテ、白キ或ハ黃ナル綠、條、點ナドアルモノノ稱。斑入。

いさ-ば（名）五十集〔磯邊ノ轉トイフ〕乾魚、鹽魚ナド商フ生業ノ稱。醃魚肆

〔いさ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動）（規・一）叱〔諫ムト通ズト云〕叱ル。「尊客之前、不叱犬」

いさほし（名）功 いさをノ誤。

いさま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）勇 勇ム狀ニテアリ。勢ヒ強シ。雄雄シ。

いさみ（名）勇（一）勇ムコト。イキホヒ。（二）‡市人ノ氣慨ヲ衒フ者。市虎

‡いさみ-はだ（名）市虎ノ風采。

いさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動）（規・一）勇 氣、張リテ、進ミ向フ。心ニ勢ヒ起ル。

いさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動）（規・二）諫 禁止ム。他ノ非ヲ諭ゲテ戒メ改メシム。諫言ス。異見ヲ加フ。

いさめ（名）諫 イサムルコト。禁ムルコト。諫言。異見。

〔い-さめ（名）寢覺 ねざめニ同ジ。

‡いさめる（動）諫ムノ訛。

〔いさよひ（名）猶豫 イサヨフコト。タメラフコト。「君ヤ來ム、我ヤ行カムノ—ニ」

いさよひ（名）（一）いさよひのつきノ略。（二）轉ジテ、陰曆、十六日ノ稱。既望（三）又、十六日ノ夜ノ稱。

いさよひ-ざくら（名）櫻ノ一種、伊豫ノ道後ノ產、陰曆正月ノ十六日ノ頃ニ開ケバ名トストイフ。

いさよひ-の-つき（名）十六夜月〔日暮ヨリ、少シ後レ猶豫ヒテ出ヅル月ノ義〕陰曆、十六日ノ夜ノ月ノ稱。略シテ、イサヨヒ。既望月

〔いさよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動）（規・一）猶豫 滯リ進マズ。漂ヒ休ラフ。タユタフ。「—雲」「—浪」イサヨヒ昇ル山ノ端ノ月」

〔いさら（接頭）少シノ。イササカナル。「—水」「—波」

〔いさら-ゐ（名）水ノ些少アル井。

いさり（名）漁 イサルコト。スナドリ。「—スル海人」

いさり-び（名）漁火 漁ニ用ヰル炬火。

いさり-ぶね（名）漁舟 漁リスル舟。獵船。

いさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動）（規・一）漁〔磯探ルノ約略〕魚介ヲ採ル。スナドル。アサル。獵ヲス。

いさ-を（名）功〔勇雄ノ義〕事ヲ遂ゲテ、善ク成リタルコト。テガラ。功。ゴウミヤウ。

いさをし（名）功 いさをノ誤。

〔いさを・し・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）〔功ヲハタラカス〕（一）勉メテアリ。イソシ。出精ナリ。ホネヲヲル。セイヲダス。勤勉（二）世ニ功アリ。

いし（名）石（一）堅キ鑛物ノ名、人ノ善ク知ル所ナリ、通俗ニハ、磐ヨリ小ク、砂ヨリ大ナルモノヲモ稱ス、

垣、橋、礎等、建築ノ用、極メテ多シ。(二)碁石。

い-し (名) 醫師 醫ヲ業トスル人。クスシ。醫者。

〔い-し (名) 倚子 椅子ニ同ジ。

〔い-し・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 美 (一)美シ。好マシク美ムベシ。美事ナリ。(二)旨シ。味、好シ。(三)巧ナリ。上手ナリ。(四)ケナゲナリ。神妙ナリ。「イシクモ馳セ參リタリ」

い-し (名) 異事 常ニ異ナリタル事柄。「ー無之」

いし-あやめ (名) 石菖蒲 せきしやうヲ見ヨ。

いし-いし (名) 〔石石ノ義、堅キニイフ〕 團子ノ異名。(女房詞)

いし-いも (名) 石芋 芋ノ一種、苗、さといもニ似テ、光澤多シ、暖國ニ自生ス、食フベカラズ、クハズイモ。マンヂユウイモ。野芋

〔いしう (形) 美シク、ノ音便、美シ、ノ條ヲ見ヨ。

いし-うす (名) 石臼 石ニテ造レルすりうす。碓

いし-うち (名) 石打 (一)小石ヲ打チ合フ鬪。石戰 (二)いしうちのはねノ略。「ーノ征矢」

いしうち-のそや (名) 石打征矢 石打ノ羽ニテ矧ギタル征矢、大將軍ノ用トス。

いしうち-のはね (名) 石打羽 鷲ノ尾ノ羽ノ左右ノ端ヨリ第一第二ニ當ルモノ、美シク打ツ意ニ取リテ、矢ニ矧ギテ賞ス。中黑、木白、切斑等ノ名アリ。

いしうち-のやなぐひ (名) 石打胡簶 石打ノ征矢ヲ盛ル胡簶。

いし-がき (名) 石垣 邪、堤、岸ナドノ側面ヲ、土ノ崩ルルヲ防ガム爲ニ、切石ナドニテ積ミアゲタルモノ。石壁

いし-がけ (名) 石崖 いしがきニ同ジ。

いしがけ-しぼり (名) 石崖絞 六角ナル形ヲ縱横ニ並ベタル狀ノ地紋ノ絞、切石ノ石崖ノ合目ニ象リテイフ。

いし-がに (名) 石蟹 やまがにニ同ジ。

いし-かは (名) 石川 底ニ石ノ多クアル川。

〔いし-がへし (名) いしゆがへしノ訛。(東京)

いし-がめ (名) 石龜 かめノ條ヲ見ヨ。

いし-がれひ (名) 石鰈 かれひノ一種、表ノ黑キ方ニ鱗無クシテ、鰭ノ兩邊ニ、黑クシテ扁キ砂石ノ如キモノ、並ビテ着ケリ、大ナルハ尺餘アリ、味、殊ニ美ナリ。

いし-ぎく (名) 石菊 (一)舶來シテ、藥用トスル石ノ如キモノ、細ソクシテ、長サ一二寸、三、五、叢生スルモアリ、末尖リテ、形、木賊ノ如クニテ輕ク、內、空シクシテ菊花ノ文アリ。鵝管石 (二)又、くさびらいしノ類、海中ノ石ニ生ズ、形、菊花ニ似タリ。

いし-きり (名) 石切 (一)山ヨリ石ヲ切リ出ス工。采石工 (二)石ヲ刻ミテ、建築シ、又諸器ニ造ル工。石工

いしきり-のみ (名) 石切鑿 石工ノ用ヰル鑿、太ク短クシテ、木固ク末尖ル。石鑿

いし-く (名) 石工 (一)石工。(二)石工ノ手間賃。

〔いし-く (形) 美シノ條ヲ見ヨ。

いし-ぐら (名) 石倉 石ニテ造リタル倉。

いし-ぐるま (名) 石車 大石ヲ載セテ運ブ車、低クシテ小ク厚キ輪、四ツヲ着ク。

いし-くれ (名) 石塊 石ノ小キモノ。小石。

いし-けん (名) 石拳 拳ノ戲ノ一種、拳ヲ石ニ、開キタルヲ紙ニ、二指ヲ鋏ニ象リ、鋏ハ紙ヲ斷チ、紙ハ石ヲ包ミ、石ハ鋏ニ勝ツトシ、二人、互ニ手ヲ出シテ、勝負ヲ決スルモノ。東京ニ、ジヤンケン。

いし-こ (名) 石粉 燧石ノ類ノ石ヲ碎キテ粉トセルモノ、鎔シテびいどろヲ造ル。

いし-こ (名) 石子 大小ノ石ノ積ミ重ナリタル稱。

いし-こつぱ (名) 〔石ノ木端ノ意〕 石ヲ刻ミテ出デタル屑。

いしこ-づめ (名) 石子詰 中世ニ、邊土ニアリシ刑、人ヲ生キナガラ、大小ノ石ニテ埋メ殺スコト。

〔いし-こひ (名) 石鯉 鯪鯉ニ同ジ。(穿山甲ノ條ヲ見ヨ)

いし-ころ (名) 〔石轉カ、石塊ノ轉カ〕 いしくれニ同ジ。礫

いし-ざか (名) 石坂 切石ニテ段ヲ疊ミ作レル坂。イシダン。磴

〔いし-ずみ (名) 石炭 せきたんニ同ジ。

いし-ずり (名) 石摺 石碑ノ文字ヲ、墨ニテ、紙ニ摺リ取レルモノ、字、白ク、地、黑クナル。又、書畫ヲ木ニ刻ミテ、同ジ狀ニ摺リ取レルヲモイフ。搨書

いし-ずゑ (名) 礎 〔石据ノ義〕 (一)家ノ柱ノ下ニ据ヱ置ク石。ドダイイシ。(二)大事ヲ任セテ賴ミアル人。「國ノー」 柱石

いし-たたき (名) 石敲 鳥ノ名、せきれいニ同ジ。

いし-だたみ (名) 石疊 (一)〔石段・石坂。 石階 (二)地上ニ、方ニシテ平ナル石ヲ敷キ並ベタル所。シキイシ。甃 (三)地紋ノ名、方ナル形ヲ縱横ニ並ベテ、其上下、左右、一ツツ隔テテ、黑白ノ色ナド、入レチガヘタル形ヲ出ダスアリ。碁花

いし-だひ (名) 石鯛 (一)魚ノ名、形、黑鯛ニ似テ、肥エテ大キシ、口ハ闊ク、鱗ハ背黑クシテ、背ヨリ腹ニ亘リテ、竪ニ黑キ大條、數アリ、大ナルモノハ三尺ニ至ル。一名、クロクチ。(二)又、魚ノ名、たひのむおげんはちノ別名。

いし-だん (名) 石段 切石ニテ作レル階。石階

いし-ぢ (名) 石地 (一)石多キ土地。磽确 (二)漆塗ノ名、灰色ニシテ光リナキモノ。

いし-づき (名) 石突 (一)鏢。(二)戈、槍、長刀、ナドノ本ヲ包ム金具、尖レルアリ、鐏 平ナルアリ。鐓

いし-づき (名) 〔石付ノ義カ〕 竹ノ根ノ、土中ニテ朽チ腐レタルモノ、藥用トス。鬼齒

いし-づくり (名) 石作 (一)石ヲ製工ルコト。(二)石ニテ造リタルコト。(木造ナドニ對ス)「ーノ家」 石造

いし-どうろう (名) 石燈籠 石ニテ造レル燈籠、笠、脚、臺アリ、社堂ノ前ニ据ヱテ燈火ヲ點ジ、又、庭ニ置キテ飾トス。石鐙

いし-なぎ (名) 魚ノ名、いしもちト同種ニシテ、大サ五六尺ニ至ル、味、美ナラズシテ、小毒アリ。

いし-なご (名) 石投子 兒女ノ戲、小キ石ヲ、若干、撒キテ、一ヲ空ニ投ゲ上ゲ、ソノ落チヌ間ニ、下ノ石ヲサラヒ取リテ、落ツルモノト、合セテツカムコト。イシナドリ。

いし-なだんご (名) 石投團子 はつたいいしノ小キモノ。(讚岐)

いし-などり (名) 石投取 いしなごニ同ジ。

〔いしの-あぶら (名) 石油 くさうづのあぶらニ同ジ。

いしの-おび (名) 石帶 せきたいヲ見ヨ。

〔いしの-ち (名) 石乳 つららいしニ同ジ。

いしの-ちち (名) 前條ノ語ニ同ジ。

いし-のみ (名) 石鑿 いしきりのみニ同ジ。

いし-ばし (名) 石橋 石ニテ亘セル橋。

いし-はじき (名) 石彈 (一)古ノ兵器、大木ヲ建テ、石ヲ其上ニ置キ、機ニテ敵ヘ投ゲヤルモノ。旂 (二)若干ノ小石ヲ撒キ、指ノ先ニテ、互ニ彈キ當テテ取ル戲レ。彈碁 或ハきさごノ殼ヲ用ヰルヲきさごはじきト云フ。

いし-はなび (名) 石花火 灌木ノ名、いそまつニ同ジ。

いし-ばひ (名) 石灰 (一)石灰石ヲ燒キテ灰粉トシタルモノ、建築等種種ノ用ヲナス、其石ヲ燒キタルママナルハ、倘、塊ヲ成ス、コレヲあらばひトイフ、三十日許ヲ歷レバ、自ラ解ケテ、粉トナル、コレヲふけはひトイフ。風化石灰 又、あらばひヲ溫メ置キテ、水ヲ注ゲバ、即時ニ解ケテ、粉トナル。水化石灰 (二)又、かきがらばひノ稱。(其條ヲ見ヨ)

いしばひ-いし (名) 石灰石 礦物、灰色ニシテ青ミアリ、黃白色ナルハ次ナリ、燒キテ石灰トス。

いしばひ-のだん (名) 石灰壇 淸涼殿ノ庇ノ南ニアリテ、石灰ニテ堅メ築ケル壇、諸朝儀ニ用ヰル。

いし-はら (名) 石原 小石多クアル平地。

いし-ばりだひ (名) 石針鯛 魚ノ名、鰭、尾ニ堅ク銳キ刺アリ、鱗、亦堅ク、赤クシテ紅ナル點アリ。エビスダヒ。

いし-びや (名) 石火矢 中世ニ用ヰタル大砲ノ名、初ハ、丸ニ石ヲ用ヰ、後ニハ、鐵、鉛ヲ用ヰタリ。佛郎機

いし-ぶし (名) 石伏 魚ノ名、形、はぜニ似テ、三四寸許、肥大ナリ、頭大ク、口闊クシテ扁ク、鱗細カシ、色、淡黃黑ニシテ黑斑アリ、淸流ノ石間ニ居ル、腹ニ圓キ鰭アリテ、石ニ吸ヒツキテ、水上ニ浮バズ。一名、ゴリ。カハカジカ。イシモチ。杜父魚

いし-ぶみ (名) 碑 〔石文ノ義〕 事ヲ後ノ世マデ傳ヘム爲ニ、其記事ヲ石ニ刻付ケテ、立テ置クモノ。

いし-ぼたん (名) 石牡丹 くさびらいしノ類、其形、牡丹ノ花ニ似タリ。石芝ノ一種

いし-ボトケ (名) 石佛 石ニテ刻ミ作レル佛像。

〔いし-ま (名) 器ニゆがみアルコト。窳

〔いし-み (名) 器ノ名、ふごニ同ジ。

いしみ-かは (名) 〔河內國ノ石見川村ノ產ヲ佳トス〕

一年生ノ蔓草、葉ハ、三尖ニシテ互生シ、莖ト共ニ刺アリ、花ハ、蕎麥ニ似テ紅白ナリ、實ハ圓クシテ、紅、紫、白、黒、綠、碧、相雜ル。 杠板歸

〔いしむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規・二) ゆがむニ同ジ。(器ナドニ) 歪

い-しん (名) 異心 フタゴコロ。野心。

い-じん (名) 異人 (一)尋常ニ異ナリタル人。(二)仙人。(三)異國ノ人。外國人

い-しん-でん-しん (句) 以心傳心 心ヲ以テ心ニ傳フ。師、心機ニテ傳ヘ、弟子、心機ニテ會得ス。(禪家ノ語ヨリ出デ、藝術ノ奧義ナドニ、言語手段ニテ傳ヘ難キニイフ)

いしめ (名) 石目 彫刻ノ法ニ、物ノ面ニ、極メテ細カキ點ヲ隙無ク付クルコト。

いしもち (名) 石持 (一)魚ノ名、海ニ産ズ、形、略、鯽ニ似テ、狹ク長シ、色淡白ク、鰭長ク、鱗細カク、頭短ク小クシテ、尾ニ岐ナシ、肉脆ク、脂少ク、味美ナリ、頭ノ中ニ、白ク硬キ小石、二ツアリ、故ニ名ヅク。 石首魚 又、一種、くちトイフモノハ、長サ七八寸ニシテ、味、稍劣ル、此魚、成長シテにべトナルト云フ。(二)又、魚ノ名、(いしぶしノ一名。(畿內)

いしや (名) 石屋 (一)いしきりニ同ジ。 石工 (二)切石、庭石ナドヲ賣ル商家。

い-しや (名) 醫者 醫師。クスシ。

い-しやう (名) 衣裳 (一)衣ト裳ト。コロモ。キモノ。衣服。(二)俗ニ、俳優ノ技ヲ行フトキニ用ヰル衣服。(東京) 扮裝

い-しやう (名) 異稱 異ナル稱。別ニアル名。異名。別名。

い-じやう (名) 以上 (一)コレヨリ上。(二)箇條アル文書、又ハ目錄ナドノ末ニ記シテ、終尾トイフ意ヲ標スル語。後ニ、書狀ノ文ヲ結ブ語トモナル。(三)德川氏ノ制ニ、將軍ノ謁見ヲ得タル家臣ノ稱。(以下ニ對ス)

いしやき (名) 石燒 やきものノ條ヲ見ヨ。

いしやき-どうふ (名) 石燒豆腐 (一)料理ニ、鐵鍋ニ油ヲ塗リテ、豆腐ヲ燒キタルモノ。(元ハ石ニテ燒キタルナリ) (二)又、燒豆腐ヲ吸物ニシタルモノ。

い-しや-だふし (名) 〔醫者倒ノ義〕 亞灌木、葉ハ、萩ニ似テ、厚ク大ク、冬凋マズ、節毎ニ根ヲ生ズ、夏ノ初、莖ノ頭ニ、二三寸ノ穗ヲ出シテ、白キ花ヲ開ク、槐ノ花ニ似タリ、實ノ形、蓮ノ實ノ如シ、根ヲ藥用トス、センブリ。 山豆根

いしやま (名) 石山 (一)石ノ重ナリタル山。石多キ山。(二)石ヲ切リ出ス山。

い-しゆ (名) 意趣 (一)心ノオモムキ。ココロバセ。(二)心ニ恨ム意趣アル意ヨリ轉ジテ、他ヲ恨ミ思フコト。遺恨。「一ヲ返ヘス」 積憤

い-しゆ-がへし (名) 意趣返 怨ヲ報ユルコト。 復讎

い-じゆつ (名) 醫術 醫ノ術。醫者ノ技。

いしゆみ (名) 石弓 機アリテ石ヲ敵ニ投ゲヤル兵器。

い-しよ (名) 醫書 醫術ノ事ヲ記シタル書。

い-しよく (名) 衣食 衣服ト食物ト。

い-しらま・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規・二) 射白 矢ヲ射テ敵ノ勢ヲ挫ク。(兵家ノ語)

いしわた (名) 石綿 (一)輝石、角閃石、蛇紋石、ナドイフモノノ纖維狀トナリテ、多少、屈曲シ得ベキモノノ稱、蛇紋石、滑石ノ中ニ現出ス、白クシテ綿ノ如シ、武藏、信濃、上野、越後等ニ産ズ、取テリ火浣布ニ製スベシト云フ。 石絨 (二)又、木ノ化石ノ名、堅クシテ白ク、木理アリテ、剝ガレヤスシ、龍骨ト僞ルコトアリ。一名、ジヤコツ。(三)又、石ノ名、蠟石ニ似テ柔ク、淡綠ニシテ黒キ斑アリ。 冷滑石

いしわり (名) 石割 ひくひどりノ一名。

いしわり-がひ (名) 石割貝 介ノ名、海邊ノ岩石ノ穴ニ生ズ、石ヲ割リテ取ル、形、略、貽貝ニ似テ長ク、色淡シ。

いす (名) 柞 樹ノ名、ゆすヲ見ヨ。

イ-ス (名) 椅子 〔字ノ宋音、倚子ノ轉、禪家ノ語〕 腰ヲカクル具、背ニ倚カカリアルモノ、方ナルアリ、圓キアリ。今、又、形狀種種ナリ。

いすか (名) 鶍 鳥ノ名、大サ、らそノ如ク、羽色ニ因リテ、あか一、あを一ノ二種アリ、嘴、青クシテ、クヒチガヒテ又ヲナス、然レドモ、能ク荏子、稗子ナド拾ヒ食フ、秋ノ末群リ來ル。 交啄

〇一ノ觜。事ノクヒチガフコト。 齟齬

〔いすゝ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動)(規・二) 驚キ騷グ。周章ツ。

倉皇

廿いすぶる (動) ゆすぶるノ訛。

廿いすり (名) イスルコト。

廿いす・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動)(規・二) 非理ノ言掛リヲナシテ、人ヲ苦メテ錢物ヲ取ル。(東京)

いせえび (名) 伊勢蝦 〔畿內ノ稱、伊勢ヨリ來レバ名トス〕 海蝦ノ味最モ美ナルモノ、單ニえびトノミモイフ、形、大クシテ一二尺ニ至ル、兩眼、紫黒ニシテ高ク突出デ、口ニ四ツノ堅キ鬚アリ、其二ツハ、長サ、身ニ同ジ。全身紫黒ニシテ光リ、鬚根、頭殼、粗クシテ刺多シ、頭邊ニ毛アリ、尾ノ端、花瓣ノ如シ、煮レバ、全身深紅トナル、腰曲ルガ故ニ常ニ海老ノ字ヲ書シテ、新年等ノ祝事ニ用ヰル。一名、カマクラエビ。(關東) 龍蝦

いせおしろい (名) 〔往時、伊勢ノ飯野郡射和村ニ、土産ノ水銀アリテ製セシガ、上品ナリキ、故ニ名トセリ、今ハ産セズ、京ヨリ送リテ製ス〕 はらやニ同ジ。 鉛粉

いせおんど (名) 伊勢音頭 伊勢ノ古市ニテ歌フ俗謠ノ稱。(古市ノ近地、川崎ニ起ル、本名、川崎音頭)

いせごひ (名) 伊勢鯉 〔京畿ノ稱、伊勢ヨリ送レバイフ〕 形、ぼらニ似テ、頭、扁ク、身狹ク長ク、大ナルハ三尺餘アリ、口、眼、赤ク、背ハ、はらヨリ青ク、味極メテ甘ク旨シ、伊勢、志摩ニテ、多ク子ヲからすみトス。別名、メナダ。アカメ。(關東)シクチ。シクチボラ。シユクチ。クチメ。(西國) 赤目魚

い-せつ (名) 異說 他ニ異ナル說。「一ヲ立ツ」

いせ-ばうふう (名) 伊勢防風 はまばうふうニ同ジ。

い-ぜん (名) 以前 (一)コレヨリ前。(二)昔。 往時

い-ぜん (名) 依然 故ノママナルコト。

い-ぜん-げん (名) 已然言 語學ノ語、篇首ノ語法指南、動詞ノ條ノ語尾變化ノ表ヲ見ヨ。

い・せる・セル・セレ・セ・セ・セロ (他動)(規・四・變) 布帛ヲ縮マシメテ縫ヒ合ハス。寄セテ縫フ。

いせ-わかめ (名) 伊勢ヨリ産スル若布ノ稱、最上品ナリトス。

いそ (名) 磯 〔石添ノ意ニモアルカ〕 (一)湖海等ノ波打際ニ石アル處。(二)泛ク、湖海ノ邊ノ稱。(三)冠ノ名所。(かんむりノ條ヲ見ヨ)

い-そ (數) 五十 十ヲ五倍ニセル數。五十。

いそ-いり (名) 磯煎 鯛ニ芹ヲ加ヘタル吸物。

いそ-いそ-がに (名) 〔磯磯ノ意カ、匆匆ノ意カ〕 豆蟹ニ同ジ。

いそ-いそ-と (副) 心ノ急キ進ム狀ニイフ語。

いそ-がき (名) 磯蠣 牡蠣ノ一種、形小キモノ。一名、コガキ。 梅花蠣

いそが・し・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 閙 事繁クシテ閑ナシ。セハシ。 繁劇

いそが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動)(規・一) 急 急グヤウニナス。急キ促ス。 促

いそが-は・し・シキ・シケレ・シク・シク (形・二) 忙 イソガシキ狀ニテアリ。

いそ-がひ (名) 磯貝 (一)泛ク、磯邊ニアル介ノ殼ノ稱。(二)又、すずめがひノ一名。

いそぎ (名) 急 (一)イソグコト。早ムルコト。(二)用意。支度。「我ハ花見ル一ヲゾスル」

いそぎ-あし (名) 急足 急キテ步クコト。ハヤアシ。 疾步

い-そく (名) 夷則 (一)十二律ノ一、其條ヲ見ヨ。(二)陰曆七月ノ異稱。

いそ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動)(規・一) 急 事ヲ早クセムトス。急ク。「急ギ行ク」

いそ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動)(規・一) 急 急キテナス。促ス。「仕事ヲ一」

いそ-ざんせう (名) 磯山椒 小キ灌木ノ名、暖地ノ海邊ニ産ズ、葉ハ山椒ニ似テ小ク、冬凋マズ、夏、五瓣ノ白花ヲ開ク、梅花ニ似タリ、實小ク圓シ、ハマザンセウ。 小石積

〔いそ・し・シキ・シケレ・シタ・シク (形・二) 〔勇ノ轉カ、いさをしノ約カ〕 能ク勤ムル狀ナリ。 勤

〔いそし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動)(規・二) (一)勤ム。ホネヲル。(二)功アリトス。 勤勞

いそ-ぢ (名) 磯路 磯邊ノ路。

い-そぢ (數) 五十 〔五十箇ノ轉〕 (一)五ノ十倍。五十。(二)五十年。

いそ-つぐみ (名) 鳥ノ名、南方ノ海邊ニ棲ム、ひよどりニ似テ、肥エテ大ク、尾モ長シ、頭、背、胸等、青黒ク、

腹ハ赤黒クシテ、白キ點アリテ、美シ、聲低シ。イソロヨドリ。イハツグミ。

いそな（名）磯菜　磯ニ生フル草ノ、採リテ食用トスベキモノノ汎稱。

いそね（名）磯根　磯トイフニ同ジ。

〔いそね（名）磯寐　磯邊ニ宿リテ寐ルコト。

〔いそのかみ（枕）石上　〔石上、布留、共ニ大和ノ地名ナルヲ重ネテ言フ〕布留（地名）ノ枕詞。轉ジテ、降ル、振ル、舊キ等ノ語ニモ用ヰル。

〔いそはく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動）（規・二）いそしむニ同ジ。

いそひよどり（名）磯鵯　いそつぐみニ同ジ。

いそふぐ（名）あほさいふぐニ同ジ。

いそべ（名）磯邊　磯ノ邊。

〔いそまくら（名）磯枕　磯邊ニ旅寐シテ、岩根ヲ枕ニスルコト。

いそまつ（名）磯松　（一）磯邊ニ生ヒタル松。（二）小キ灌木ノ名、伊豆ノ海邊ニ生ズ、幹ハわさびノ根ノ如ク、細葉、枝ノ上ニ簇リ着ク、葉ノ間ヨリ莖ヲ出シテ、細花簇リ開ク、五瓣ニシテ、紅又黄ナリ。イシハナビ。

いそまめ（名）磯豆　蔓草ノ名、宿根ヨリ生ズ、暖地ノ海邊ニアリ、形、なたまめニ似テ小シ、莢ノ長サ二寸餘、豆ハ扁クシテ赭黒ナリ、毒アリ。一名、ハマタママメ。

いぞん（名）異存　他ニ異ナル考ヘ。異見

いそむし（名）磯蟲　鯛、さよりナドノ口中ニ往往含メル蟲、形、ふなむしニ似タリ。

いそんず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動）（不規・三）射損　射テ外ル。

〔いそめく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動）（規・二）急ク狀ニテアリ。イソイソトス。

いそめばる（名）磯眼張　（一）魚ノ名、もいをニ同ジ。（西國）（二）又、あゆなめノ一名。

〔いそもの（名）磯物　海藻ノ稱。

〔いそや（名）磯屋　磯邊ノ漁人ナドノ住家。

いそやき（名）磯燒　餅菓子ノ名、うどんのこニ淡キ醬油ヲ和シタルモノヲ、銅版ノ上ニテ薄ク燒キ作リテ、あづきノ餡ヲ包メルモノ。

いそれんげ（名）磯蓮華　草ノ名、暖國ニ産ズ、葉厚クシテ、きりんかくノ葉ノ如シ。

いそわし（名）磯鷲　鷲ノ一種、形小ク、海邊ニ棲ムモノ。

いた（名）板　（一）材ヲ薄ク平ニ挽キ割リタルモノ。（二）轉ジテ、金石ナドスベテ薄ク平ニシタルモノ。「銅ー」「ー金」版（三）古ヘ、織物ノ稱。（いたのものノ條ヲ見ヨ）「厚ー」「薄ー」「羅ー」

いたいけ（名）〔傷イ氣ノ意〕小兒ノイタハシキ狀ナルコト。「ーザカリ」

いたいたぐさ（名）痛痛草　いらくさニ同ジ。

いたいたし・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）傷傷　甚ダ傷ハシ。

いたう（副）甚　いたくノ音便、ハナハダシク。「雨、イタウ降リケレバ」

いだう（名）醫道　醫術ノ道、醫者ノ學。

いたがき（名）板垣　板ニテ作レル垣。板屏。板障

いたがこひ（名）板圍　假リニ作レル板屏。

いたがす（名）板糟　酒糟ヲ板ノ如クニシタルモノ。

いたがね（名）板金　金類ヲ鎔シテ、槽ニ入レ、板ノ如クシタルモノノ總稱、通用金銀ナドニモイフ。鈑錠

〔いだかふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動）（規・二）抱キカカフ。抱持

いたきれ（名）板切　板ヲ挽キテ用ヰタル殘片。

いたく（副）甚　〔甚シノ副詞法〕ハナハダシク。キツク。イタウ。「年、ー老イヌ」

いだく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動）（規・一）抱　（一）兩腕ニテ圍ミ持ツ。抱フ。ダク。「子ヲー」（二）圍ミテ内ニス。「山、海ヲー」擁（三）心ニ思ヒ籠メテアリ。「恨ヲー」「志ヲー」懷

いたぐら（名）板倉　板ヲ壁トシテ造レル倉。（土藏ニ對ス）

〔いたけし・キ・ケレ・ク・ク（形・二）甚シ、ニ同ジ。

いたご（名）板子　小舟ノ中ノ床ニ用ヰル板。

いたごし（名）板輿　腰輿ニテ、儀式ヲ正ス時ニ用ヰルモノ、前ニ簾ヲ掛ケ、他ノ三面ハ板ニテ張リ、屋ノ四方ニ棟ヲ立ツ。別名、木輿。棟立。四方輿。

いたこんがう（名）草履ノ裏ニ、厚キ板ヲ着ケタルモノ。イタツケザウリ。

いたし・キ・ケレ・ク・ク（形・二）痛　（一）痛ミニ感ズ、身ニ艱ミヲ起ス。痛シ。（二）事ニ感ジテ思ヒ苦シ。「秋トイヘハ心ゾイタキ」傷心（三）哀レト思フ。不便ニ感ズ。イタハシ。慇殺

いたし・キ・ケレ・ク・ク（形・二）甚　〔痛シノ轉〕（一）ハナハダシ。キツシ。「年イタク老イタリ」夜モ最イタウ深ケヌ」痛甚（二）轉ジテ、甚ダ善シ。「古ヘノコト、知リ給ヘルコソ、イタキ事ナレ」

〔いだしうちき（名）出袿　うちきノ條ヲ見ヨ。

いたしかゆし（句）痛痒　搔ケバ痛シ、搔カネバ痒シ。（利ト害ト兩様ニ互リテ如何ハセムノ意）

いたじき（名）板敷　床ノ、疊無クシテ、板ノミ敷キタル處。地板

いたじとみ（名）板蔀　板ニテ造レル蔀。

いたじめ（名）板締　染模様ノ一法、模様ノ部ニ、板ヲ當テ締メ置キテ、地ヲ色ニ染メ、模様ヲ白ク出スモノ。

いたす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・一）致　（一）到ルヤウニナス。トドカス。及ボス。（二）爲ス。爲行フ。爲

いだす・ス・セ・サ・シ・セ（他動）（規・一）出　（一）内ヨリ外ヘ遣ル。外ニス。（二）隱レタルヲ現ハス。「見ー」「開ー」

いただき（名）頂　（一）頂ク處。頭ノ上。天窓。（二）轉ジテ、山ノ上。頂上。嶺（三）スベテ、物ノ最モ上ナル處。（四）いただきもちノ略。

いただきもち（名）戴餅　糕ヲ圓ク扁クシ、中ヲ凹メテ、あづきノ餡ヲ戴カシメタルモノ、灌佛會ニ供フ。

〔いただきもちひ（名）戴餅　古ヘ、元日ニ、小兒ノ頭ニ戴カスル餅、祝事ナリ。

いただく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動）（規・一）頂　（一）頭ノ上ニ載ス。「冠ヲー」戴（二）尊ビ崇ム。敬ヒ仕フ。奉戴（三）頂キテ受ク、賜ハル。賜

いただたみ（名）板疊　板ヲ心トシテ作レル疊。

いたち（名）鼬　獸ノ名、形、鼠ニ似テ甚ダ大ク、身長ク、頭短ク、口ノ邊黒ク、尾大ナリ、毛、赭色ニシテ黒ミアリ、其身、甚ダ柔軟ニシテ、能ク狹キ隙ヲ穿チテ入ル、堂社、取屋ナドニ棲ミ、夜出デテ、鷄、鼠ナド捕フ、多クハ肉ヲ食ハズ、血ヲノミ吸フ、人ニ襲ハルレバ惡シキ臭ヲ放ツ。

いたちうを（名）鼬魚　頭扁ク、身圓クシテ、尾ニ岐ナク、鱗細カクシテ光リ、油色ニシテ鼬ノ毛色ニ似タリ、味、鯔ニ似テ、臭氣アリ、大サ八九寸ニ至ル。別名、アブラメ。ナマダラ。

〔いたちぐさ（名）連翹ニ同ジ。

＋いたちまつま（名）（一）小兒ノ戯、一人、他ノ手ノ甲ヲ抓メバ、他モ亦我ガ甲ヲ抓ミ、斯クシテ、代ル代ルニ抓ミ合フコト。ネズミコヅコ。（二）轉ジテ、スベテ、互ニ同ジ事ヲシテ益モ無キコト。

いたちささげ（名）宿根草、形狀、豌豆ニ似タリ、春生ズ、葉ハ互生シ、そらまめニ似テ薄ク、末ニ細キ鬚アリ、花ハ、あづきニ似テ穗ヲナシ、莖ノ梢ニ生ズ、初メ、淡黄ニシテ、後ニ、褐色トナル、莢ノ長サ一寸餘アリ。ヤマヱンドウ。茳芒決明

〔いたちはじかみ（名）山茱萸ニ同ジ。

〔いたちはぜ（名）連翹ニ同ジ。

いたつがはし・シキ・シケレ・シク・シク（形・二）（一）勉メ勞ル狀ナリ。勞（二）ワヅラハシ。煩

いたつき（名）板付　鏃ノ一種、射ヲ學ブ矢ニ用ヰルモノ、小クシテ、底、多クハ平カナリ。平頭　平題箭

いたつき（名）勞　（一）〔イタツクコト〕ホネヲルコト。（二）ヤマヒ。病

〔いたつく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動）（規・二）勞　〔痛着クノ義カ〕ホネヲル。ツトム。

いたづく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動）（規・二）〔勞キテ恤ム意〕懇ニアツカフ。イタハル。恤

いたつけ（名）板付　釘ノ、甚ダ小クシテ、長サ五六分ナルモノ、薄板ヲ打付クルニ用ヰル。

いたつけざうり（名）板付草履　草履ノ裏ニ、厚キ板ヲ添ヘタルモノ、雨濕ノ路ニ用ヰル。ザウリゲタ。

いたつて（副）至　〔至リテノ音便〕最モ。至極ニ。「ー善シ」

＋いたづら（名）徒　（一）無益ニシテ惡シキ小兒ノ戯。惡戯（二）男女私ニ通ズルコト。私通

〔いたづらごと（名）徒言　無益ノ言。

〔いたづらじに（名）徒死　無益ニ死ヌルコト。

いたづらに（副）徒　〔最虚ニノ約轉カ〕空シク。無益ニ。不用ニ。○ーニナル。死ヌ。○ーニナス。死ナス。